

文京区男女平等参画に関する区民調査結果について

1 調査の概要

男女平等参画に関する区民の意識や実態を総合的に把握し、今後行う「文京区男女平等参画推進計画」の見直しや、区の男女平等参画施策の推進に向けた基礎資料とする。

2 調査方法

- (1) 調査地域：文京区全域
- (2) 調査対象：満18歳以上の区内在住者3,000人
- (3) 抽出方法：住民基本台帳より無作為抽出
- (4) 調査方法：【配布】郵送 【回収】郵送又は回答用ウェブサイト
- (5) 調査期間：令和7年9月5日（金）～9月25日（木）

3 調査内容

- (1) 家庭生活について
- (2) 保育・教育について
- (3) 男女平等への関心と意識について
- (4) 就労・職場について
- (5) 女性の活躍について
- (6) 家庭生活と社会生活の両立について
- (7) 地域活動、社会活動への参画について
- (8) 政策決定過程への女性の参画について
- (9) 健康について
- (10) 人権問題について
- (11) 性の多様性について
- (12) 暴力の防止について
- (13) 生活の困りごとや悩みごとの相談窓口やサービスについて
- (14) 男女平等参画の推進施策・男女平等センターについて
- (15) 回答者自身について

4 回収結果

配布数（票）	有効回収数（票）	回収率（%）
(A)	(B)	(B/A)
3,000	886	29.5

5 調査結果の概要

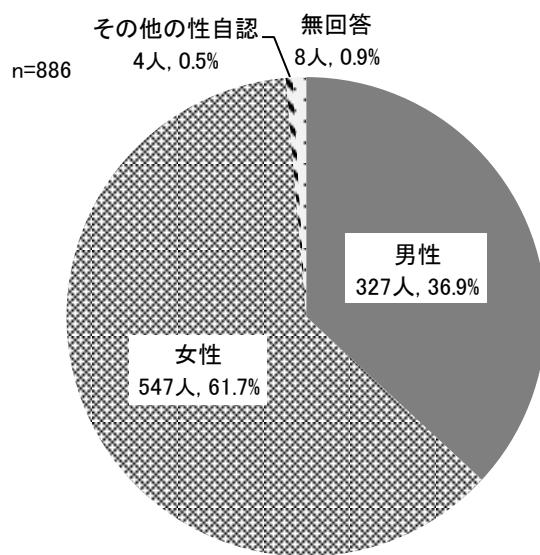
別紙のとおり

文京区男女平等参画に関する区民調査 調査結果の概要

I. 回答者の属性

1. 性別

図 I - 1 性別



2. 年齢・職業

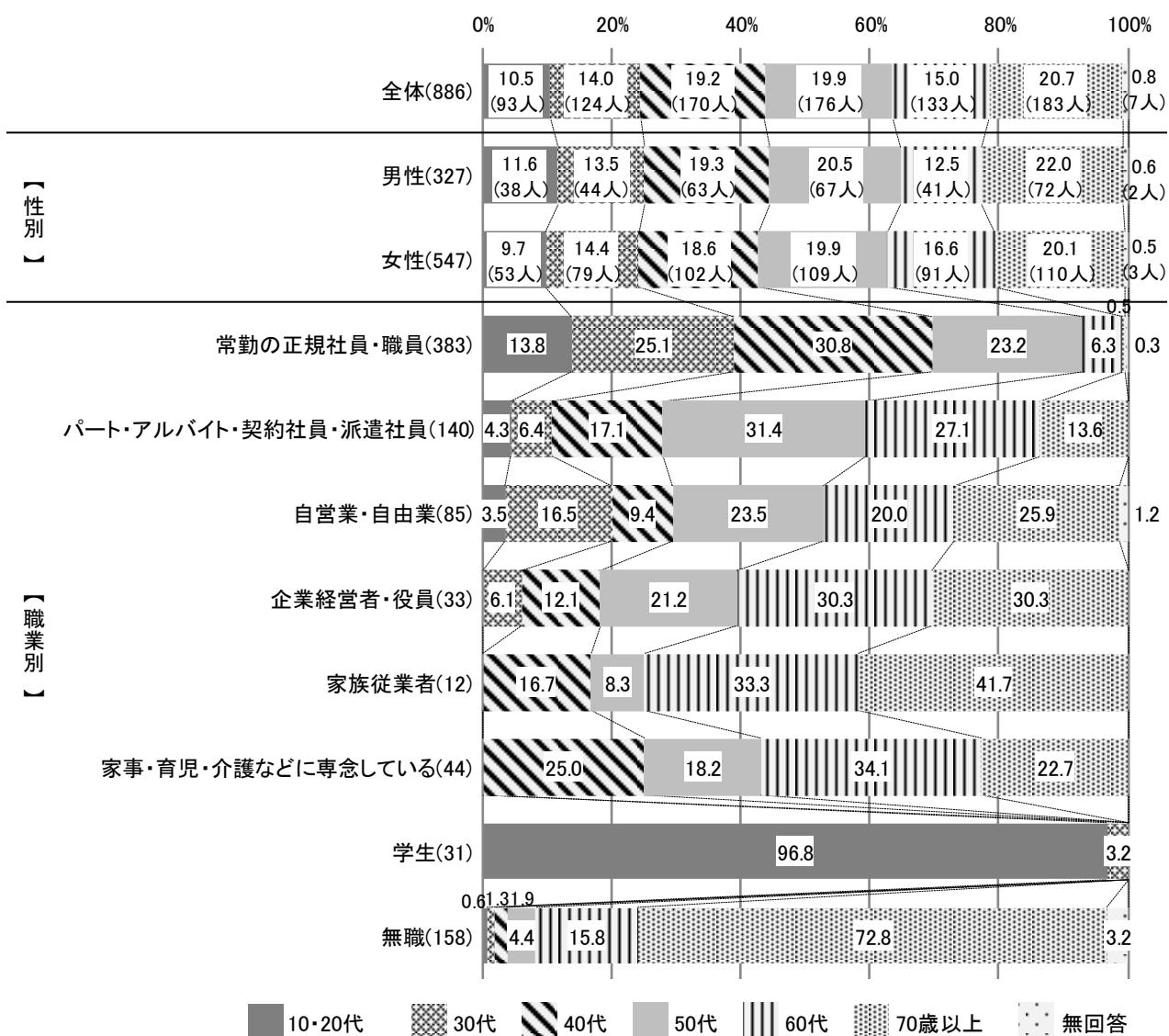
全体でみると、70歳以上が20.7%と最も多く、次いで50代が19.9%となっている。

職業別では、常勤の正規社員・職員は、40代(30.8%)及び30代(25.1%)が多く、パート・アルバイト・契約社員・派遣社員は、50代(31.4%)及び60代(27.1%)が多くなっている。また、自営業・自由業は70歳以上(25.9%)が、企業経営者・役員は60代(30.3%)と70歳以上(30.3%)が多い。

家事・育児・介護などに専念している人は、60代が34.1%で最も多く、次いで40代(25.0%)となっており、40歳未満の回答者はいなかった。

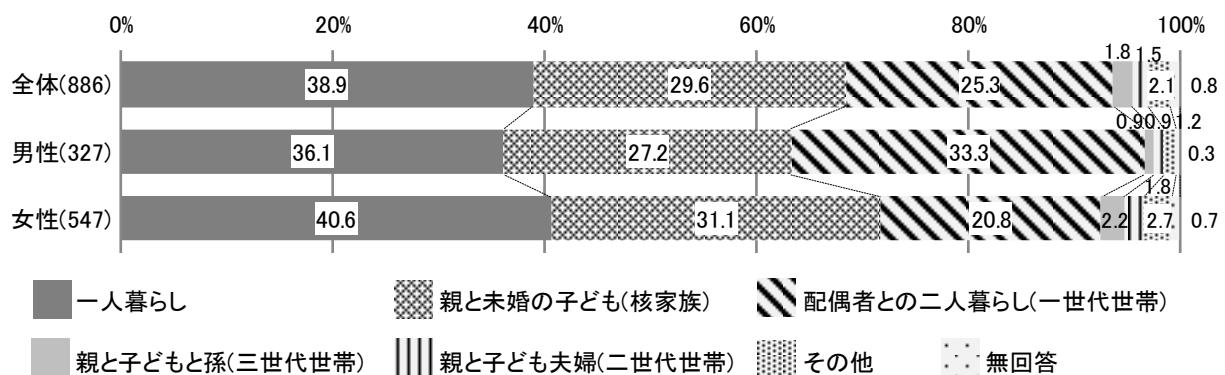
無職は70歳以上が7割(72.8%)を占める。

図I-2 年齢(性別、職業別)



3. 世帯構成

図 I - 3 世帯構成（性別）



4. 婚姻状況（事実婚を含む）、共働きの状況

図 I - 4 婚姻状況（事実婚を含む）（性別）

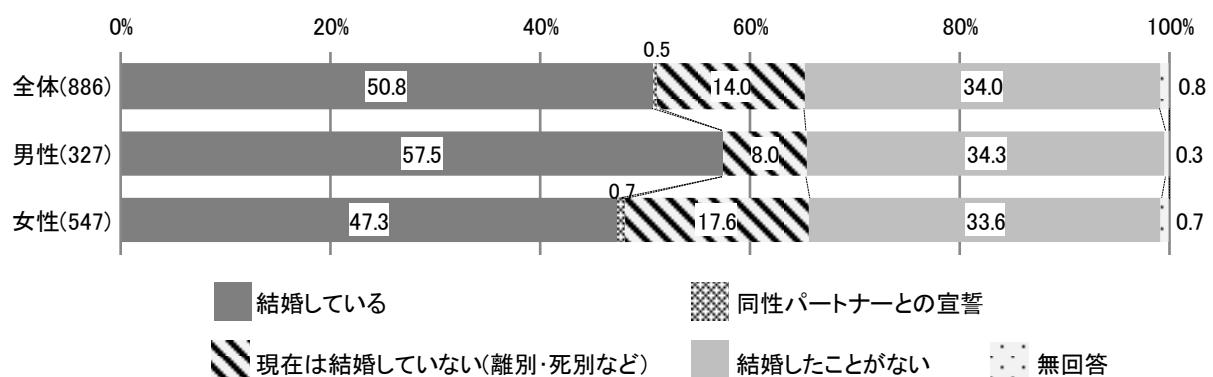
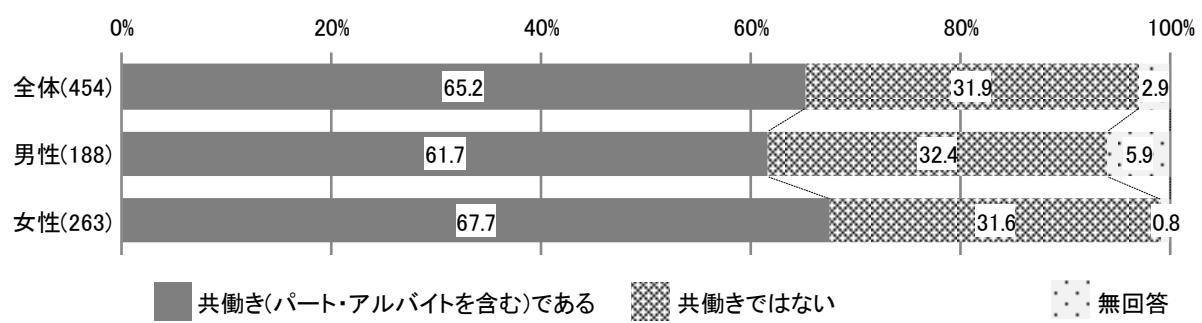


図 I - 5 共働きの状況（性別）



5. 子育ての有無、子の状況

図 I - 6 子育ての有無 (性別)

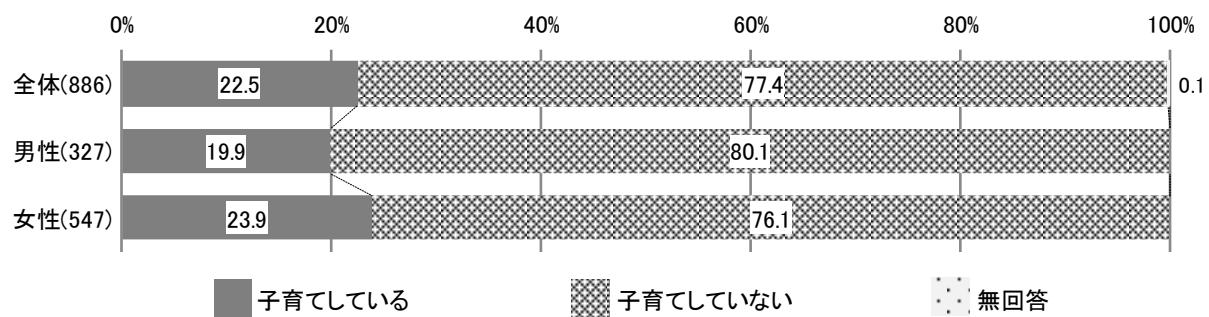
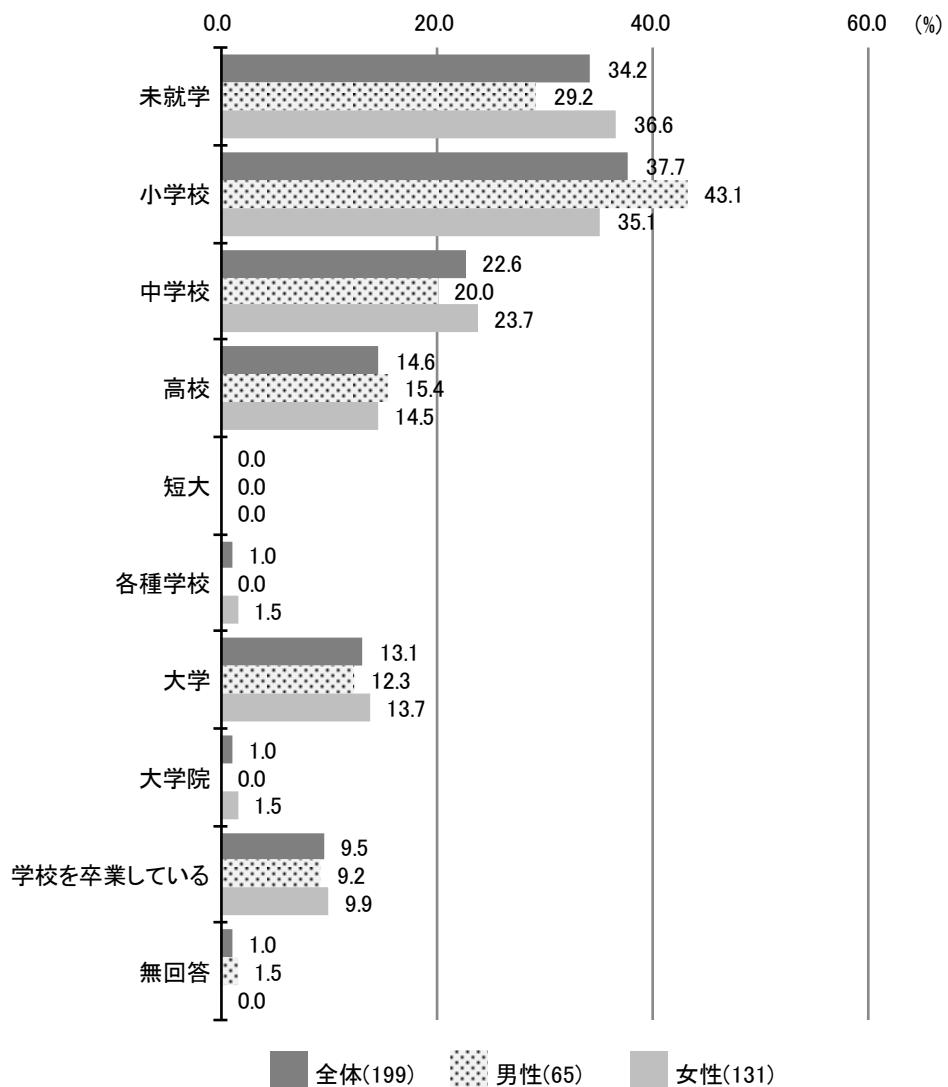


図 I - 7 子の状況 (性別)



6. 介護の有無、介護が行われている場所

図 I - 8 介護の有無（性別）

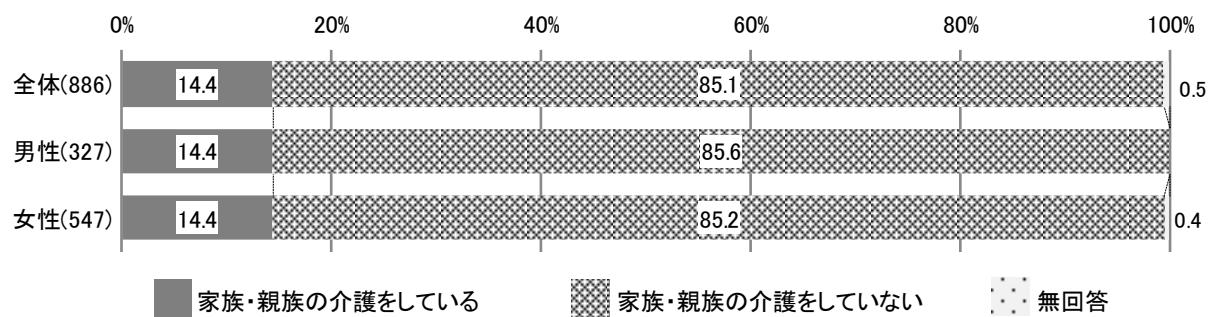
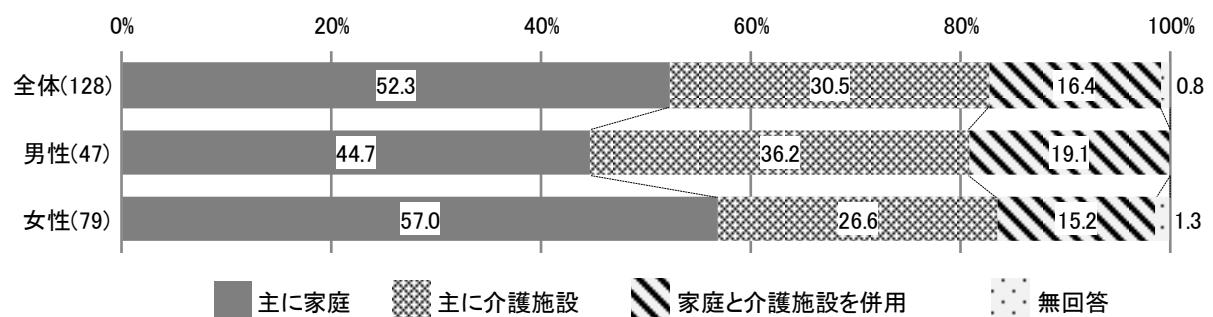
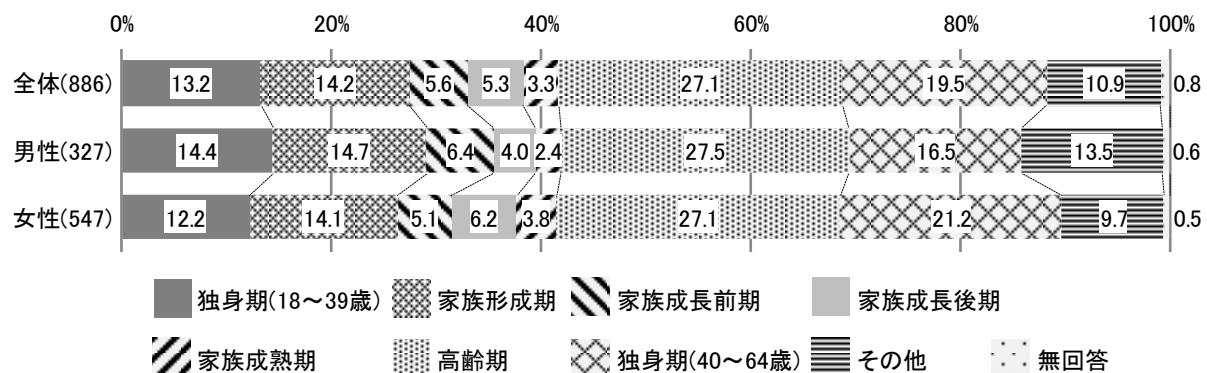


図 I - 9 介護が行われている場所（性別）



7. ライスステージ区分

図 I - 10 ライスステージ区分（性別）



【ライフステージ区分】

独身期(18~39歳)	18~39歳で単身者
家族形成期	18~39歳で配偶者がいて子どもがいない または、18~64歳で一番下の子どもが小学校入学前
家族成長前期	18~64歳で一番下の子どもが小学生
家族成長後期	18~64歳で一番下の子どもが中学生・高校生
家族成熟期	18~64歳で一番下の子どもが高校を卒業している
高齢期	65歳以上
独身期(40~64歳)	40~64歳で単身者
その他	40~64歳で配偶者がいて子育て中でない

II. 家庭生活について

問1 家庭における役割分担

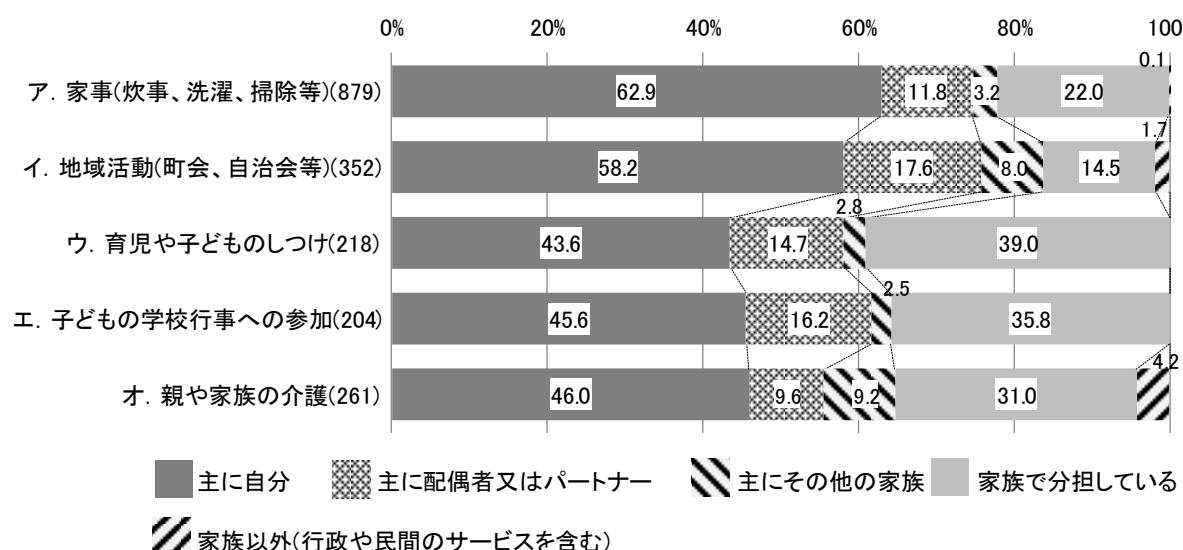
現在、あなたの家庭では次のことがらを主にどなたが行っていますか。ア～オのそれぞれにつき一つずつ「○」をしてください。

○ 全体の傾向

家事(炊事、洗濯、掃除等)及び地域活動(町会、自治会等)は、「主に自分」が行っていると回答した人が6割となっている。

育児や子どものしつけ、子どもの学校行事への参加、親や家族の介護は、「主に自分」が行っていると回答した人は半数弱の45%前後となっており、また、3～4割の人が「家族で分担している」と回答している。

図II-1 家庭における役割分担（「行っていない」及び無回答を除く）

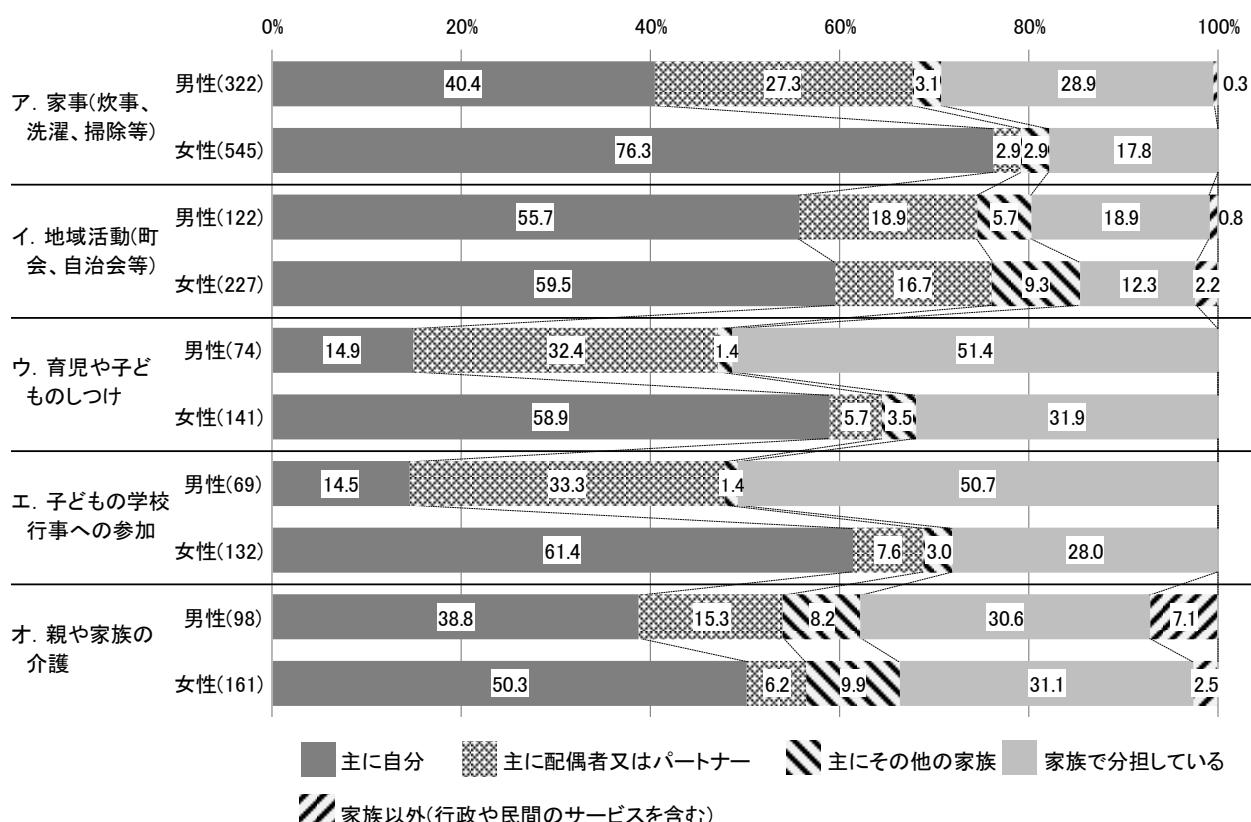


○ 性別の傾向

家事(炊事、洗濯、掃除等)を「主に自分」が行っていると回答した割合は、男性が40.4%と4割であるのに対し、女性は76.3%と7割を超えており、また、「主に配偶者又はパートナー」が行っているという人は男性では27.3%となっているが、女性では2.9%にとどまる。

そのほか、育児や子どものしつけ、子どもの学校行事への参加についても「主に自分」と回答した人は女性では6割となっており、男性を40ポイント以上上回っている。一方、男性では「家族で分担している」が半数となっており、女性を20ポイント程度上回っている。

図II-2 家庭における役割分担(性別、「行っていない」及び無回答を除く)



ア. 家事（炊事、洗濯、掃除等）

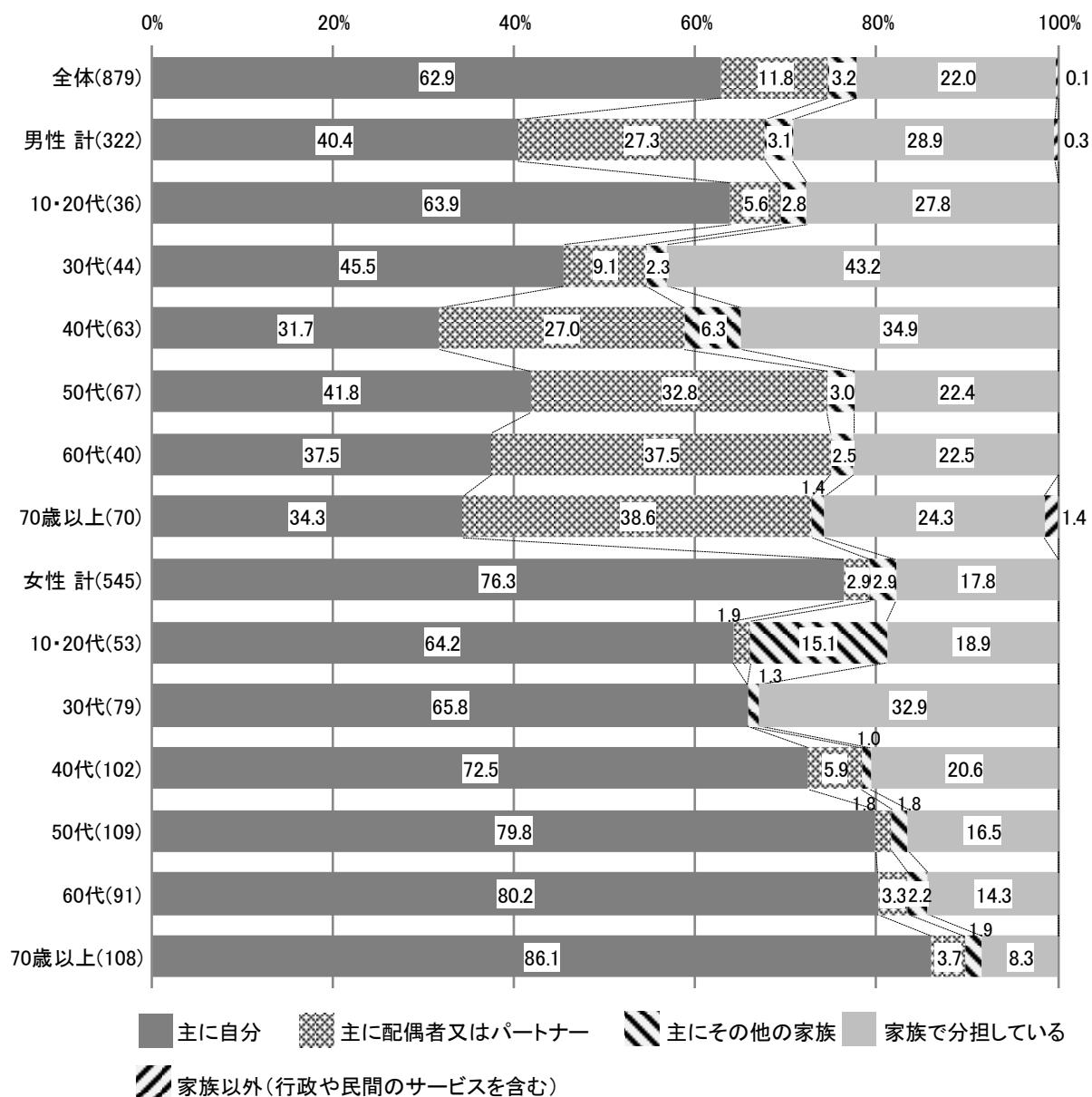
○ 性・年齢別の傾向

「主に自分」と回答した人の割合は、10・20代では男女共に約64%であるが、男性では年齢が上がるにつれ割合が低くなっている。一方、女性では、年齢が上がるにつれて高くなっている、50～60代で8割、70歳以上で86.1%を占めている。

また、男性では、「主に配偶者又はパートナー」の割合が、年齢が上がるにつれて増加しており、50歳以上で3割を上回り、70歳以上では38.6%となっている。

図II-3 家庭における役割分担『家事（炊事、洗濯、掃除等）』

（性・年齢別、「行っていない」及び無回答を除く）

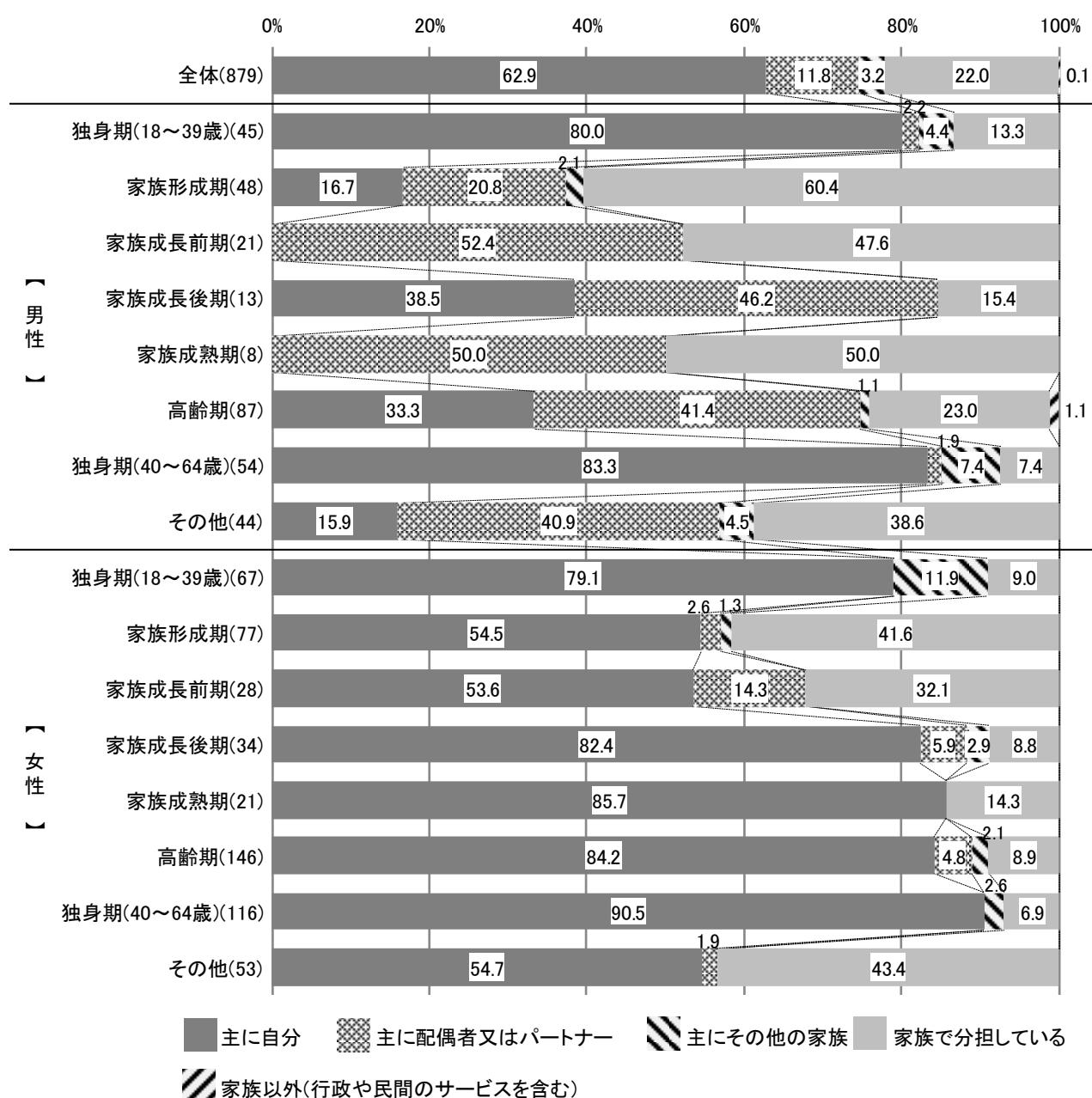


○ 性・ライフステージ区別の傾向

男性は、「主に自分」が独身期では8割を占めるが、それ以外では4割未満となっている。家族形成期では「家族で分担している」人が6割と多く、家族成長前期では「主に配偶者又はパートナー」と「家族で分担している」が半々となっており、また、高齢期では「主に配偶者又はパートナー」が4割と多くなっている。

女性は、家族形成期、家族成長前期とその他を除き、「主に自分」が8～9割を占めている。家族形成期、家族成長前期とその他では、「主に自分」は5割強であり、「家族で分担している」が3～4割程度となっている。

図II-4 家庭における役割分担『家事（炊事、洗濯、掃除等）』
(性・ライフステージ区別、「行っていない」及び無回答を除く)

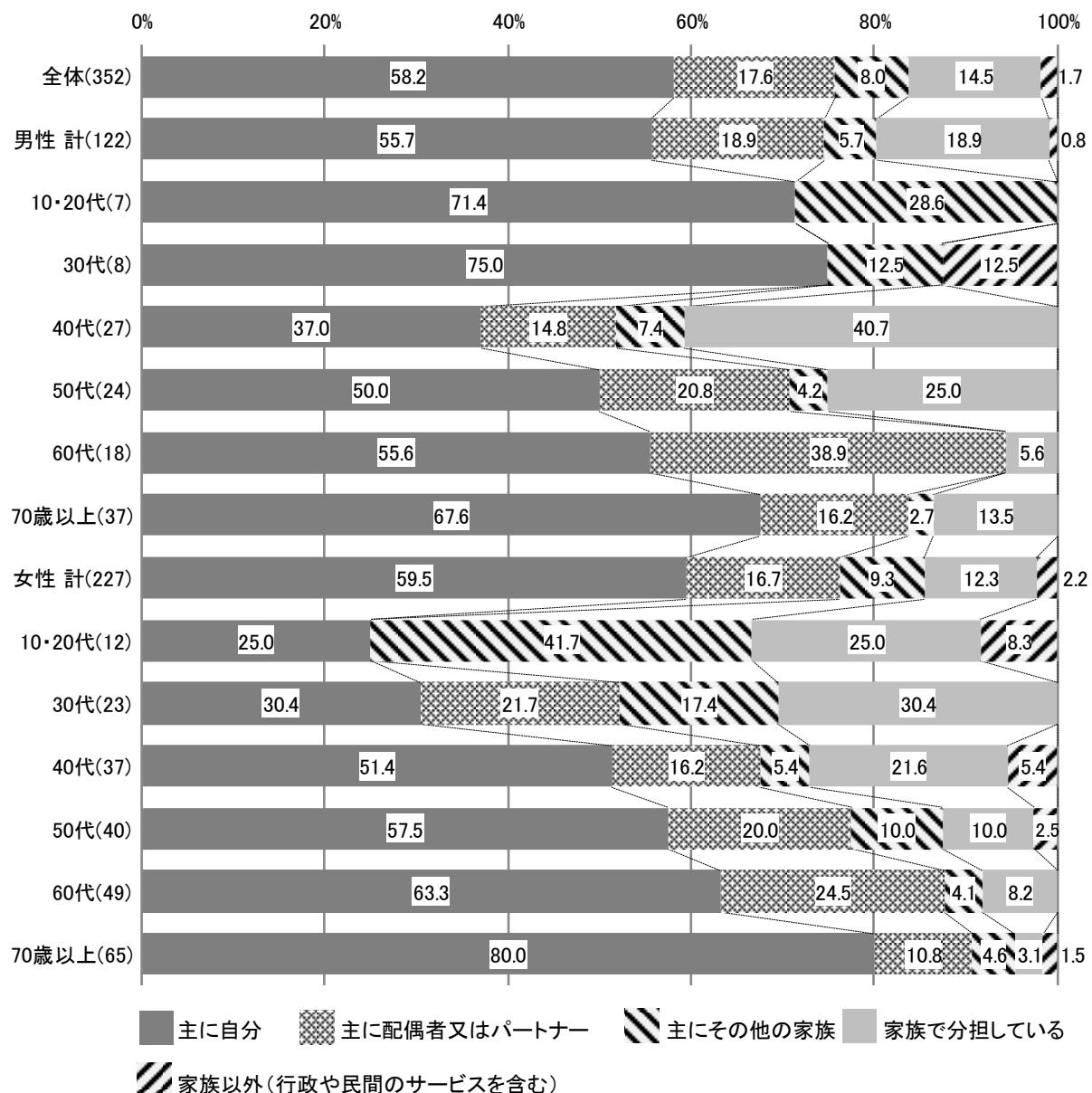


イ. 地域活動（町会、自治会等）

○ 性・年齢別の傾向

回答者数が10人未満の男性の10~30代を除くと、「主に自分」は、男女共に年齢が上がるにつれて高くなっています。男性の50代、女性の40代で5割、70歳以上では男性で約7割（67.6%）、女性で8割を占めます。

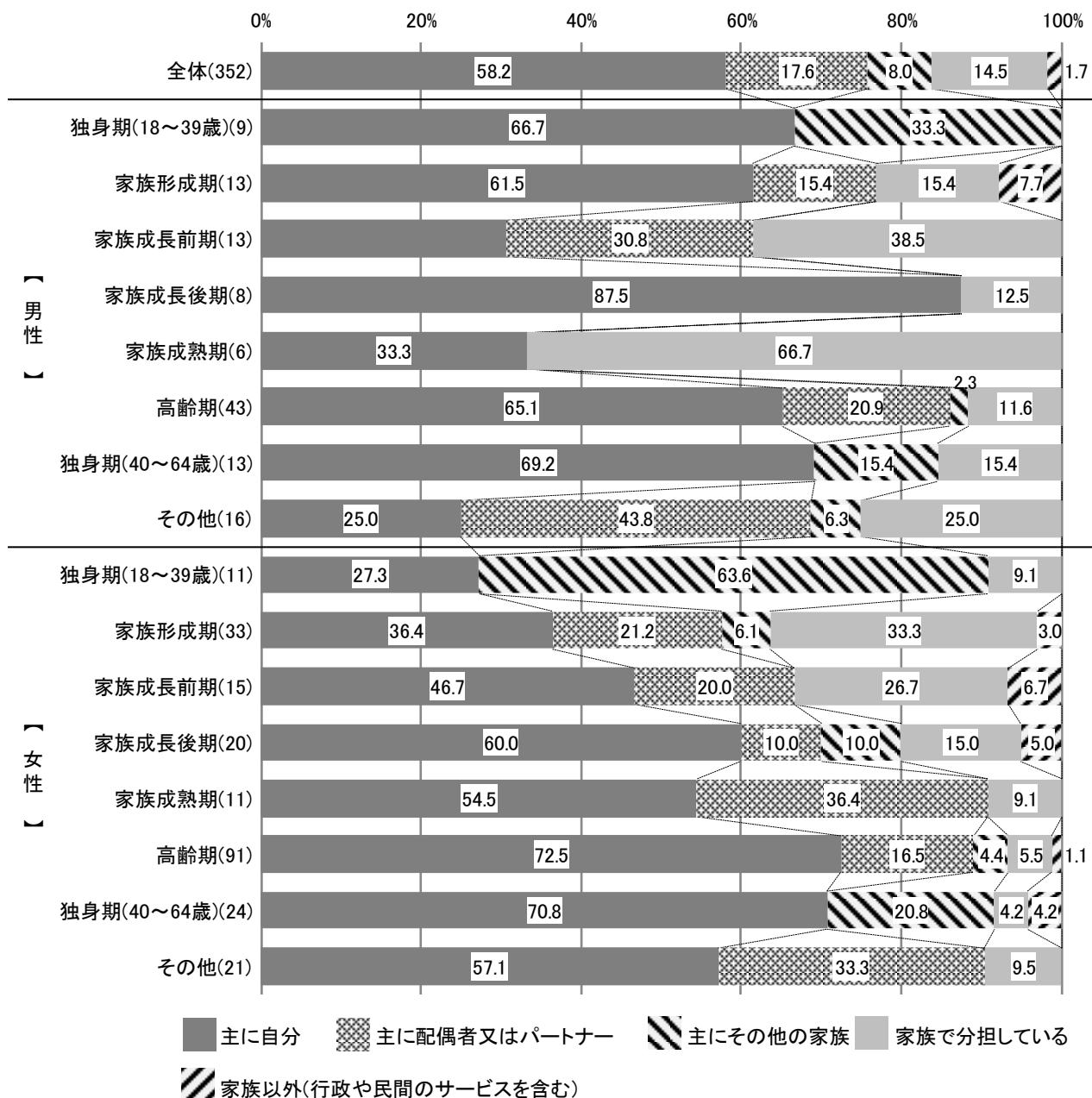
図II-5 家庭における役割分担『地域活動（町会、自治会等）』
(性・年齢別、「行っていない」及び無回答を除く)



○ 性・ライフステージ区分別の傾向

女性の場合は、独身期(18~39歳)から高齢期へ移行するにつれて「主に自分」が高くなる傾向にある。

図II-6 家庭における役割分担『地域活動(町会、自治会等)』
(性・ライフステージ区分別、「行っていない」及び無回答を除く)



ウ. 育児や子どものしつけ

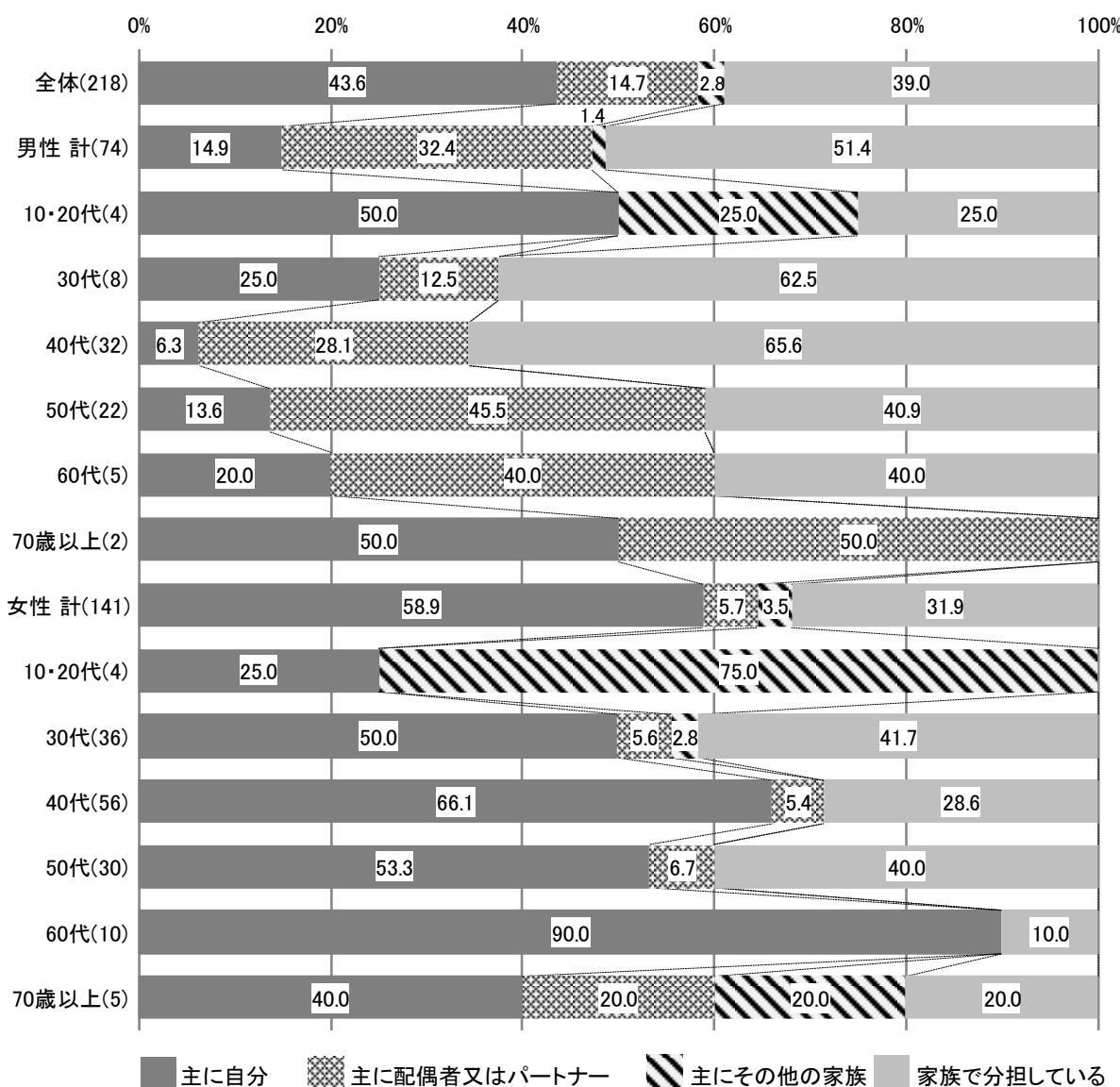
○ 性・年齢別の傾向

子育て世代の男性 40~50 代、女性 30~50 代について見ると、男性の場合は、40 代では「家族で分担している」が 65.6%を占め、次いで、「主に配偶者又はパートナー」が 28.1%となっている。50 代では「主に配偶者又はパートナー」(45.5%)と「家族で分担している」(40.9%)がそれぞれ4割以上となっている。

女性の場合は 30~50 代のいずれの世代も「主に自分」が5割以上を占め、次いで「家族で分担している」が多くなっており、「主に配偶者又はパートナー」は1割未満となっている。

図II-7 家庭における役割分担『育児や子どものしつけ』

(性・年齢別、「行っていない」及び無回答を除く)

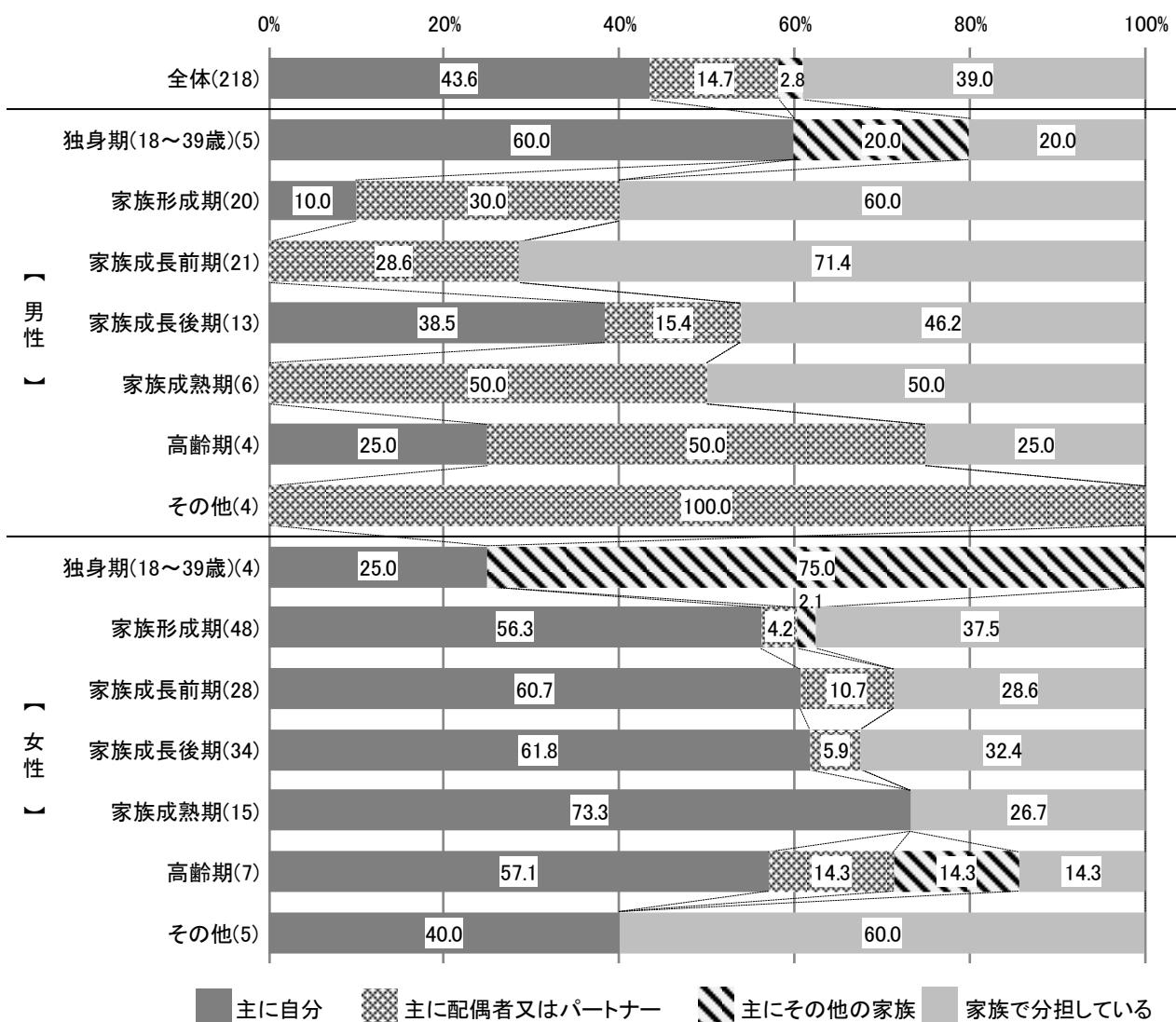


○ 性・ライフステージ区別の傾向

家族形成期から家族成長後期を見ると、男性の場合は「家族で分担している」が多く、家族形成期で6割、家族成長前期で7割となっている。また、「主に配偶者又はパートナー」は、家族形成期、家族成長前期で3割であり、「主に自分」は家族形成期で1割、家族成長前期ではいなかった。

女性の場合は、「主に自分」が6割程度、「家族で分担している」が3～4割程度となっている。

図II-8 家庭における役割分担『育児や子どものしつけ』
(性・ライフステージ区別別、「行っていない」及び無回答を除く)



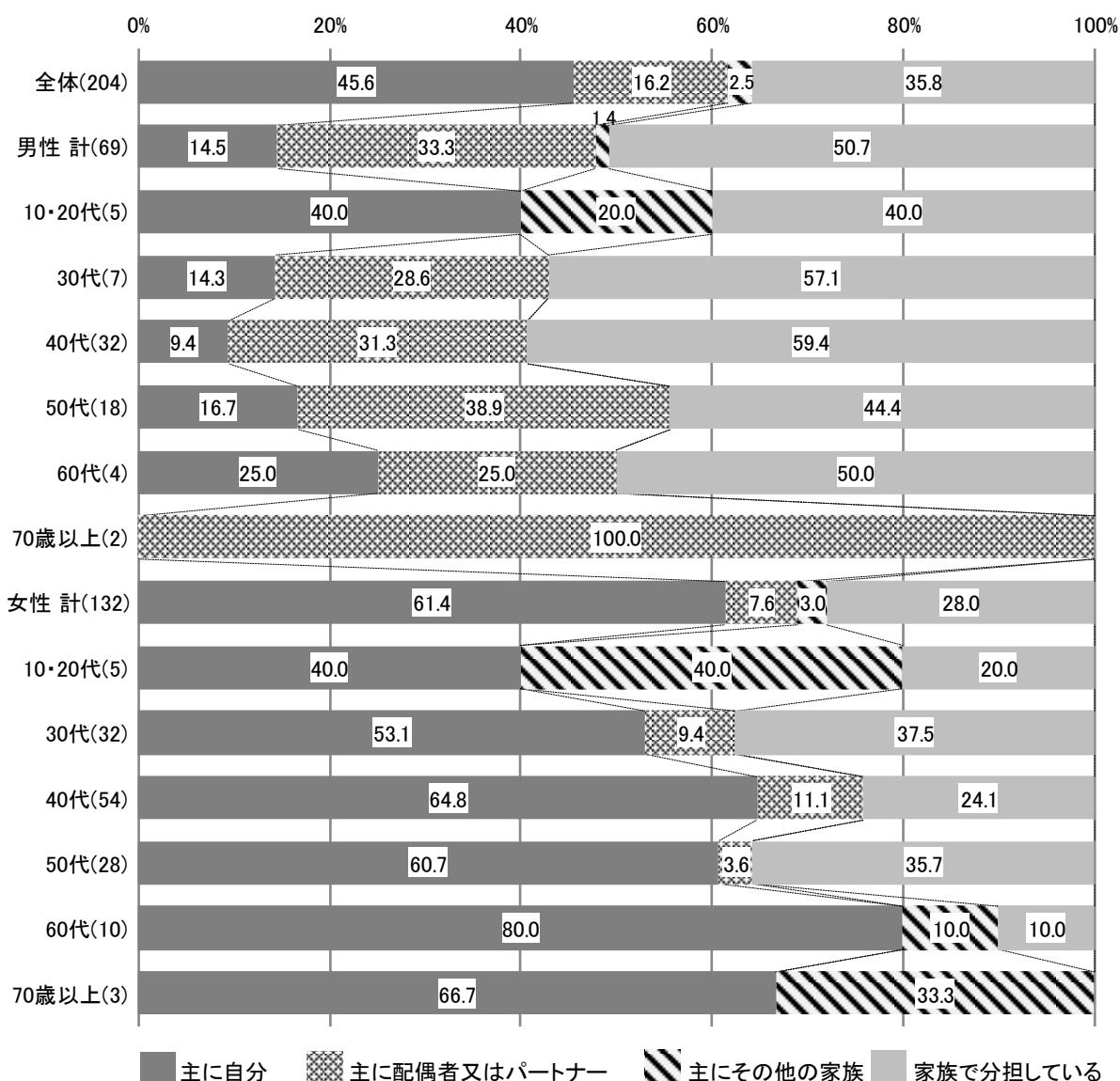
Ⅰ. 子どもの学校行事への参加

○ 性・年齢別の傾向

子育て世代の男性 40~50 代、女性 30~50 代について見ると、男性の場合は、「家族で分担している」が最も多く、次いで、「主に配偶者又はパートナー」の順となっており、特に 40 代では「家族で分担している」が6割(59.4%)を占めている。「主に自分」は 40 代で 9.4%、50 代で 16.7%にとどまる。

女性の場合は 30~50 代のいずれの世代も「主に自分」が過半数を占め、次いで「家族で分担している」が多くなっており、「主に配偶者又はパートナー」は 30~40 代で1割、50 代で 3.6%のみとなっている。

図Ⅱ－9 家庭における役割分担『子どもの学校行事への参加』
(性・年齢別、「行っていない」及び無回答を除く)



○ 性・ライフステージ区別の傾向

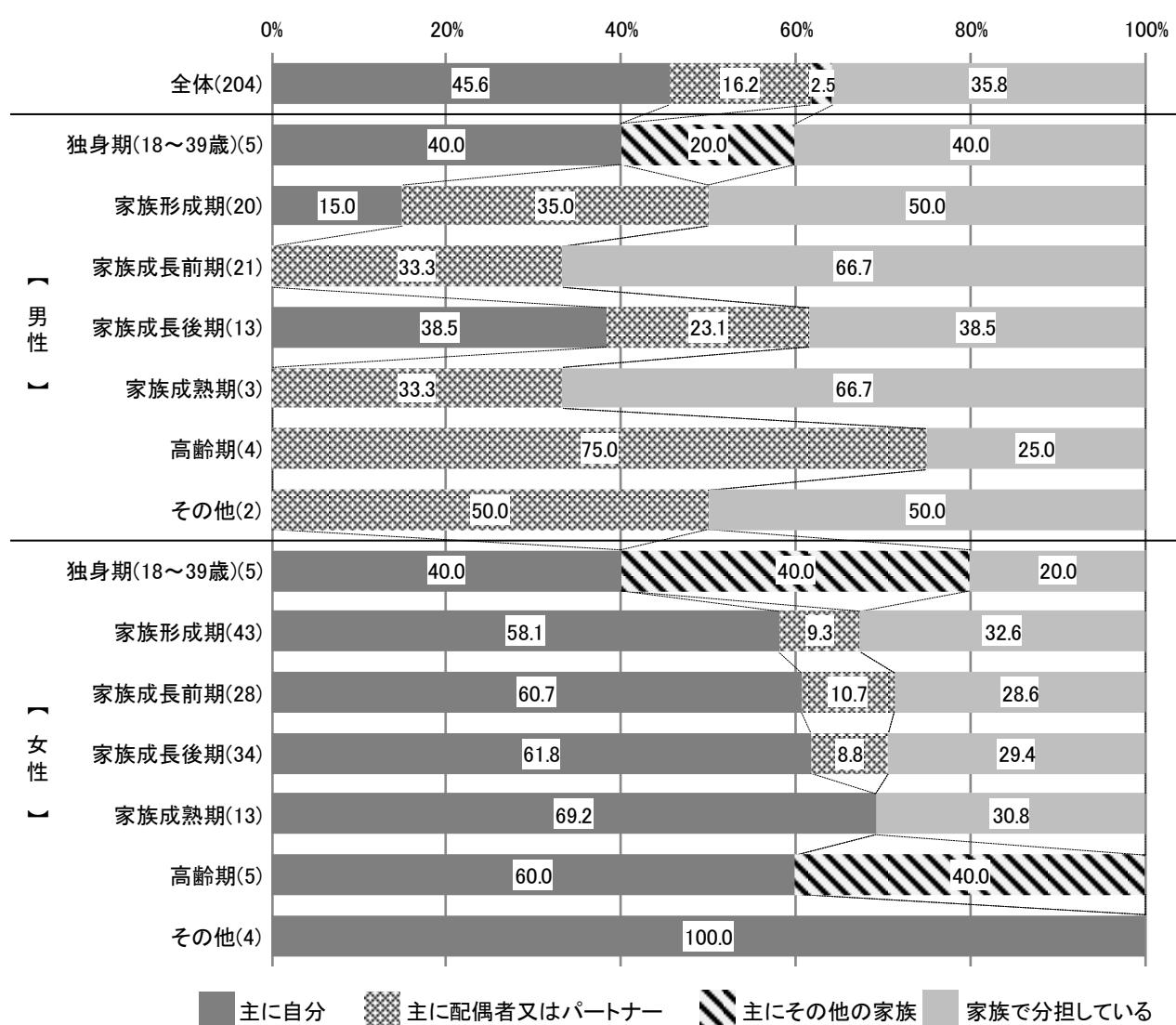
家族形成期から家族成長後期を見ると、男性の場合は「家族で分担している」が多く、家族形成期で5割、家族成長前期では3分の2となっている。また、「主に配偶者又はパートナー」は、家族形成期、家族成長前期で3分の1であり、「主に自分」は家族形成期で15.0%、家族成長前期ではいなかった。

女性の場合は、「主に自分」が6割、「家族で分担している」が3割となっている。

子どもの学校行事への参加に関する家庭での役割分担の性・ライフステージ区別の傾向は、育児や子どものしつけの場合とほぼ同様となっていることが分かる。

図II-10 家庭における役割分担『子どもの学校行事への参加』

(性・ライフステージ区別、「行っていない」及び無回答を除く)



オ. 親や家族の介護

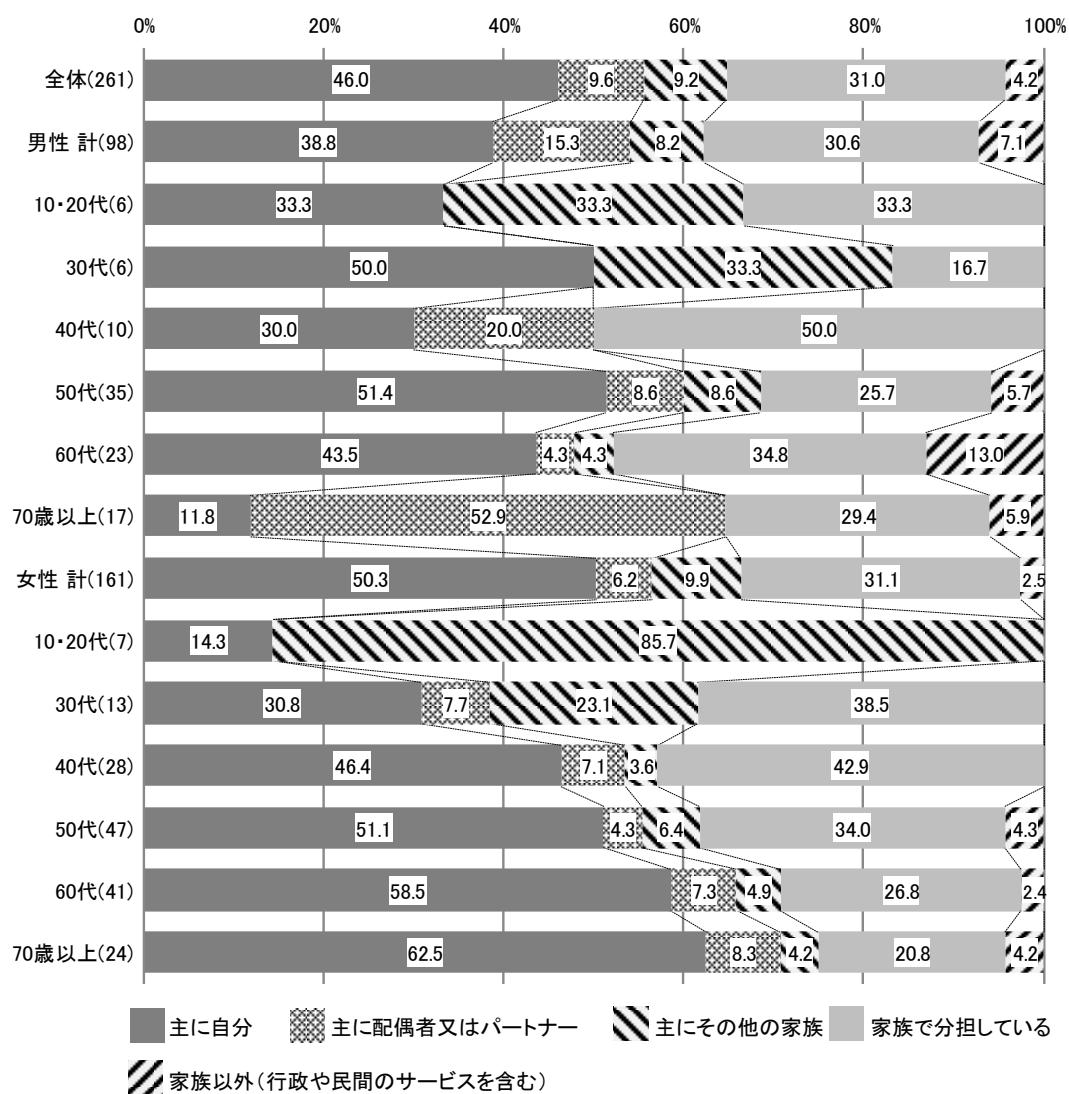
○ 性・年齢別の傾向

回答者が11人以上の男性50歳以上、女性30歳以上について見ると、男性の場合、50～60代では「主に自分」と回答した人の割合が最も高く、次いで、「家族で分担している」となっている。また、60代では、「家族以外(行政や民間のサービスを含む)」が13.0%と他の世代と比べて高くなっている。70歳以上では、「主に配偶者又はパートナー」が52.9%(17人中9人)、「家族で分担している」が29.4%(17人中5人)となっている。

女性の場合は40歳以上ではいずれの世代も「主に自分」が最も高く、次いで、「家族で分担している」となっている。また、年齢が上がるにつれ「主に自分」の割合が増え、「家族で分担している」の割合が減る傾向にある。

30代では、「家族で分担している」が38.5%(13人中5人)、「主に自分」が30.8%(13人中4人)となっている。

図II-11 家庭における役割分担『親や家族の介護』
(性・年齢別、「行っていない」及び無回答を除く)



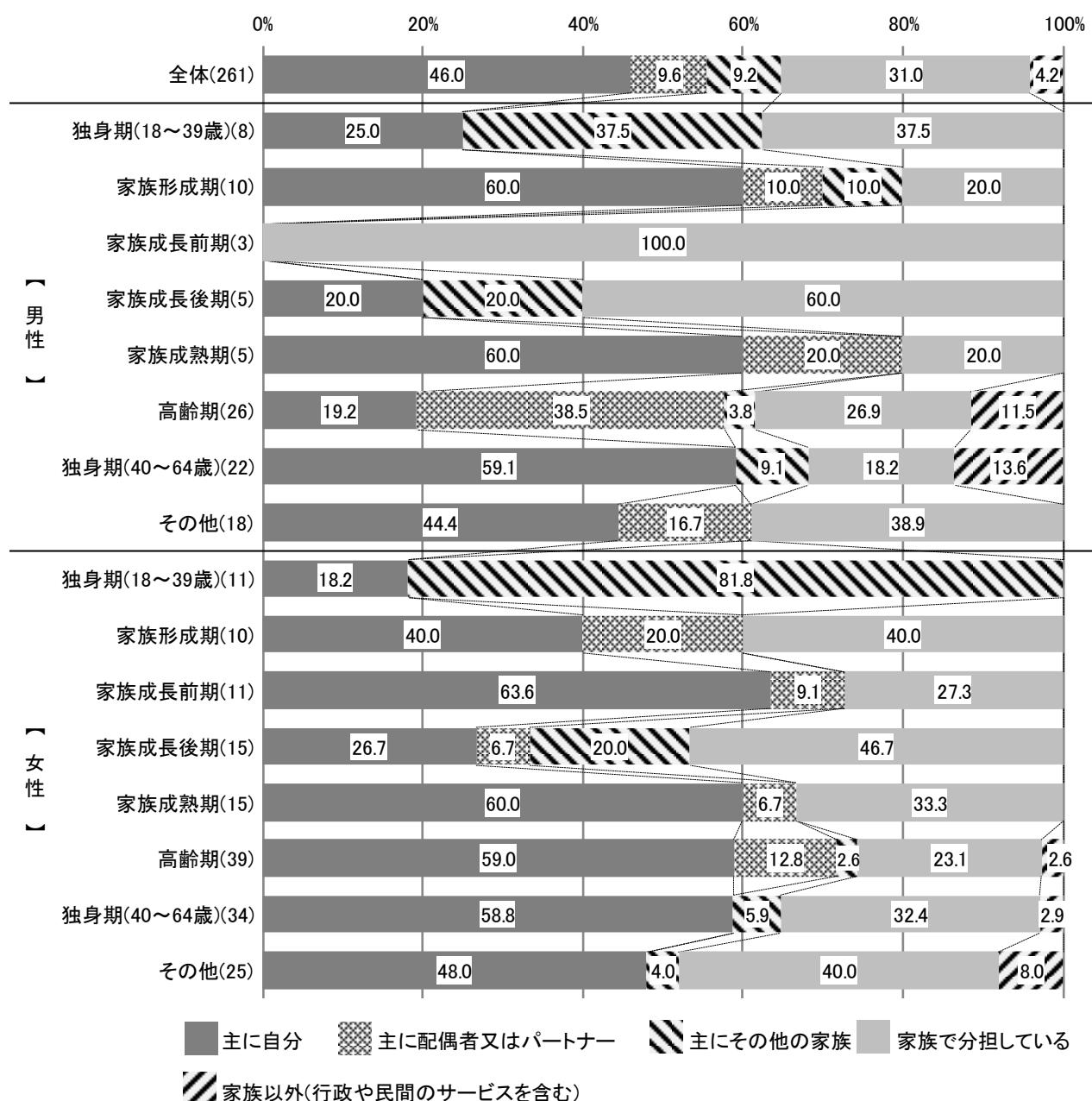
○ 性・ライフステージ区別の傾向

高齢期を見ると、男性は、「主に配偶者又はパートナー」が4割(38.5%)と多く、その他、「家族で分担している」が4分の1(26.9%)、「主に自分」が2割(19.2%)となっている。また「家族以外(行政や民間のサービスを含む)」という人も1割(11.5%)となっている。

女性は、「主に自分」が6割(59.0%)と多く、「家族で分担している」が4分の1(23.1%)となって いる。また、「家族以外(行政や民間のサービスを含む)」は 2.6%にとどまる。

図II-12 家庭における役割分担『親や家族の介護』

(性・ライフステージ区別、「行っていない」及び無回答を除く)



問2 1日あたりの家事・育児・介護時間

あなたは、1日あたりどのくらいの時間を家事・育児・介護に携わっていますか。料理、洗濯、子どもの入浴や寝かしつけ、子どもと遊んでいる時間、親や病人を介護する時間等の合計時間をお答えください。

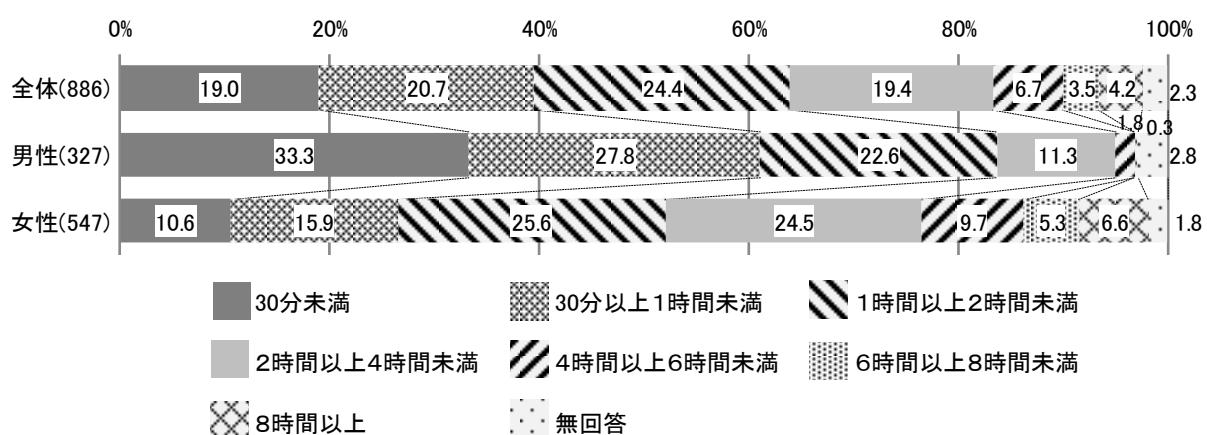
① 平日【1つだけ○】

○ 全体・性別の傾向

平日の家事・育児・介護時間については、1時間以上2時間未満という人が 24.4%で最も多い。

性別で見ると、女性では、1時間以上4時間未満という人が半数(50.1%)となっている。対して男性は、1時間未満が6割(61.1%)を占めている。

図II-13 平日1日あたりの家事・育児・介護時間（性別）

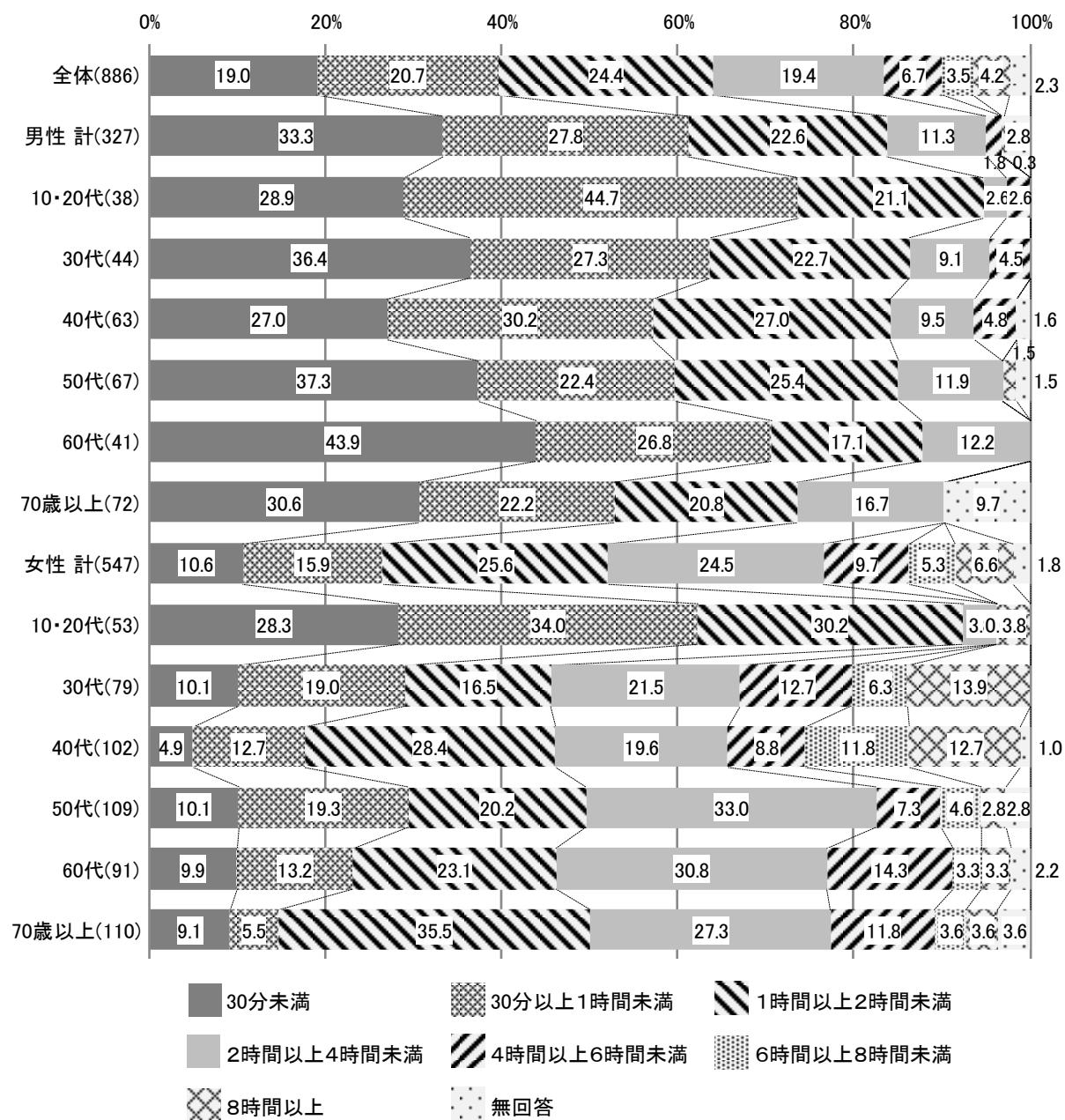


○ 性・年齢別の傾向

男性は、1時間未満が10・20代(73.6%)と60代(70.7%)で7割を超え高くなっている。

女性は、10・20代では1時間未満が6割(62.3%)を占めている。また、30代(32.9%)と40代(33.3%)では4時間以上という人が3人に1人となっている。

図II-14 平日1日あたりの家事・育児・介護時間（性・年齢別）

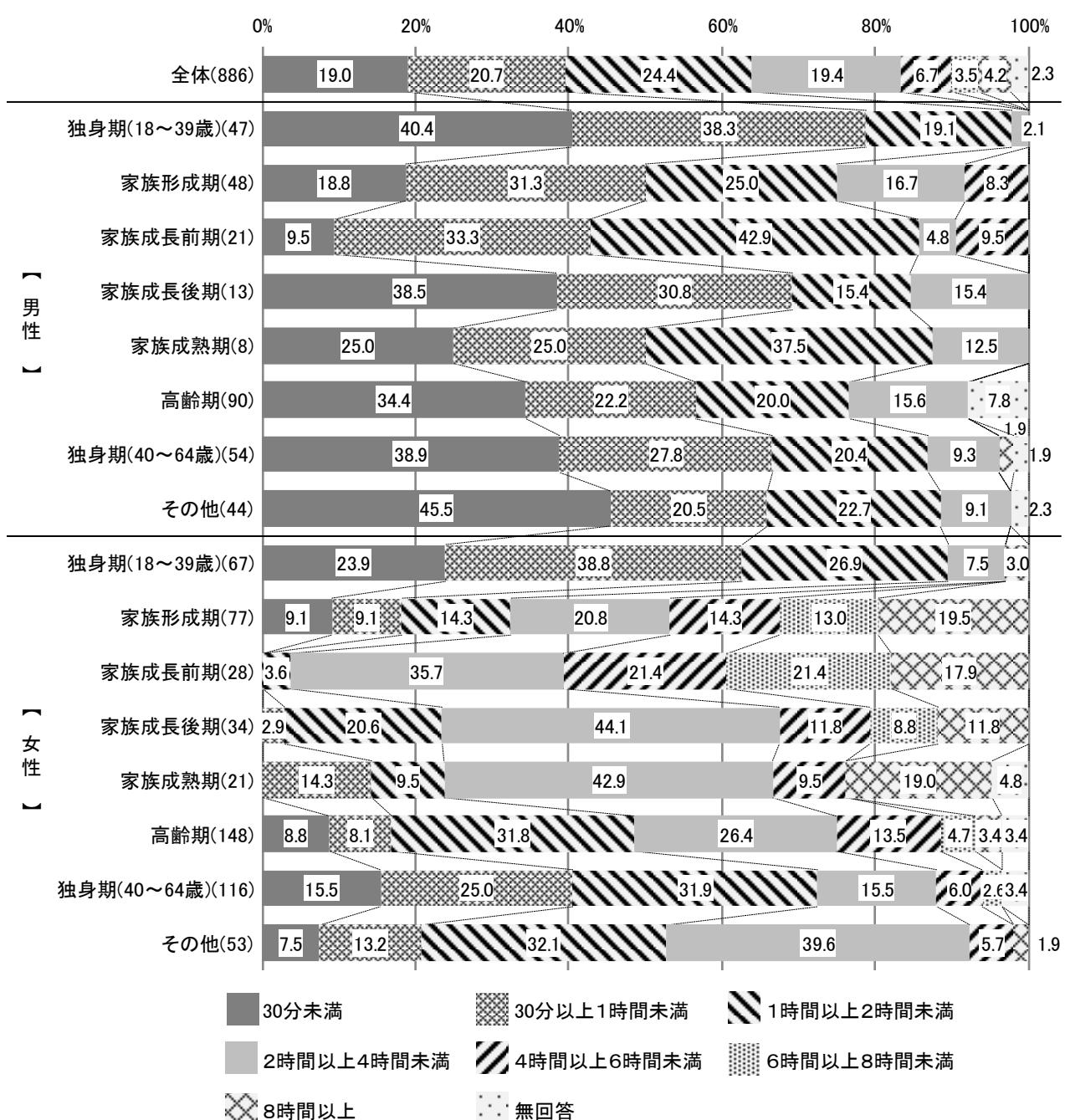


○ 性・ライステージ区別の傾向

男性は、家族成長前期を除きどのライフステージでも1時間未満が過半数となっており、特に、独身期(18~39歳)では8割(78.7%)を占めている。家族成長前期では、1時間以上2時間未満(42.9%)、1時間未満(42.8%)がそれぞれ4割となっている。

女性は、独身期(18~39歳)では男性と同様に1時間未満が62.7%と高くなっている。家族成長前期では1時間未満という人はおらず、4時間以上が6割(60.7%)を占めている。家族成長後期と家族成熟期では2時間以上4時間未満が4割強と高く、また高齢期と独身期(40~64歳)では1時間以上2時間未満が3割と高くなっている。

図II-15 平日1日あたりの家事・育児・介護時間(性・ライステージ区別)



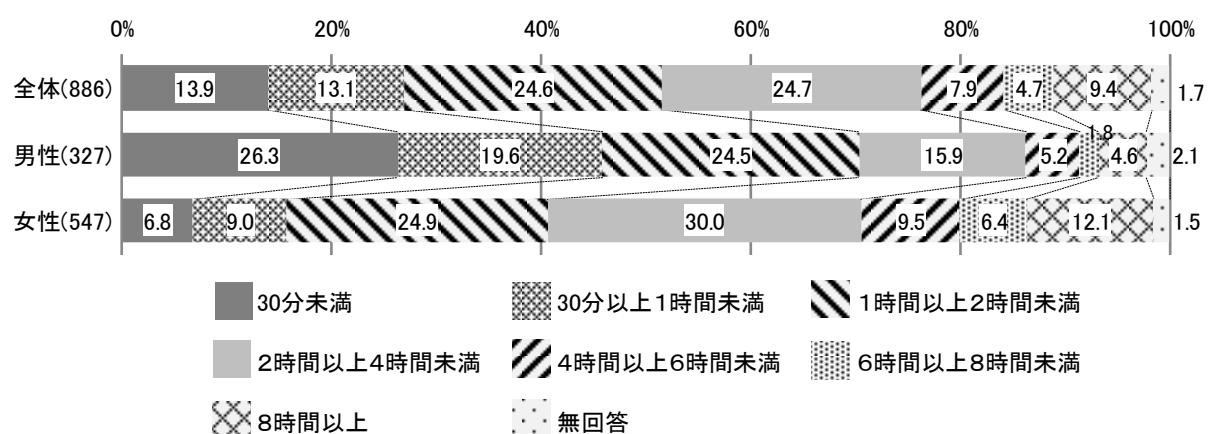
② 休日【1つだけ○】

○ 全体・性別の傾向

休日の家事・育児・介護時間については、2時間以上4時間未満(24.7%)、1時間以上2時間未満(24.6%)という人が多くなっている。

性別で見ると、女性では、1時間以上4時間未満という人が過半数の 54.9%である。対して男性は、1時間未満が 45.9%と半数近くを占める。

図II-16 休日1日あたりの家事・育児・介護時間（性別）

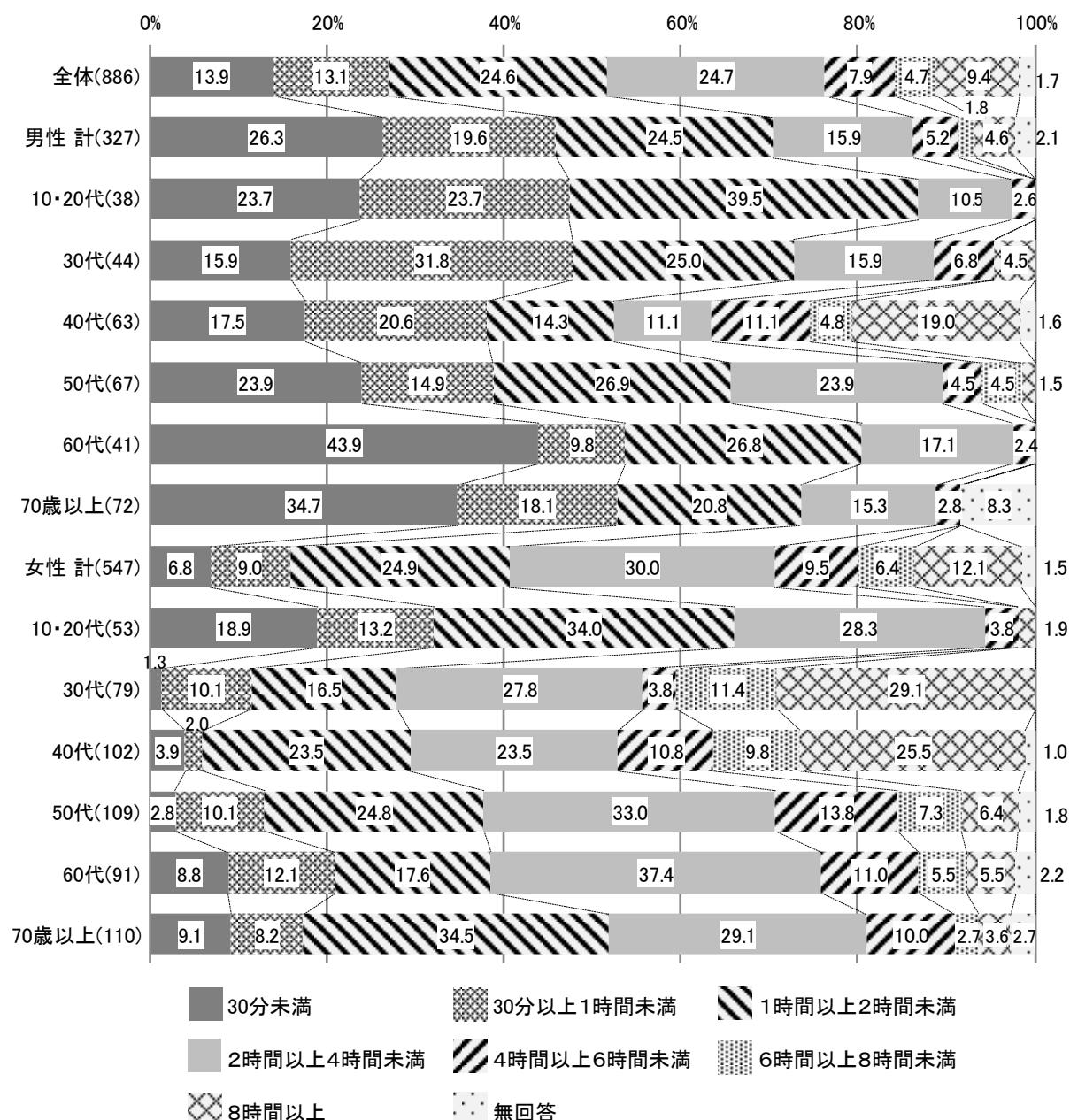


○ 性・年齢別の傾向

男性は、60代(53.7%)と70歳以上(52.8%)で1時間未満という人が5割以上となっている。また、40代では4時間以上という人が3人に1人(34.9%)となっている。

女性は、10・20代で、1時間未満(32.1%)、1時間以上2時間未満(34.0%)がそれぞれ3分の1ずつとなっている。また、30代(44.3%)と40代(46.1%)では4時間以上という人が半数弱となっている。

図II-17 休日1日あたりの家事・育児・介護時間（性・年齢別）

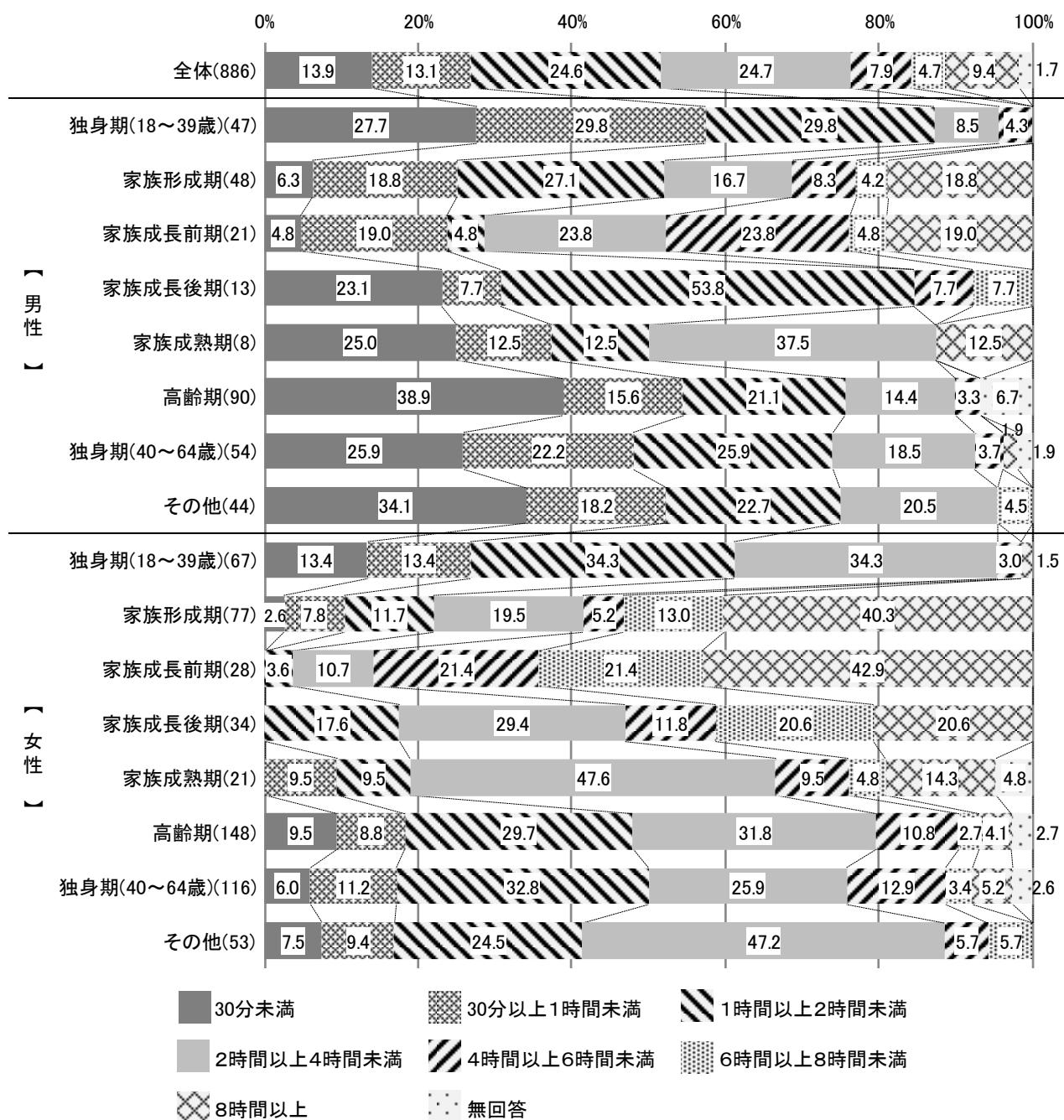


○ 性・ライステージ区別の傾向

男性は、1時間未満という人が独身期(18~39歳)(57.5%)、高齢期(54.5%)、独身期(40~64歳)(48.1%)では5~6割程度を占めているが、家族形成期(25.1%)と家族成長前期(23.8%)では3割未満となっている。また、家族成長前期では4時間以上が47.6%となっている。

女性は、独身期(18~39歳)では1時間以上2時間未満と2時間以上4時間未満が3分の1ずつとなっている。家族形成期から家族成長後期までは4時間以上が過半数となっており、特に家族成長前期では85.7%を占めている。家族成熟期では2時間以上4時間未満が47.6%と高く、また、高齢期では1時間以上2時間未満と2時間以上4時間未満が3割ずつとなっている。

図II-18 休日1日あたりの家事・育児・介護時間（性・ライステージ区別）



問3 結婚や出産、男女の役割に関する考え方

結婚や出産、男女の役割に関する次にあげる考え方についてあなたはどう思いますか。ア～ケのそれぞれにつき一つずつ「○」をしてください。

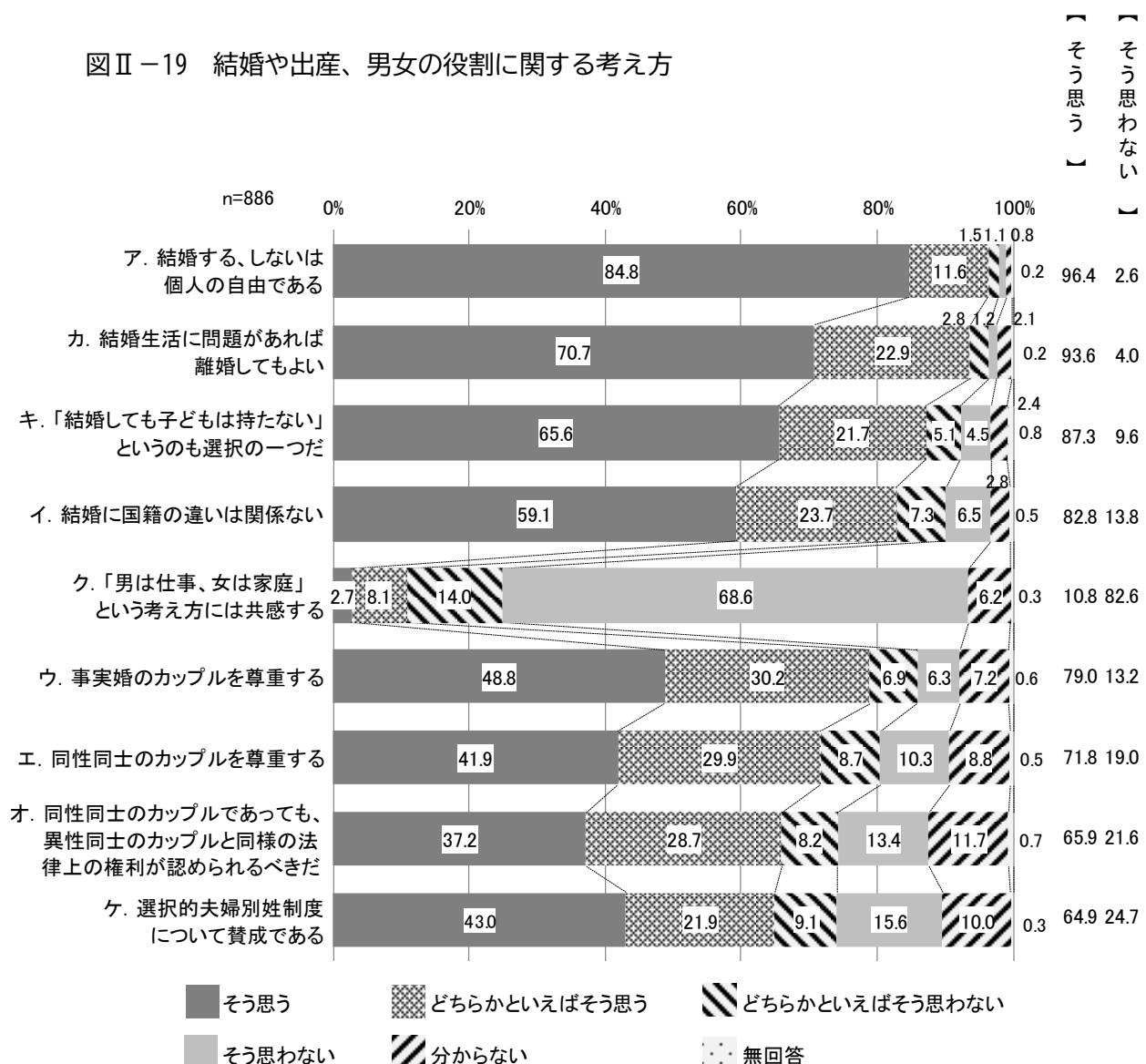
○ 全体の傾向

「ア. 結婚する、しないは個人の自由である」(96.4%)、「カ. 結婚生活に問題があれば離婚してもよい」(93.6%)については「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計(以下、『そう思う』)が9割以上である。

「キ. 「結婚しても子どもは持たない」というのも選択の一つだ」(87.3%)、「イ. 結婚に国籍の違いは関係ない」(82.8%)については『そう思う』が、「ク. 「男は仕事、女は家庭」という考え方には共感する」については「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計(82.6%)が8割以上となっている。

「ケ. 選択的夫婦別姓制度について賛成である」(64.9%)、「オ. 同性同士のカップルであっても、異性同士のカップルと同様の法律上の権利が認められるべきだ」(65.9%)については、『そう思う』が6割以上となっている。

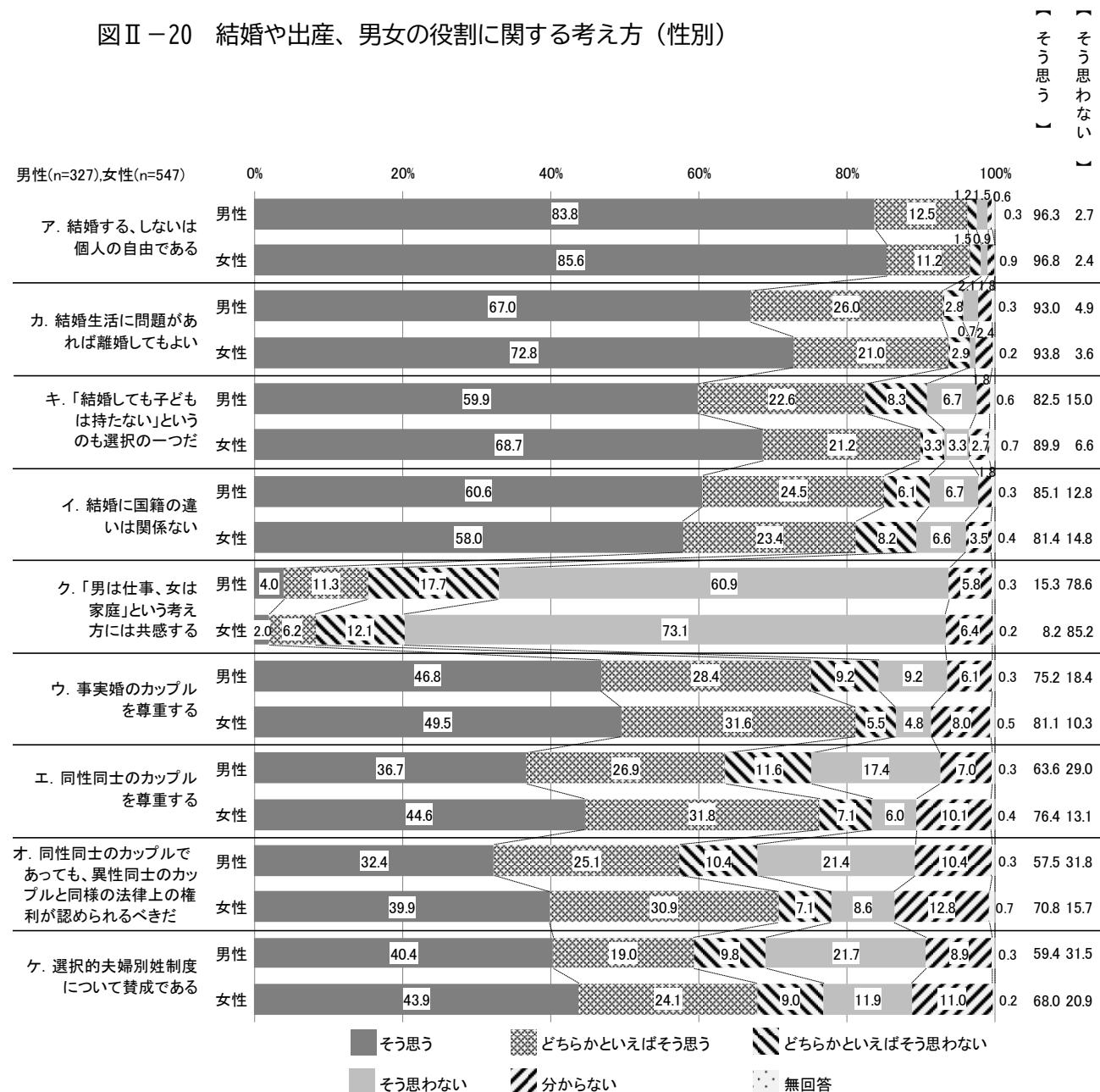
図II-19 結婚や出産、男女の役割に関する考え方



○ 性別の傾向

性別で見ると「オ. 同性同士のカップルであっても、異性同士のカップルと同様の法律上の権利が認められるべきだ」、「エ. 同性同士のカップルを尊重する」について『そう思う』割合は女性が男性を10ポイント以上上回っている。

図II-20 結婚や出産、男女の役割に関する考え方（性別）



【参考】

表Ⅱ-1 結婚や出産、男女の役割に関する考え方（その他の性自認）

ア. 結婚する、しないは個人の自由である

全 体	そ う 思 う	ば ど そ ち う ら 思 か う と い え	ば ど そ ち う ら 思 か う と い え	ば ど そ ち う ら 思 か う と い え	そ う 思 わ な い	分 か ら な い
	4	4	-	-	-	-
100.0	100.0	-	-	-	-	-

力. 結婚生活に問題があれば離婚してもよい

全 体	そ う 思 う	ば ど そ ち う ら 思 か う と い え	ば ど そ ち う ら 思 か う と い え	ば ど そ ち う ら 思 か う と い え	そ う 思 わ な い	分 か ら な い
	4	4	-	-	-	-
100.0	100.0	-	-	-	-	-

キ. 「結婚しても子どもは持たない」というのも選択の一つだ

全 体	そ う 思 う	ば ど そ ち う ら 思 か う と い え	ば ど そ ち う ら 思 か う と い え	ば ど そ ち う ら 思 か う と い え	そ う 思 わ な い	分 か ら な い
	4	4	-	-	-	-
100.0	100.0	-	-	-	-	-

イ. 結婚に国籍の違いは関係ない

全 体	そ う 思 う	ば ど そ ち う ら 思 か う と い え	ば ど そ ち う ら 思 か う と い え	ば ど そ ち う ら 思 か う と い え	そ う 思 わ な い	分 か ら な い
	4	4	-	-	-	-
100.0	100.0	-	-	-	-	-

ク. 「男は仕事、女は家庭」という考え方には共感する

全 体	そ う 思 う	ば ど そ ち ら 思 か う と い え	ば ど そ ち ら 思 か う と い え	ば ど そ ち ら 思 か う と い え	そ う 思 わ な い	分 か ら な い
4 100.0	- -	- -	- -	- -	3 75.0	1 25.0

ウ. 事実婚のカップルを尊重する

全 体	そ う 思 う	ば ど そ ち ら 思 か う と い え	ば ど そ ち ら 思 か う と い え	ば ど そ ち ら 思 か う と い え	そ う 思 わ な い	分 か ら な い
4 100.0	4 100.0	- -	- -	- -	- -	- -

エ. 同性同士のカップルを尊重する

全 体	そ う 思 う	ば ど そ ち ら 思 か う と い え	ば ど そ ち ら 思 か う と い え	ば ど そ ち ら 思 か う と い え	そ う 思 わ な い	分 か ら な い
4 100.0	4 100.0	- -	- -	- -	- -	- -

オ. 同性同士のカップルであっても、異性同士のカップルと同様の法律上の権利が認められるべきだ

全 体	そ う 思 う	ば ど そ ち ら 思 か う と い え	ば ど そ ち ら 思 か う と い え	ば ど そ ち ら 思 か う と い え	そ う 思 わ な い	分 か ら な い
4 100.0	4 100.0	- -	- -	- -	- -	- -

ケ. 選択的夫婦別姓制度について賛成である

全 体	そ う 思 う	ば ど そ ち ら 思 か う と い え	ば ど そ ち ら 思 か う と い え	ば ど そ ち ら 思 か う と い え	そ う 思 わ な い	分 か ら な い
4 100.0	3 75.0	- -	- -	- -	1 25.0	- -

III. 保育・教育について

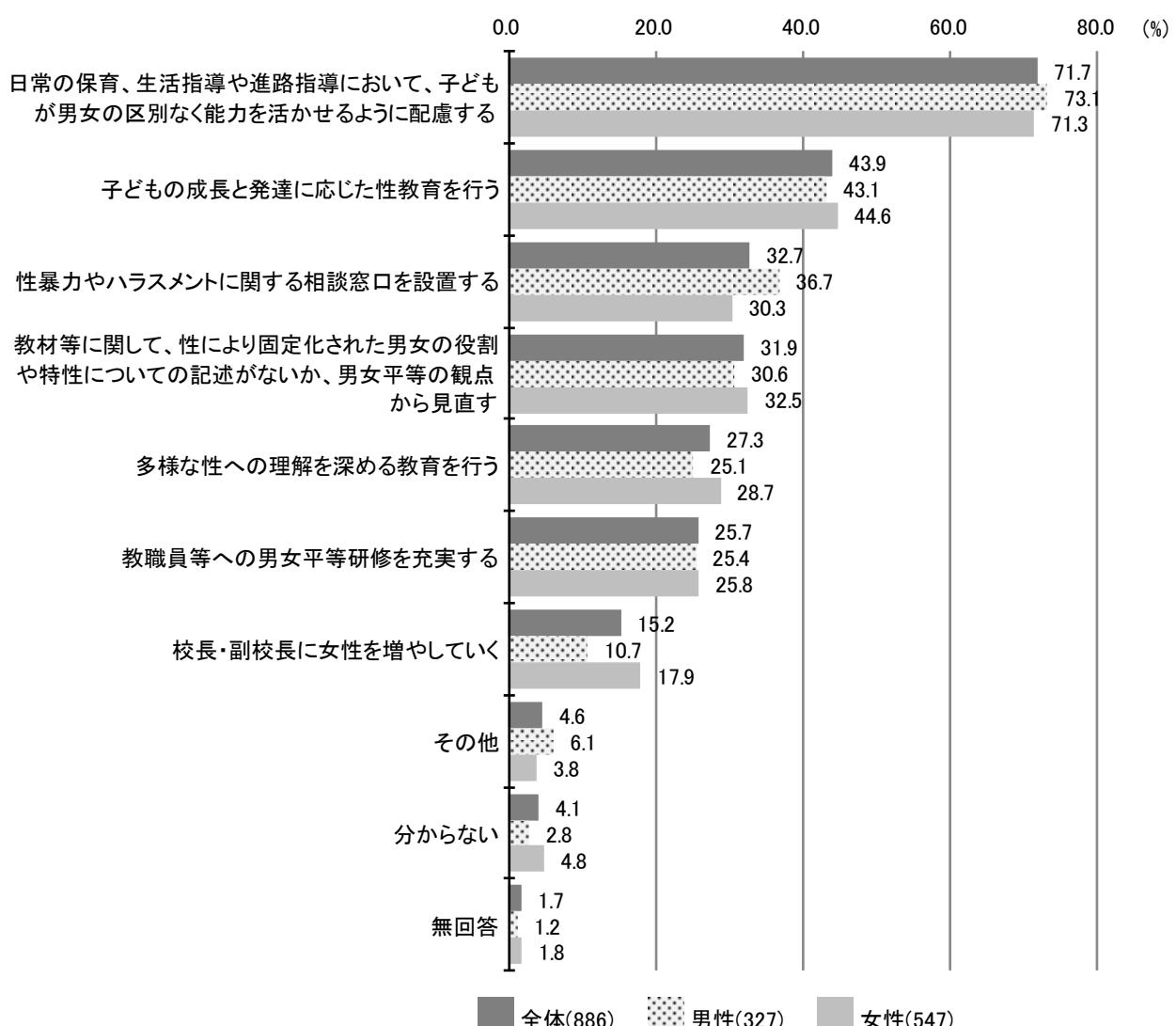
問4 保育や教育の現場で力を入れればよいと思うこと

区立の保育園・幼稚園・小学校・中学校の保育や教育の現場において、男女平等参画を推進するためにはどのようなことに力を入れればよいと思いますか。【3つまで○】

○ 全体の傾向

「日常の保育、生活指導や進路指導において、子どもが男女の区別なく能力を活かせるように配慮する」が 71.7%と最も多く、次いで、「子どもの成長と発達に応じた性教育を行う」が 43.9%となっている。

図III-1 保育や教育の現場で力を入れればよいと思うこと（性別）



○ 性・年齢別の傾向

「日常の保育、生活指導や進路指導において、子どもが男女の区別なく能力を活かせるように配慮する」は、男性の40代と60歳以上、女性の30代と60代で75~80%と高くなっている。

「子どもの成長と発達に応じた性教育を行う」は女性の30代で過半数の55.7%となっている。

「性暴力やハラスメントに関する相談窓口を設置する」は男性の10・20代で47.4%と高くなっている。

「教材等に関して、性により固定化された男女の役割や特性についての記述がないか、男女平等の観点から見直す」は男女共10・20代で4割以上と高くなっている。

表III-1 保育や教育の現場で力をいれればよいと思うこと（性・年齢別）

		うの指日 に区導常 配別にの 慮なお保 すくい育 る能て、 力、生 を子活 活ど指 かも導 せがや る男進 よ女路	性教 育も の行 成長 と発 達に に応 じた	る性 相談 窓や 口ハ ラス 設置 する	に定 教材 等に 平等 いわ ての 観点 か述 がの 見直 い割 すか や、 男性 固	育多 様な 性へ の理 解を 深め る教	充教 職員 等へ の男 女平 等研 修を	て校 長・副 校長 に女 性を 増や し	その 他	分 か ら な い	無 回 答	
全 体		886	635	389	290	283	242	228	135	41	36	15
		100.0	71.7	43.9	32.7	31.9	27.3	25.7	15.2	4.6	4.1	1.7
合 計		327	239	141	120	100	82	83	35	20	9	4
		100.0	73.1	43.1	36.7	30.6	25.1	25.4	10.7	6.1	2.8	1.2
男 性	10・20代	38	24	18	18	16	4	7	4	3	—	—
	100.0	63.2	47.4	47.4	42.1	10.5	18.4	10.5	7.9	—	—	—
	30代	44	28	15	16	13	14	9	1	6	2	1
	100.0	63.6	34.1	36.4	29.5	31.8	20.5	2.3	13.6	4.5	2.3	—
	40代	63	50	29	20	20	17	12	11	2	3	—
	100.0	79.4	46.0	31.7	31.7	27.0	19.0	17.5	3.2	4.8	—	—
	50代	67	46	29	25	20	21	17	9	5	1	—
	100.0	68.7	43.3	37.3	29.9	31.3	25.4	13.4	7.5	1.5	—	—
女 性	60代	41	32	13	15	10	11	13	3	—	3	1
	100.0	78.0	31.7	36.6	24.4	26.8	31.7	7.3	—	7.3	2.4	—
	70歳以上	72	57	36	24	21	15	25	7	4	—	2
合 計		547	390	244	166	178	157	141	98	21	26	10
		100.0	71.3	44.6	30.3	32.5	28.7	25.8	17.9	3.8	4.8	1.8
女 性	10・20代	53	34	27	15	23	16	17	13	2	—	1
	100.0	64.2	50.9	28.3	43.4	30.2	32.1	24.5	3.8	—	—	1.9
	30代	79	61	44	20	30	24	18	12	3	2	1
	100.0	77.2	55.7	25.3	38.0	30.4	22.8	15.2	3.8	2.5	—	1.3
	40代	102	64	47	29	34	28	12	23	8	5	3
	100.0	62.7	46.1	28.4	33.3	27.5	11.8	22.5	7.8	4.9	2.9	—
	50代	109	79	39	34	35	38	32	23	2	8	1
	100.0	72.5	35.8	31.2	32.1	34.9	29.4	21.1	1.8	7.3	0.9	—
70歳以上	60代	91	70	39	31	22	27	24	11	5	6	—
	100.0	76.9	42.9	34.1	24.2	29.7	26.4	12.1	5.5	6.6	—	—
70歳以上		110	79	47	36	33	24	37	15	1	5	4
		100.0	71.8	42.7	32.7	30.0	21.8	33.6	13.6	0.9	4.5	3.6

○ 性・ライフステージ区分別の傾向

「子どもの成長と発達に応じた性教育を行う」は、男女共に家族成長前期で6割と高くなっている。

「性暴力やハラスメントに関する相談窓口を設置する」は、男性の独身期(18~39歳)では半数を占め高くなっている。

「教材等に関して、性により固定化された男女の役割や特性についての記述がないか、男女平等の観点から見直す」は、男性の家族形成期、女性の独身期(18~39歳)と家族形成期では4割以上と高い。

表III-2 保育や教育の現場で力をいれればよいと思うこと(性・ライフステージ区分別)

		全 体	うの指 日 に区 導常 配別 にの 慮な お保 すくい 育 る能 て、 力、 生 を子 活 活ど 指 かも 導 せが や る男 進 よ女 路	性 子 教 ど 育 も の の 行 成 長 と 発 達 に 応 じ た	性 相 談 窓 や 口 ハ ラ ス メ ン ト に 関 す	性 暴 力 の 相 談 窓 や 口 ハ ラ ス メ ン ト に 関 す	女 に 定 教 材 等 平 つ 化 等 い さ 等 の て れ に 觀 の た 関 点 記 男 し か 述 女 て ら が の 、 見 な 役 性 直 い 割 に す か や よ 、 特 リ 男 性 固	育 多 様 な う 性 へ の 理 解 を 深 め る 教	充 教 職 員 等 の 理 解 を 深 め る 教	教 職 員 等 へ の 理 解 を 深 め る 教	て 校 長 く ・ 副 校 長 に 女 性 を 増 や し	そ の 他	分 か ら な い	無 回 答
		全体	886	635	389	290	283	242	228	135	41	36	15	
			100.0	71.7	43.9	32.7	31.9	27.3	25.7	15.2	4.6	4.1	1.7	
男性	合 計	327	239	141	120	100	82	83	35	20	9	4		
		100.0	73.1	43.1	36.7	30.6	25.1	25.4	10.7	6.1	2.8	1.2		
	独身期(18~39歳)	47	27	18	24	14	13	9	5	3	2	1		
		100.0	57.4	38.3	51.1	29.8	27.7	19.1	10.6	6.4	4.3	2.1		
	家族形成期	48	38	21	12	22	8	11	1	6	—	—		
		100.0	79.2	43.8	25.0	45.8	16.7	22.9	2.1	12.5	—	—		
	家族成長前期	21	16	13	4	8	6	3	4	2	—	—		
		100.0	76.2	61.9	19.0	38.1	28.6	14.3	19.0	9.5	—	—		
	家族成長後期	13	11	6	5	5	3	3	3	—	—	—		
		100.0	84.6	46.2	38.5	38.5	23.1	23.1	23.1	—	—	—		
女性	合 計	547	390	244	166	178	157	141	98	21	26	10		
		100.0	71.3	44.6	30.3	32.5	28.7	25.8	17.9	3.8	4.8	1.8		
	独身期(18~39歳)	67	43	34	20	27	23	19	17	2	—	1		
		100.0	64.2	50.7	29.9	40.3	34.3	28.4	25.4	3.0	—	1.5		
	家族形成期	77	59	40	18	33	22	15	11	3	3	2		
		100.0	76.6	51.9	23.4	42.9	28.6	19.5	14.3	3.9	3.9	2.6		
	家族成長前期	28	19	17	6	6	9	6	9	2	—	—		
		100.0	67.9	60.7	21.4	21.4	32.1	21.4	32.1	7.1	—	—		
	家族成長後期	34	23	12	9	10	13	9	5	5	2	1		
		100.0	67.6	35.3	26.5	29.4	38.2	26.5	14.7	14.7	5.9	2.9		
その他	家族成熟期	21	17	11	4	8	3	8	4	—	—	—		
		100.0	81.0	52.4	19.0	38.1	14.3	38.1	19.0	—	—	—		
	高齢期	148	110	63	50	42	36	47	19	3	8	4		
		100.0	74.3	42.6	33.8	28.4	24.3	31.8	12.8	2.0	5.4	2.7		
	独身期(40~64歳)	116	79	42	41	34	38	22	22	3	9	2		
その他		100.0	68.1	36.2	35.3	29.3	32.8	19.0	19.0	2.6	7.8	1.7		
	その他	53	37	24	17	17	13	14	10	3	4	—		
		100.0	69.8	45.3	32.1	32.1	24.5	26.4	18.9	5.7	7.5	—		

IV. 男女平等への関心と意識について

問5 男女平等参画に関する用語の認知度

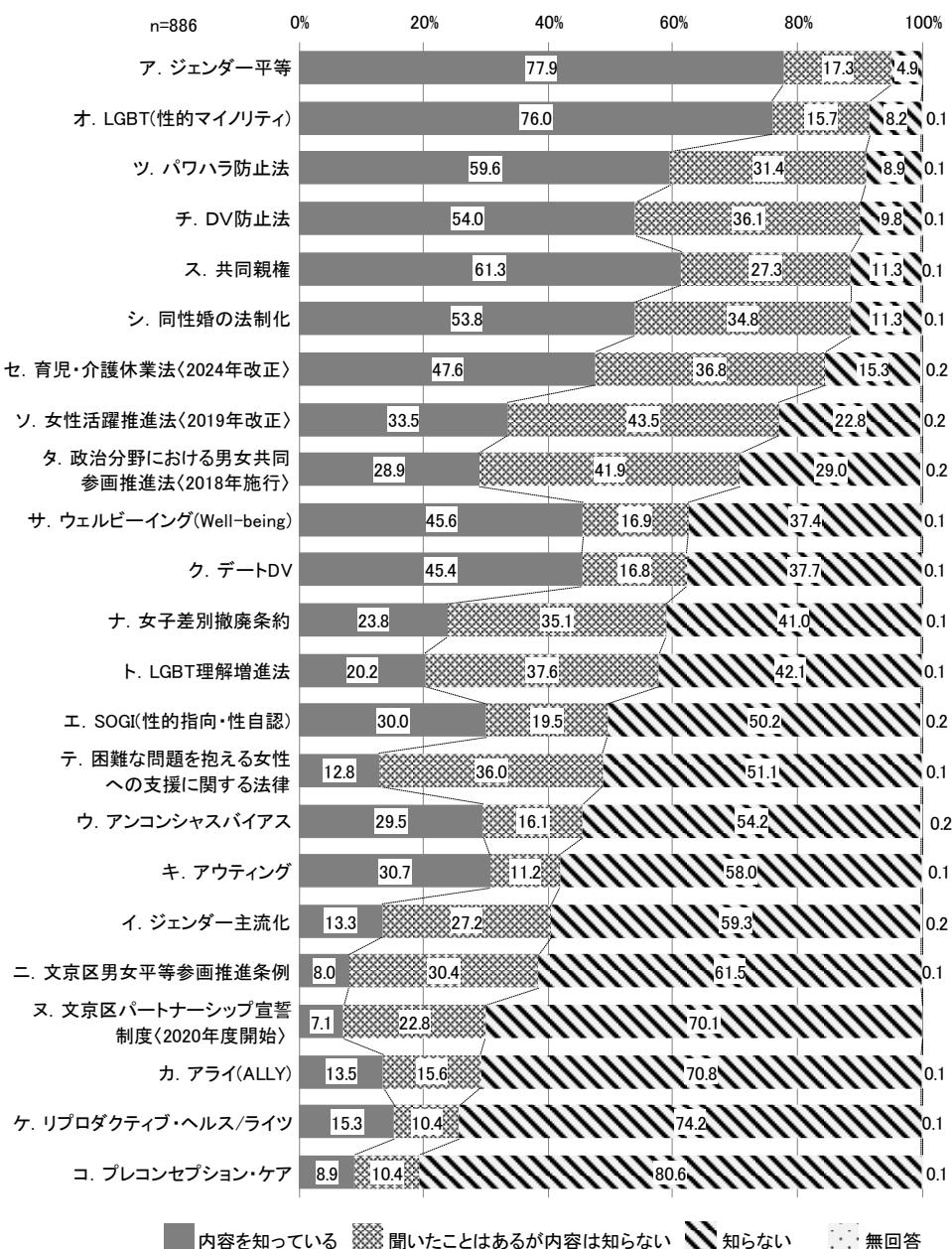
あなたは、次にあげる言葉を知っていますか。ア～コのそれぞれにつき一つずつ「○」をしてください。

○ 全体の傾向

「内容を知っている」割合は、「ジェンダー平等」が77.9%で最も高く、次いで「LGBT(性的マイナリティ)」が76.0%、「共同親権」が61.3%、「パワハラ防止法」が59.6%となっている。

一方、「知らない」割合は、「プレコンセプション・ケア」が80.6%で最も高く、また、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」(74.2%)、「アライ(ALLY)」(70.8%)、「文京区パートナーシップ宣誓制度〈2020年度開始〉」(70.1%)が7割以上となっている。

図IV-1 男女平等参画に関する用語の認知度

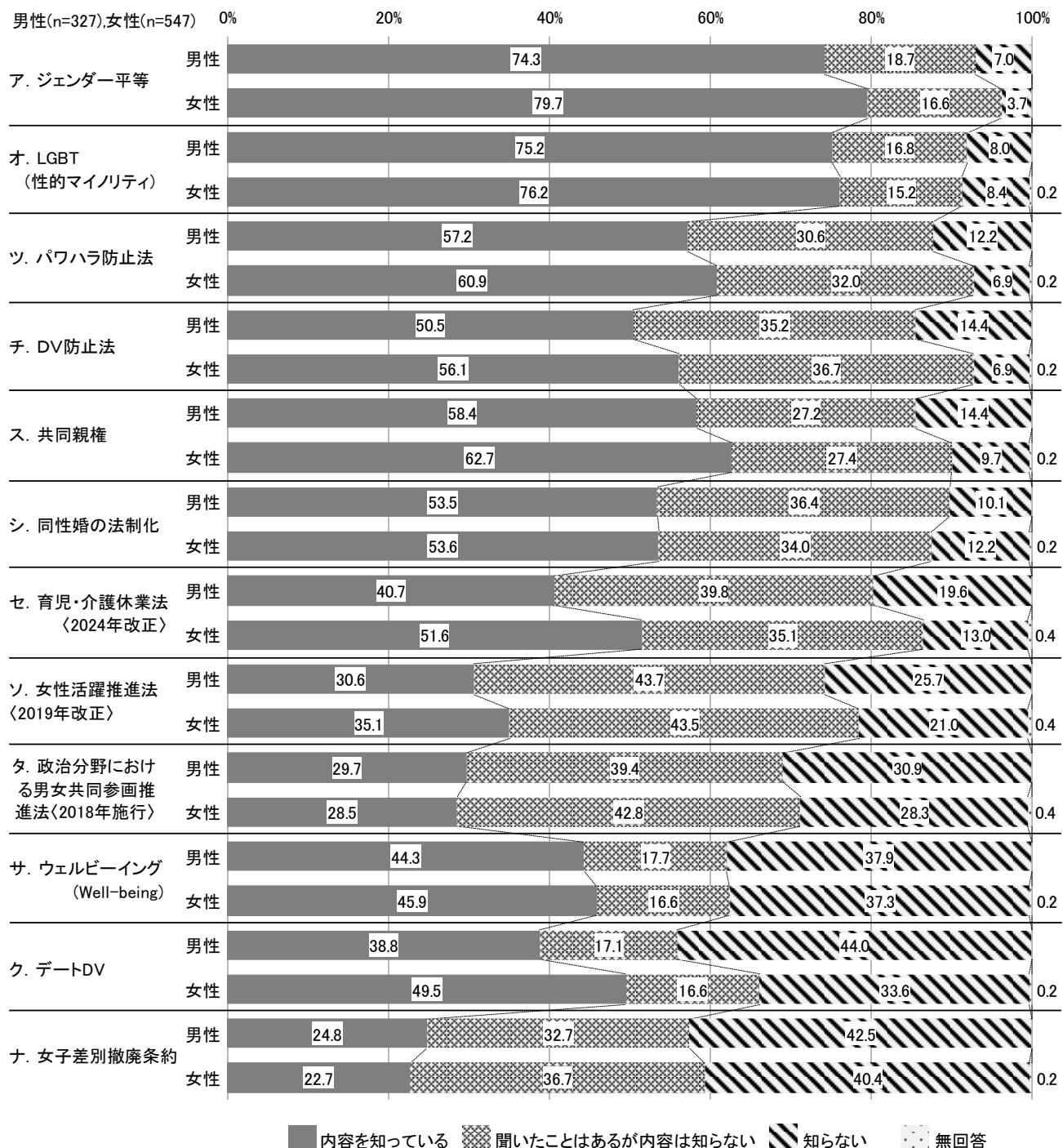


○ 性別の傾向

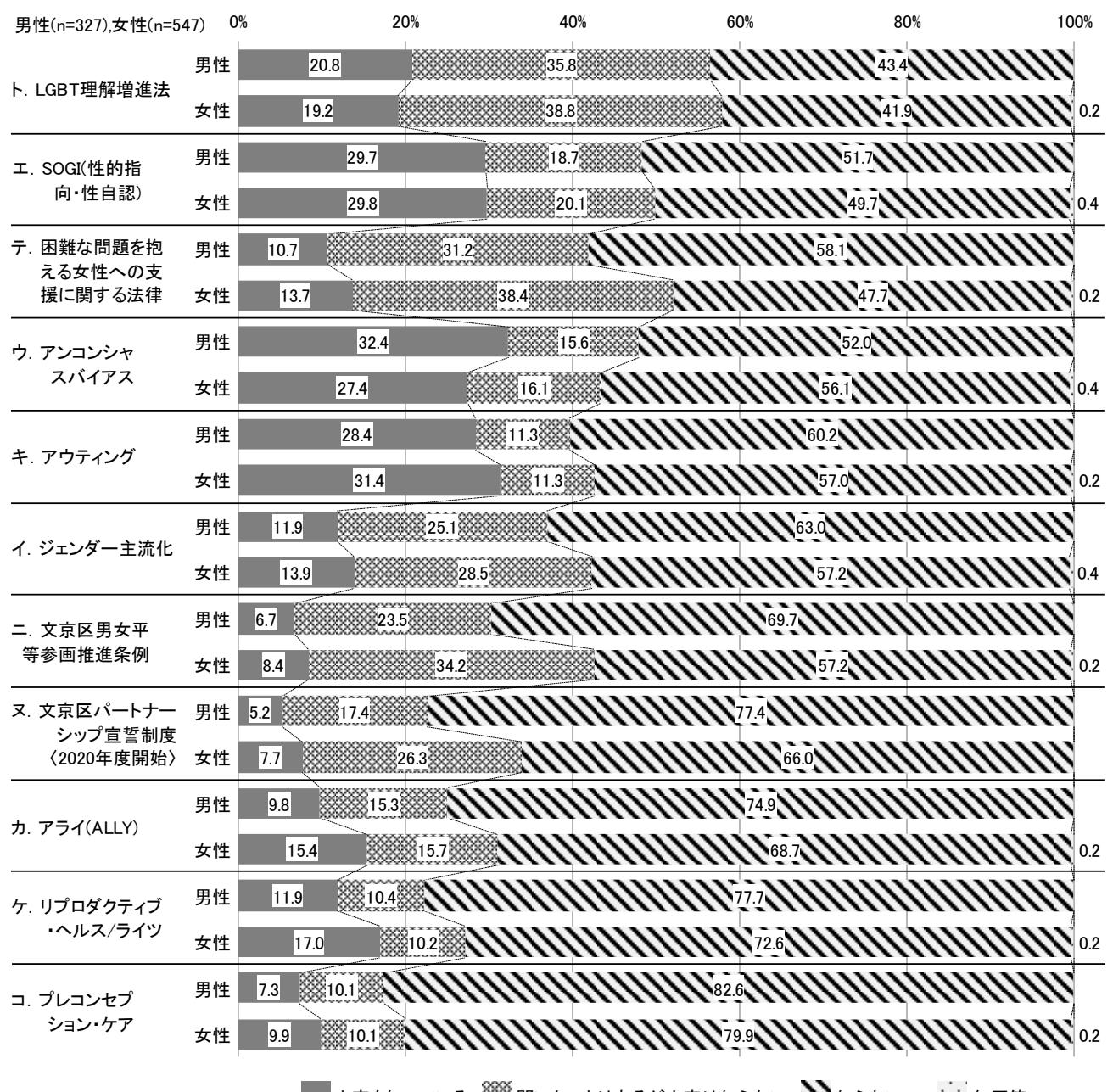
「育児・介護休業法〈2024年改正〉」又は「デートDV」について「内容を知っている」という人は、女性が男性を約10ポイント上回っている。

「デートDV」、「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」、「文京区男女平等参画推進条例」、「文京区パートナーシップ宣誓制度〈2020年度開始〉」については、男性で「知らない」という人の割合が女性を約10ポイント上回っている。

図IV-2 男女平等参画に関する用語の認知度（性別）①



図IV-2 男女平等参画に関する用語の認知度（性別）②



問6 各場面における男女の地位の平等感

あなたは、以下の面で女性と男性が平等になっていると思いますか。ア～キのそれぞれにつき、あなたの感じ方に最も近いもの一つずつに「○」をしてください。

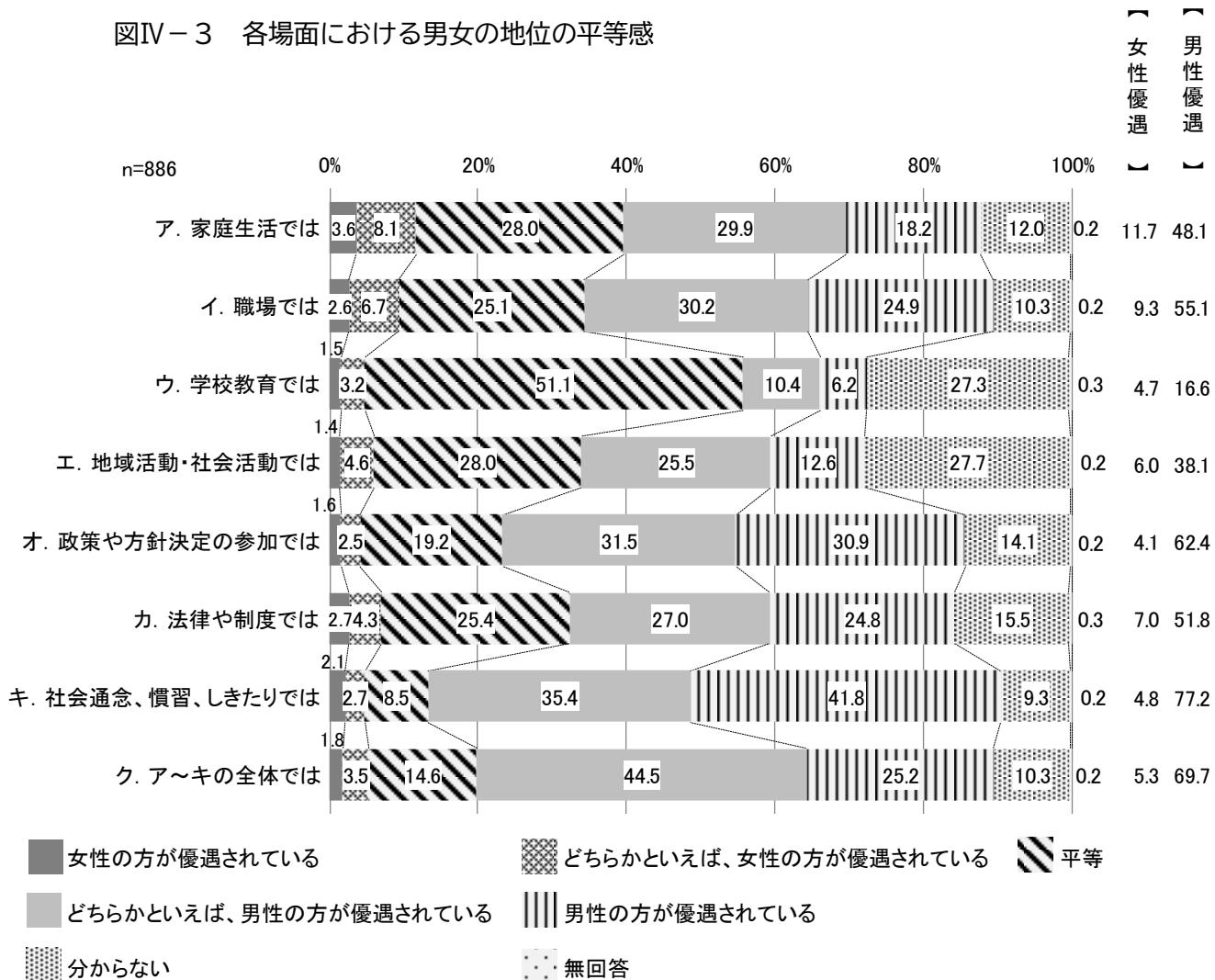
○ 全体の傾向

全体では「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」の合計(以下、『男性優遇』)が 69.7% で、「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば、女性の方が優遇されている」の合計(以下、『女性優遇』)は 5.3% にとどまる。

学校教育では「平等」が半数(51.1%)を占め、『男性優遇』と『女性優遇』の差も 11.9 ポイントと小さくなっている。

その他の場面では、『男性優遇』が『女性優遇』を 30 ポイント以上上回っており、特に、社会通念、慣習、しきたりについては『男性優遇』が 77.2%、政策や方針決定の参加については 62.4% となっている。

図IV-3 各場面における男女の地位の平等感



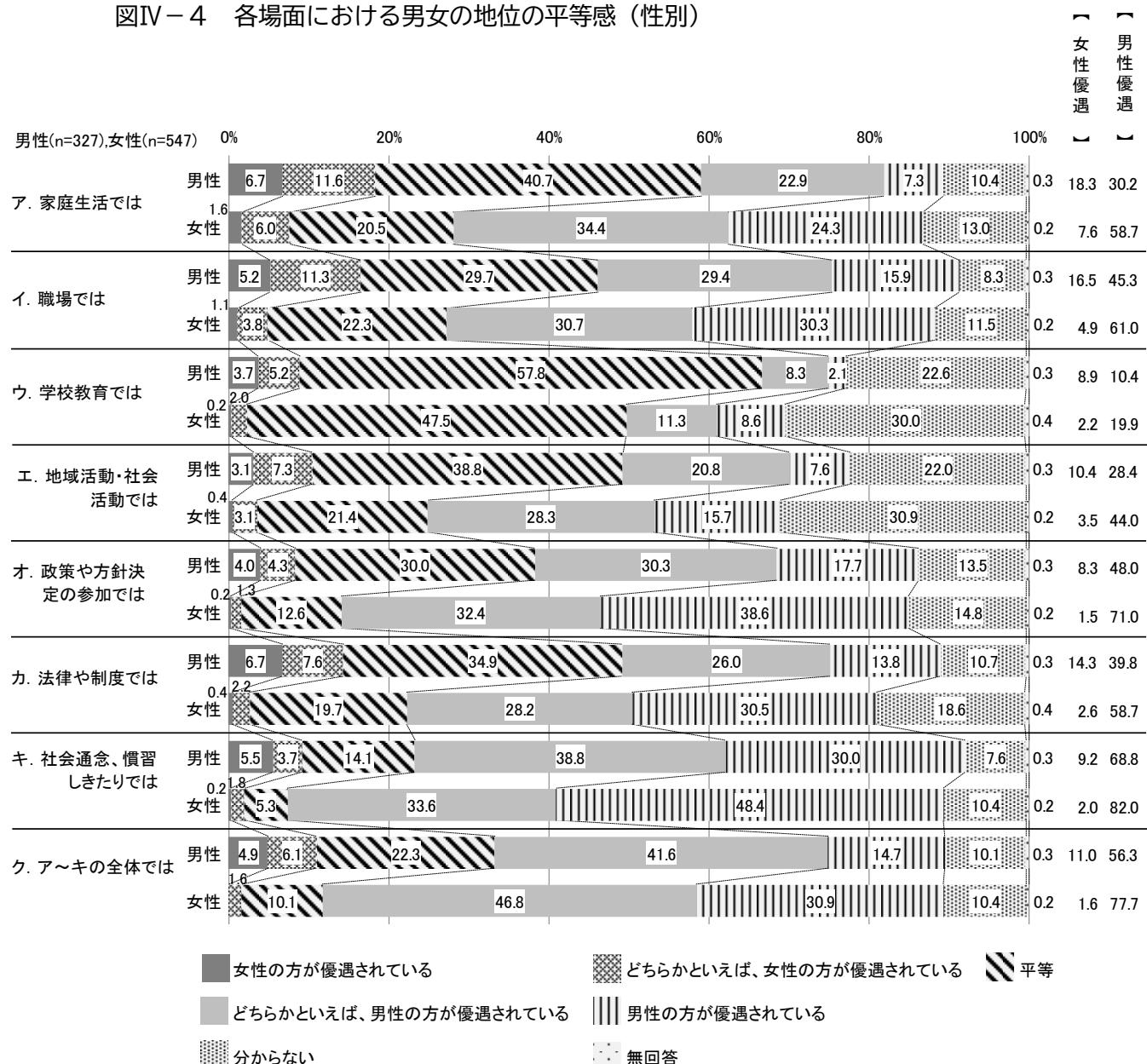
○ 性別の傾向

全体では、『男性優遇』と考える人は、男性で 56.3%、女性では 77.7%であり、21.4 ポイントの開きが見られる。

家庭生活において性別による意識の乖離が大きくなっている、『男性優遇』と考える人は男性で 30.2%、女性で 58.7%であり 28.5 ポイントの差が見られる。

そのほか、政策や方針決定の参加についても『男性優遇』と考える人は男性で 48.0%、女性で 71.0%となっており、その差は 23.0 ポイントと家庭生活に次いで乖離が大きくなっている。

図IV-4 各場面における男女の地位の平等感（性別）



V. 就労・職場について

問7 職業

あなたは、現在、主にどのような職業等に就いていますか。【1つだけ○】

○ 全体、性・ライフステージ区分別の傾向

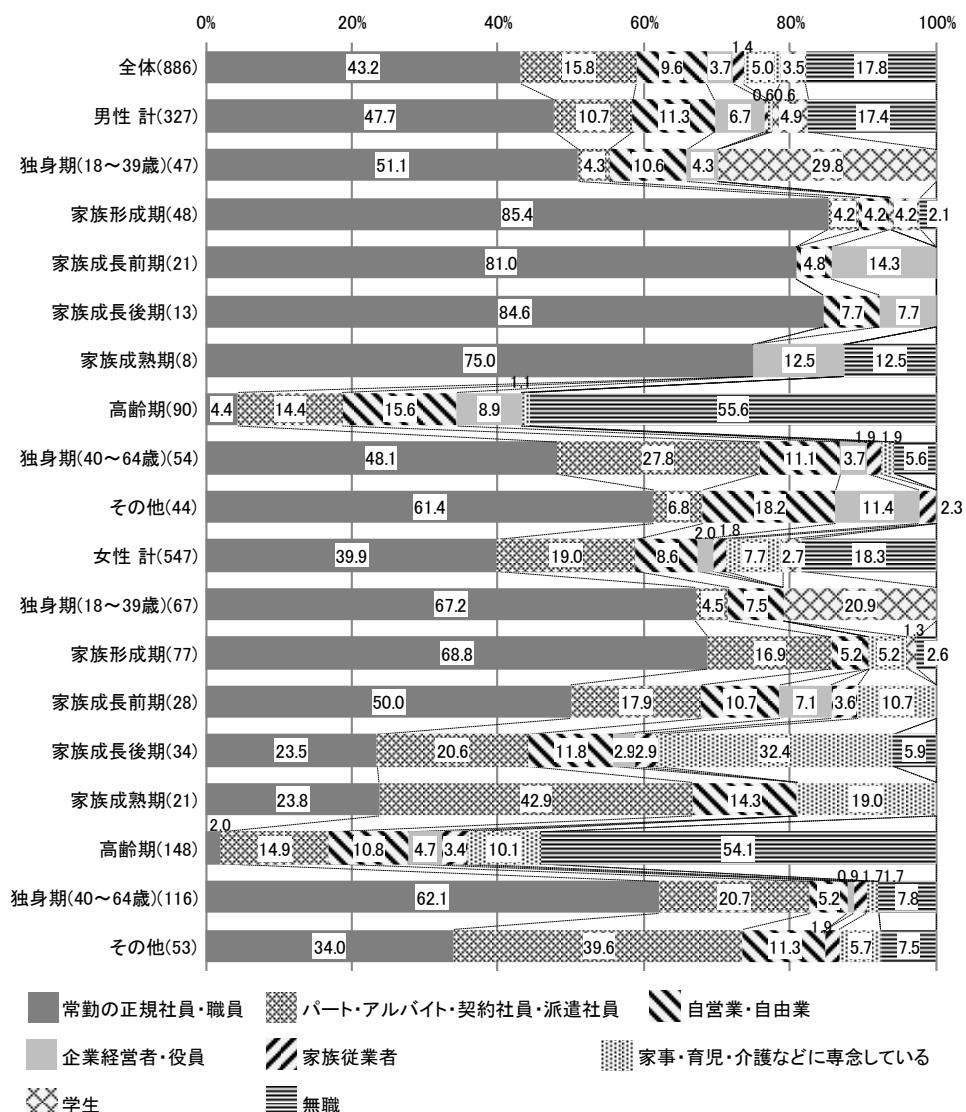
全体でみると、「常勤の正規社員・職員」が43.2%と最も多く、次いで「無職」が17.8%となっている。

性別でみると、「パート・アルバイト・契約社員・派遣社員」は女性(19.0%)が男性(10.7%)を8.3ポイント上回っている。

性・ライフステージ区分別では、男性は家族形成期から家族成熟期にかけて「常勤の正規社員・職員」が7割以上を占めている。

女性は、独身期(18~39歳)と家族成長期では「常勤の正規社員・職員」が7割を占めるが、家族成長前期以降その割合が減り、家族成長後期では「家事・育児・介護などに専念している」(32.4%)が、家族成熟期では「パート・アルバイト・契約社員・派遣社員」(42.9%)が最も多くなっている。

図V-1 職業(性・ライフステージ区分別)



問7－1 職場における性別による待遇の格差等

【現在就業している（問7で「1」～「5」のいずれかに「○」をした）方にお聞きします。】

あなたの職場では性別により次のような待遇の格差等があると感じますか。

【○はいくつでも】

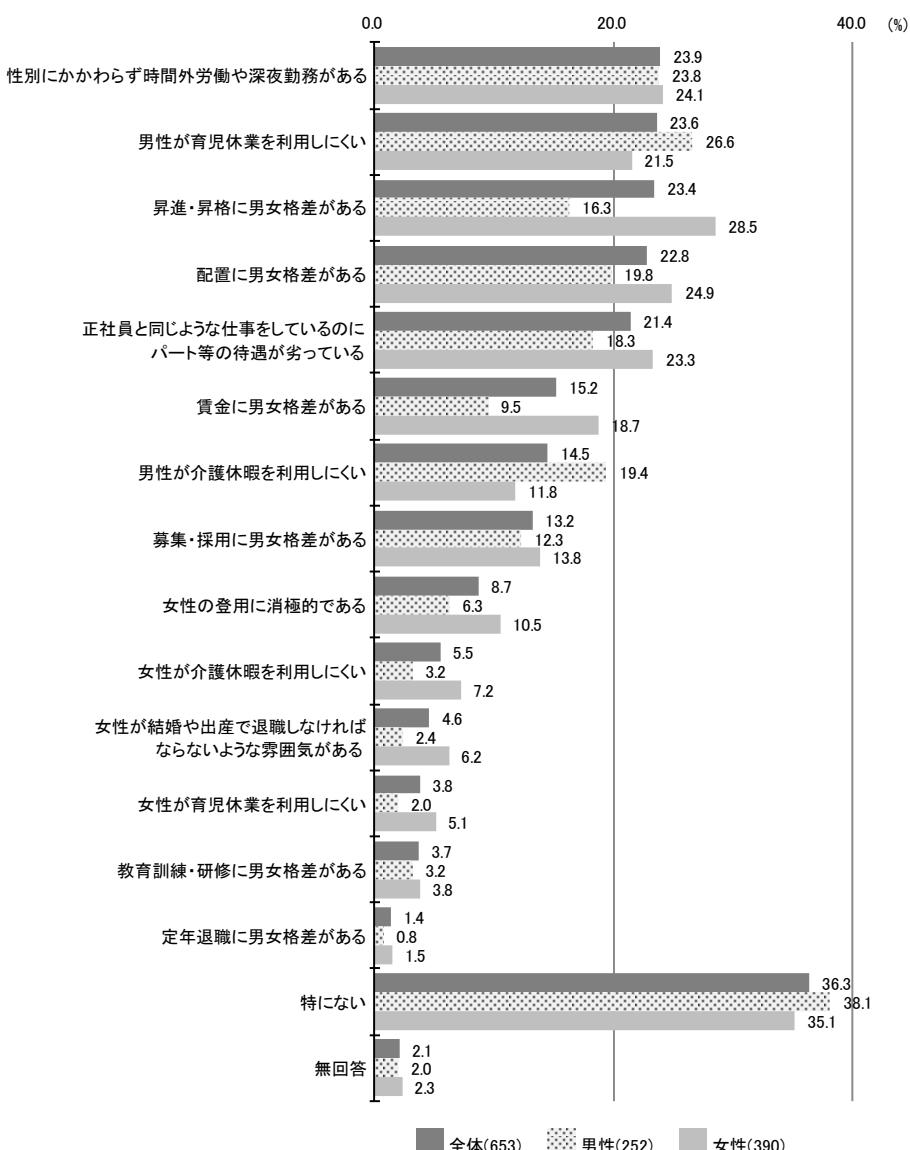
○ 全体・性別の傾向

「特にない」が36.3%で最も多い。

待遇の格差等があると感じる場合は、「性別にかかわらず時間外労働や深夜勤務がある」が23.9%で最も多い。また、「男性が育児休業を利用しにくい」(23.6%)、「昇進・昇格に男女格差がある」(23.4%)、「配置に男女格差がある」(22.8%)、「正社員と同じような仕事をしているのに、パート等の待遇が劣っている」(21.4%)が2割以上となっている。

性別で見ると、女性では「昇進・昇格に男女格差がある」が28.5%で最も多い。また、「賃金に男女格差がある」は女性で18.7%であり、男性を9.2ポイント上回る。

図V－2 職場における性別による待遇の格差等（性別）



○ 性・年齢別の傾向

「特にない」は、概ね年齢が低いほど割合が低くなる傾向にあり、男性の30代、女性の10~30代では3割未満となっている。比較的若い層を中心に何らかの格差等を感じている人が多いことが分かる。

「性別にかかわらず時間外労働や深夜勤務がある」は男性の30代(38.1%)と女性の10~20代(40.5%)で4割と高くなっている。

「男性が育児休業を利用しにくい」は男性の50歳未満と女性の40歳未満で高く、特に男女共に30代で最も高くなっている。(男性38.1%、女性32.1%)

「昇進・昇格に男女格差がある」と「配置に男女格差がある」は女性の50歳未満で3割を超えている。

「正社員と同じような仕事をしているのに、パート等の待遇が劣っている」は男性の70歳以上と女性の50~60代で3割と高くなっている。

表V-1 職場における性別による待遇の格差等（性・年齢別）

		労働別 や深か に勤わ らがず ある時 間外	性別 に男 く性 が育 児休 業を 利用 し	に男 く性 が育 児休 業を 利用 し	昇進 ・昇 格に 男女 格 差 が あ る	配置 に男 女 格 差 が あ る	等を のし てい ると が劣 つに よて いば な い仕 事	正社員 待遇 と同 じよ うな い仕 事	賃金 に男 女 格 差 が あ る	に男 く性 が介 護休 暇を 利用 し	募 集・ 採 用 に 消 極 的 で あ	に女 性 の登 用 に 消 極 的 で あ	に女 性 が介 護休 暇を 利用 し	な し 女 性 が 介 護休 暇を 利用 し	に女 性 が 育 児休 業を 利用 し	差 が あ る 教 育 訓 練 ・ 研 修 に 男 女 格 差 が あ る	定 年 退 職 に 男 女 格 差 が あ る	特 に な い	無 回 答
	全 体	653	156	154	153	149	140	99	95	86	57	36	30	25	24	9	237	14	
		100.0	23.9	23.6	23.4	22.8	21.4	15.2	14.5	13.2	8.7	5.5	4.6	3.8	3.7	1.4	36.3	2.1	
	合計	252	60	67	41	50	46	24	49	31	16	8	6	5	8	2	96	5	
		100.0	23.8	26.6	16.3	19.8	18.3	9.5	19.4	12.3	6.3	3.2	2.4	2.0	3.2	0.8	38.1	2.0	
男性	10・20代	23	7	7	2	6	5	1	5	3	2	2	1	1	2	1	8	—	
		100.0	30.4	30.4	8.7	26.1	21.7	4.3	21.7	13.0	8.7	8.7	4.3	4.3	8.7	4.3	34.8	—	
	30代	42	16	16	5	7	6	3	10	4	3	2	1	1	—	—	12	—	
		100.0	38.1	38.1	11.9	16.7	14.3	7.1	23.8	9.5	7.1	4.8	2.4	2.4	—	—	28.6	—	
	40代	62	15	18	15	13	10	4	16	7	6	1	—	1	3	—	22	1	
		100.0	24.2	29.0	24.2	21.0	16.1	6.5	25.8	11.3	9.7	1.6	—	1.6	4.8	—	35.5	1.6	
	50代	64	9	13	12	13	12	9	11	8	3	2	2	1	1	—	26	1	
		100.0	14.1	20.3	18.8	20.3	18.8	14.1	17.2	12.5	4.7	3.1	3.1	1.6	1.6	—	40.6	1.6	
女性	60代	34	9	5	2	7	5	1	2	4	1	—	—	—	—	—	17	1	
		100.0	26.5	14.7	5.9	20.6	14.7	2.9	5.9	11.8	2.9	—	—	—	—	—	50.0	2.9	
	70歳以上	27	4	8	5	4	8	6	5	5	1	1	2	1	2	1	11	2	
		100.0	14.8	29.6	18.5	14.8	29.6	22.2	18.5	18.5	3.7	3.7	7.4	3.7	7.4	3.7	40.7	7.4	
	合計	390	94	84	111	97	91	73	46	54	41	28	24	20	15	6	137	9	
		100.0	24.1	21.5	28.5	24.9	23.3	18.7	11.8	13.8	10.5	7.2	5.1	3.8	1.5	35.1	2.3		
	10・20代	37	15	10	13	13	8	5	5	8	4	2	—	4	2	1	9	—	
		100.0	40.5	27.0	35.1	35.1	21.6	13.5	13.5	21.6	10.8	5.4	—	10.8	5.4	2.7	24.3	—	
女性	30代	78	23	25	26	27	15	18	15	12	11	10	12	5	2	2	20	3	
		100.0	29.5	32.1	33.3	34.6	19.2	23.1	19.2	15.4	14.1	12.8	15.4	6.4	2.6	2.6	25.6	3.8	
	40代	89	20	19	29	28	15	17	8	16	14	4	7	3	5	1	31	—	
		100.0	22.5	21.3	32.6	31.5	16.9	19.1	9.0	18.0	15.7	4.5	7.9	3.4	5.6	1.1	34.8	—	
	50代	97	23	20	25	22	31	18	12	11	7	6	1	5	3	1	33	2	
		100.0	23.7	20.6	25.8	22.7	32.0	18.6	12.4	11.3	7.2	6.2	1.0	5.2	3.1	1.0	34.0	2.1	
	60代	58	9	9	16	5	17	11	5	5	4	4	3	1	1	—	26	—	
		100.0	15.5	15.5	27.6	8.6	29.3	19.0	8.6	8.6	6.9	6.9	5.2	1.7	1.7	—	44.8	—	
	70歳以上	31	4	1	2	2	5	4	1	2	1	2	1	2	2	1	18	4	
		100.0	12.9	3.2	6.5	6.5	16.1	12.9	3.2	6.5	3.2	6.5	3.2	6.5	3.2	3.2	58.1	12.9	

○ 性・ライフステージ区分別の傾向

「特にない」は、男女の家族形成期と女性の独身期(18~64歳)では3割未満と低く、また、家族成長前期でも男女共に3分の1と低くなっている。この層では7~8割程度が何らかの格差等を感じていることが分かる。

「性別にかかわらず時間外労働や深夜勤務がある」は、男女共に独身期(18~39歳)で約36%と最も高くなっている。また、男性の場合は家族形成期や家族成長前期、女性の場合は家族形成期と独身期(40~64歳)でも3割程度と高い。

「男性が育児休業を利用しにくい」は、男女共に家族形成期で最も高くなっている。特に男性では5割(51.1%)を占め、他の世代より15ポイント以上高くなっている。

「正社員と同じような仕事をしているのに、パート等の待遇が劣っている」は、女性の家族成熟期で35.3%と最も高くなっている。

「男性が介護休暇を利用しにくい」は男性の家族形成期で4割(37.8%)と高く、他の世代より14ポイント以上高くなっている。

「募集・採用に男女格差がある」は、女性の家族形成期と家族成長前期で2割以上と高くなっている。

表V-2 職場における性別による待遇の格差等(性・ライフステージ区分別)

		労働別 やに深か 勤わら ずある 時間外	性別 に性 格差 がある	昇進・ 育児休 業を利 用し る	配 置に 男女 格 差が ある	等を正 の待て 遇いと がる同 じつよ て、う いばな る一仕 事	正社 員に遇 いとが る同じ つによ て、う いばな る一仕 事	賃 金に 男女 格 差が ある	に男 く性 いが 介護 休 暇を 利 用し る	募 集・ 採 用に 男女 格 差が ある	る女 性の 登 用に 消 極 的で あ	に女 く性 いが 介護 休 暇を 利 用し る	な し女 性が 零 け り が れ 結 婚 が ば な や ら 出 な 産 い よ う 職	に女 く性 いが 育 児 休 業を 利 用し る	教 育 訓 練・ 研 修に 男女 格	定 年 退 職に 男女 格 差が あ	特 に な い	無 回 答
全 体		653 100.0	156 23.9	154 23.6	153 23.4	149 22.8	140 21.4	99 15.2	95 14.5	86 13.2	57 8.7	36 5.5	30 4.6	25 3.8	24 3.7	9 1.4	237 36.3	14 2.1
男 性	合 計	252 100.0	60 23.8	41 26.6	50 16.3	46 19.8	24 18.3	24 9.5	49 19.4	31 12.3	16 6.3	8 3.2	6 2.4	5 2.0	8 3.2	2 0.8	96 38.1	5 2.0
	独身期(18~39歳)	33 100.0	12 36.4	5 15.2	3 9.1	5 15.2	3 9.1	3 9.1	4 12.1	5 15.2	2 6.1	2 -	1 -	1 -	1 -	1 -	13 39.4	-
	家族形成期	45 100.0	15 33.3	23 51.1	6 13.3	11 24.4	9 20.0	2 4.4	17 37.8	4 8.9	4 8.9	4 8.9	1 2.2	2 4.4	1 2.2	1 2.2	11 24.4	-
	家族成長前期	21 100.0	6 28.6	7 33.3	6 28.6	5 23.8	5 23.8	3 14.3	2 9.5	3 14.3	2 9.5	2 -	- -	- -	- -	- -	7 33.3	-
	家族成長後期	13 100.0	2 15.4	3 23.1	5 38.5	4 30.8	1 7.7	1 7.7	1 23.1	3 7.7	1 -	1 7.7	- -	- -	1 7.7	- -	3 23.1	1 7.7
	家族成熟期	7 100.0	2 28.6	1 14.3	1 14.3	2 28.6	2 28.6	1 14.3	1 14.3	1 -	1 14.3	- -	1 14.3	- -	1 14.3	- -	4 57.1	-
	高齢期	39 100.0	5 12.8	10 25.6	6 15.4	5 12.8	10 25.6	6 15.4	5 12.8	5 15.4	1 2.6	2 2.6	2 5.1	1 2.6	2 5.1	2 2.6	18 46.2	2 5.1
	独身期(40~64歳)	50 100.0	7 14.0	11 22.0	7 14.0	6 12.0	10 20.0	3 6.0	9 18.0	6 12.0	4 8.0	- -	1 2.0	- -	1 2.0	- -	26 52.0	1 2.0
	その他	44 100.0	11 25.0	7 15.9	7 15.9	12 27.3	6 13.6	5 11.4	8 18.2	6 13.6	3 6.8	3 2.3	1 2.3	1 2.3	2 4.5	- -	14 31.8	1 2.3
	合 計	390 100.0	94 24.1	84 21.5	111 28.5	97 24.9	91 23.3	73 18.7	46 11.8	54 13.8	41 10.5	28 7.2	24 6.2	20 5.1	15 3.8	6 1.5	137 35.1	9 2.3
女 性	独身期(18~39歳)	53 100.0	19 35.8	15 28.3	17 32.1	19 35.8	11 20.8	8 15.1	8 15.1	8 15.1	6 11.3	6 11.3	4 7.5	2 3.8	2 3.8	1 1.9	13 24.5	-
	家族形成期	70 100.0	19 27.1	27 38.6	26 37.1	23 32.9	16 22.9	17 24.3	13 18.6	16 22.9	10 14.3	5 7.1	8 11.4	6 8.6	2 2.9	2 2.9	2 25.7	2 2.9
	家族成長前期	25 100.0	3 12.0	2 8.0	4 16.0	8 32.0	5 20.0	5 20.0	3 12.0	3 24.0	3 12.0	2 8.0	2 8.0	2 8.0	2 8.0	- -	8 32.0	-
	家族成長後期	21 100.0	3 14.3	4 19.0	6 28.6	6 28.6	4 19.0	3 14.3	3 14.3	3 14.3	3 14.3	1 4.8	1 4.8	- -	- -	- -	10 47.6	-
	家族成熟期	17 100.0	2 11.8	5 29.4	3 17.6	2 11.8	6 35.3	4 23.5	3 17.6	3 5.9	1 11.8	3 17.6	- -	2 11.8	1 5.9	1 5.9	7 41.2	2 11.8
	高齢期	53 100.0	6 11.3	3 5.7	5 9.4	3 5.7	9 17.0	7 13.2	3 5.7	4 7.5	3 5.7	3 5.7	2 3.8	2 3.8	1 5.7	1 1.9	31 58.5	4 7.5
	独身期(40~64歳)	105 100.0	35 33.3	21 20.0	39 37.1	28 26.7	26 24.8	23 21.9	10 9.5	13 12.4	10 9.5	7 6.7	3 2.9	4 3.8	2 1.9	2 1.0	29 27.6	1 1.0
	その他	46 100.0	7 15.2	7 15.2	11 23.9	8 17.4	14 30.4	6 13.0	3 6.5	3 6.5	4 8.7	1 2.2	4 8.7	2 4.3	3 6.5	- -	21 45.7	-

問7-2 職場における働き方改革（勤務形態や取組）の現状と今後

【現在就業している（問7で「1」～「5」のいずれかに「○」をした）方にお聞きします。】

次の勤務形態や取組のうち、あなたの職場で現在行われているものはありませんか。また、今後行ってほしいものがありますか。

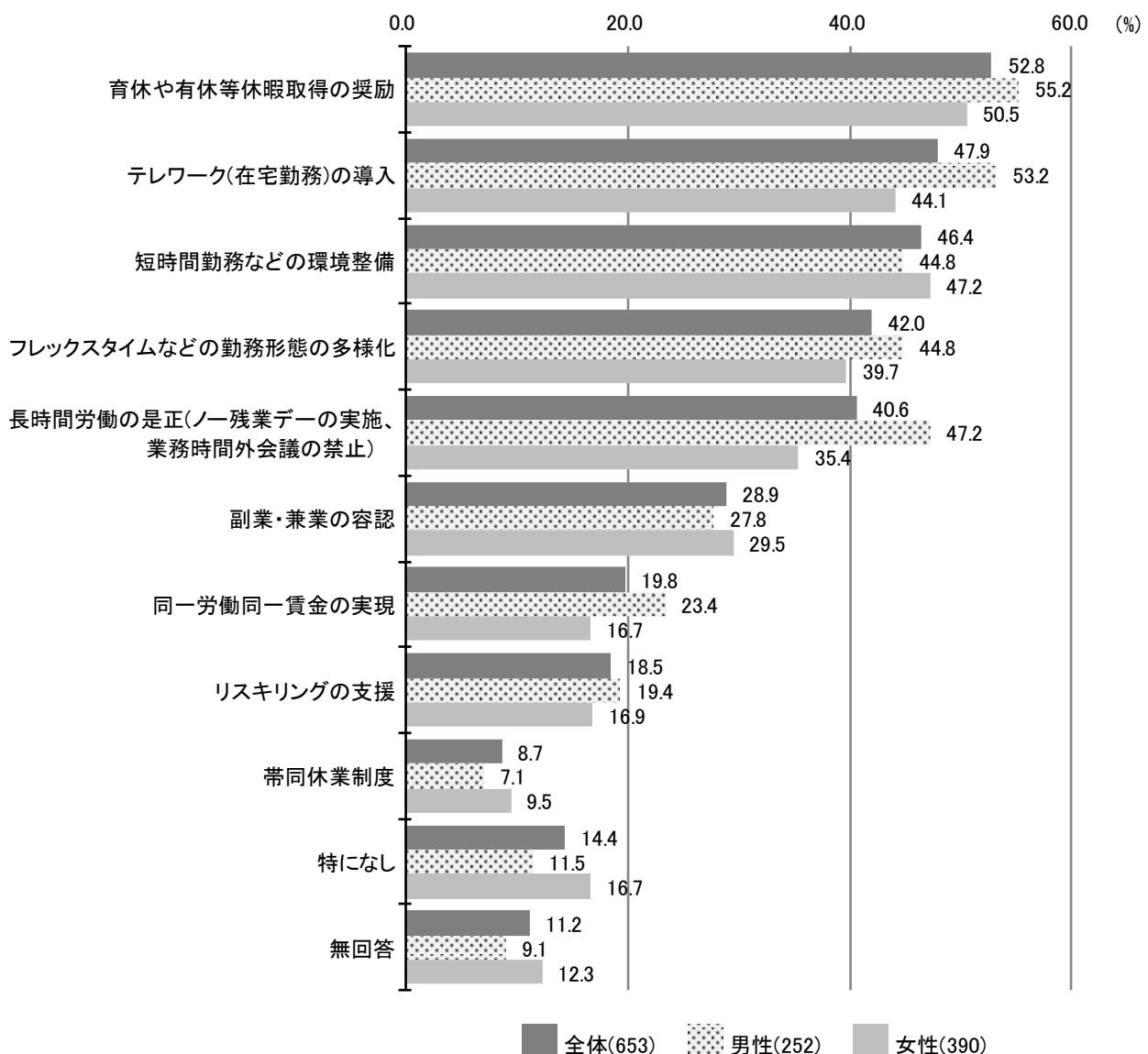
① 現在行われているもの【○はいくつでも】

○ 全体・性別の傾向

現在行われているものとしては、「育休や有休等休暇取得の奨励」が 52.8%で最も多く、次いで、「テレワーク（在宅勤務）の導入」（47.9%）、「短時間勤務などの環境整備」（46.4%）となっている。

性別で見ると、「長時間労働の是正（ノー残業デーの実施、業務時間外会議の禁止）」は男性では 47.2%となっており、女性を 10 ポイント以上上回っている。

図V-3 職場において現在行われている働き方改革の取組（性別）

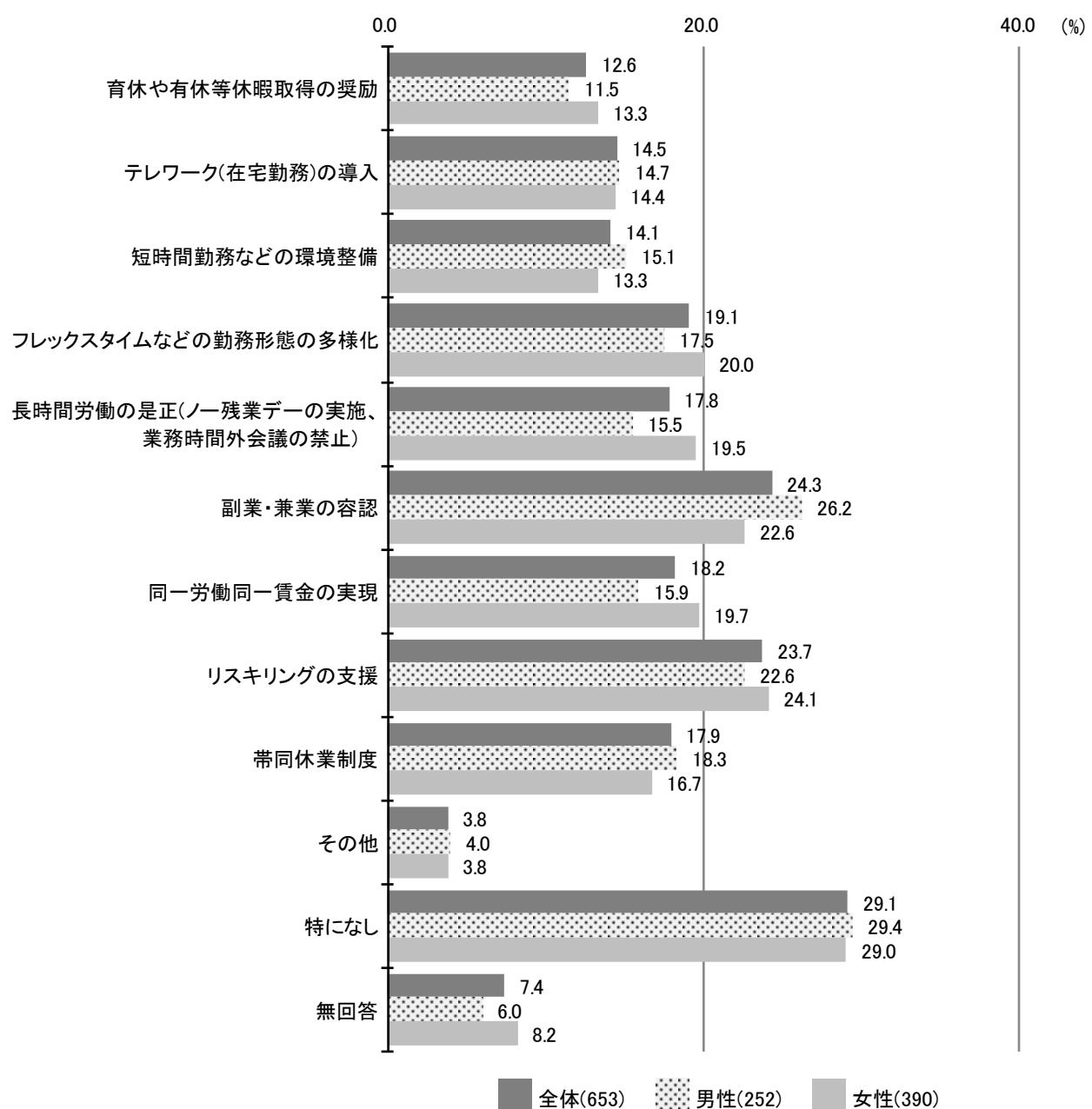


② 今後行ってほしいもの【○はいくつでも】

○ 全体の傾向

今後行ってほしいものとしては、「副業・兼業の容認」が 24.3%、「リスクリソースの支援」が 23.7%となっている。また、「特になし」という人も3割(29.1%)となっている。

図V-4 職場において今後行ってほしい働き方改革の取組（性別）



○ 性・年齢別の傾向

「特になし」は、男性の50歳未満で1~2割、女性の60歳未満で2~3割と低くなっているが、この世代では7~9割の人の何らかの希望する取組があることが分かる。

「副業・兼業の容認」は、男性では年齢が低くなるほど希望する割合が増えており、10・20代では52.2%となっている。女性では60歳未満で2割以上となっており、特に30代で29.5%と最も高い。

「長時間労働の是正(ノー残業デーの実施、業務時間外会議の禁止)」は、男性の30代(28.6%)、女性の10・20代(35.1%)で他の世代よりも9ポイント以上高くなっている。

また、男性の10・20代では、「帯同休業制度」(47.8%)や「短時間勤務などの環境整備」(34.8%)を希望する人の割合が他の世代に比べて非常に高くなっている。

表V-3 職場において今後行ってほしい働き方改革の取組（性・年齢別）

		全 体	奨 励 休 や 有 休 等 休 暇 取 得 の 一 括 算	テ レ ワ ー ク （ 在 宅 勤 務 ）	の 導 入 レ フ ー ク （ 短 時 間 勤 務 の 多 様 化 の 環 境 整 ）	短 時 間 勤 務 形 態 の 多 様 化 の 環 境 整 ）	勤 務 フ レ ッ ク ス タ イ ム な ど の 環 境 整 ）	長 時 間 勤 務 形 態 の 多 様 化 の 環 境 整 ）	残 業 会 議 の 多 様 化 の 環 境 整 ）	長 時 間 勤 務 形 態 の 多 様 化 の 環 境 整 ）	長 時 間 勤 務 形 態 の 多 様 化 の 環 境 整 ）	副 業 ・ 兼 業 の 容 認	同 一 労 働 ・ 同 一 賃 金 の 実 現	リ ス キ リ ン グ の 支 援	帯 同 休 業 制 度	そ の 他	特 に な し	無 回 答
		全 体	653	82	95	92	125	116	159	119	155	117	25	190	48			
			100.0	12.6	14.5	14.1	19.1	17.8	24.3	18.2	23.7	17.9	3.8	29.1	7.4			
男 性	合 計	252	29	37	38	44	39	66	40	57	46	10	74	15				
		100.0	11.5	14.7	15.1	17.5	15.5	26.2	15.9	22.6	18.3	4.0	29.4	6.0				
	10・20代	23	3	5	8	5	4	12	4	5	11	—	4	1				
		100.0	13.0	21.7	34.8	21.7	17.4	52.2	17.4	21.7	47.8	—	17.4	4.3				
	30代	42	8	6	9	11	12	15	5	10	7	4	5	—				
		100.0	19.0	14.3	21.4	26.2	28.6	35.7	11.9	23.8	16.7	9.5	11.9	—				
	40代	62	7	10	6	11	12	19	15	17	12	5	13	2				
		100.0	11.3	16.1	9.7	17.7	19.4	30.6	24.2	27.4	19.4	8.1	21.0	3.2				
女 性	合 計	390	52	56	52	78	76	88	77	94	65	15	113	32				
		100.0	13.3	14.4	13.3	20.0	19.5	22.6	19.7	24.1	16.7	3.8	29.0	8.2				
	10・20代	37	8	5	3	6	13	8	6	7	9	2	9	1				
		100.0	21.6	13.5	8.1	16.2	35.1	21.6	16.2	18.9	24.3	5.4	24.3	2.7				
	30代	78	14	13	13	18	20	23	13	25	15	6	16	4				
		100.0	17.9	16.7	16.7	23.1	25.6	29.5	16.7	32.1	19.2	7.7	20.5	5.1				
	40代	89	11	15	10	21	19	23	23	21	14	3	26	4				
		100.0	12.4	16.9	11.2	23.6	21.3	25.8	25.8	23.6	15.7	3.4	29.2	4.5				
70歳以上	50代	97	10	12	16	19	15	23	23	30	17	4	26	3				
		100.0	10.3	12.4	16.5	19.6	15.5	23.7	23.7	30.9	17.5	4.1	26.8	3.1				
	60代	58	7	9	7	12	4	8	7	9	8	—	24	11				
		100.0	12.1	15.5	12.1	20.7	6.9	13.8	12.1	15.5	13.8	—	41.4	19.0				
		70歳以上	31	2	2	3	2	5	3	5	2	2	—	12	9			
			100.0	6.5	6.5	9.7	6.5	16.1	9.7	16.1	6.5	6.5	—	38.7	29.0			

○ 性・ライフステージ区別の傾向

「特になし」は、男性の家族形成期では 8.9%となっており、9割の人に働き方改革に係る何らかの要望がある。

「帯同休業制度」は、男性では家族形成期で 28.9%と最も高く、女性では独身期(18~39歳)で 26.4%と最も高くなっている。

「フレックスタイムなどの勤務形態の多様化」は、男性では家族形成期で 28.9%と最も高く、また、独身期(40~64 歳)でも 24.0%と高くなっている。女性では、家族形成期～家族成長後期と独身期(40~64歳)で 25%程度と高くなっている。

「長時間労働のは是正(ノー残業デーの実施、業務時間外会議の禁止)」は、男性の家族形成期と女性の独身期(18~39 歳)で高く、特に女性は 37.7%と他の世代を14 ポイント以上上回っている。

表V－4 職場において今後行ってほしい働き方改革の取組(性・ライフステージ区別)

		全 体	授 業 休 や 有 休 等 休 暇 取 得 の る 方 式 (在 宅 勤 務)	育 休 の 導 入 レ ワ ー ク (在 宅 勤 務)	備 短 時 間 勤 務 の 多 様 化 の 環 境 整 理	勤 務 形 態 の 多 様 化 の 環 境 整 理	間 外 業 事 業 の 多 様 化 の 環 境 整 理	残 業 の 多 様 化 の 環 境 整 理	長 時 間 勤 務 の 多 様 化 の 環 境 整 理	副 業 ・ 兼 業 の 容 認	同 一 労 働 ・ 兼 業 の 容 認	リ ス キ リ ン グ の 支 援	帯 同 休 業 制 度	そ の 他	特 に な し	無 回 答
		全 体	653	82	95	92	125	116	159	119	155	117	25	190	48	
			100.0	12.6	14.5	14.1	19.1	17.8	24.3	18.2	23.7	17.9	3.8	29.1	7.4	
		合 計	252	29	37	38	44	39	66	40	57	46	10	74	15	
			100.0	11.5	14.7	15.1	17.5	15.5	26.2	15.9	22.6	18.3	4.0	29.4	6.0	
男 性	独身期(18~39歳)	33	4	4	9	7	6	12	3	7	7	2	7	1		
		100.0	12.1	12.1	27.3	21.2	18.2	36.4	9.1	21.2	21.2	6.1	21.2	3.0		
	家族形成期	45	8	11	8	13	12	19	7	10	13	2	4	—		
		100.0	17.8	24.4	17.8	28.9	26.7	42.2	15.6	22.2	28.9	4.4	8.9	—		
	家族成長前期	21	—	1	1	2	4	4	4	3	2	1	10	—		
		100.0	—	4.8	4.8	95	19.0	19.0	19.0	14.3	95	4.8	47.6	—		
	家族成長後期	13	1	1	1	—	1	5	2	2	2	—	4	1		
		100.0	7.7	7.7	7.7	—	7.7	38.5	15.4	15.4	15.4	—	30.8	7.7		
	家族成熟期	7	—	—	—	—	—	3	1	3	2	—	2	1		
女 性	高齢期	39	4	3	6	2	5	3	5	8	5	—	19	5		
		100.0	10.3	7.7	15.4	51	12.8	7.7	12.8	20.5	12.8	—	48.7	12.8		
	独身期(40~64歳)	50	9	9	7	12	4	11	10	14	6	4	15	2		
		100.0	18.0	18.0	14.0	24.0	8.0	22.0	20.0	28.0	12.0	8.0	30.0	4.0		
	その他	44	3	8	6	8	7	9	8	10	9	1	13	5		
		100.0	6.8	18.2	13.6	18.2	15.9	20.5	18.2	22.7	20.5	2.3	29.5	11.4		
	合 計	390	52	56	52	78	76	88	77	94	65	15	113	32		
		100.0	13.3	14.4	13.3	20.0	19.5	22.6	19.7	24.1	16.7	3.8	29.0	8.2		
	独身期(18~39歳)	53	11	6	7	8	20	15	9	15	14	2	9	2		
女 性		100.0	20.8	11.3	13.2	15.1	37.7	28.3	17.0	28.3	26.4	3.8	17.0	3.8		
	家族形成期	70	11	13	9	18	16	18	16	18	12	7	17	3		
		100.0	15.7	18.6	12.9	25.7	22.9	25.7	22.9	25.7	17.1	10.0	24.3	4.3		
	家族成長前期	25	4	3	4	6	5	6	3	4	4	—	6	2		
		100.0	16.0	12.0	16.0	24.0	20.0	24.0	12.0	16.0	16.0	—	24.0	8.0		
	家族成長後期	21	3	4	3	5	3	5	5	3	3	—	8	—		
		100.0	14.3	19.0	14.3	23.8	14.3	23.8	23.8	14.3	14.3	—	38.1	—		
	家族成熟期	17	1	4	2	3	2	—	3	6	2	—	4	2		
		100.0	5.9	23.5	11.8	17.6	11.8	—	17.6	35.3	11.8	—	23.5	11.8		
		高齢期	53	4	7	4	7	5	4	7	6	6	—	24	13	
			100.0	7.5	13.2	7.5	13.2	9.4	7.5	13.2	11.3	11.3	—	45.3	24.5	
		独身期(40~64歳)	105	16	14	19	26	20	29	29	32	15	5	28	8	
			100.0	15.2	13.3	18.1	24.8	19.0	27.6	27.6	30.5	14.3	4.8	26.7	7.6	
		その他	46	2	5	4	5	5	11	5	10	9	1	17	2	
			100.0	4.3	10.9	8.7	10.9	10.9	23.9	10.9	21.7	19.6	2.2	37.0	4.3	

問7-3 働いていない理由

【現在就業していない(問7で「6」~「9」のいずれかに「○」をした)方にお聞きします。】

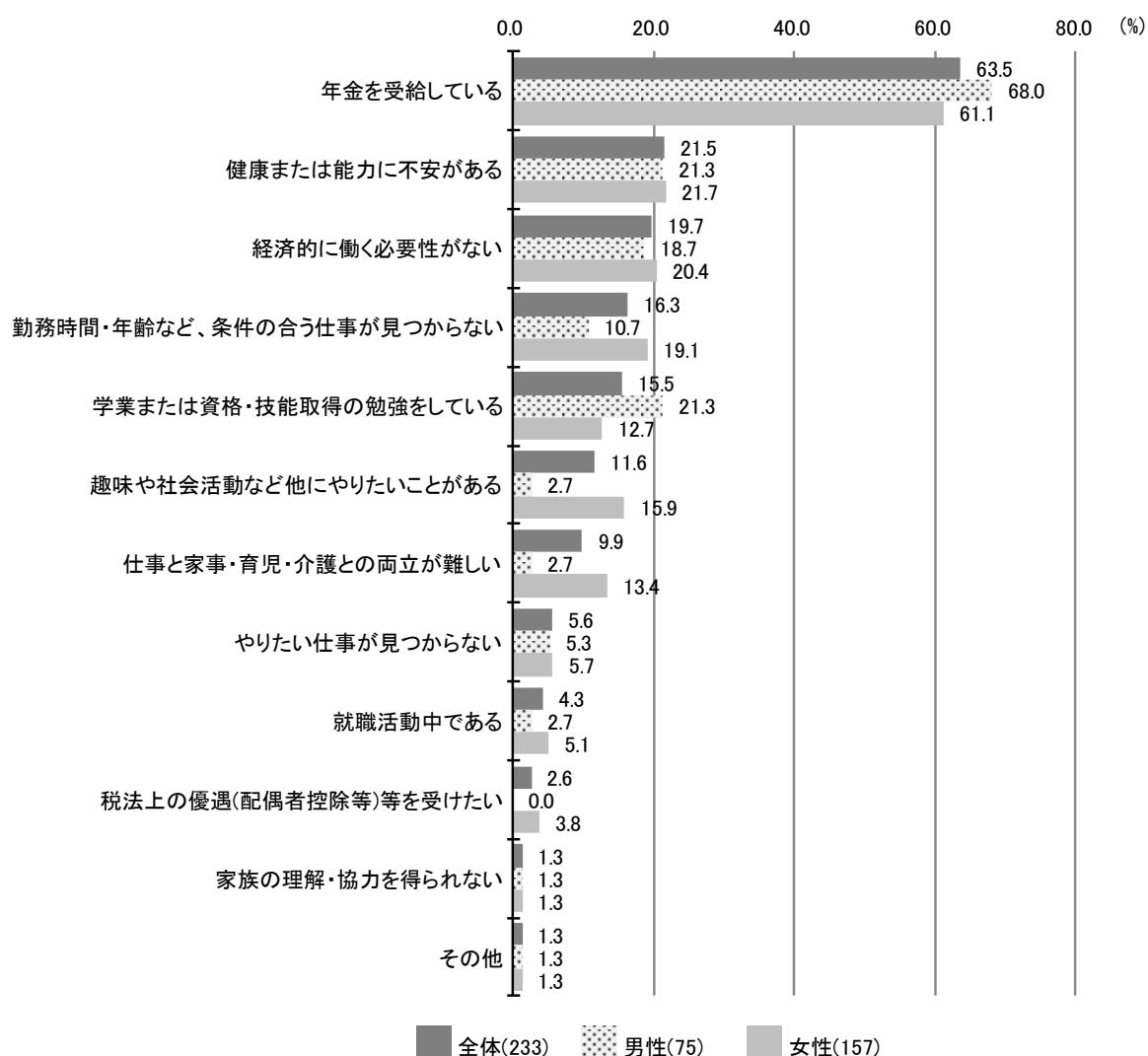
あなたが働いていない理由は、どのようなことですか。【○はいくつでも】

○ 全体・性別の傾向

「年金を受給している」が、63.5%を占め最もも多い。次いで、「健康または能力に不安がある」(21.5%)、「経済的に働く必要性がない」(19.7%)が2割となっている。

性別で見ると、「趣味や社会活動など他にやりたいことがある」と「仕事と家事・育児・介護との両立が難しい」を挙げた人は女性では1割以上となっているが、男性ではそれぞれ 2.7%にとどまっている。

図V-5 働いていない理由 (性別)



○ 年齢別の傾向

30～50代では、「仕事と家事・育児・介護との両立が難しい」が5割を占め、最も多い、次いで、「勤務時間・年齢など、条件の合う仕事が見つからない」が4割、「健康または能力に不安がある」が3割、「経済的に働く必要性がない」が2割で続いている。

60代では、6割が「年金を受給している」であり、また、3人に1人が「健康または能力に不安がある」となっている。

70歳以上では「年金を受給している」が、10・20代では「学業または資格・技能取得の勉強をしている」が9割以上を占める。

表V-5 働いていない理由（年齢別）

		年金を受給している	が健康まるまたは能力に不安	な経済的に働く必要性が	か条件務なの時間い合う・仕事歳がな見どつ、	勤務のま強は資格て・い技能	取得業は資格て・い技能	に趣味を資格て・い技能	や味とがなど他	護事とがなど他	仕事立とがなど他	らなりたい仕事が見つか	やりたい仕事が見つか	就職活動中である	控除法等の優遇を受ける	税法上の優遇を受け配た偶い者	家族の理解・協力を得	その他
全 体		233	148	50	46	38	36	27	23	13	10	6	3	3				
全 体	100.0	233	148	50	46	38	36	27	23	13	10	6	3	3				
10・20代	100.0	31	—	2	—	2	30	1	1	1	4	1	—	—				
30～50代	100.0	32	2	10	7	13	2	4	16	3	3	2	2	2				
60代	100.0	40	24	13	9	7	2	8	4	4	2	3	—	—				
70歳以上	100.0	125	118	24	30	15	1	14	2	4	—	—	1	—				

問8 性別にかかわらず働きやすい職場環境を作るために重要なこと

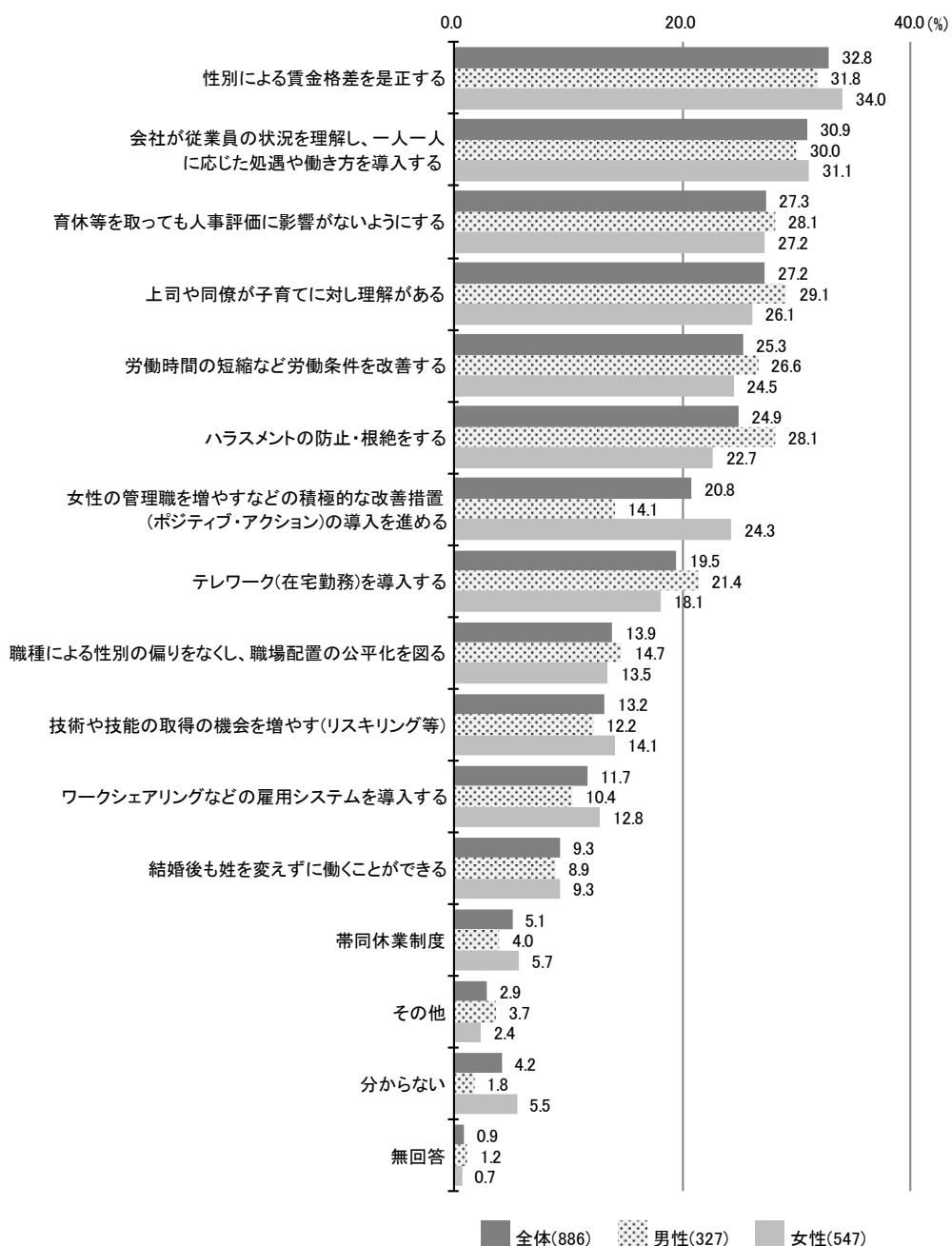
あなたは、性別にかかわらず働きやすい職場環境を作るために、どのようなことが重要だと思いますか。【3つまで○】

○ 全体・性別の傾向

「性別による賃金格差を是正する」が32.8%で最も多く、次いで、「会社が従業員の状況を理解し、一人一人に応じた待遇や働き方を導入する」(30.9%)、「育休等を取っても人事評価に影響がないようにする」(27.3%)、「上司や同僚が子育てに対し理解がある」(27.2%)となっている。

性別で見ると、「女性の管理職を増やすなどの積極的な改善措置(ポジティブ・アクション)の導入を進める」は女性では24.3%であり、男性(14.1%)を大きく上回っている。

図V-6 性別にかかわらず働きやすい職場環境を作るために重要なこと（性別）



○ 性・年齢別の傾向

「育休等を取っても人事評価に影響がないようにする」は、10・20代で男性 44.7%、女性 56.6%となっており他の世代が3割未満であるのに比して非常に高くなっている。

「上司や同僚が子育てに対し理解がある」は男女共に 50 歳未満で3割以上と高くなっている。特に男性の 10・20 代では 44.7% となっている。

「労働時間の短縮など労働条件を改善する」は、男女共に 30~40 代で3割以上と高い。

「女性の管理職を増やすなどの積極的な改善措置(ポジティブ・アクション)の導入を進める」は、女性の 10・20 代で 39.6% となっており、他の世代を 10 ポイント以上上回っている。

表V-6 性別にかかわらず働きやすい職場環境を作るために重要なこと（性・年齢別）

		性別による賃金格差を是正する	を導入する人従事するに業応じた状況遇をや理働解し、	会社が休等を取つても人事評価に影	育休等を取つても人事評価に影	ある上司や同僚が子育てに対し理	改善する時間の短縮など労働条件をす	る労働時間の短縮など労働条件をす	ハラスメントの防止・根絶をす	ア女性のヨ改管理職を増や	するテレワーク～在宅勤務～を導入	し職種による性別別の公勤務～を図る	す技術スキルの取得の偏り化等の機会をなく	シワークシームを導入する	が結婚後も姓を変えずに働くこと	帶同休業制度	その他	分からぬ	無回答	
		全 体		886	291	274	242	241	224	221	184	173	123	117	104	82	45	26	37	8
				100.0	32.8	30.9	27.3	27.2	25.3	24.9	20.8	19.5	13.9	13.2	11.7	9.3	5.1	2.9	4.2	0.9
男性	合 計	327	104	98	92	95	87	92	46	70	48	40	34	29	13	12	6	4		
		100.0	31.8	30.0	28.1	29.1	26.6	28.1	14.1	21.4	14.7	12.2	10.4	8.9	4.0	3.7	1.8	1.2		
	10・20代	38	10	6	17	17	11	12	5	12	3	4	2	3	3	—	—	—	—	
		100.0	26.3	15.8	44.7	44.7	28.9	31.6	13.2	31.6	7.9	10.5	5.3	7.9	7.9	—	—	—	—	
	30代	44	4	14	12	14	15	10	1	16	7	6	4	3	3	4	2	—	—	
		100.0	9.1	31.8	27.3	31.8	34.1	22.7	2.3	36.4	15.9	13.6	9.1	6.8	6.8	9.1	4.5	—	—	
	40代	63	11	25	18	24	20	20	8	12	7	8	5	3	3	4	—	—	—	
		100.0	17.5	39.7	28.6	38.1	31.7	31.7	12.7	19.0	11.1	12.7	7.9	4.8	4.8	6.3	—	—	—	
	50代	67	29	19	13	15	16	24	9	11	11	13	9	7	3	3	2	—	—	
		100.0	43.3	28.4	19.4	22.4	23.9	35.8	13.4	16.4	16.4	19.4	13.4	10.4	4.5	4.5	3.0	—	—	
女性	60代	41	10	15	10	11	11	12	10	10	6	4	7	2	—	—	1	—	—	
		100.0	24.4	36.6	24.4	26.8	26.8	29.3	24.4	24.4	14.6	9.8	17.1	4.9	—	—	2.4	—	—	
	70歳以上	72	40	19	21	14	14	14	13	8	13	5	7	11	1	1	1	4	—	
		100.0	55.6	26.4	29.2	19.4	19.4	19.4	18.1	11.1	18.1	6.9	9.7	15.3	1.4	1.4	1.4	5.6	—	
	合 計	547	186	170	149	143	134	124	133	99	74	77	70	51	31	13	30	4		
		100.0	34.0	31.1	27.2	26.1	24.5	22.7	24.3	18.1	13.5	14.1	12.8	9.3	5.7	2.4	5.5	0.7		
	10・20代	53	13	12	30	19	12	14	21	13	5	6	10	5	2	1	—	—	—	
女性		100.0	24.5	22.6	56.6	35.8	22.6	26.4	39.6	24.5	9.4	11.3	18.9	9.4	3.8	1.9	—	—	—	
	30代	79	17	25	21	26	28	19	19	22	10	12	10	10	4	4	3	—	—	
		100.0	21.5	31.6	26.6	32.9	35.4	24.1	24.1	27.8	12.7	15.2	12.7	12.7	5.1	5.1	3.8	—	—	
	40代	102	28	38	27	36	35	13	23	25	12	14	14	9	8	3	4	—	—	
		100.0	27.5	37.3	26.5	35.3	34.3	12.7	22.5	24.5	11.8	13.7	13.7	8.8	7.8	2.9	3.9	—	—	
	50代	109	34	39	22	26	23	29	30	17	13	11	14	10	7	1	6	—	—	
		100.0	31.2	35.8	20.2	23.9	21.1	26.6	27.5	15.6	11.9	10.1	12.8	9.2	6.4	0.9	5.5	—	—	
	60代	91	37	30	27	20	17	23	19	8	13	17	13	5	5	1	5	—	—	
		100.0	40.7	33.0	29.7	22.0	18.7	25.3	20.9	8.8	14.3	18.7	14.3	5.5	5.5	1.1	5.5	—	—	
	70歳以上	110	55	25	22	15	17	24	21	14	19	17	9	12	5	3	12	4		
		100.0	50.0	22.7	20.0	13.6	15.5	21.8	19.1	12.7	17.3	15.5	8.2	10.9	4.5	2.7	10.9	3.6		

○ 性・ライフステージ区別の傾向

「育休等をとっても人事評価に影響がないようにする」は、男性では家族形成期で、女性では独身期(18~39歳)と家族成熟期で4割程度と高くなっている。

「上司や同僚が子育てに対し理解がある」は、男性の家族形成期と女性の家族成長前期で過半数となっており非常に高くなっている。

「労働時間の短縮など労働条件を改善する」は、男女共に家族形成期で4割と高くなっている。

「女性の管理職を増やすなどの積極的な改善措置(ポジティブ・アクション)の導入を進める」は、女性の独身期(18~39歳)で4割(40.3%)と高くなっている。

表V-7 性別にかかわらず働きやすい職場環境を作るために重要なこと

(性・ライフステージ区別)

		性別による賃金格差を是正する	全体	を一社に入りが世人に応じた状況遇をや理解し方	響が育休等を取った人の事評価に影	が上司や同僚が子育てに対し理解	が改善する労働時間の短縮など労働条件を	る労働時間の短縮など労働条件を	アハクシの改善措置の導入を	アハクシの改善措置の導入を	するテレワークの導入を	し職種による性別の偏りを	す技術スキルの取得の機会を	ワークシームを導入する	システムを導入する	が結婚後も性を変えずに働くこと	帯同業制度	その他	分からぬ	無回答
		全 体	886	291	274	242	241	224	221	184	173	123	117	104	82	45	26	37	8	
			100.0	32.8	30.9	27.3	27.2	25.3	24.9	20.8	19.5	13.9	13.2	11.7	9.3	5.1	2.9	4.2	0.9	
		合 計	327	104	98	92	95	87	92	46	70	48	40	34	29	13	12	6	4	
			100.0	31.8	30.0	28.1	29.1	26.6	28.1	14.1	21.4	14.7	12.2	10.4	8.9	4.0	3.7	1.8	1.2	
男 性	独身期(18~39歳)		47	7	12	16	13	12	16	3	15	5	8	6	4	4	1	2	—	
			1000	14.9	25.5	34.0	27.7	25.5	34.0	6.4	31.9	10.6	17.0	12.8	8.5	8.5	2.1	4.3	—	
	家族形成期		48	9	13	20	26	18	7	4	16	6	2	1	3	2	3	—	—	
			1000	18.8	27.1	41.7	54.2	37.5	14.6	8.3	33.3	12.5	4.2	2.1	6.3	4.2	6.3	—	—	
	家族成長前期		21	4	9	7	7	5	7	4	3	2	4	2	1	1	2	—	—	
			100.0	19.0	42.9	33.3	33.3	23.8	33.3	19.0	14.3	9.5	19.0	9.5	4.8	4.8	9.5	—	—	
	家族成長後期		13	2	4	3	4	5	4	3	4	1	3	2	—	—	1	—	—	
			100.0	15.4	30.8	23.1	30.8	38.5	30.8	23.1	30.8	7.7	23.1	15.4	—	—	7.7	—	—	
	家族成熟期		8	1	—	3	4	—	3	1	2	—	2	—	2	1	—	—	—	
			100.0	12.5	—	37.5	50.0	—	37.5	12.5	25.0	—	25.0	—	25.0	12.5	—	—	—	
女 性	高齢期		90	44	25	25	18	20	19	15	11	16	9	11	12	1	1	2	4	
			100.0	48.9	27.8	27.8	20.0	22.2	21.1	16.7	12.2	17.8	10.0	12.2	13.3	1.1	1.1	2.2	4.4	
	独身期(40~64歳)		54	17	18	4	11	15	22	7	11	9	7	6	4	2	3	2	—	
			100.0	31.5	33.3	7.4	20.4	27.8	40.7	13.0	20.4	16.7	13.0	11.1	7.4	3.7	5.6	3.7	—	
	その他		44	20	17	13	12	12	14	9	7	8	5	6	3	2	1	—	—	
			100.0	45.5	38.6	29.5	27.3	27.3	31.8	20.5	15.9	18.2	11.4	13.6	6.8	4.5	2.3	—	—	
	合 計		547	186	170	149	143	134	124	133	99	74	77	70	51	31	13	30	4	
			100.0	34.0	31.1	27.2	26.1	24.5	22.7	24.3	18.1	13.5	14.1	12.8	9.3	5.7	2.4	5.5	0.7	
	独身期(18~39歳)		67	16	19	29	22	19	18	27	11	8	9	10	6	1	1	2	—	
			100.0	23.9	28.4	43.3	32.8	28.4	26.9	40.3	16.4	11.9	13.4	14.9	9.0	1.5	1.5	3.0	—	
女 性	家族形成期		77	16	22	27	31	31	17	16	28	8	7	12	9	6	5	—	—	
			100.0	20.8	28.6	35.1	40.3	40.3	22.1	20.8	36.4	10.4	9.1	15.6	11.7	7.8	6.5	—	—	
	家族成長前期		28	9	9	6	16	7	3	3	6	1	4	4	2	1	—	2	—	
			100.0	32.1	32.1	21.4	57.1	25.0	10.7	10.7	21.4	3.6	14.3	14.3	7.1	3.6	—	7.1	—	
	家族成長後期		34	7	7	10	13	9	6	8	3	6	5	6	—	5	—	3	—	
			100.0	20.6	20.6	29.4	38.2	26.5	17.6	23.5	8.8	17.6	14.7	17.6	—	14.7	—	8.8	—	
	家族成熟期		21	6	5	9	8	4	8	7	2	2	3	4	2	2	—	—	—	
			100.0	28.6	23.8	42.9	38.1	19.0	38.1	33.3	9.5	9.5	14.3	19.0	9.5	9.5	—	—	—	
	高齢期		148	71	37	37	23	25	31	30	17	23	25	14	13	8	4	14	4	
			100.0	48.0	25.0	25.0	15.5	16.9	20.9	20.3	11.5	15.5	16.9	9.5	8.8	5.4	2.7	9.5	2.7	
独身期(40~64歳)	独身期(40~64歳)		116	44	49	19	20	26	22	30	23	16	18	16	13	5	3	7	—	
			100.0	37.9	42.2	16.4	17.2	22.4	19.0	25.9	19.8	13.8	15.5	13.8	11.2	4.3	2.6	6.0	—	
その他		53	15	21	12	9	11	17	12	9	8	6	4	6	3	—	2	—	—	
		100.0	28.3	39.6	22.6	17.0	20.8	32.1	22.6	17.0	15.1	11.3	7.5	11.3	5.7	—	3.8	—	—	

VI. 女性の活躍について

問9 女性が働き続けることに対する意識

あなたは、女性が仕事を持って働き続けることについて、どのように感じていますか。
【3つまで○】

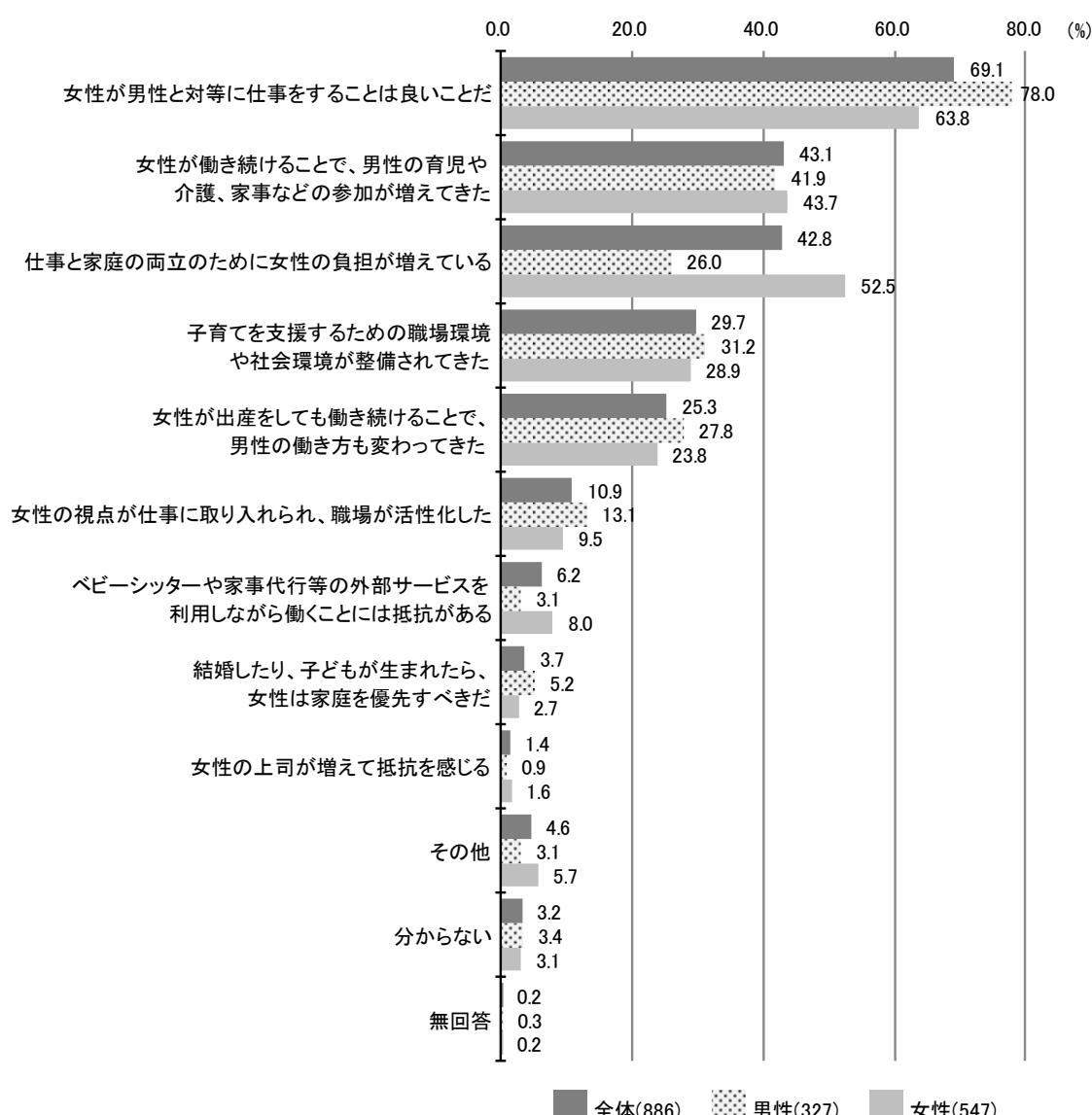
○ 全体・性別の傾向

「女性が男性と対等に仕事をすることは良いことだ」が 69.1%で最も多く、次いで、「女性が働き続けることで、男性の育児や介護、家事などの参加が増えてきた」(43.1%)、「仕事と家庭の両立のために女性の負担が増えている」(42.8%)となっている。

性別で見ると、「女性が男性と対等に仕事をすることは良いことだ」は男性で 78.0%であり、女性(63.8%)を上回っている。

「仕事と家庭の両立のために女性の負担が増えている」は女性では半数(52.5%)を占めており、男性(26.0%)を大きく上回る。

図VI-1 女性が働き続けることに対する意識（性別）



○ 性・年齢別の傾向

「女性が男性と対等に仕事をすることは良いことだ」は、男性の10・20代では65.8%であり、男性の他の世代が8割前後であるのに比べて低くなっている。一方、女性の10・20代では75.5%となっており、女性の30～60代が6割前後、70歳以上が69.1%であるのに比べ高くなっている。10・20代では他の世代とは異なり、「女性が男性と対等に仕事をすることは良いことだ」と感じている人の割合が女性の方が高くなっていることが分かる。

「仕事と家庭の両立のために女性の負担が増えている」は、女性の60歳未満では過半数となっており、特に30代では7割(70.9%)を占めている。

「女性が出産をしても働き続けることで、男性の働き方も変わってきた」は、男性の 10・20 代で 36.8%と高くなっている。

表VI-1 女性が働き続けることに対する意識（性・年齢別）

○ 性・ライフステージ区別の傾向

「仕事と家庭の両立のために女性の負担が増えている」は、女性の家族形成期と家族成長前期では7割を占め、また、家族成熟期でも3分の2と高くなっている。

「女性が出産をしても働き続けることで、男性の働き方も変わってきた」は、男性の家族形成期や家族成長前期では4割以上と高くなっている。一方、女性の同時期では男性の半分以下の割合となっており、男女で認識の乖離が見られる。

表VI-2 女性が働き続けることに対する意識（性・ライフステージ区別）

		る女 こ性 とが は男 良性 いと こ対 と等 だに 仕 事 を す	参性女 が育が えやき て介続 き護け た、る 家こ 事と なで、 ど、 の男	性仕 の事 負と 担家 庭増 え、 きて の両 て立 いの ため に女	き環 子境 育や て社 を会 支援 環境 する 整た 備の され 職れ て場	わる女 っこ性 てとが きで出 きた、 産男 をし 性を して 整た 備の され 職れ て場	ら女性 の職 場が 性を して 整た 備の され 職れ て場	らの外 部サ イシ ターサ ー、 ビス を活 用事 が有 りな が等	ベビ ーシ ターサ ー、 ビス を活 用事 が有 りな が等	きだ ら、 女性 は、 家庭 をも が優 先行 すま べれ	じる 女性 は、 家庭 をも が優 先行 すま べれ	その 他	分 か ら な い	無 回答
	全 体	886 100.0	612 69.1	382 43.1	379 42.8	263 29.7	224 25.3	97 10.9	55 6.2	33 3.7	12 1.4	41 4.6	28 3.2	2 0.2
	合 計	327 100.0	255 78.0	137 41.9	85 26.0	102 31.2	91 27.8	43 13.1	10 3.1	17 5.2	3 0.9	10 3.1	11 3.4	1 0.3
男 性	独身期(18~39歳)	47 100.0	32 68.1	15 31.9	11 23.4	12 25.5	12 25.5	4 8.5	— —	3 6.4	— —	1 2.1	3 6.4	— —
	家族形成期	48 100.0	38 79.2	20 41.7	11 22.9	14 29.2	22 45.8	6 12.5	1 2.1	2 4.2	1 2.1	3 6.3	1 2.1	— —
	家族成長前期	21 100.0	15 71.4	9 42.9	7 33.3	7 33.3	9 42.9	3 14.3	1 4.8	1 4.8	1 —	— —	— —	— —
	家族成長後期	13 100.0	10 76.9	7 53.8	6 46.2	9 69.2	3 23.1	— —	— —	— —	— —	1 7.7	— —	— —
	家族成熟期	8 100.0	7 87.5	1 12.5	3 37.5	4 50.0	4 50.0	1 12.5	— —	1 12.5	— —	— —	— —	— —
	高齢期	90 100.0	75 83.3	43 47.8	27 30.0	29 32.2	14 15.6	16 17.8	5 5.6	5 5.6	1 5.6	1 1.1	2 2.2	2 2.2
	独身期(40~64歳)	54 100.0	41 75.9	19 35.2	8 14.8	16 29.6	15 27.8	5 9.3	1 1.9	1 5.6	— —	2 3.7	4 7.4	1 1.9
	その他	44 100.0	35 79.5	22 50.0	12 27.3	11 25.0	11 25.0	8 18.2	2 4.5	2 4.5	1 2.3	1 2.3	1 2.3	— —
女 性	合 計	547 1000.0	349 63.8	239 43.7	287 52.5	158 28.9	130 23.8	52 9.5	44 8.0	15 2.7	9 1.6	31 5.7	17 3.1	1 0.2
	独身期(18~39歳)	67 100.0	49 73.1	23 34.3	40 59.7	16 23.9	19 28.4	10 14.9	2 3.0	— —	— —	4 6.0	1 1.5	— —
	家族形成期	77 100.0	43 55.8	34 44.2	56 72.7	19 24.7	17 22.1	6 7.8	16 20.8	2 2.6	2 2.6	8 10.4	— —	— —
	家族成長前期	28 100.0	16 57.1	9 32.1	20 71.4	11 39.3	4 14.3	2 7.1	6 21.4	— —	— —	4 14.3	— —	— —
	家族成長後期	34 100.0	19 55.9	18 52.9	18 52.9	8 23.5	9 26.5	3 8.8	2 5.9	1 2.9	1 2.9	2 5.9	3 8.8	— —
	家族成熟期	21 100.0	14 66.7	9 42.9	14 66.7	8 38.1	4 19.0	— —	3 14.3	1 4.8	— —	— —	— —	— —
	高齢期	148 100.0	98 66.2	74 50.0	60 40.5	47 31.8	33 22.3	18 12.2	8 5.4	5 3.4	2 1.4	3 2.0	6 4.1	1 0.7
	独身期(40~64歳)	116 100.0	77 66.4	45 38.8	54 46.6	33 28.4	29 25.0	10 8.6	2 1.7	2 1.7	4 3.4	7 6.0	6 5.2	— —
	その他	53 100.0	31 58.5	25 47.2	25 47.2	15 28.3	15 28.3	3 5.7	4 7.5	3 5.7	— —	3 5.7	1 1.9	— —

問10 女性の管理職登用など参画を促すために必要な支援

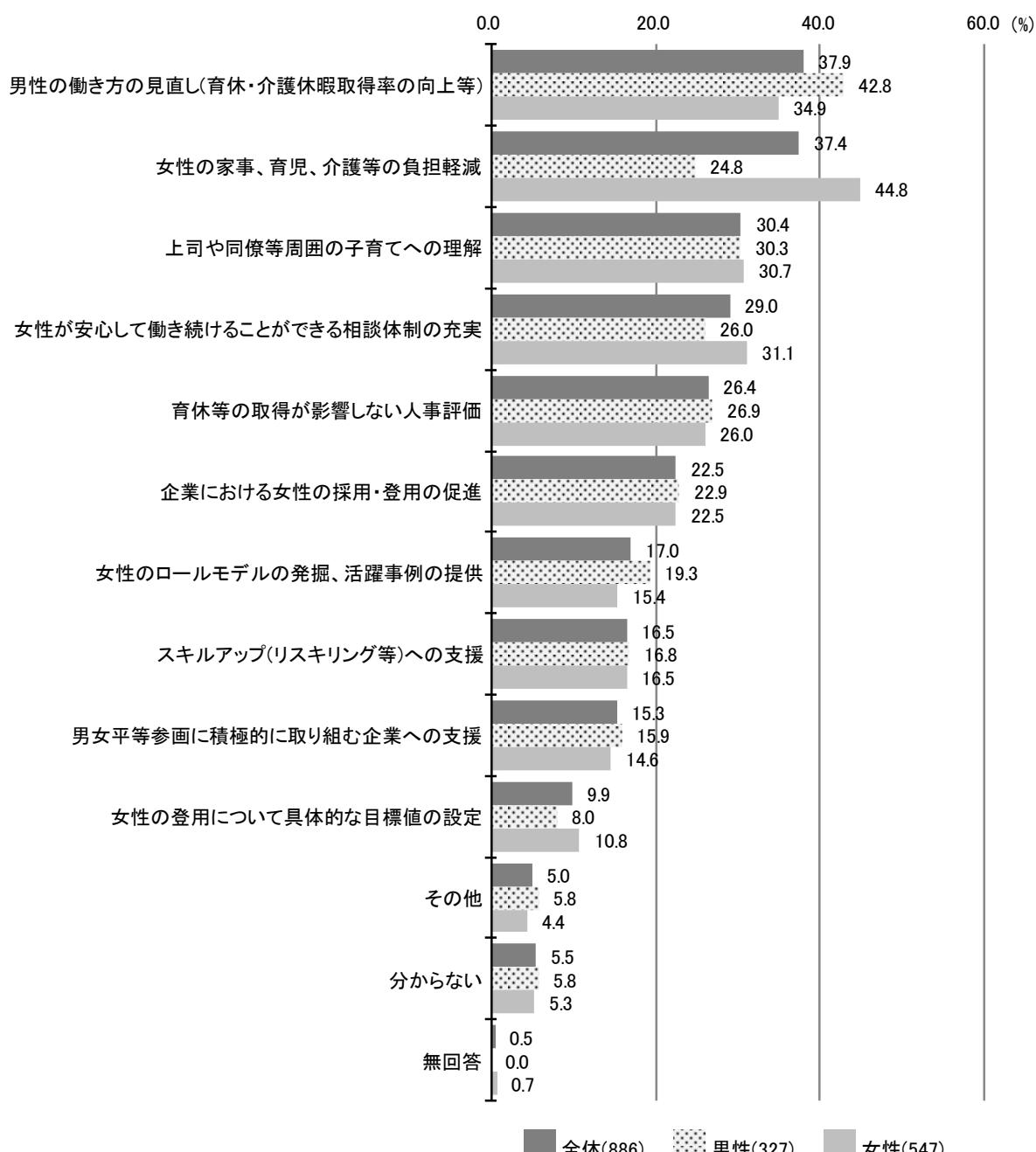
あなたは、雇用分野における女性の管理職の登用など、女性の参画を促すには、どのような支援が必要だと思いますか。【3つまで○】

○ 全体・性別の傾向

「男性の働き方の見直し(育休・介護休暇取得率の向上等)」(37.9%)、「女性の家事、育児、介護等の負担軽減」(37.4%)が多くなっている。そのほか、「上司や同僚等周囲の子育てへの理解」(30.4%)、「女性が安心して働き続けることができる相談体制の充実」(29.0%)が3割となっている。

性別で見ると、女性では、「女性の家事、育児、介護等の負担軽減」が 44.8%で最も多く、男性(24.8%)を大きく上回っている。

図VI-2 女性の管理職登用など参画を促すために必要な支援 (性別)



○ 性・年齢別の傾向

「男性の働き方の見直し(育休・介護休暇取得率の向上等)」は、男性の10~40代と60代で過半数と高くなっている。

「女性の家事、育児、介護等の負担軽減」は、男性では40代で3人に1人が、女性の50歳未満では半数が必要と考えている。

「上司や同僚等周囲の子育てへの理解」は男女共に30~40代で高くなっている。

「育休等の取得が影響しない人事評価」は女性の10・20代では半数を占め他の世代を大きく上回っている。

表VI-3 女性の管理職登用など参画を促すために必要な支援（性・年齢別）

		取し男 得へ性 率育の の休働 向・き 上介方 等護の ～休見 暇直	介女 護性の 等の家 負事 担、理 解周 囲の	子上 育司 てや へ同僚 のと心 充がし 実でて きで働 きる	相続女 談け性 体るが 制こ安 のと心 充がし 実でて きで働 きる	し育 な休 い等 人の取 得評 価が 促進 性の	採用 ・に 登お 用け のる 促女 事モ 例デ のル	企業 提供 発性 掘の 、口 活一 躍ル 事モ 例デ のル	の女 供発 掘の 、口 活一 躍ル 事モ 例デ のル	援キ リキ ンル ング ア等 活一 躍ル 事モ 例デ のル	スリ キ支 援取 等ツ ～ブ ～ヘ ～ヘ のリ 支ス	の的 支に 援取 等ツ ～ブ ～ヘ ～ヘ のリ 支ス	男 定 具 女 性の に女 支に 援取 等ツ ～ブ ～ヘ ～ヘ のリ 支ス	定 具 女 性の に女 支に 援取 等ツ ～ブ ～ヘ ～ヘ のリ 支ス	そ の 他	分 か ら な い	無 回 答
	全 体	886 100.0	336 37.9	331 37.4	269 30.4	257 29.0	234 26.4	199 22.5	151 17.0	146 16.5	136 15.3	88 9.9	44 5.0	49 5.5	4 0.5		
	合 計	327 100.0	140 42.8	81 24.8	99 30.3	85 26.0	88 26.9	75 22.9	63 19.3	55 16.8	52 15.9	26 8.0	19 5.8	19 5.8	— —		
男性	10・20代	38 100.0	19 50.0	8 21.1	12 31.6	10 26.3	13 34.2	7 18.4	8 21.1	6 15.8	4 10.5	4 10.5	2 5.3	2 5.3	— —		
	30代	44 100.0	22 50.0	9 20.5	17 38.6	8 18.2	9 20.5	4 9.1	10 22.7	9 20.5	3 6.8	2 4.5	8 18.2	2 4.5	— —		
	40代	63 100.0	32 50.8	21 33.3	26 41.3	15 23.8	17 27.0	8 12.7	13 20.6	13 20.6	3 4.8	5 7.9	4 6.3	2 3.2	— —		
	50代	67 100.0	22 32.8	11 16.4	17 25.4	17 25.4	18 26.9	22 32.8	18 26.9	13 19.4	9 13.4	4 6.0	4 6.0	7 10.4	— —		
	60代	41 100.0	23 56.1	10 24.4	12 29.3	9 22.0	6 14.6	9 22.0	9 22.0	5 12.2	13 31.7	3 7.3	— —	2 4.9	— —		
	70歳以上	72 100.0	21 29.2	21 29.2	15 20.8	25 34.7	25 34.7	24 33.3	5 6.9	9 12.5	20 27.8	8 11.1	1 1.4	4 5.6	— —		
	合 計	547 100.0	191 34.9	245 44.8	168 30.7	170 31.1	142 26.0	123 22.5	84 15.4	90 16.5	80 14.6	59 10.8	24 4.4	29 5.3	4 0.7		
女性	10・20代	53 100.0	20 37.7	27 50.9	16 30.2	13 24.5	27 50.9	11 20.8	13 24.5	3 5.7	10 18.9	12 22.6	1 1.9	— —	— —		
	30代	79 100.0	27 34.2	39 49.4	28 35.4	18 22.8	19 24.1	14 17.7	16 20.3	14 17.7	9 11.4	4 5.1	9 11.4	4 5.1	— —		
	40代	102 100.0	45 44.1	50 49.0	35 34.3	26 25.5	22 21.6	20 19.6	20 19.6	18 17.6	12 11.8	7 9.8	7 6.9	4 3.9	— —		
	50代	109 100.0	38 34.9	44 40.4	31 28.4	34 31.2	19 17.4	25 22.9	17 15.6	19 17.4	14 12.8	13 11.9	4 3.7	8 7.3	— —		
	60代	91 100.0	35 38.5	39 42.9	29 31.9	35 38.5	30 33.0	25 23.1	21 9.9	19 20.9	12 13.2	10 11.0	2 2.2	3 3.3	— —		
	70歳以上	110 100.0	26 23.6	46 41.8	28 25.5	42 38.2	25 22.7	32 29.1	8 7.3	16 14.5	22 20.0	10 9.1	1 0.9	9 8.2	4 3.6		

○ 性・ライスステージ区別の傾向

「男性の働き方の見直し(育休・介護休暇取得率の向上等)」は、男女共に家族形成期で最も高く、特に男性では過半数の56.3%となっている。

「上司や同僚等周囲の子育てへの理解」は、男性では家族形成期で47.9%と高く、他の時期を大きく上回っている。女性では、家族形成期～家族成熟期で4割程度と高くなっている。

「育休等の取得が影響しない人事評価」は、男性の家族成長前期と女性の独身期(18~39歳)で、4割と高くなっている。

表VI-4 女性の管理職登用など参画を促すために必要な支援(性・ライステージ区別)

VII. 家庭生活と社会生活の両立について

問11 「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」の充実度

ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)についての考え方で、あなたの①希望と②現実(現状)に最も近いもの一つずつに「○」をしてください。

○ 全体・性別の傾向

希望としては、「仕事と家庭生活と個人の生活を充実」が44.5%で最も多い。

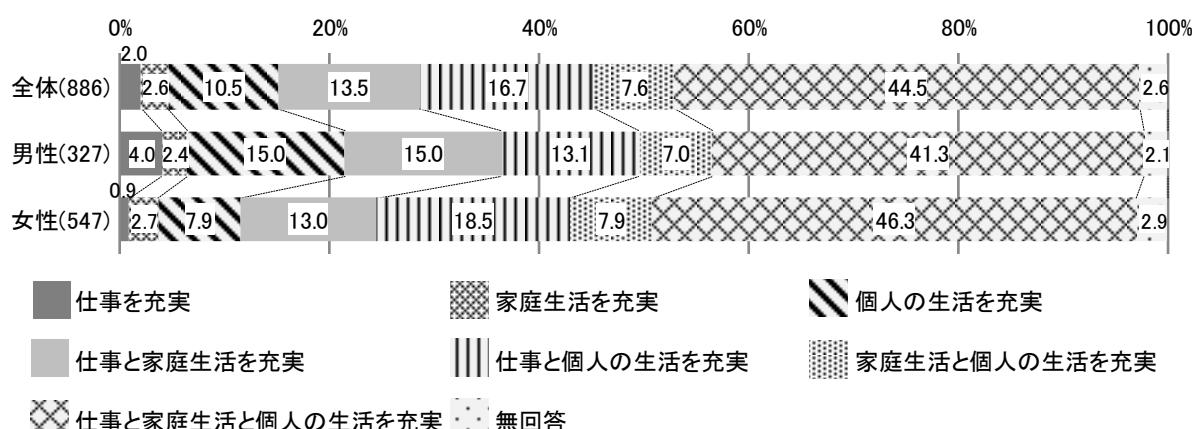
現実(現状)としては、「仕事を充実」が23.9%で最も多く、次いで、「仕事と家庭生活を充実」(19.0%)となっている。

現実(現状)を性別で見ると、「家庭生活を充実」は女性で14.3%であり、男性(4.6%)を9.7ポイント上回っている。

一方、男性では、「仕事を充実」(27.5%)や「個人の生活を充実」(16.2%)の割合が女性を上回っている。

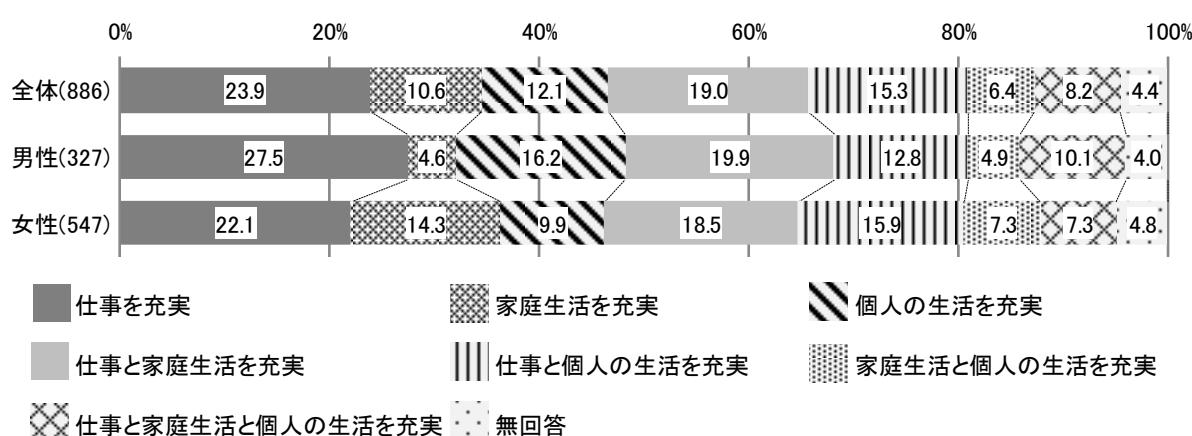
① 希望

図VII-1 希望する「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」の充実度(性別)



② 現実(現状)

図VII-2 現実(現状)の「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」の充実度(性別)



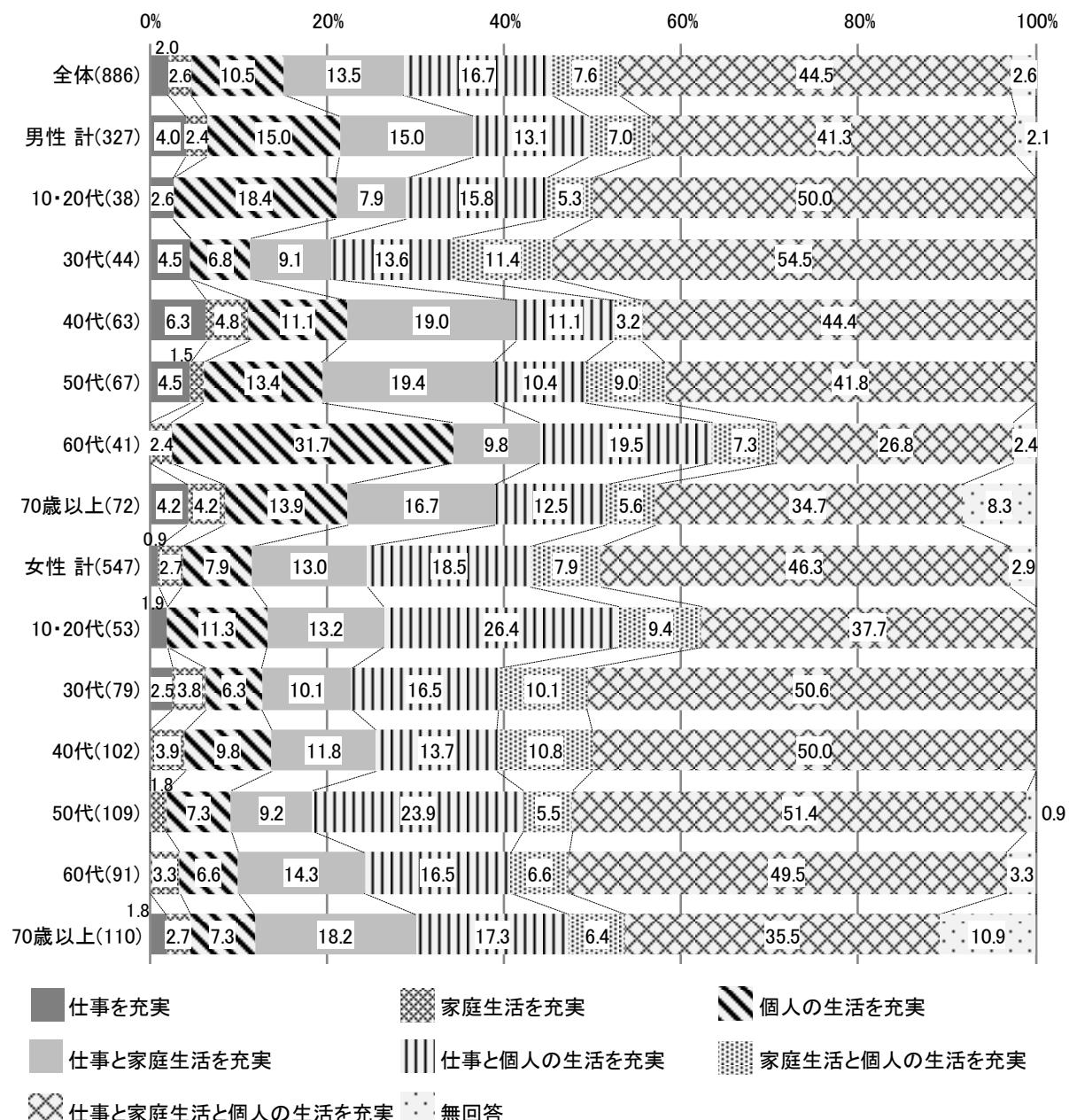
○ 性・年齢別の傾向

① 希望

男性の60代では「個人の生活を充実」が31.7%で最も多い。

女性の10・20代では、他の世代と比べて「仕事と家庭生活と個人の生活を充実」(37.7%)が低く、「個人の生活を充実」(26.4%)が高くなっている。

図VII-3 希望する「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」の優先度（性・年齢別）



② 現実（現状）

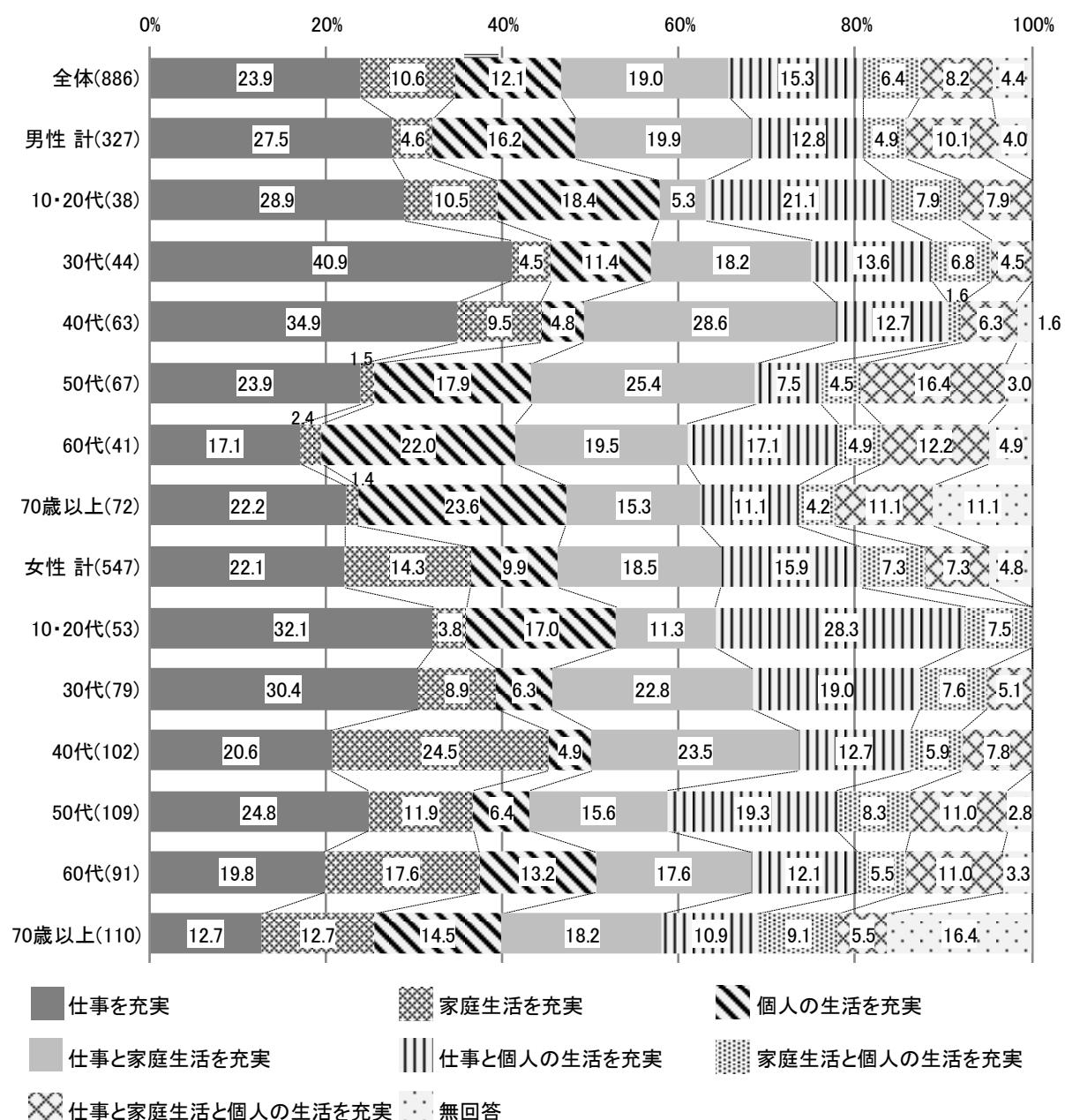
「仕事を充実」は、男性の30～40代、女性の10～30代で3割以上と高くなっている。

男性の40代では「個人の生活を充実」は4.8%にとどまり、「仕事と家庭生活を充実」が28.6%と高くなっている。また、50代でも「仕事と家庭生活を充実」が25.4%と高くなっている。

女性の40代では、「家庭生活を充実」が24.5%と高くなっている。

女性の30～50代では「個人の生活を充実」は1割未満にとどまっている。また、30～40代では「仕事と家庭生活を充実」が2割強と高くなっている。

図VII-4 現実(現状)の「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」の優先度(性・年齢別)



○ 性・ライフステージ区分別の傾向

① 希望

男性の場合、家族形成期と家族成長前期では「仕事と家庭生活と個人の生活を充実」が6～7割を占める。

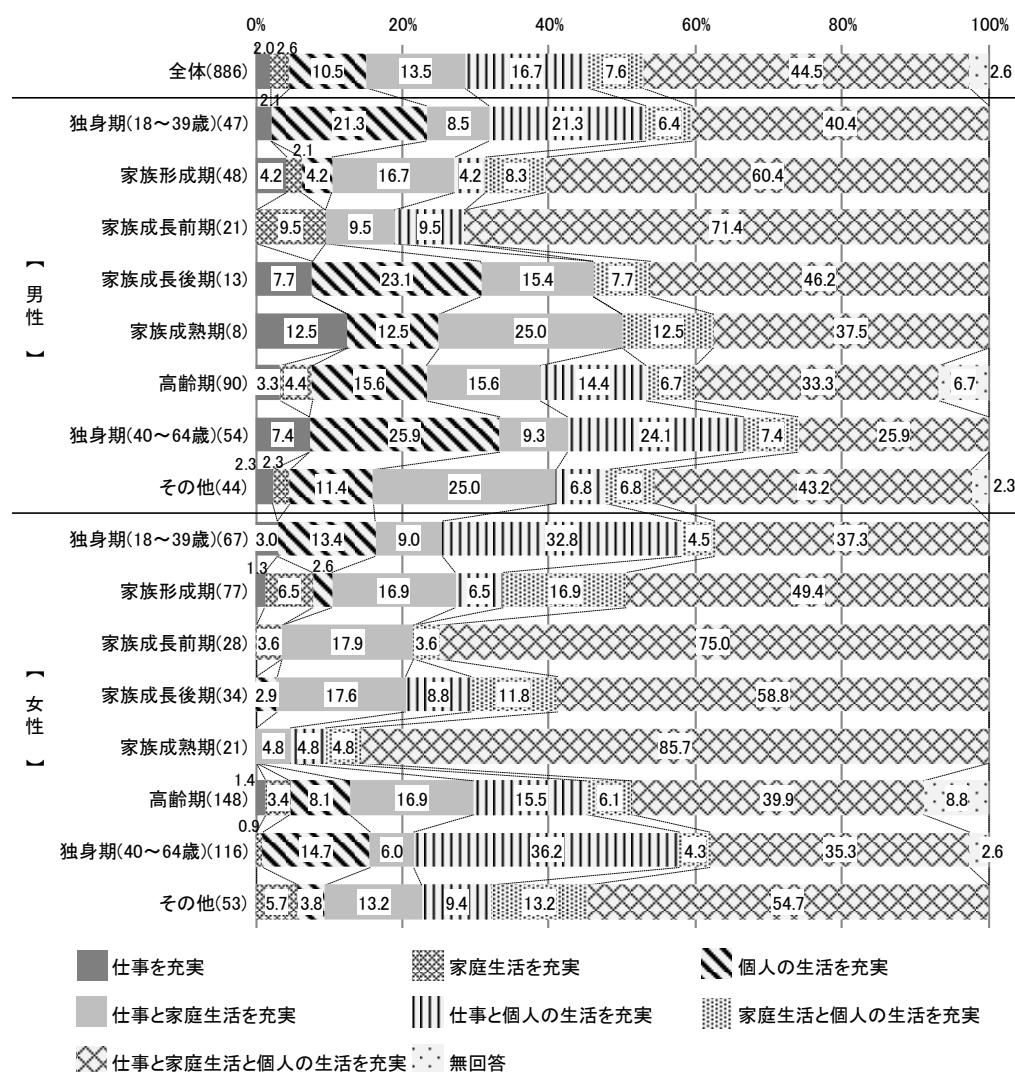
独身期(18~39歳)では、「仕事と家庭生活と個人の生活を充実」が4割、「個人の生活を充実」と「仕事と個人の生活を充実」がそれぞれ2割であり、独身期(40~64歳)では、「仕事と家庭生活と個人の生活を充実」、「個人の生活を充実」、「仕事と個人の生活を充実」がそれぞれ4分の1ずつとなっている。

女性の場合、「仕事と家庭生活と個人の生活を充実」が家族成熟期で 85.7%、家族成長前期で 75.0%を占め、また、家族成長後期でも過半数の 58.8%となっている。

また、家族形成期～家族成長後期と高齢期では、「仕事と家庭生活と個人の生活を充実」に次いで、「仕事と家庭生活を充実」が約17%となっている。

独身期(18~64歳)では、「仕事と家庭生活と個人の生活を充実」と「仕事と個人の生活を充実」がそれぞれ35%前後となっている。

図VII-5 希望する「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」の優先度
(性・ライフステージ区分別)



② 現実（現状）

男性の場合、家族形成期で「仕事を充実」が4割と多くなっており、次いで、「仕事と家庭生活を充実」(25.0%)となっている。

家族成長前期では、「仕事を充実」と「仕事と家庭生活を充実」がそれぞれ3割(28.6%)と多く、そのほか、「仕事と家庭生活と個人の生活を充実」が 23.8%となっている。

「個人の生活を充実」は独身期(18~64 歳)と高齢期で、また、「仕事と個人の生活を充実」は独身期(18~64 歳)で2割以上となっている。

女性の場合、独身期(18~64 歳)で「仕事を充実」が4割と多くなっており、次いで、「仕事と個人の生活を充実」が多い。

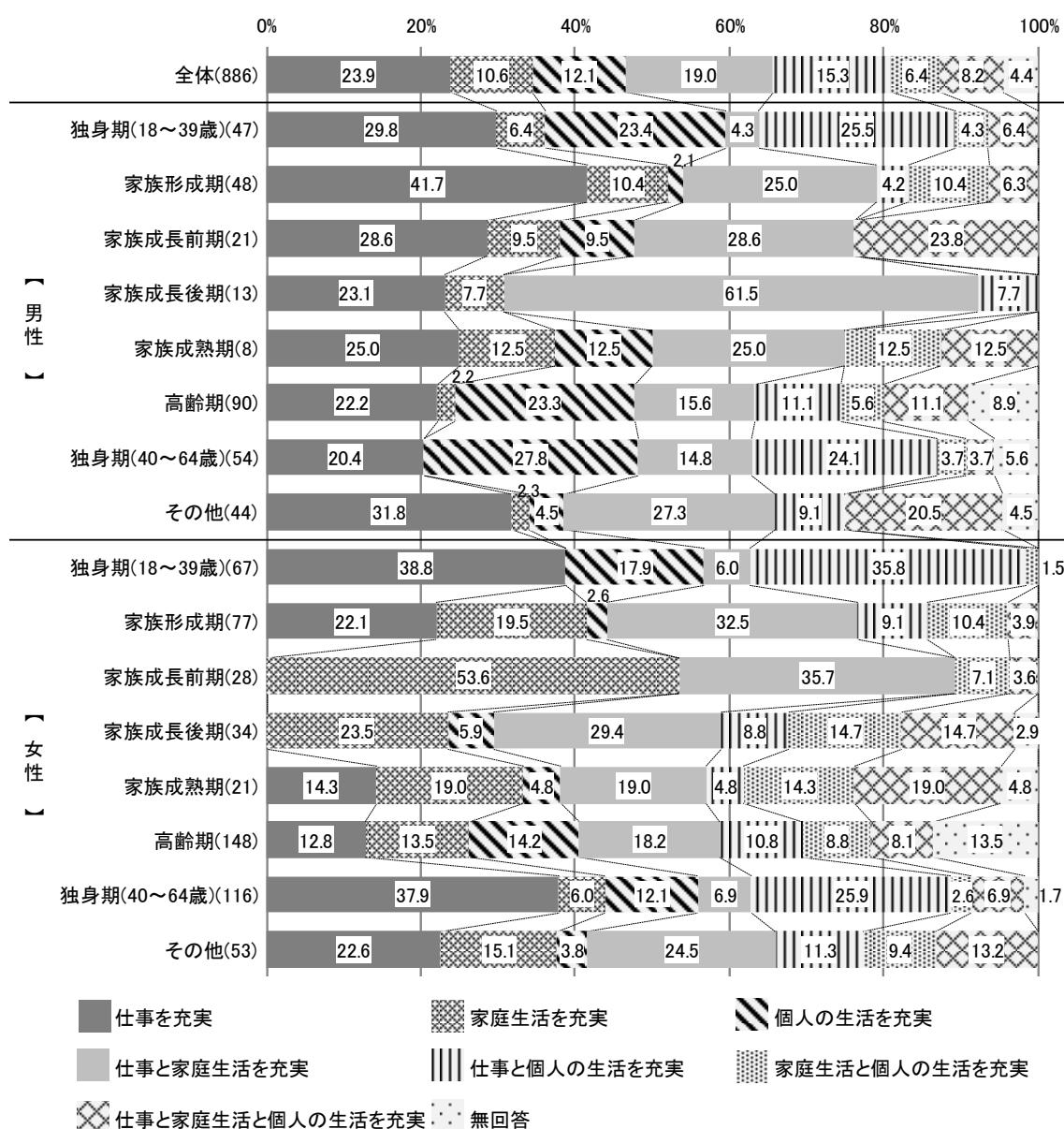
「家庭生活を充実」は家族成長前期では半数を占めており、また、家族形成期、家族成長後期、家族成熟期で2割となっている。

「仕事と家庭生活を充実」は家族形成期～家族成長後期で3割以上となっている。

また、家族成長前期・後期では「仕事を充実」はいなかった。

図VII-6 現実（現状）の「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」の優先度

(性・ライフステージ区分別)



問12 社会全体としてワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を推進するために重要なこと

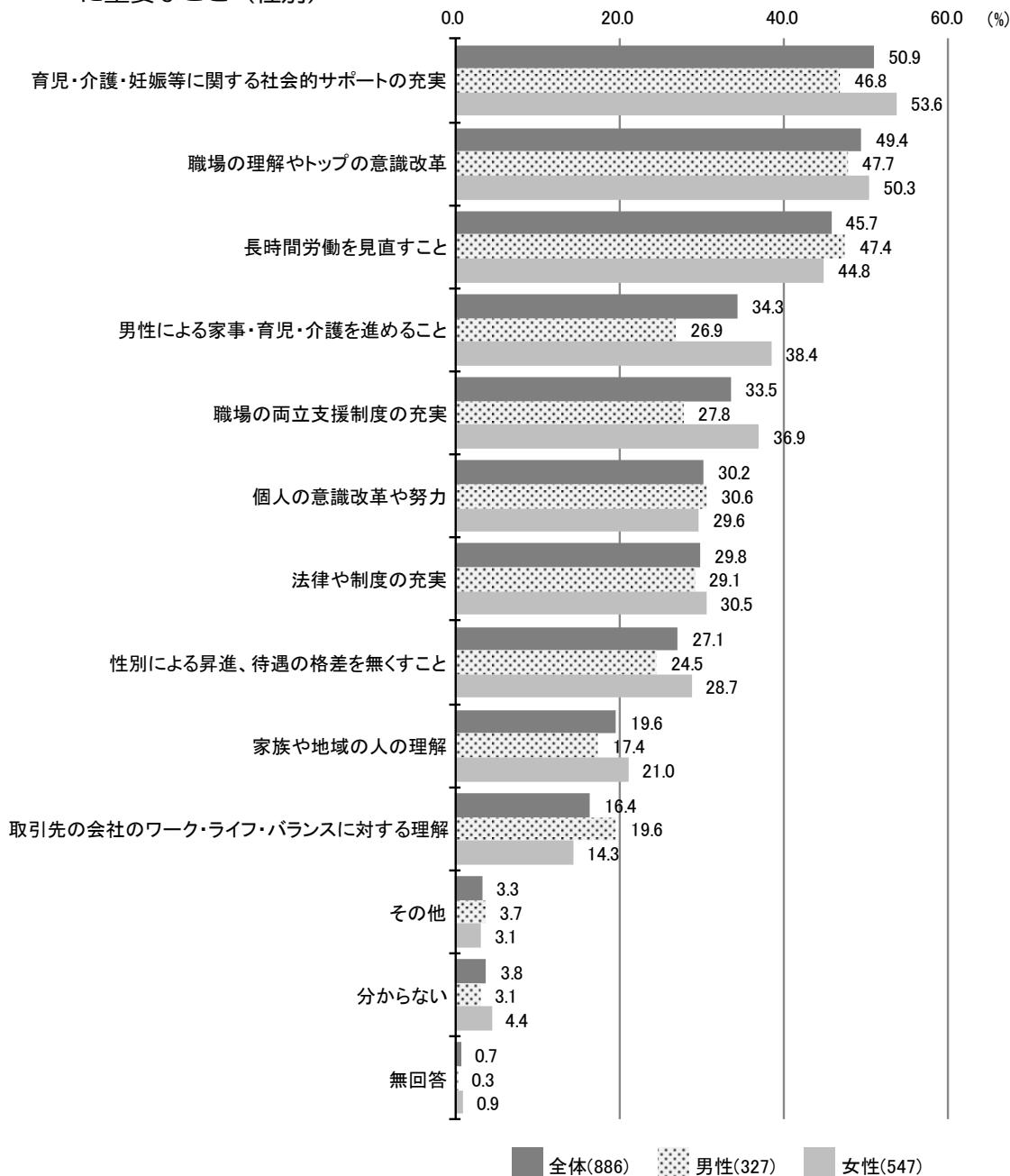
あなたは、社会全体としてワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を図る上で、どのようなことが重要だと思いますか。【○はいくつでも】

○ 全体・性別の傾向

「育児・介護・妊娠等に関する社会的サポートの充実」(50.9%)、「職場の理解やトップの意識改革」(49.4%)、「長時間労働を見直すこと」(45.7%)が多くなっている。

性別で見ると、「男性による家事・育児・介護を進めること」は女性では38.4%となっており、男性(26.9%)を11.5ポイント上回っている。また、「職場の両立支援制度の充実」も女性では36.9%であり、男性(27.8%)を9.1ポイント上回っている。

図VII-7 社会全体としてワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を推進するため重要なこと（性別）



○ 性・年齢別の傾向

「長時間労働を見直すこと」は、男性の10～30代と女性の10・20代では6割以上を占め高くなっている。

「男性による家事・育児・介護を進めること」は、女性の50歳未満で高くなっている、特に、10～30代では過半数を占める。

表VII-1 社会全体としてワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を推進するため
に重要なこと（性・年齢別）

		社会的・ 育児的・ サボ介護 ・ト・妊 の娠 充等 実に 関する	革 職 場 の 理 解 や ト ツ の 意 識 改	長 時 間 労 働 を 見 直 す こと	男 性 に よ る 家 事 ・ 育 児 ・ 介 護	職 場 の 両 立 支 援 制 度 の 充 実	個 人 の 意 識 改 革 や 努 力	法 律 や 制 度 の 充 実	性 別 に よ る 昇 進 、 待 遇 の 格 差	家 族 や 地 域 の 人 の 理 解	フ 取 引 ・ バ ラ ン ス の 会 社 に 対 す る 理 解 ・ ラ イ	そ の 他	分 か ら な い	無 回 答	
	全 体	886 100.0	451 50.9	438 49.4	405 45.7	304 34.3	297 33.5	268 30.2	264 29.8	240 27.1	174 19.6	145 16.4	29 33	34 3.8	6 0.7
	合 計	327 100.0	153 46.8	156 47.7	155 47.4	88 26.9	91 27.8	100 30.6	95 29.1	80 24.5	57 17.4	64 19.6	12 3.7	10 3.1	1 0.3
男 性	10・20代	38 100.0	15 39.5	12 31.6	24 63.2	10 26.3	9 23.7	8 21.1	13 34.2	10 26.3	4 10.5	13 34.2	2 5.3	1 2.6	—
	30代	44 100.0	24 54.5	24 54.5	29 65.9	13 29.5	11 25.0	14 31.8	16 36.4	6 13.6	8 18.2	9 20.5	2 4.5	—	—
	40代	63 100.0	25 39.7	37 58.7	31 49.2	20 31.7	20 31.7	23 36.5	16 25.4	11 17.5	12 19.0	20 31.7	4 6.3	1 1.6	—
	50代	67 100.0	28 41.8	34 50.7	26 38.8	17 25.4	18 26.9	26 38.8	15 22.4	18 26.9	18 26.9	8 11.9	3 4.5	2 3.0	—
	60代	41 100.0	20 48.8	18 43.9	20 48.8	10 24.4	11 26.8	12 29.3	12 29.3	9 22.0	5 12.2	8 19.5	— —	2 4.9	—
	70歳以上	72 100.0	39 54.2	30 41.7	24 33.3	17 23.6	22 30.6	17 23.6	23 31.9	25 34.7	10 13.9	6 8.3	1 1.4	4 5.6	1 1.4
	合 計	547 100.0	293 53.6	275 50.3	245 44.8	210 38.4	202 36.9	162 29.6	167 30.5	157 28.7	115 21.0	78 14.3	17 3.1	24 4.4	5 0.9
女 性	10・20代	53 100.0	30 56.6	31 58.5	32 60.4	30 56.6	24 45.3	9 17.0	21 39.6	23 43.4	11 20.8	10 18.9	1 1.9	1 1.9	—
	30代	79 100.0	44 55.7	42 53.2	42 53.2	40 50.6	33 41.8	24 30.4	27 34.2	22 27.8	21 26.6	25 31.6	4 5.1	2 2.5	—
	40代	102 100.0	50 49.0	49 48.0	52 51.0	44 43.1	35 34.3	32 31.4	25 24.5	27 26.5	16 15.7	12 11.8	7 6.9	4 3.9	—
	50代	109 100.0	51 46.8	63 57.8	52 47.7	34 31.2	42 38.5	40 36.7	41 37.6	31 28.4	22 20.2	16 14.7	3 2.8	4 3.7	1 0.9
	60代	91 100.0	59 64.8	48 52.7	22 24.2	30 33.0	37 40.7	29 31.9	26 28.6	25 27.5	18 19.8	11 12.1	1 1.1	4 4.4	—
	70歳以上	110 100.0	58 52.7	41 37.3	42 38.2	31 28.2	30 27.3	27 24.5	26 23.6	28 25.5	27 24.5	4 3.6	1 0.9	9 8.2	4 3.6

○ 性・ライフステージ区別の傾向

「長時間労働を見直すこと」は、男女共に独身期(18~39歳)~家族成長前期で5割以上と高くなっています。特に、男性の独身期(18~39歳)と家族形成期では6割以上となっている。

「男性による家事・育児・介護を進めること」は、女性の独身期(18~39歳)~家族成長前期で5~6割を占める。

「職場の両立支援制度の充実」は女性の家族形成期と家族成長前期で5割と高くなっている。

表VII-2 社会全体としてワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を推進するため
に重要なこと（性・ライフステージ区別）

		全 体	社 育 会 的 ・ サ 介 ボ 護 ・ ト 妊 の 娠 充 等 実 に 関 す る	革 職 場 の 理 解 や ト ト の 娠 充 等 実 に 関 す る	長 時 間 労 働 を 見 直 す こ と	男 性 を 進 め る こ と	職 場 の 両 立 支 援 制 度 の 充 実	個 人 の 意 識 改 革 や 努 力	法 律 や 制 度 の 充 実	性 別 を 無 く す こ と	性 別 を 無 く す こ と	家 族 や 地 域 の 人 の 理 解	フ 取 ・ 引 バ ラ ン ス の 会 社 に 対 す る 理 解 ・ ライ	そ の 他	分 か ら な い	無 回 答
		全 体	886	451	438	405	304	297	268	264	240	174	145	29	34	6
			100.0	50.9	49.4	45.7	34.3	33.5	30.2	29.8	27.1	19.6	16.4	3.3	3.8	0.7
男 性	合 計	327	153	156	155	88	91	100	95	80	57	64	12	10	1	—
	独身期(18~39歳)	47	20	20	29	12	9	16	16	12	6	13	1	1	—	—
		100.0	42.6	42.6	61.7	25.5	19.1	34.0	34.0	25.5	12.8	27.7	2.1	2.1	—	—
	家族形成期	48	27	21	31	16	16	8	15	6	10	10	3	—	—	—
		100.0	56.3	43.8	64.6	33.3	33.3	16.7	31.3	12.5	20.8	20.8	6.3	—	—	—
	家族成長前期	21	9	12	12	4	5	6	1	5	2	6	1	—	—	—
		100.0	42.9	57.1	57.1	19.0	23.8	28.6	4.8	23.8	9.5	28.6	4.8	—	—	—
	家族成長後期	13	4	9	7	4	6	7	2	2	2	2	—	—	—	—
		100.0	30.8	69.2	53.8	30.8	46.2	53.8	15.4	15.4	15.4	15.4	—	—	—	—
	家族成熟期	8	4	7	3	5	4	5	1	2	2	2	1	—	—	—
女 性		100.0	50.0	87.5	37.5	62.5	50.0	62.5	12.5	25.0	25.0	25.0	12.5	—	—	—
	高齢期	90	49	39	32	21	27	21	30	28	13	10	1	5	1	1
		100.0	54.4	43.3	35.6	23.3	30.0	23.3	33.3	31.1	14.4	11.1	1.1	5.6	1.1	—
	独身期(40~64歳)	54	23	28	19	13	16	25	17	14	14	19	1	2	—	—
		100.0	42.6	51.9	35.2	24.1	29.6	46.3	31.5	25.9	25.9	35.2	1.9	3.7	—	—
	その他	44	15	19	21	12	8	12	13	10	8	2	4	2	—	—
		100.0	34.1	43.2	47.7	27.3	18.2	27.3	29.5	22.7	18.2	4.5	9.1	4.5	—	—
	合 計	547	293	275	245	210	202	162	167	157	115	78	17	24	5	0.9
		100.0	53.6	50.3	44.8	38.4	36.9	29.6	30.5	28.7	21.0	14.3	3.1	4.4	—	—
	独身期(18~39歳)	67	37	40	35	36	26	13	24	26	11	15	2	2	—	—
女 性		100.0	55.2	59.7	52.2	53.7	38.8	19.4	35.8	38.8	16.4	22.4	3.0	3.0	—	—
	家族形成期	77	48	39	45	44	38	25	28	23	23	21	4	—	—	—
		100.0	62.3	50.6	58.4	57.1	49.4	32.5	36.4	29.9	29.9	27.3	5.2	—	—	—
	家族成長前期	28	18	13	14	14	15	12	8	8	11	3	2	2	—	—
		100.0	64.3	46.4	50.0	50.0	53.6	42.9	28.6	28.6	39.3	10.7	7.1	7.1	—	—
	家族成長後期	34	13	12	14	14	11	10	8	5	6	4	1	3	—	—
		100.0	38.2	35.3	41.2	41.2	32.4	29.4	23.5	14.7	17.6	11.8	2.9	8.8	—	—
	家族成熟期	21	16	12	5	10	5	4	8	9	6	3	1	—	—	—
		100.0	76.2	57.1	23.8	47.6	23.8	19.0	38.1	42.9	28.6	14.3	4.8	—	—	—
	高齢期	148	82	63	51	45	51	41	41	39	36	8	1	12	4	—
独 身 期 (40~64歳)		100.0	55.4	42.6	34.5	30.4	34.5	27.7	27.7	26.4	24.3	5.4	0.7	8.1	2.7	—
	その他	53	28	26	22	18	17	17	13	11	9	4	—	—	—	—
		100.0	52.8	49.1	41.5	34.0	32.1	32.1	24.5	20.8	17.0	7.5	—	—	—	—

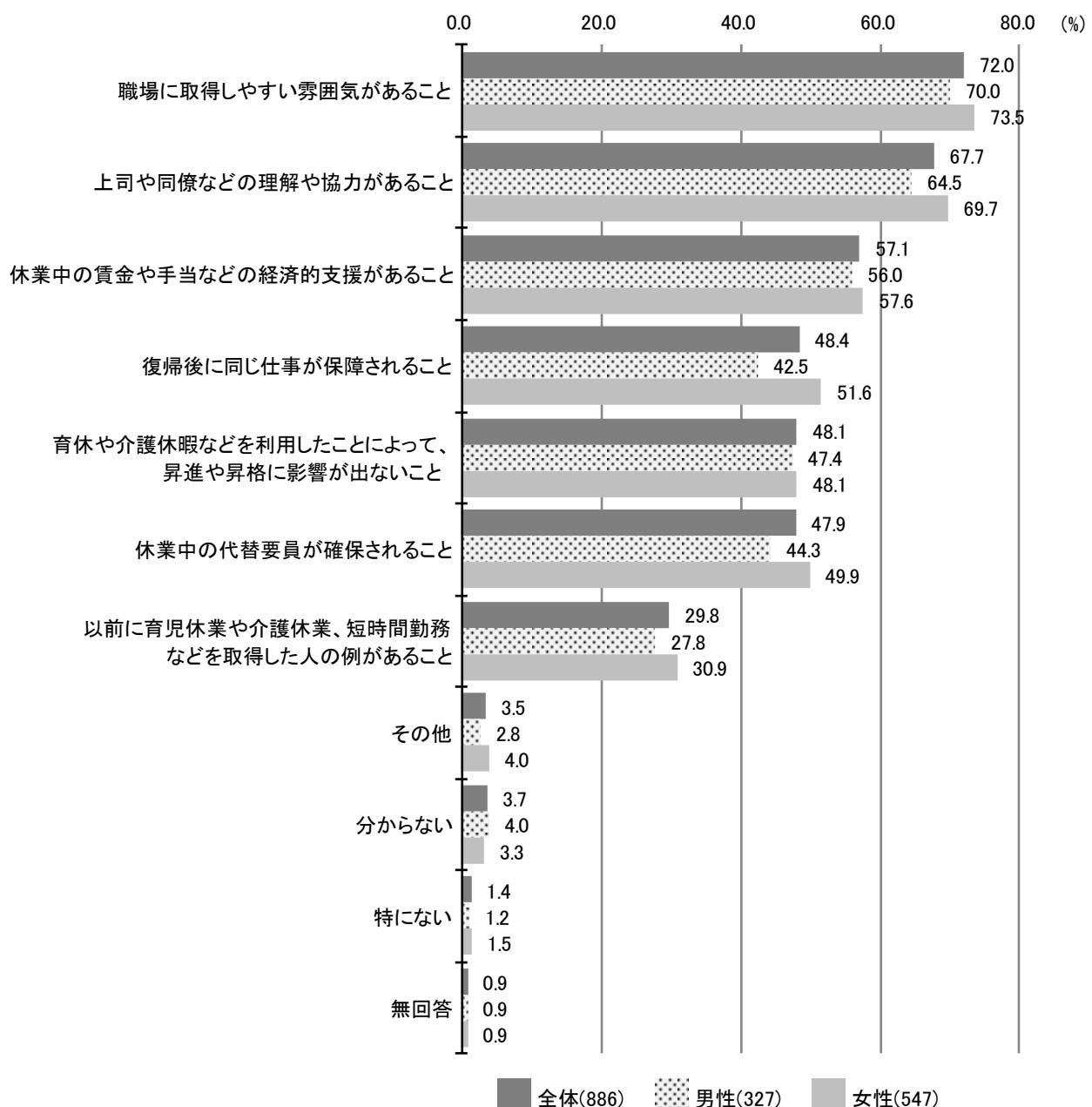
問13 育児休業、介護休業等を取得しやすくするために必要なこと

あなたは、育児や介護における休業・休暇等を取得しやすくするために、どのようなことが必要だと思いますか。【○はいくつでも】

○ 全体の傾向

「職場に取得しやすい雰囲気があること」が 72.0%で最も多く、次いで、「上司や同僚などの理解や協力があること」が 67.7%となっている。

図VII-8 育児休業、介護休業等を取得しやすくするために必要なこと（性別）



○ 性・年齢別の傾向

「職場に取得しやすい雰囲気があること」は、男性では50代で79.1%と高くなっている。女性では、年齢が低くなるほど高くなっている。10・20代では83.0%となっている。

「上司や同僚などの理解や協力があること」は、男性では40～50代で約71%と高く、また、女性では、10～30代で約75%と高くなっている。

「休業中の賃金や手当などの経済的支援があること」は男女共に 10・20 代で高く、特に女性 73.6%と他の世代を 10 ポイント以上上回っている。

「休業中の代替要員が確保されること」は、女性の30代の3分の2が必要なことと考えている。

「以前に育児休業や介護休業、短時間勤務などを取得した人の例があること」は男女共に年齢が低いほど高くなっている、男性の40歳未満、女性の50歳未満では4~5割が必要と考えている。

表VII-3 育児休業、介護休業等を取得しやすくするために必要なこと（性・年齢別）

○ 性・ライフステージ区別の傾向

「職場に取得しやすい雰囲気があること」は、男性の家族成長前期では9割(90.5%)を占めている。

「復帰後に同じ仕事が保障されること」は、女性の家族成長前期では8割(78.6%)を占め、他の時期より20ポイント以上高くなっている。

「以前に育児休業や介護休業、短時間勤務などを取得した人の例があること」は、男性では家族形成期で過半数の 54.2%と高く、女性では、独身期(18~39 歳)~家族成長前期で4~5割と高くなっている。

表VII-4 育児休業、介護休業等を取得しやすくするために必要なこと
(性・ライフステージ区分別)

問14 育児や介護中に希望する働き方

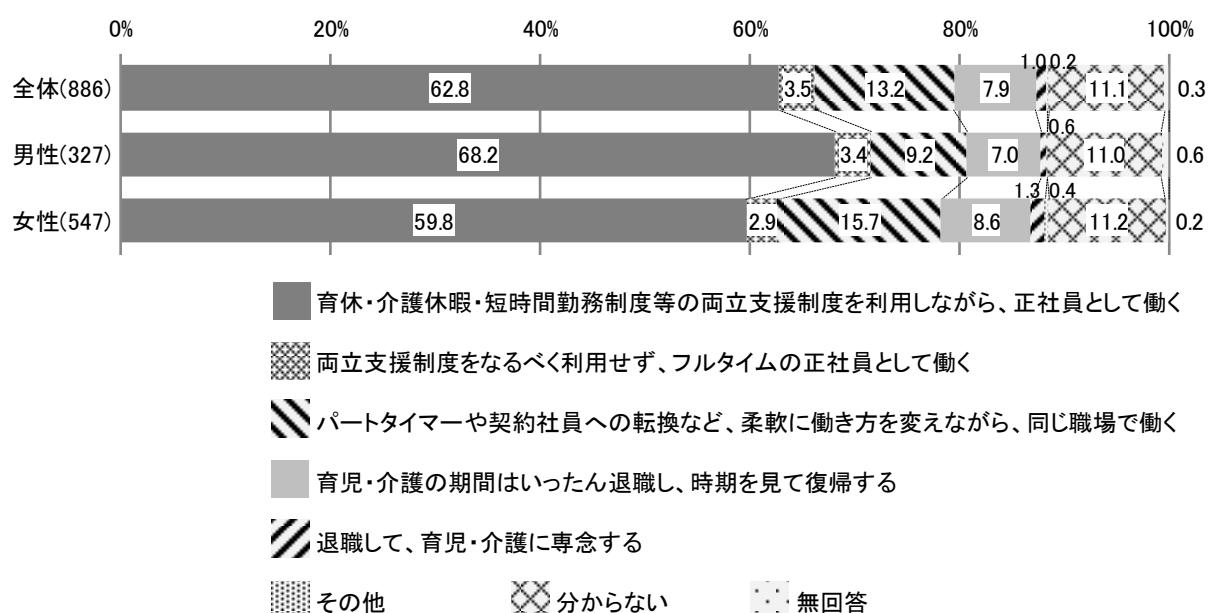
あなたは、育児や介護中にどのような働き方を希望しますか。【1つだけ○】

○ 全体・性別の傾向

「育休・介護休暇・短時間勤務制度等の両立支援制度を利用しながら、正社員として働く」が62.8%を占め最も多い。次いで、「パートタイマーや契約社員への転換など、柔軟に働き方を変えながら、同じ職場で働く」が13.2%となっている。

性別で見ると、「育休・介護休暇・短時間勤務制度等の両立支援制度を利用しながら、正社員として働く」は男性の方が、「パートタイマーや契約社員への転換など、柔軟に働き方を変えながら、同じ職場で働く」は女性の方が高くなっている。

図VII-9 育児や介護中に希望する働き方（性別）



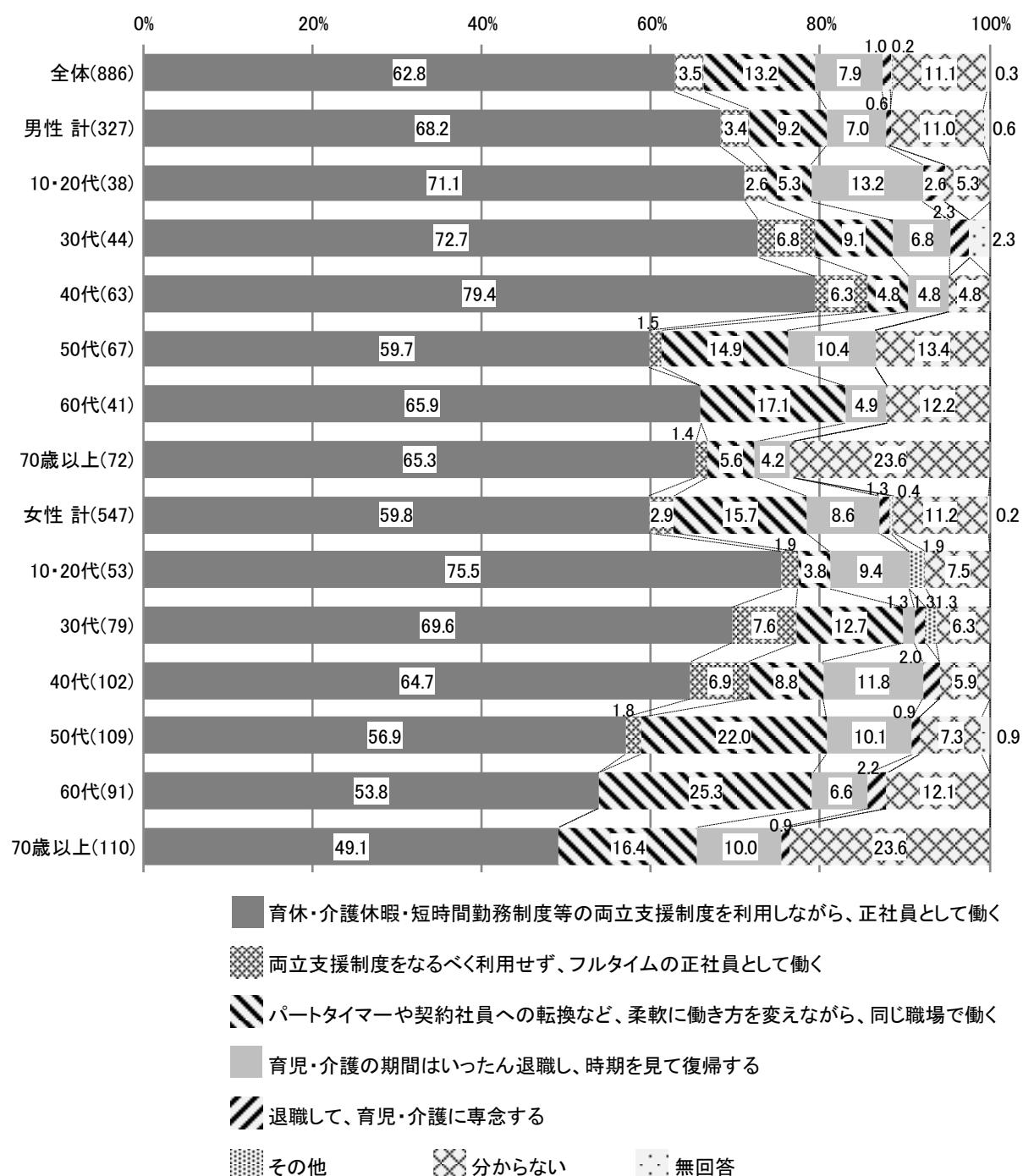
○ 性・年齢別の傾向

「育休・介護休暇・短時間勤務制度等の両立支援制度を利用しながら、正社員として働く」は、男性の50代未満では、年齢が上がるにつれて高くなっている。一方、女性では年齢が低いほど高くなっている。

男女共に50～60代では、「パートタイマーや契約社員への転換など、柔軟に働き方を変えながら、同じ職場で働く」が高くなっている。

また、男女共に30～40代の約7%が「両立支援制度をなるべく利用せず、フルタイムの正社員として働く」を希望している。

図VII-10 育児や介護中に希望する働き方（性・年齢別）



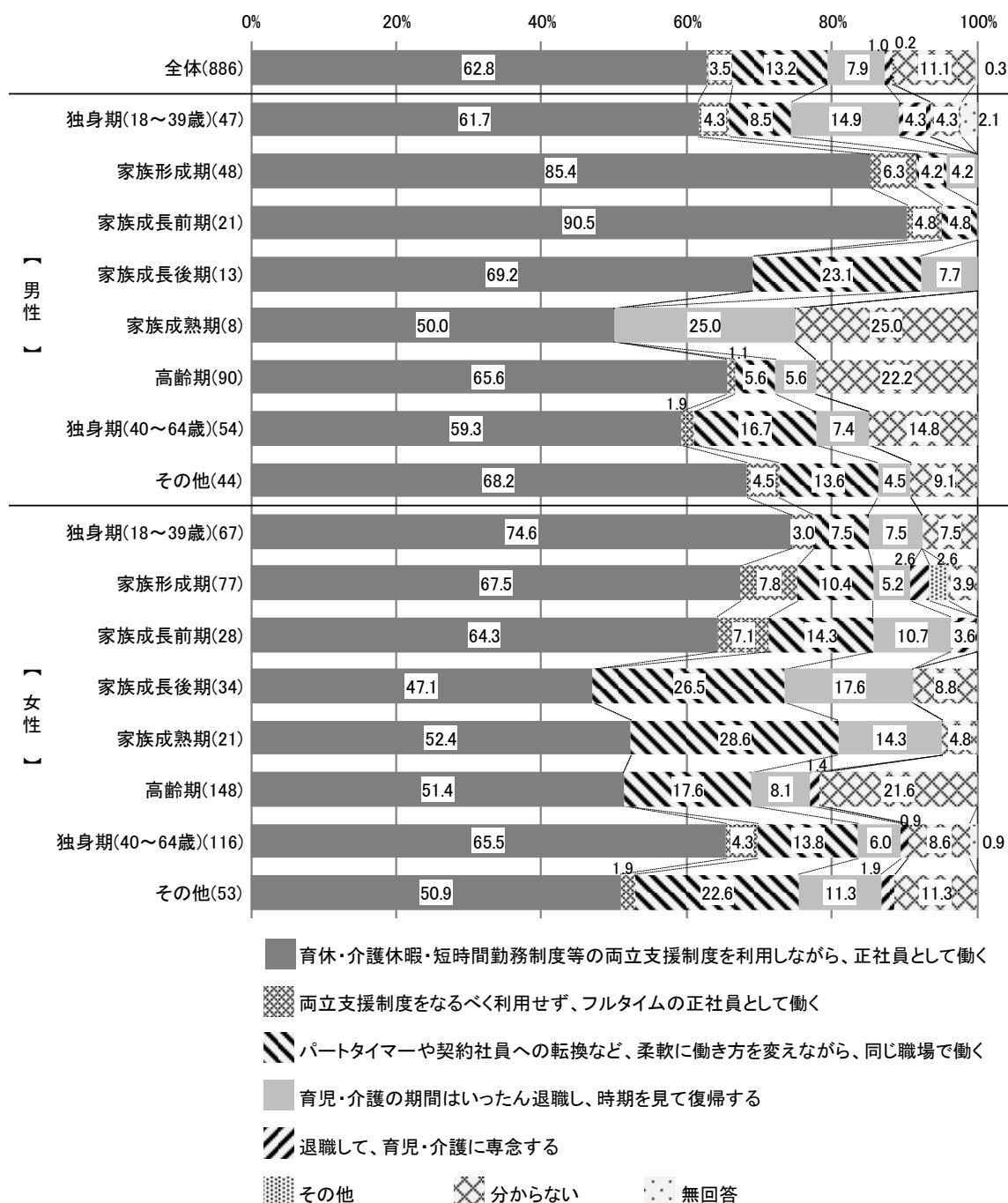
○ 性・ライフステージ区分別の傾向

男性の場合は、「育休・介護休暇・短時間勤務制度等の両立支援制度を利用しながら、正社員として働く」が家族形成期と家族成長前期で8割以上を占めている。

また、独身期(40～64歳)とその他では、「パートタイマーや契約社員への転換など、柔軟に働き方を変えながら、同じ職場で働く」が1割以上と他の時期より高くなっている。

女性の場合は、家族成長後期～高齢期とその他では、「育休・介護休暇・短時間勤務制度等の両立支援制度を利用しながら、正社員として働く」が5割と低くなっている、「パートタイマーや契約社員への転換など、柔軟に働き方を変えながら、同じ職場で働く」が2～3割程度と他の時期より高くなっている。

図VII-11 育児や介護中に希望する働き方（性・ライフステージ区分別）



VIII. 地域活動、社会活動への参画について

問15 この1年間に参加した地域活動や社会活動

あなたは、この1年間にどのような地域活動や社会活動に参加しましたか。【○はいくつでも】

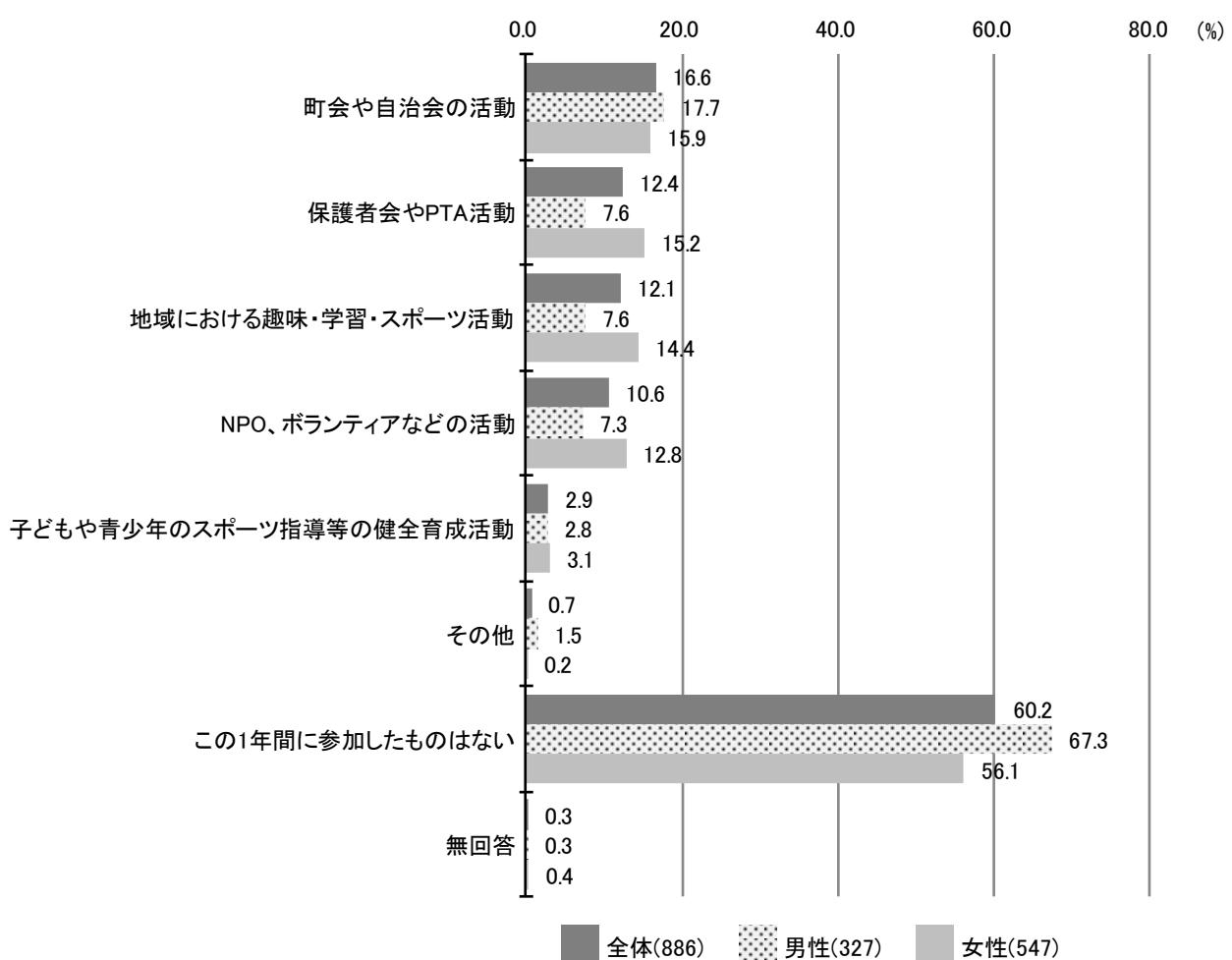
○ 全体・性別の傾向

「この1年間に参加したものはない」が6割(60.2%)を占めている。

参加している場合は、「町会や自治会の活動」が16.6%で最も多く、次いで、「保護者会やPTA活動」(12.4%)、「地域における趣味・学習・スポーツ活動」(12.1%)、「NPO、ボランティアなどの活動」(10.6%)となっている。

性別で見ると、「この1年間に参加したものはない」人の割合は男性(67.3%)が女性(56.1%)を上回っており、女性の方が地域活動・社会活動への参加率が高くなっている。

図VIII-1 この1年間に参加した地域活動や社会活動（性別）



○ 性・年齢別の傾向

「この1年間に参加したものはない」は、男性では40代と70歳以上を除き7~8割と高くなっています。一方、女性では、10代・20代では77.4%と高くなっていますが、30歳以上では5~6割程度となっており、4~5割程度が地域活動や社会活動に参加していることが分かる。

「町会や自治会の活動」は、男性では、70歳以上と40代で2~3割と高くなっています。女性では、60歳以上で2割と高くなっています。

「保護者会やPTA活動」は男女共に40代で高くなっていますが、女性の40代は43.1%であり、男性の40代(25.4%)を大きく上回る。

「地域における趣味・学習・スポーツ活動」は、女性の70歳以上では4人に1人(26.4%)が参加している。

表VIII-1 この1年間に参加した地域活動や社会活動(性・年齢別)

		町会や自治会の活動	保護者会やPTA活動	習地・地域に泊まるおける活動	地元の活動	NPO、ボランティア	子どもや青少年の健全育成	指導等の青少年の健全育成	その他	この1年間に参加したも	無回答
全 体		886	147	110	107	94	26	6	533	3	
		100.0	16.6	12.4	12.1	10.6	2.9	0.7	60.2	0.3	
男性	合 計	327	58	25	25	24	9	5	220	1	
		100.0	17.7	7.6	7.6	7.3	2.8	1.5	67.3	0.3	
	10・20代	38	5	1	5	2	1	—	29	—	
		100.0	13.2	2.6	13.2	5.3	2.6	—	76.3	—	
	30代	44	6	3	2	1	—	1	34	—	
		100.0	13.6	6.8	4.5	2.3	—	2.3	77.3	—	
	40代	63	14	16	7	5	4	—	34	—	
		100.0	22.2	25.4	11.1	7.9	6.3	—	54.0	—	
	50代	67	7	4	4	6	3	1	49	—	
		100.0	10.4	6.0	6.0	9.0	4.5	1.5	73.1	—	
女性	60代	41	5	—	1	2	1	3	32	—	
		100.0	12.2	—	2.4	4.9	2.4	7.3	78.0	—	
	70歳以上	72	20	1	6	8	—	—	41	1	
		100.0	27.8	1.4	8.3	11.1	—	—	56.9	1.4	
	合 計	547	87	83	79	70	17	1	307	2	
		100.0	15.9	15.2	14.4	12.8	3.1	0.2	56.1	0.4	
	10・20代	53	4	1	2	8	1	—	41	—	
		100.0	7.5	1.9	3.8	15.1	1.9	—	77.4	—	
	30代	79	10	16	11	8	3	—	47	—	
		100.0	12.7	20.3	13.9	10.1	3.8	—	59.5	—	
	40代	102	13	44	10	7	4	1	48	—	
		100.0	12.7	43.1	9.8	6.9	3.9	1.0	47.1	—	
	50代	109	16	16	14	12	3	—	67	—	
		100.0	14.7	14.7	12.8	11.0	2.8	—	61.5	—	
	60代	91	18	4	12	18	5	—	49	—	
		100.0	19.8	4.4	13.2	19.8	5.5	—	53.8	—	
	70歳以上	110	25	2	29	17	1	—	54	2	
		100.0	22.7	1.8	26.4	15.5	0.9	—	49.1	1.8	

○ 性・ライフステージ区分別の傾向

「この1年間に参加したものはない」は、男女共に独身期(18~64歳)では8割を占めている。一方、男性の家族成長前期では3割、女性の家族成長前期・後期では1割と低く、この時期は男性で7割、女性では9割が何らかの地域活動や社会活動に参加している。

「保護者会やPTA活動」は男女共に、家族成長前期・後期で高くなっているが、女性が約8割以上であるのに対し、男性は5割未満となっている。

「地域における趣味・学習・スポーツ活動」は、男性の家族成長前期と女性の家族成長前期・後期、高齢期では4人に1人が参加している。

表VIII-2 この1年間に参加した地域活動や社会活動（性・ライフステージ区分別）

		全 体	町 会 や 自 治 会 の 活 動	保 護 者 会 や P T A 活 動	習 地 域 に ス ポ ー ツ の 活 動	ど の 活 動	N P O 、 ボ ラ ン テ イ ア な	チ 子 ど も や 等 の 青 年 の 健 全 育 成 ス ポ ー	そ の 他	の こ の 1 年 間 に 参 加 し た も	無 回 答
全 体		886 100.0	147 16.6	110 12.4	107 12.1	94 10.6	26 2.9	6 0.7	533 60.2	3 0.3	
男 性	合 計	327 100.0	58 17.7	25 7.6	25 7.6	24 7.3	9 2.8	5 1.5	220 67.3	1 0.3	
	独身期(18~39歳)	47 100.0	4 8.5	— —	6 12.8	2 4.3	— —	— —	37 78.7	— —	
	家族形成期	48 100.0	12 25.0	9 18.8	4 8.3	2 4.2	2 4.2	1 2.1	31 64.6	— —	
	家族成長前期	21 100.0	6 28.6	10 47.6	5 23.8	2 9.5	2 9.5	— —	6 28.6	— —	
	家族成長後期	13 100.0	2 15.4	5 38.5	1 7.7	2 15.4	1 7.7	— —	7 53.8	— —	
	家族成熟期	8 100.0	2 25.0	— —	— —	2 25.0	— —	— —	4 50.0	— —	
	高齢期	90 100.0	22 24.4	1 1.1	7 7.8	10 11.1	— —	1 1.1	54 60.0	1 1.1	
	独身期(40~64歳)	54 100.0	4 7.4	— —	2 3.7	1 1.9	— —	— —	47 87.0	— —	
	その他	44 100.0	5 11.4	— —	— —	3 6.8	4 9.1	3 6.8	33 75.0	— —	
	合 計	547 100.0	87 15.9	83 15.2	79 14.4	70 12.8	17 3.1	1 0.2	307 56.1	2 0.4	
女 性	独身期(18~39歳)	67 100.0	3 4.5	1 1.5	2 3.0	7 10.4	1 1.5	— —	56 83.6	— —	
	家族形成期	77 100.0	12 15.6	24 31.2	11 14.3	8 10.4	2 2.6	— —	35 45.5	— —	
	家族成長前期	28 100.0	7 25.0	24 85.7	7 25.0	4 14.3	5 17.9	— —	2 7.1	— —	
	家族成長後期	34 100.0	8 23.5	27 79.4	9 26.5	3 8.8	2 5.9	— —	3 8.8	— —	
	家族成熟期	21 100.0	6 28.6	3 14.3	3 14.3	3 14.3	— —	— —	10 47.6	— —	
	高齢期	148 100.0	36 24.3	3 2.0	36 24.3	26 17.6	5 3.4	— —	70 47.3	2 1.4	
	独身期(40~64歳)	116 100.0	6 5.2	— —	6 5.2	8 6.9	1 0.9	1 0.9	95 81.9	— —	
	その他	53 100.0	8 15.1	1 1.9	4 7.5	11 20.8	1 1.9	— —	35 66.0	— —	

問15-1 地域活動・社会活動に参加していない理由

【問15で「7. この1年間に参加したものはない」に「○」をした方にお聞きします。】

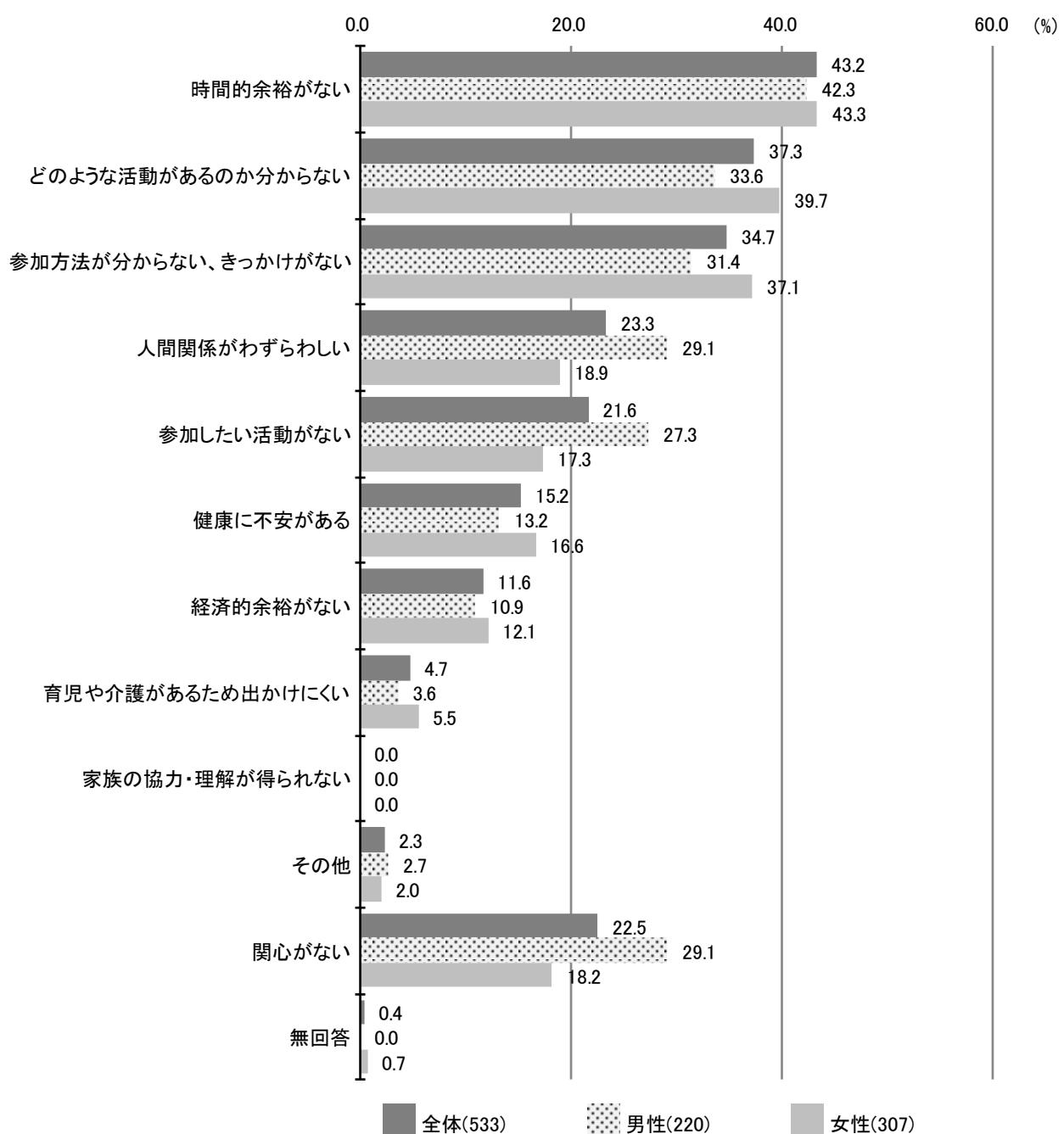
あなたが地域活動・社会活動に参加していないのはどうしてですか。【○はいくつでも】

○ 全体・性別の傾向

「時間的余裕がない」が 43.2%で最も多く、次いで、「どのような活動があるのか分からぬ」(37.3%)、「参加方法が分からぬ、きっかけがない」(34.7%)となっている。また、「関心がない」という人は 22.5%である。

性別で見ると、「関心がない」は、男性で 29.1%であり、女性を(18.2%)を 10.9 ポイント上回っている。

図VIII-2 地域活動・社会活動に参加していない理由（性別）



○ 性・年齢別の傾向

「時間的余裕がない」は、男性の40代と女性の30代で6割を占めている。

男性の30~40代と女性の40歳未満では、「どのような活動があるのか分からない」は過半数を占め、また、「参加方法が分からない、きっかけがない」が4~5割と高くなっている。

「健康に不安がある」は70歳以上では最も多い理由となっている。

表VIII-3 地域活動・社会活動に参加していない理由（性・年齢別）

		時間的余裕がない	るどのかよ分うかなら活動いがな	い参加、加方法がな	し人間関係がわ	い参加したい活動がな	健	経	め育	得家	そ	関	無
		全	体	どのかよ分うかなら活動いがな	い参加、加方法がな	し人間関係がわ	康	済的余裕がな	児やけ介に護かくがい	族の協力・理解が	そ	心がな	回答
全体		533	230	199	185	124	115	81	62	25	-	12	120
		100.0	43.2	37.3	34.7	23.3	21.6	15.2	11.6	4.7	-	2.3	22.5
合計		220	93	74	69	64	60	29	24	8	-	6	64
		100.0	42.3	33.6	31.4	29.1	27.3	13.2	10.9	3.6	-	2.7	29.1
男性	10・20代	29	9	13	11	9	8	-	2	-	-	2	11
		100.0	31.0	44.8	37.9	31.0	27.6	-	6.9	-	-	6.9	37.9
	30代	34	17	18	15	9	14	1	2	-	-	1	12
		100.0	50.0	52.9	44.1	26.5	41.2	2.9	5.9	-	-	2.9	35.3
	40代	34	20	19	14	13	12	2	2	1	-	1	8
		100.0	58.8	55.9	41.2	38.2	35.3	5.9	5.9	2.9	-	2.9	23.5
	50代	49	24	12	15	13	9	6	8	4	-	1	12
		100.0	49.0	24.5	30.6	26.5	18.4	12.2	16.3	8.2	-	2.0	24.5
女性	60代	32	13	9	9	9	7	5	6	2	-	-	12
		100.0	40.6	28.1	28.1	28.1	21.9	15.6	18.8	6.3	-	-	37.5
	70歳以上	41	10	3	5	11	10	14	4	1	-	1	9
		100.0	24.4	7.3	12.2	26.8	24.4	34.1	9.8	2.4	-	2.4	22.0
	合計	307	133	122	114	58	53	51	37	17	-	6	56
		100.0	43.3	39.7	37.1	18.9	17.3	16.6	12.1	5.5	-	2.0	18.2
	10・20代	41	20	21	20	10	8	1	4	-	-	-	10
		100.0	48.8	51.2	48.8	24.4	19.5	2.4	9.8	-	-	-	24.4
女性	30代	47	29	26	23	11	12	2	6	3	-	1	11
		100.0	61.7	55.3	48.9	23.4	25.5	4.3	12.8	6.4	-	2.1	23.4
	40代	48	22	20	19	13	14	3	4	4	-	1	9
		100.0	45.8	41.7	39.6	27.1	29.2	6.3	8.3	8.3	-	2.1	18.8
	50代	67	27	26	27	13	5	9	11	2	-	1	10
		100.0	40.3	38.8	40.3	19.4	7.5	13.4	16.4	3.0	-	1.5	14.9
	60代	49	23	17	17	5	12	7	8	6	-	1	11
		100.0	46.9	34.7	34.7	10.2	24.5	14.3	16.3	12.2	-	2.0	22.4
70歳以上		54	12	11	8	6	2	28	4	2	-	2	5
		100.0	22.2	20.4	14.8	11.1	3.7	51.9	7.4	3.7	-	3.7	9.3
											-		1.9

○ 性・ライフステージ区分別の傾向

「どのような活動があるのか分からない」は、男女の独身期(18~39歳)と女性の家族形成期で過半数と高くなっている。

「参加方法が分からない、きっかけがない」は、男女の独身期(18~64歳)と女性の家族形成期で4~5割と高くなっている。

「健康に不安がある」は、男女共に高齢期で高くなっている。

「関心がない」は、男性の独身期(18~39歳)で4割(40.5%)と高くなっている。

表VIII-4 地域活動・社会活動に参加していない理由(性・ライフステージ区分別)

		全 体	時 間 的 余 裕 が な い	か ど か よ ら う な な い 活 動 が あ る の の	き 參 加 か 方 け 法 が が な い か ら な い 、	人 間 関 係 が が 分 か ら な い か ら わ し い	參 加 し た い 活 動 が な い	健 康 に 不 安 が あ る	經 済 的 余 裕 が な い	育 児 に く い 護 が な い く れ な い	家 族 の 協 力 ・ 理 解 が 得 ら れ る	そ の 他	関 心 が な い	無 回 答
全 体		533	230	199	185	124	115	81	62	25	-	12	120	2
		100.0	43.2	37.3	34.7	23.3	21.6	15.2	11.6	4.7	-	2.3	22.5	0.4
合 計		220	93	74	69	64	60	29	24	8	-	6	64	-
		100.0	42.3	33.6	31.4	29.1	27.3	13.2	10.9	3.6	-	2.7	29.1	-
独身期(18~39歳)		37	16	19	16	11	11	-	3	-	-	2	15	-
		100.0	43.2	51.4	43.2	29.7	29.7	-	8.1	-	-	5.4	40.5	-
家族形成期		31	15	12	10	7	13	1	1	1	-	1	8	-
		100.0	48.4	38.7	32.3	22.6	41.9	3.2	3.2	3.2	-	3.2	25.8	-
家族成長前期		6	4	3	1	4	3	-	1	-	-	-	2	-
男性		100.0	66.7	50.0	16.7	66.7	50.0	-	16.7	-	-	-	33.3	-
家族成長後期	7	4	1	1	1	2	1	1	-	-	2	2	-	
	100.0	57.1	14.3	14.3	14.3	28.6	14.3	14.3	-	-	28.6	28.6	-	
家族成熟期	4	3	1	-	1	1	-	1	1	-	-	2	-	
		100.0	75.0	25.0	-	25.0	25.0	-	25.0	25.0	-	-	50.0	-
	高齢期	54	14	9	10	16	12	16	7	3	-	1	14	-
		100.0	25.9	16.7	18.5	29.6	22.2	29.6	13.0	5.6	-	1.9	25.9	-
	独身期(40~64歳)	47	21	17	20	15	9	8	9	2	-	-	12	-
		100.0	44.7	36.2	42.6	31.9	19.1	17.0	19.1	4.3	-	-	25.5	-
	その他	33	16	12	11	9	9	2	1	1	-	-	9	-
		100.0	48.5	36.4	33.3	27.3	27.3	6.1	3.0	3.0	-	-	27.3	-
	合 計	307	133	122	114	58	53	51	37	17	-	6	56	2
		100.0	43.3	39.7	37.1	18.9	17.3	16.6	12.1	5.5	-	2.0	18.2	0.7
独身期(18~39歳)		56	30	31	28	12	13	-	7	-	-	1	13	1
		100.0	53.6	55.4	50.0	21.4	23.2	-	12.5	-	-	1.8	23.2	1.8
家族形成期		35	21	18	17	9	7	2	2	7	-	-	7	-
		100.0	60.0	51.4	48.6	25.7	20.0	5.7	5.7	20.0	-	-	20.0	-
家族成長前期		2	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		100.0	-	50.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
家族成長後期		3	1	-	1	1	-	1	1	-	-	-	2	-
		100.0	33.3	-	33.3	33.3	-	33.3	33.3	-	-	-	66.7	-
家族成熟期		10	5	5	2	2	2	1	1	-	-	-	2	-
		100.0	50.0	50.0	20.0	20.0	20.0	10.0	10.0	-	-	-	20.0	-
高齢期		70	16	16	13	6	8	30	5	4	-	2	10	1
		100.0	22.9	22.9	18.6	8.6	11.4	42.9	7.1	5.7	-	2.9	14.3	1.4
独身期(40~64歳)		95	43	37	42	20	15	14	19	5	-	2	15	-
		100.0	45.3	38.9	44.2	21.1	15.8	14.7	20.0	5.3	-	2.1	15.8	-
その他		35	17	13	9	8	8	2	2	1	-	1	7	-
		100.0	48.6	37.1	25.7	22.9	22.9	5.7	5.7	2.9	-	2.9	20.0	-

問16 男女や多様な性自認の方の視点を取り入れた防災対応として重要なこと

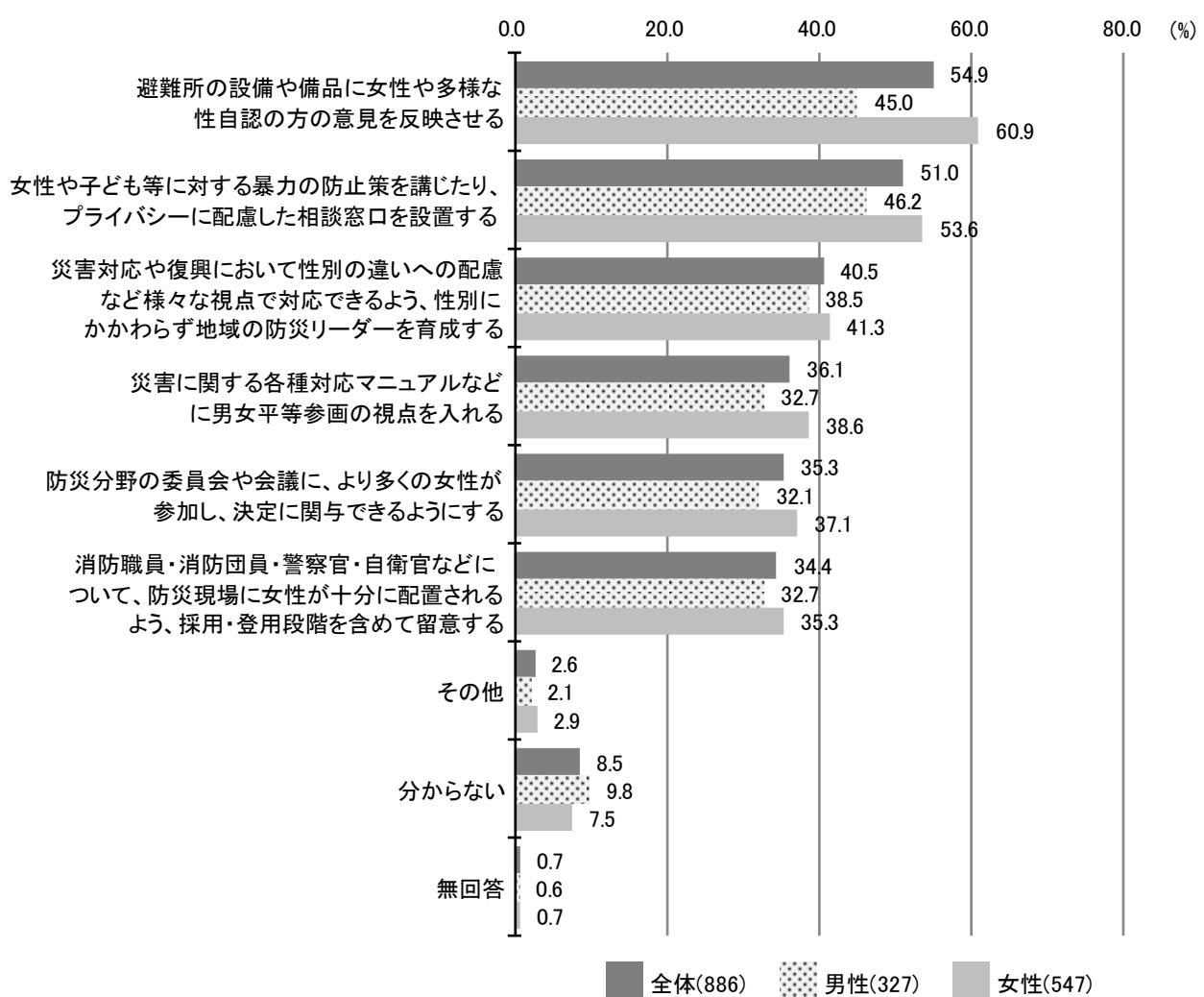
あなたは、災害時に備えた男女や多様な性自認の方の視点を取り入れた防災対応として、どのようなことが重要だと思いますか。【○はいくつでも】

○ 全体・性別の傾向

「避難所の設備や備品に女性や多様な性自認の方の意見を反映させる」(54.9%)、「女性や子ども等に対する暴力の防止策を講じたり、プライバシーに配慮した相談窓口を設置する」(51.0%)が半数程度と多くなっている。

性別で見ると、「避難所の設備や備品に女性や多様な性自認の方の意見を反映させる」は女性では60.9%を占め、男性(45.0%)を大きく上回っている。

図VIII-3 男女や多様な性自認の方の視点を取り入れた防災対応として重要なこと（性別）



○ 性・年齢別の傾向

「女性や子ども等に対する暴力の防止策を講じたり、プライバシーに配慮した相談窓口を設置する」は女性の10・20代で64.2%と高くなっている。

また、女性の10・20代では、「災害に関する各種対応マニュアルなどに男女平等参画の視点を入れる」、「防災分野の委員会や会議に、より多くの女性が参加し、決定に関与できるようにする」が5割と高くなっている。

表VIII-5 男女や多様な性自認の方の視点を取り入れた防災対応として重要なこと(性・年齢別)

		被災地の女性に対する支援策											
		被災地の女性に対する支援策					被災地の女性に対する支援策						
		被災地の女性に対する支援策		被災地の女性に対する支援策			被災地の女性に対する支援策			被災地の女性に対する支援策			
		避難所の意見を反映させる	方の意見を反映させる	女性や多様な性自認の	女性や多様な性自認の	女性や多様な性自認の	女性や多様な性自認の	女性や多様な性自認の	女性や多様な性自認の	女性や多様な性自認の	女性や多様な性自認の	女性や多様な性自認の	女性や多様な性自認の
		全体	全体	全体	全体	全体	全体	全体	全体	全体	全体	全体	全体
全体		886	486	452	359	320	313	305	23	75	6		
		100.0	54.9	51.0	40.5	36.1	35.3	34.4	2.6	8.5	0.7		
男性	合計	327	147	151	126	107	105	107	7	32	2		
		100.0	45.0	46.2	38.5	32.7	32.1	32.7	2.1	9.8	0.6		
	10・20代	38	15	20	15	12	11	10	2	5	—		
		100.0	39.5	52.6	39.5	31.6	28.9	26.3	5.3	13.2	—		
	30代	44	13	18	16	14	12	15	3	5	1		
		100.0	29.5	40.9	36.4	31.8	27.3	34.1	6.8	11.4	2.3		
	40代	63	25	35	22	23	20	23	1	7	—		
		100.0	39.7	55.6	34.9	36.5	31.7	36.5	1.6	11.1	—		
女性	合計	547	333	293	226	211	203	193	16	41	4		
		100.0	60.9	53.6	41.3	38.6	37.1	35.3	2.9	7.5	0.7		
	10・20代	53	33	34	19	27	26	22	3	3	—		
		100.0	62.3	64.2	35.8	50.9	49.1	41.5	5.7	5.7	—		
	30代	79	48	43	31	36	31	27	4	3	—		
		100.0	60.8	54.4	39.2	45.6	39.2	34.2	5.1	3.8	—		
	40代	102	59	58	43	32	35	39	5	6	—		
		100.0	57.8	56.9	42.2	31.4	34.3	38.2	4.9	5.9	—		
女性	50代	109	71	66	52	48	40	43	1	7	—		
		100.0	65.1	60.6	47.7	44.0	36.7	39.4	0.9	6.4	—		
	60代	91	58	54	39	35	39	28	1	7	—		
		100.0	63.7	59.3	42.9	38.5	42.9	30.8	1.1	7.7	—		
	70歳以上	110	61	38	41	32	31	32	2	15	4		
		100.0	55.5	34.5	37.3	29.1	28.2	29.1	1.8	13.6	3.6		

【参考】

表VIII-6 男女や多様な性自認の方の視点を取り入れた防災対応として重要なこと
(その他の性自認)

全 体	方 避 の 難 所 の 意 見 を 反 映 さ せ る 女 性 や 多 様 な 性 自 認 の	置 た 女 性 の や ら ず 地 域 の 防 災 に 対 し て に す る 配 慮 の 相 防 止 談 窓 口 を 講 設 じ る	災 害 対 応 や 復 興 の 視 点 で 対 応 で き る 暴 力 の 相 防 止 談 窓 口 を 講 設 じ る	災 害 に 関 す る 各 種 対 応 の 視 点 を 入 れ る	災 害 に お い て 性 別 の 差 别 が 育 成 す る	災 害 に お い て 性 別 の 差 別 が 育 成 す る	防 災 分 野 の 委 員 会 や 会 議 に 關 与 で き る よ う に す る	防 災 加 し 、 決 定 に 關 与 で き る よ う に す る	消 防 職 員 、 採 用 、 登 用 段 階 を 含 め て 留 意 す る	消 防 職 員 、 採 用 、 登 用 段 階 を 含 め て 留 意 す る	そ の 他	分 か ら な い
4 100.0	2 50.0	4 100.0	2 50.0	2 50.0	2 50.0	2 50.0	2 50.0	2 50.0	2 50.0	2 50.0	- -	- -

IX. 政策決定過程への女性の参画について

問17 女性の意見が行政にどの程度反映されているか

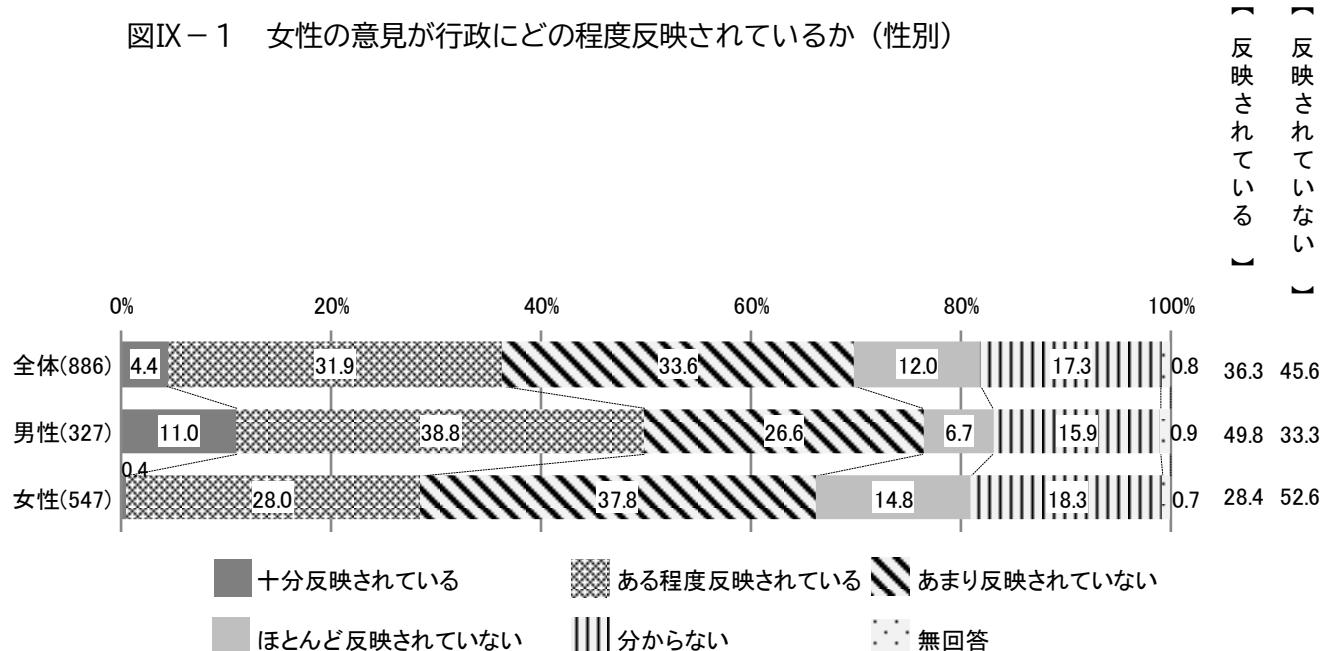
あなたは、女性の意見が国や自治体の行政にどの程度反映されていると思いますか。
【1つだけ○】

○ 全体・性別の傾向

男性では、「十分反映されている」と「ある程度反映されている」の合計(以下、『反映されている』)が半数(49.8%)を占め、「あまり反映されていない」と「ほとんど反映されていない」の合計(以下、『反映されていない』)は 33.3%であるが、一方、女性では『反映されている』は 28.4%であり、『反映されていない』が半数(52.6%)となっている。

性別で見ると、「十分反映されている」は、男性では 11.0%であるが、女性では 0.4%(547 人中2人)のみとなっている。

図IX-1 女性の意見が行政にどの程度反映されているか (性別)



○ 性・年齢別の傾向

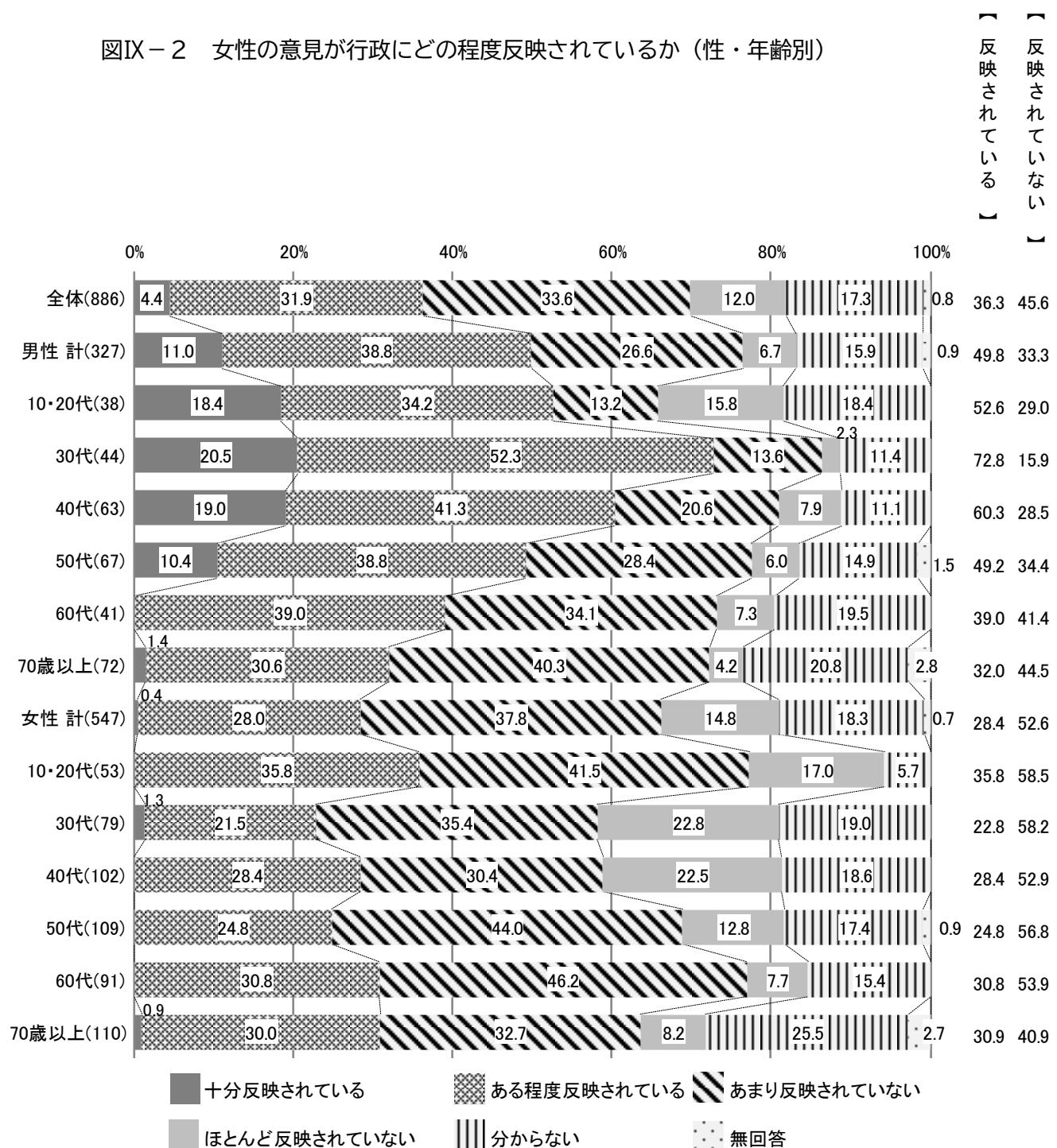
男性では、30代で『反映されている』が72.8%と最も高く、『反映されていない』が15.9%と最も低くなっている。年齢が上がるにつれて『反映されている』が減り、『反映されていない』が増えており、60歳以上では、『反映されていない』と考える人が『反映されている』を上回っている。

また、「十分反映されている」と考える人は50歳未満では2割、50代で1割となっている。

女性では、「十分反映されている」と考える人は僅かであり、「ある程度反映されている」は、10・20代では35.8%と他の世代より高くなっている。

また、「ほとんど反映されていない」は50歳未満で2割前後と高くなっている。

図IX-2 女性の意見が行政にどの程度反映されているか（性・年齢別）



問17-1 反映されていない理由

【問17で「3.あまり反映されていない」又は「4.ほとんど反映されていない」のいずれかに「○」をした方にお聞きします。】

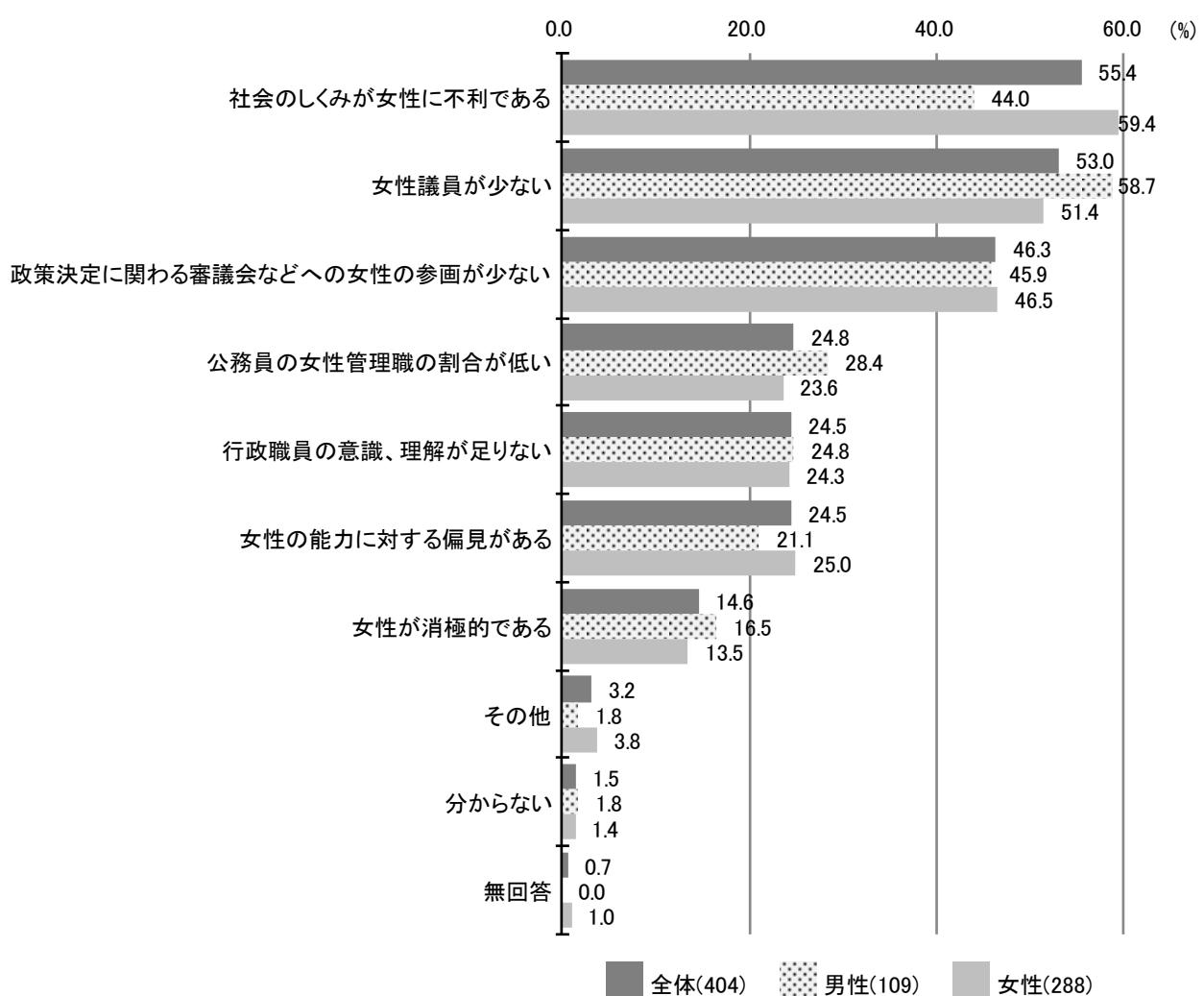
反映されていない理由は、どのようなことだと思いますか。【3つまで○】

○ 全体・性別の傾向

「社会のしくみが女性に不利である」は 55.4%で最も多く、次いで、「女性議員が少ない」(53.0%)、「政策決定に関わる審議会などへの女性の参画が少ない」(46.3%)となっている。

性別で見ると、「社会のしくみが女性に不利である」は、女性では 59.4%であり、男性(44.0%)を大きく上回る。

図IX-3 反映されていない理由（性別）



○ 性・年齢別の傾向

「社会のしくみが女性に不利である」は、女性の10~30代で68.8%と高くなっている。

「政策決定に関わる審議会などへの女性の参画が少ない」は、男性の40代で66.7%と高くなっている。

「公務員の女性管理職の割合が低い」は、男性の70歳以上で4割、女性の40~50代で3割と高くなっている。

表IX-1 反映されていない理由（性・年齢別）

		全体	で社会のしくみが女性に不利	女性議員が少ない	ど政策への決定性に参画するが審議会がない	が公務員の女性管理職の割合	り行政職員の意識、理解が足	ある女性の能力に対する偏見が	女性が消極的である	その他	分からぬ	無回答	
		全 体	404	224	214	187	100	99	99	59	13	6	3
			100.0	55.4	53.0	46.3	24.8	24.5	24.5	14.6	3.2	1.5	0.7
		合 計	109	48	64	50	31	27	23	18	2	2	-
			100.0	44.0	58.7	45.9	28.4	24.8	21.1	16.5	1.8	1.8	-
男 性	10~30代	18	9	12	9	4	2	6	5	2	1	-	-
		100.0	50.0	66.7	50.0	22.2	11.1	33.3	27.8	11.1	5.6	-	-
	40代	18	6	11	12	4	6	2	3	-	-	-	-
		100.0	33.3	61.1	66.7	22.2	33.3	11.1	16.7	-	-	-	-
	50代	23	10	11	11	6	6	5	6	-	-	-	-
		100.0	43.5	47.8	47.8	26.1	26.1	21.7	26.1	-	-	-	-
	60代	17	8	10	7	4	5	3	1	-	-	-	-
		100.0	47.1	58.8	41.2	23.5	29.4	17.6	5.9	-	-	-	-
	70歳以上	32	15	19	11	13	8	7	3	-	1	-	-
		100.0	46.9	59.4	34.4	40.6	25.0	21.9	9.4	-	3.1	-	-
女 性	合 計	288	171	148	134	68	70	72	39	11	4	3	
		100.0	59.4	51.4	46.5	23.6	24.3	25.0	13.5	3.8	1.4	1.0	
	10~30代	77	53	46	35	14	12	17	7	4	-	1	
		100.0	68.8	59.7	45.5	18.2	15.6	22.1	9.1	5.2	-	1.3	
	40代	54	32	28	25	17	12	15	9	3	2	-	
		100.0	59.3	51.9	46.3	31.5	22.2	27.8	16.7	5.6	3.7	-	
	50代	62	35	33	27	18	14	17	6	-	-	1	
		100.0	56.5	53.2	43.5	29.0	22.6	27.4	9.7	-	-	1.6	
	60代	49	31	20	23	8	17	10	9	3	1	-	
		100.0	63.3	40.8	46.9	16.3	34.7	20.4	18.4	6.1	2.0	-	
	70歳以上	45	19	20	23	10	15	12	8	1	1	1	
		100.0	42.2	44.4	51.1	22.2	33.3	26.7	17.8	2.2	2.2	2.2	

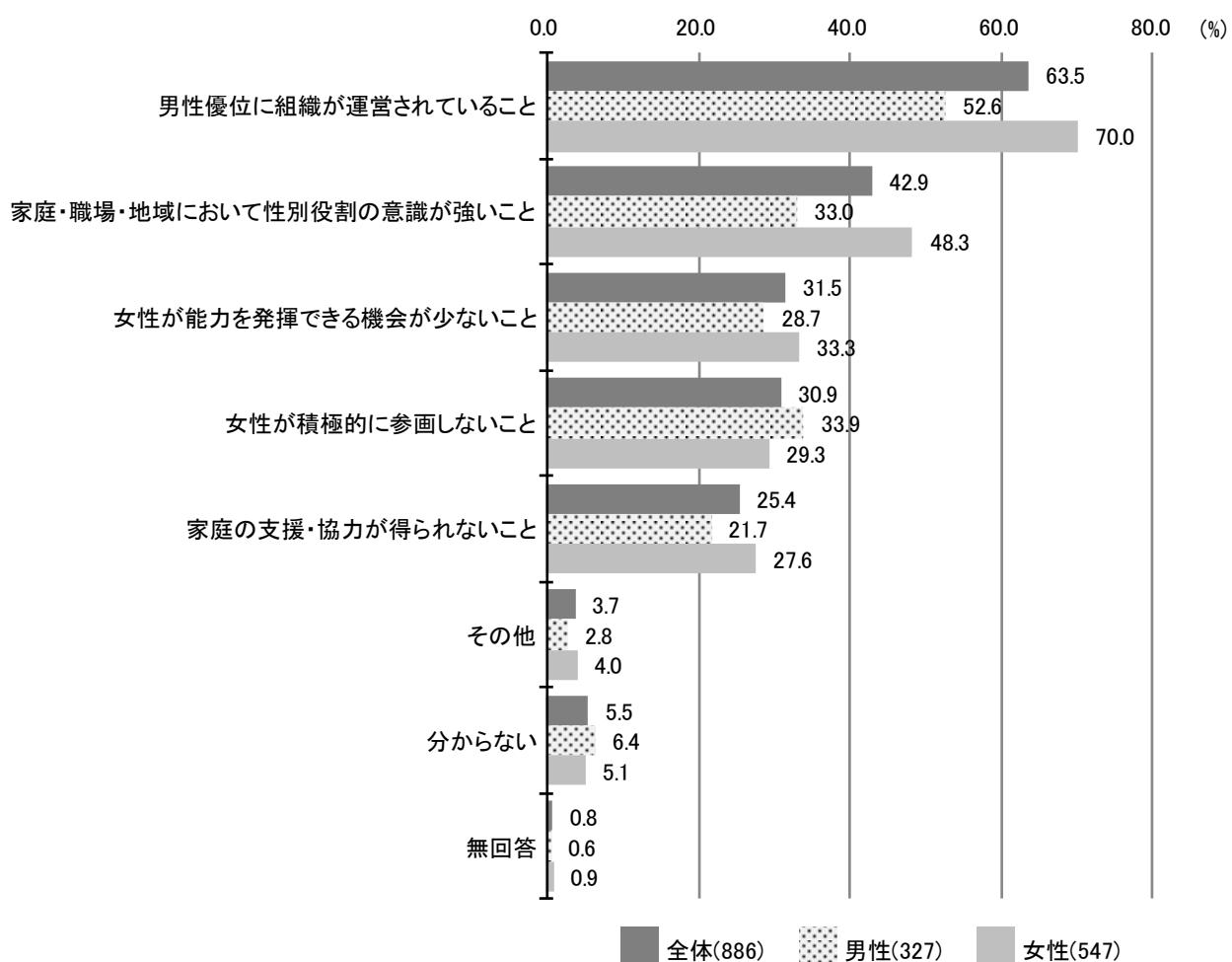
問18 政策や方針決定の過程に女性があまり進出していない原因

あなたは、政治の場や仕事の場において、政策や方針決定の過程に女性があまり進出していない原因は、どのようなことだと思いますか。【○はいくつでも】

○ 全体・性別の傾向

「男性優位に組織が運営されていること」が 63.5%で最も多く、次いで、「家庭・職場・地域において性別役割の意識が強いこと」が 42.9%となっている。いずれも女性の割合が高くなっている、男性を 15 ポイント以上上回っている。

図IX-4 政策や方針決定の過程に女性があまり進出していない原因（性別）



○ 性・年齢別の傾向

「家庭・職場・地域において性別役割の意識が強いこと」は、女性では概ね年齢が低いほど高くなる傾向にあり、50歳未満で過半数を占め、特に、10・20代では64.2%となっている。

「女性が能力を発揮できる機会が少ないと」は、男性では50歳以上で3～4割程度と高くなっている。

「女性が積極的に参画しないこと」は、男性では概ね年齢が低くなるほど高くなる傾向にあり、特に30代では5割となっており、他の世代を10ポイント以上上回っている。

「家庭の支援・協力が得られないこと」は、女性では、概ね年齢が低くなるほど高くなる傾向にあり、10・20代と40代で3割、30代では4割(38.0%)となっている。

表IX-2 政策や方針決定の過程に女性があまり進出していない原因（性・年齢別）

		全 体	て男 い性 る優 こ位 とに 組 織 が運 営 され	性 別 役 割 の場 意・ 識 地 域 が強 にい おこ いと て	家 庭 少 が な能 力	会 女 が性 少 が な能 力	こ 女 性 が 積 極 的 に 参 画 し な い	家 庭 こ と の 支 援 ・ 協 力 が 得 ら れ	そ の 他	分 か ら な い	無 回 答
	全 体	886 100.0	563 63.5	380 42.9	279 31.5	274 30.9	225 25.4	33 3.7	49 5.5	7 0.8	
男 性	合 計	327 100.0	172 52.6	108 33.0	94 28.7	111 33.9	71 21.7	9 2.8	21 6.4	2 0.6	
	10・20代	38 100.0	20 52.6	16 42.1	8 21.1	15 39.5	3 7.9	— —	2 5.3	— —	
	30代	44 100.0	10 22.7	10 22.7	7 15.9	22 50.0	10 22.7	3 6.8	4 9.1	— —	
	40代	63 100.0	32 50.8	22 34.9	15 23.8	24 38.1	10 15.9	5 7.9	4 6.3	— —	
	50代	67 100.0	39 58.2	24 35.8	24 35.8	23 34.3	20 29.9	1 1.5	4 6.0	1 1.5	
	60代	41 100.0	27 65.9	11 26.8	12 29.3	9 22.0	9 22.0	— —	2 4.9	— —	
	70歳以上	72 100.0	43 59.7	25 34.7	28 38.9	17 23.6	18 25.0	— —	5 6.9	1 1.4	
	合 計	547 100.0	383 70.0	264 48.3	182 33.3	160 29.3	151 27.6	22 4.0	28 5.1	5 0.9	
女 性	合 計	53 100.0	41 77.4	34 64.2	19 35.8	14 26.4	16 30.2	2 3.8	1 1.9	— —	
	10・20代	79 100.0	59 74.7	42 53.2	22 27.8	25 31.6	30 38.0	4 5.1	3 3.8	— —	
	30代	102 100.0	72 70.6	54 52.9	38 37.3	26 25.5	32 31.4	6 5.9	5 4.9	— —	
	40代	109 100.0	76 69.7	48 44.0	38 34.9	26 23.9	29 26.6	5 4.6	7 6.4	1 0.9	
	50代	91 100.0	68 74.7	44 48.4	27 29.7	28 30.8	25 27.5	4 4.4	3 3.3	— —	
	60代	110 100.0	66 60.0	42 38.2	37 33.6	40 36.4	18 16.4	1 0.9	8 7.3	4 3.6	
	70歳以上										

問19 地域活動における女性リーダーを増やすために必要なこと

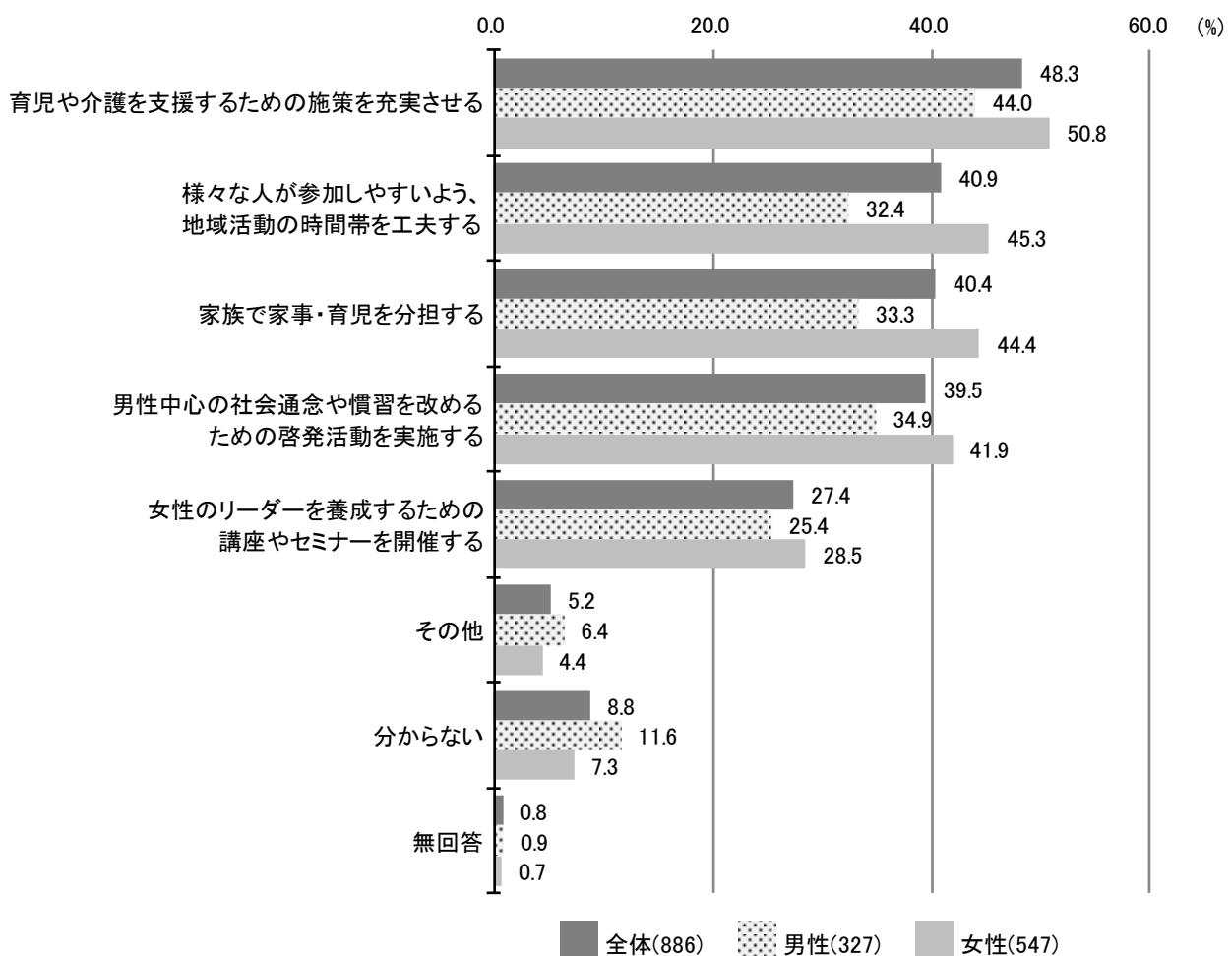
現在、女性リーダーがなかなか増えないという状況にあります。地域活動における女性リーダーを増やすためには、どのようなことが必要だと思いますか。【○はいくつでも】

○ 全体・性別の傾向

「育児や介護を支援するための施策を充実させる」が半数(48.3%)を占め最も多く、また、「様々な人が参加しやすいよう、地域活動の時間帯を工夫する」(40.9%)、「家族で家事・育児を分担する」(40.4%)、「男性中心の社会通念や慣習を改めるための啓発活動を実施する」(39.5%)がそれぞれ4割となっている。

性別で見ると、「様々な人が参加しやすいよう、地域活動の時間帯を工夫する」と「家族で家事・育児を分担する」は女性が男性を10ポイント以上上回っている。

図IX-5 地域活動における女性リーダーを増やすために必要なこと（性別）



○ 性・年齢別の傾向

「育児や介護を支援するための施策を充実させる」は女性の10・20代(66.0%)と30代(58.2%)で過半数と高く、また、「様々な人が参加しやすいよう、地域活動の時間帯を工夫する」も女性の10・20代では過半数の56.6%となっている。

「家族で家事・育児を分担する」は、女性では、年齢が低いほど高くなっている、50歳未満で半数を占め、10・20代は67.9%となっている。

表IX-3 地域活動における女性リーダーを増やすために必要なこと(性・年齢別)

		め育の児施や策介を護充を実支せするた	をよ工う夫、な地人する域が	様々家事で家事・育児をし活動加のし時や間す	する族で家事・育児を分担	動習男をを性実改中施め心の通めの通啓念發や活慣	男を開た性催めのりする講座やセミナ	をる女性のりーだーをミナナス	その他	分からぬ	無回答
		全 体	886	428	362	358	350	243	46	78	7
			100.0	48.3	40.9	40.4	39.5	27.4	5.2	8.8	0.8
男 性	合 計	327	144	106	109	114	83	21	38	3	
		100.0	44.0	32.4	33.3	34.9	25.4	6.4	11.6	0.9	
	10・20代	38	19	11	13	11	8	3	6	—	
		100.0	50.0	28.9	34.2	28.9	21.1	7.9	15.8	—	
	30代	44	18	13	16	4	10	7	8	—	
		100.0	40.9	29.5	36.4	9.1	22.7	15.9	18.2	—	
	40代	63	30	21	19	26	15	7	5	—	
		100.0	47.6	33.3	30.2	41.3	23.8	11.1	7.9	—	
女 性	50代	67	22	26	25	22	15	3	10	1	
		100.0	32.8	38.8	37.3	32.8	22.4	4.5	14.9	1.5	
	60代	41	17	11	11	20	10	—	5	—	
		100.0	41.5	26.8	26.8	48.8	24.4	—	12.2	—	
	70歳以上	72	37	24	24	30	25	1	4	2	
		100.0	51.4	33.3	33.3	41.7	34.7	1.4	5.6	2.8	
	合 計	547	278	248	243	229	156	24	40	4	
		100.0	50.8	45.3	44.4	41.9	28.5	4.4	7.3	0.7	
	10・20代	53	35	30	36	28	12	2	3	—	
		100.0	66.0	56.6	67.9	52.8	22.6	3.8	5.7	—	
	30代	79	46	36	49	27	17	3	6	—	
		100.0	58.2	45.6	62.0	34.2	21.5	3.8	7.6	—	
	40代	102	51	45	56	35	24	6	8	—	
		100.0	50.0	44.1	54.9	34.3	23.5	5.9	7.8	—	
	50代	109	51	48	42	52	30	5	12	1	
		100.0	46.8	44.0	38.5	47.7	27.5	4.6	11.0	0.9	
	60代	91	45	38	27	45	29	5	3	—	
		100.0	49.5	41.8	29.7	49.5	31.9	5.5	3.3	—	
	70歳以上	110	49	49	32	41	42	3	7	3	
		100.0	44.5	44.5	29.1	37.3	38.2	2.7	6.4	2.7	

○ 性・ライフステージ区別の傾向

「育児や介護を支援するための施策を充実させる」は、男性の家族形成期で6割、女性の独身期(18~39歳)~家族成長前期、家族成熟期で6~7割程度と高くなっている。

「様々な人が参加しやすいよう、地域活動の時間帯を工夫する」は、女性の独身期(18~39歳)と家族成長前期で6割弱と高くなっている。

「家族で家事・育児を分担する」は、女性の独身期(18~39歳)~家族成長前期で6~7割と高くなっている。

表IX-4 地域活動における女性リーダーを増やすために必要なこと
(性・ライフステージ区別別)

		め育の児施や策介を護充を実支援せするた	をよ様工う々夫、なす地人	する家族で家事・育児を分担	動習男をを性改中施め心するの	を開た性催めのりする講座	の女ダやセをミ養ナ	そ他	分から	無回答
全 体		886	428	362	358	350	243	46	78	7
		100.0	48.3	40.9	40.4	39.5	27.4	5.2	8.8	0.8
合 計		327	144	106	109	114	83	21	38	3
		100.0	44.0	32.4	33.3	34.9	25.4	6.4	11.6	0.9
独身期(18~39歳)		47	17	16	14	8	10	3	10	-
		100.0	36.2	34.0	29.8	17.0	21.3	6.4	21.3	-
家族形成期		48	28	10	20	13	12	8	4	-
		100.0	58.3	20.8	41.7	27.1	25.0	16.7	8.3	-
家族成長前期		21	9	9	8	11	1	2	1	-
		100.0	42.9	42.9	38.1	52.4	4.8	9.5	4.8	-
家族成長後期		13	3	6	5	5	3	-	2	-
		100.0	23.1	46.2	38.5	38.5	23.1	-	15.4	-
家族成熟期		8	3	1	5	5	4	-	-	-
		100.0	37.5	12.5	62.5	62.5	50.0	-	-	-
高齢期		90	43	30	28	40	29	1	6	2
		100.0	47.8	33.3	31.1	44.4	32.2	1.1	6.7	2.2
独身期(40~64歳)		54	21	23	12	17	14	4	7	-
		100.0	38.9	42.6	22.2	31.5	25.9	7.4	13.0	-
その他		44	19	11	16	14	10	3	8	1
		100.0	43.2	25.0	36.4	31.8	22.7	6.8	18.2	2.3
合 計		547	278	248	243	229	156	24	40	4
		100.0	50.8	45.3	44.4	41.9	28.5	4.4	7.3	0.7
独身期(18~39歳)		67	46	37	45	34	14	-	4	-
		100.0	68.7	55.2	67.2	50.7	20.9	-	6.0	-
家族形成期		77	44	31	54	25	18	6	5	-
		100.0	57.1	40.3	70.1	32.5	23.4	7.8	6.5	-
家族成長前期		28	18	16	17	8	6	1	1	-
		100.0	64.3	57.1	60.7	28.6	21.4	3.6	3.6	-
家族成長後期		34	14	16	15	15	6	3	5	-
		100.0	41.2	47.1	44.1	44.1	17.6	8.8	14.7	-
家族成熟期		21	13	8	11	13	6	1	1	-
		100.0	61.9	38.1	52.4	61.9	28.6	4.8	4.8	-
高齢期		148	70	64	42	58	57	6	9	3
		100.0	47.3	43.2	28.4	39.2	38.5	4.1	6.1	2.0
独身期(40~64歳)		116	45	48	35	52	33	6	11	-
		100.0	38.8	41.4	30.2	44.8	28.4	5.2	9.5	-
その他		53	27	26	23	23	14	1	3	1
		100.0	50.9	49.1	43.4	43.4	26.4	1.9	5.7	1.9

問20 女性リーダー増加の影響

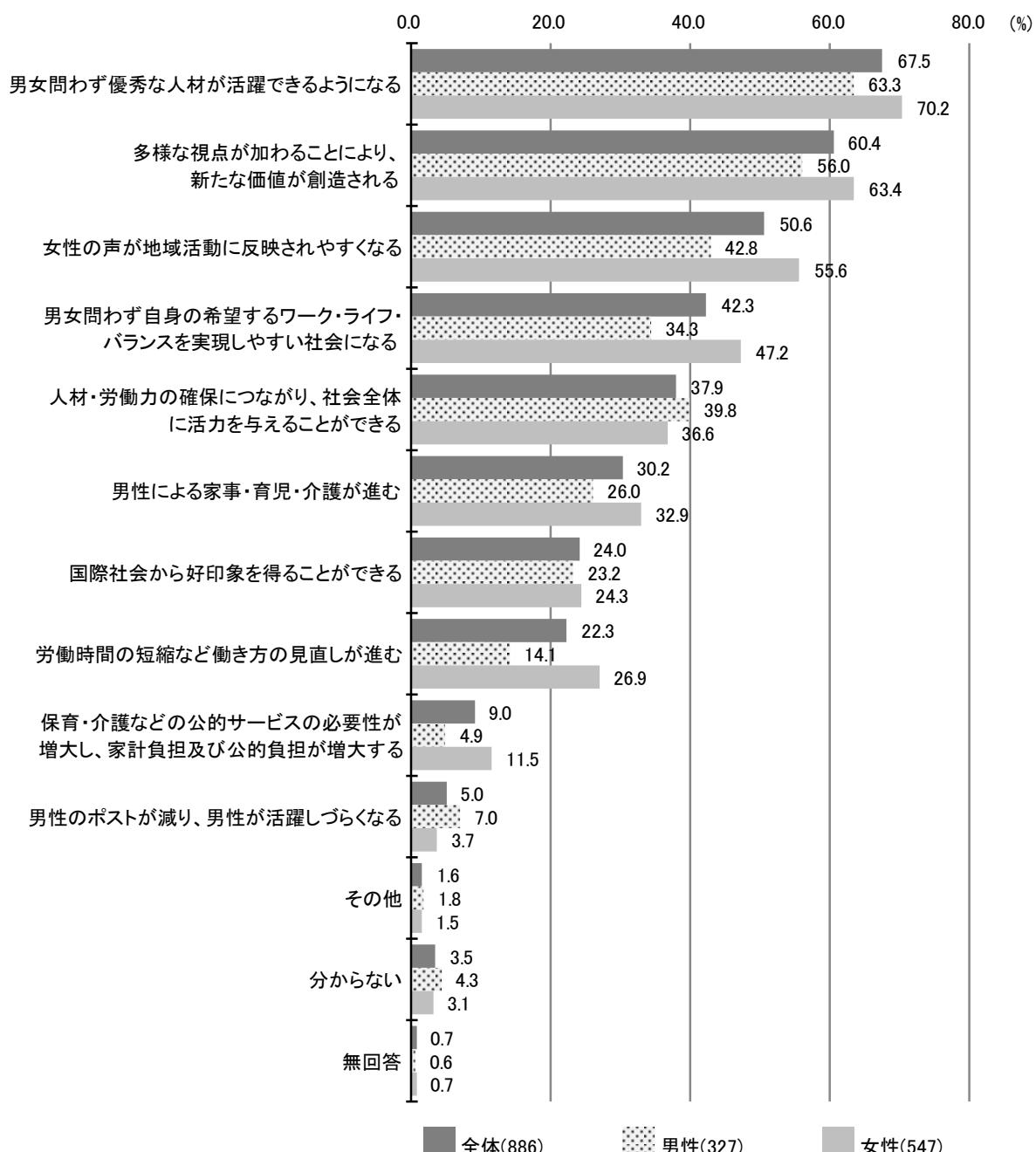
政治・経済・地域などの各分野で女性参加が進み、女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思いますか。【○はいくつでも】

○ 全体・性別の傾向

「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」が 67.5%で最も多く、次いで、「多様な視点が加わることにより、新たな価値が創造される」(60.4%)、「女性の声が地域活動に反映されやすくなる」(50.6%)となっている。

性別で見ると、「女性の声が地域活動に反映されやすくなる」、「男女問わず自身の希望するワーク・ライフ・バランスを実現しやすい社会になる」、「労働時間の短縮など働き方の見直しが進む」は女性の方が男性よりも 10 ポイント以上高くなっている。

図IX-6 女性リーダー増加の影響（性別）



○ 性・年齢別の傾向

「女性の声が地域活動に反映されやすくなる」は、女性の10・20代で64.2%と高くなっている。

「男女問わず自身の希望するワーク・ライフ・バランスを実現しやすい社会になる」は、男女共に概ね年齢が低くなるほど高くなる傾向にあるが、特に女性の40代未満では6割以上を占めている。

「男性による家事・育児・介護が進む」は、女性の50歳未満で高くなっている。

表IX-5 女性リーダー増加の影響（性・年齢別）

X. 健康について

問21 女性が性や妊娠・出産に関して自分の意志で決める上で必要なこと

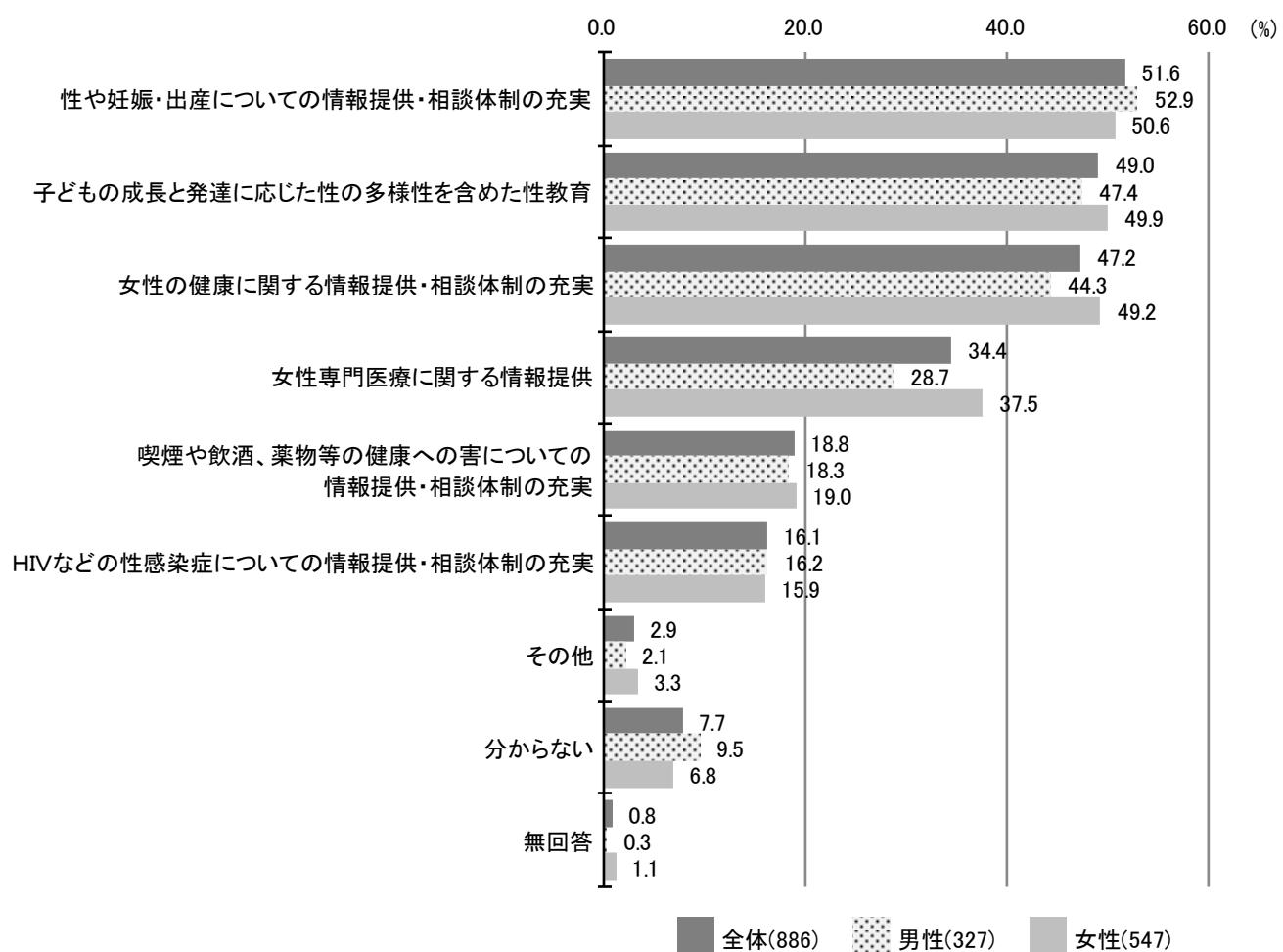
女性が自分の健康を守り、性や妊娠・出産に関することを自分の意志で決める上で、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。【3つまで○】

○ 全体・性別の傾向

「性や妊娠・出産についての情報提供・相談体制の充実」(51.6%)、「子どもの成長と発達に応じた性の多様性を含めた性教育」(49.0%)、「女性の健康に関する情報提供・相談体制の充実」(47.2%)が多くなっている。

性別で見ると、「女性専門医療に関する情報提供」は女性(37.5%)の方 8.8 ポイント高くなっている。

図X-1 女性が性や妊娠・出産に関して決める上で必要なこと（性別）



○ 性・年齢別の傾向

「性や妊娠・出産についての情報提供・相談体制の充実」は、男女共に年齢が低くなるほど高くなっている。10・20代では、男性 65.8%、女性 71.7%、30代では、男性 61.4%、女性 68.4%となっている。

「子どもの成長と発達に応じた性の多様性を含めた性教育」は、男性の 10・20代と 40 代、女性の 50 歳未満で6割前後と高くなっている。

「女性の健康に関する情報提供・相談体制の充実」は、女性の 50 代以上で5割以上と高くなっている。

「HIVなどの性感染症についての情報提供・相談体制の充実」は、男性の 10・20 代と 40 代で4人に1人が、女性の 10・20 代では3人に1人が必要と考えている。

表X-1 女性が性や妊娠・出産に関して決める上で必要なこと（性・年齢別）

		充の性実情や報妊提供・出産相談に体つ制いのて	性じ育たど性もの多成長性とを発含達めに応	提女性の相健談康体に制関のす充る実情報	報女性提供専門医療に關する情	提康喫煙・相害飲酒に酒体つ、制い薬の物充の等実情の報健	体つHIVのV充のな実情どの報の提性供感・染相症談に	その他	分からぬい	無回答	
	全 体	886 100.0	457 51.6	434 49.0	418 47.2	305 34.4	167 18.8	143 16.1	26 2.9	68 7.7	7 0.8
	合 計	327 100.0	173 52.9	155 47.4	145 44.3	94 28.7	60 18.3	53 16.2	7 2.1	31 9.5	1 0.3
男 性	10・20代	38 100.0	25 65.8	21 55.3	12 31.6	6 15.8	5 13.2	10 26.3	— —	4 10.5	— —
	30代	44 100.0	27 61.4	17 38.6	20 45.5	11 25.0	6 13.6	9 20.5	5 11.4	1 2.3	— —
	40代	63 100.0	36 57.1	40 63.5	24 38.1	13 20.6	13 20.6	16 25.4	1 1.6	2 3.2	— —
	50代	67 100.0	34 50.7	29 43.3	32 47.8	23 34.3	14 20.9	8 11.9	1 1.5	6 9.0	— —
	60代	41 100.0	21 51.2	17 41.5	20 48.8	16 39.0	10 24.4	4 9.8	— —	4 9.8	— —
	70歳以上	72 100.0	29 40.3	30 41.7	35 48.6	25 34.7	12 16.7	6 8.3	— —	14 19.4	1 1.4
	合 計	547 100.0	277 50.6	273 49.9	269 49.2	205 37.5	104 19.0	87 15.9	18 3.3	37 6.8	6 1.1
女 性	10・20代	53 100.0	38 71.7	34 64.2	23 43.4	18 34.0	7 13.2	18 34.0	3 5.7	1 1.9	— —
	30代	79 100.0	54 68.4	46 58.2	32 40.5	22 27.8	8 10.1	16 20.3	5 6.3	5 6.3	— —
	40代	102 100.0	58 56.9	61 59.8	43 42.2	40 39.2	18 17.6	19 18.6	6 5.9	5 4.9	— —
	50代	109 100.0	48 44.0	48 44.0	61 56.0	40 36.7	14 12.8	11 10.1	2 1.8	11 10.1	1 0.9
	60代	91 100.0	39 42.9	46 50.5	47 51.6	40 44.0	26 28.6	11 12.1	2 2.2	7 7.7	— —
	70歳以上	110 100.0	39 35.5	38 34.5	61 55.5	42 38.2	29 26.4	11 10.0	— —	8 7.3	5 4.5

○ 性・ライフステージ区別の傾向

「性や妊娠・出産についての情報提供・相談体制の充実」は、女性の独身期(18~39歳)~家族成長前期と家族成熟期で6割以上と高く、特に、独身期(18~39歳)では7割(70.1%)を占めている。

「子どもの成長と発達に応じた性の多様性を含めた性教育」は、男性の家族成長前期で7割、女性の独身期(18~39歳)と家族成長前期で3分の2と高くなっている。

「女性の健康に関する情報提供・相談体制の充実」は、女性の家族成熟期とその他で6割以上、高齢期と独身期(40~64歳)で過半数と高くなっている。

「女性専門医療に関する情報提供」は、女性の家族成長前期で46.4%と高くなっている。

「HIVなどの性感染症についての情報提供・相談体制の充実」は、男女共に独身期(18~39歳)で3割以上、独身期(40~64歳)で2割と高くなっている。

表X-2 女性が性や妊娠・出産に関して決める上で必要なこと(性・ライフステージ区別)

		全 体	提 供 や ・ 妊 相 談 ・ 出 制 産 の 充 実 い て の 情 報	の 子 ど も の 成 長 に 充 実 い て の 性 教 育 に 応 じ た 性	相 女 性 の 体 制 健 康 を 成 長 に 充 実 い て の 性 達 に 応 じ た 性	女 性 專 門 医 療 に 關 す る 情 報 提 供	制 害 喫 の 煙 充 実 い て の 酒 の 情 藥 物 提 供	喫 の 煙 充 実 い て の 酒 の 情 藥 物 提 供	の H I V 提 供 等 の 相 性 感 染 症 提 供 の 健 康 相 談 へ 体 の 提 供	の H I V 提 供 等 の 相 性 感 染 症 提 供 の 健 康 相 談 へ 体 の 提 供	そ の 他	分 か ら な い	無 回 答
		全 体	886 100.0	457 51.6	434 49.0	418 47.2	305 34.4	167 18.8	143 16.1	26 2.9	68 7.7	7 0.8	
		合 計	327 100.0	173 52.9	155 47.4	145 44.3	94 28.7	60 18.3	53 16.2	7 2.1	31 9.5	1 0.3	
		独身期(18~39歳)	47 100.0	27 57.4	23 48.9	15 31.9	6 12.8	9 19.1	16 34.0	1 2.1	4 8.5	— —	
		家族形成期	48 100.0	32 66.7	25 52.1	18 37.5	12 25.0	5 10.4	7 14.6	4 8.3	2 4.2	— —	
		家族成長前期	21 100.0	12 57.1	15 71.4	13 61.9	3 14.3	3 14.3	3 14.3	— —	— —	— —	
		家族成長後期	13 100.0	8 61.5	8 61.5	9 69.2	3 23.1	2 15.4	3 23.1	— —	1 7.7	— —	
		家族成熟期	8 100.0	4 50.0	4 50.0	3 37.5	5 62.5	3 37.5	2 25.0	— —	— —	— —	
		高齢期	90 100.0	38 42.2	36 40.0	45 50.0	31 34.4	17 18.9	6 6.7	— —	15 16.7	1 1.1	
		独身期(40~64歳)	54 100.0	29 53.7	19 35.2	25 46.3	22 40.7	13 24.1	11 20.4	1 1.9	4 7.4	— —	
		その他	44 100.0	22 50.0	24 54.5	15 34.1	12 27.3	8 18.2	5 11.4	1 2.3	5 11.4	— —	
		合 計	547 100.0	277 50.6	273 49.9	269 49.2	205 37.5	104 19.0	87 15.9	18 3.3	37 6.8	6 1.1	
		独身期(18~39歳)	67 100.0	47 70.1	43 64.2	29 43.3	22 32.8	6 9.0	26 38.8	3 4.5	2 3.0	— —	
		家族形成期	77 100.0	52 67.5	44 57.1	31 40.3	23 29.9	11 14.3	10 13.0	7 9.1	4 5.2	— —	
		家族成長前期	28 100.0	18 64.3	19 67.9	6 21.4	13 46.4	6 21.4	3 10.7	1 3.6	2 7.1	— —	
		家族成長後期	34 100.0	14 41.2	17 50.0	14 41.2	10 29.4	6 17.6	3 8.8	2 5.9	5 14.7	— —	
		家族成熟期	21 100.0	13 61.9	11 52.4	13 61.9	7 33.3	4 19.0	1 4.8	— —	1 4.8	— —	
		高齢期	148 100.0	57 38.5	59 39.9	81 54.7	62 41.9	37 25.0	13 8.8	1 0.7	11 7.4	5 3.4	
		独身期(40~64歳)	116 100.0	54 46.6	56 48.3	60 51.7	44 37.9	15 12.9	25 21.6	4 3.4	10 8.6	— —	
		その他	53 100.0	21 39.6	24 45.3	33 62.3	21 39.6	17 32.1	5 9.4	— —	2 3.8	1 1.9	

XI. 人権問題について

問22 各種ハラスメントを受けた経験

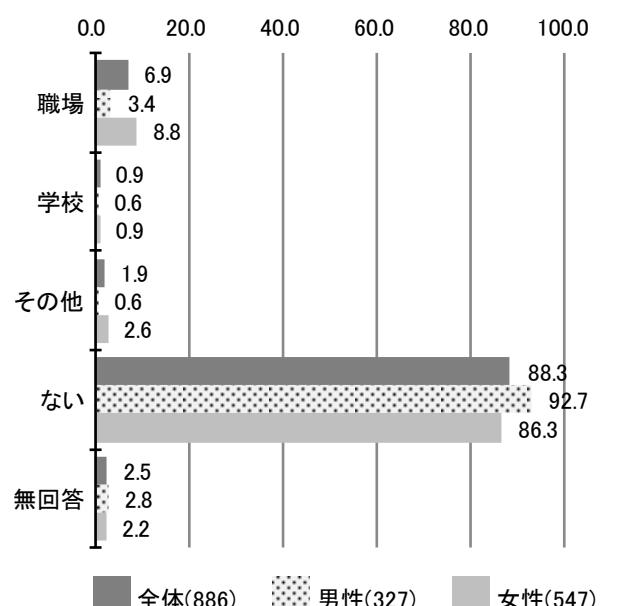
あなたは、ここ3年以内に次の①～⑦のハラスメントを受けたことがありますか。
【○はいくつでも】

○ 全体・性別の傾向

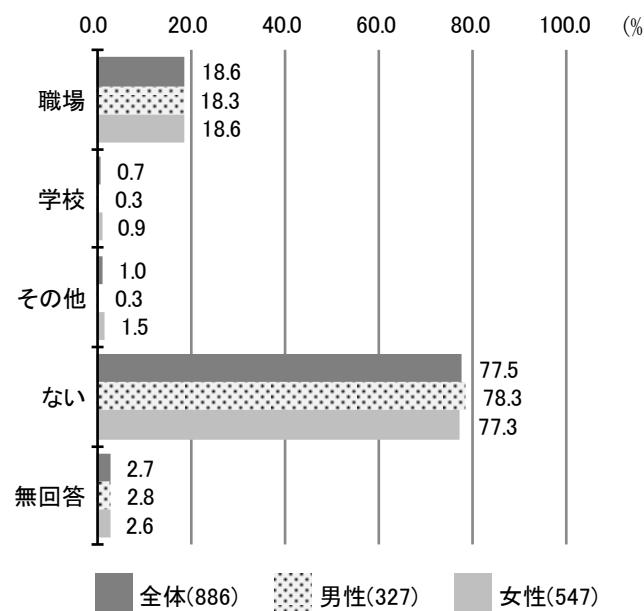
職場でハラスメントを受けたという人が比較的多く、「パワー・ハラスメント」が 18.6%、「モラル・ハラスメント」が 10.0%、「セクシュアル・ハラスメント」が 6.9%となっている。性別で見ると「セクシュアル・ハラスメント」を受けたという人は女性で 8.8%であり、男性(3.4%)を 5.4 ポイント上回る。

図XI-1 各種ハラスメントを受けた経験（性別）

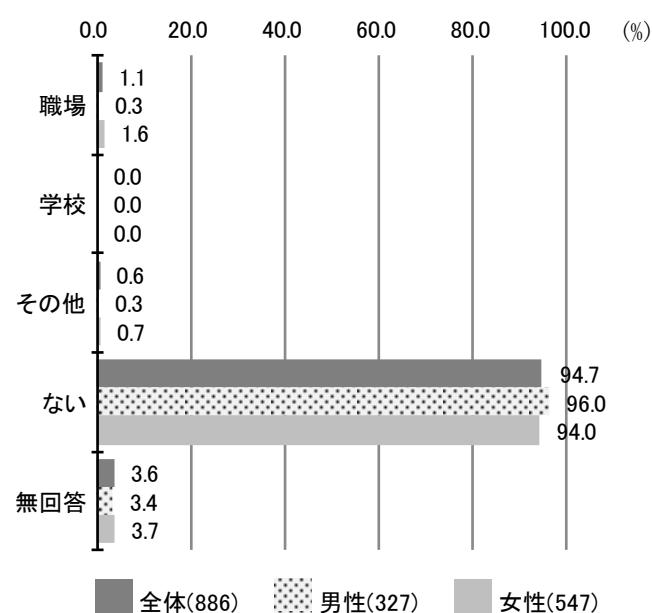
① セクシュアル・ハラスメント



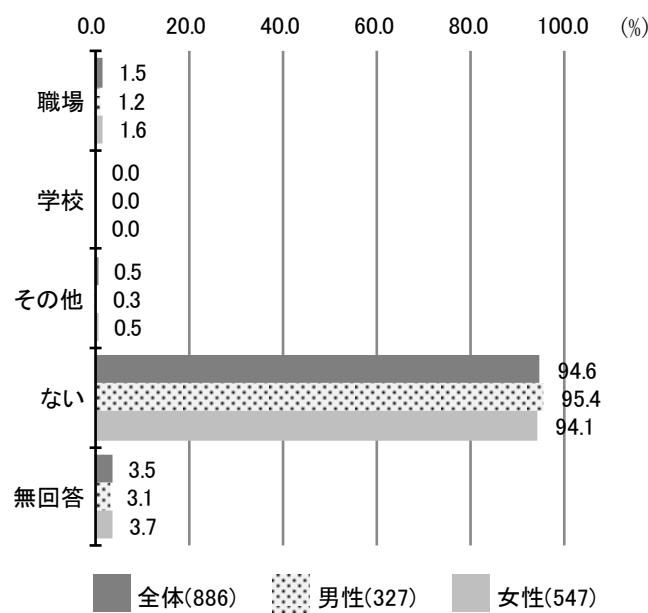
② パワー・ハラスメント



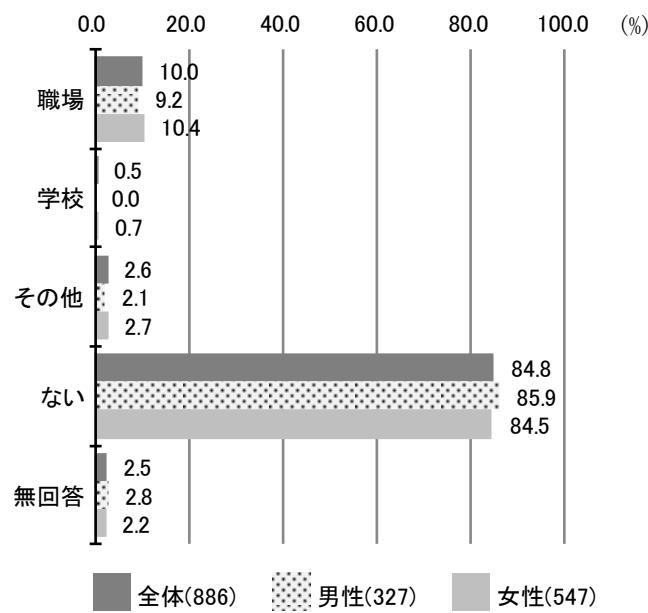
③ マタニティ・ハラスメント、パタニティ・ハラスメント



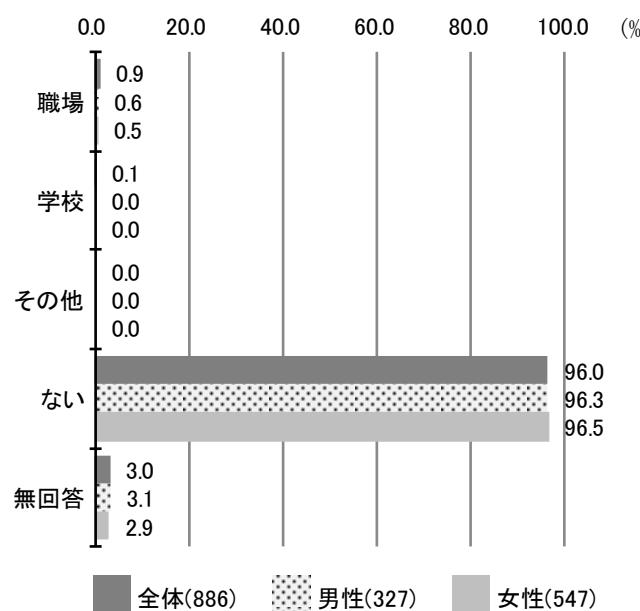
④ 育児休業、介護休暇に係るハラスメント



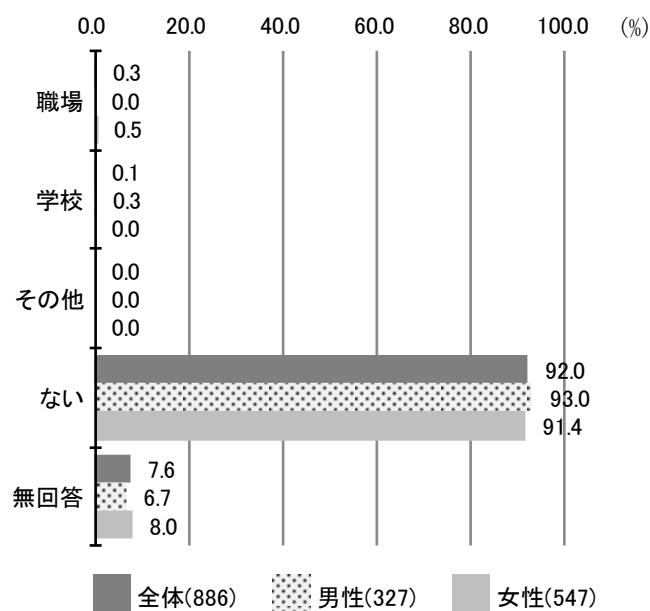
⑤ モラル・ハラスメント



⑥ SOG I (性的指向・性自認) ハラスメント



⑦ その他



○ 性・年齢別の傾向

① セクシュアル・ハラスメント

「ない」と無回答を除いたセクシュアル・ハラスメントを『受けたことがある』人は、女性の 10・20 代で 17.0%、30 代で 20.3% と高くなっている。また、40~60 代も 1 割の人が『受けたことがある』と回答している。
男性では、10・20 代で 13.2% と高くなっている。

表XI-1 セクシャル・ハラスメントを受けた経験（性・年齢別）

		職場	学校	その他	【受けたことがある】	ない	無回答	
全 体		886	61	8	17	82	782	22
		100.0	6.9	0.9	1.9	9.3	88.3	2.5
男性	合 計	327	11	2	2	15	303	9
		100.0	3.4	0.6	0.6	4.6	92.7	2.8
	10・20代	38	3	2	—	5	33	—
		100.0	7.9	5.3	—	13.2	86.8	—
	30代	44	2	—	—	2	42	—
		100.0	4.5	—	—	4.5	95.5	—
	40代	63	1	—	1	2	61	—
		100.0	1.6	—	1.6	3.2	96.8	—
女性	50代	67	3	—	—	3	64	—
		100.0	4.5	—	—	4.5	95.5	—
	60代	41	1	—	1	2	38	1
		100.0	2.4	—	2.4	4.9	92.7	2.4
	70歳以上	72	1	—	—	1	64	7
		100.0	1.4	—	—	1.4	88.9	9.7
	合 計	547	48	5	14	63	472	12
		100.0	8.8	0.9	2.6	11.5	86.3	2.2
	10・20代	53	8	2	1	9	44	—
		100.0	15.1	3.8	1.9	17.0	83.0	—
	30代	79	14	1	2	16	63	—
		100.0	17.7	1.3	2.5	20.3	79.7	—
	40代	102	9	—	3	12	89	1
		100.0	8.8	—	2.9	11.8	87.3	1.0
	50代	109	8	1	2	10	98	1
		100.0	7.3	0.9	1.8	9.2	89.9	0.9
	60代	91	7	—	4	11	79	1
		100.0	7.7	—	4.4	12.1	86.8	1.1
	70歳以上	110	2	—	2	4	97	9
		100.0	1.8	—	1.8	3.6	88.2	8.2

② パワー・ハラスメント

「ない」と無回答を除いたパワー・ハラスメントを『受けたことがある』人は、男女共に 30 代で高くなっている、特に、女性の 30 代では3人に1人(32.9%)が『受けたことがある』と回答している。

表XI-2 パワー・ハラスメントを受けた経験（性・年齢別）

		全 体	職 場	学 校	そ の 他	【受 け た こと が あ る】	な い	無 回 答
全 体		886 100.0	165 18.6	6 0.7	9 1.0	175 19.8	687 77.5	24 2.7
合 計		327 100.0	60 18.3	1 0.3	1 0.3	62 19.0	256 78.3	9 2.8
男 性	10・20代	38 100.0	5 13.2	1 2.6	1 2.6	7 18.4	31 81.6	- -
	30代	44 100.0	13 29.5	- -	- -	13 29.5	31 70.5	- -
	40代	63 100.0	16 25.4	- -	- -	16 25.4	47 74.6	- -
	50代	67 100.0	15 22.4	- -	- -	15 22.4	52 77.6	- -
	60代	41 100.0	8 19.5	- -	- -	8 19.5	32 78.0	1 2.4
	70歳以上	72 100.0	3 4.2	- -	- -	3 4.2	62 86.1	7 9.7
	合 計	547 100.0	102 18.6	5 0.9	8 1.5	110 20.1	423 77.3	14 2.6
	10・20代	53 100.0	9 17.0	1 1.9	- -	10 18.9	43 81.1	- -
女 性	30代	79 100.0	26 32.9	1 1.3	1 1.3	26 32.9	53 67.1	- -
	40代	102 100.0	14 13.7	- -	1 1.0	15 14.7	86 84.3	1 1.0
	50代	109 100.0	29 26.6	1 0.9	2 1.8	30 27.5	78 71.6	1 0.9
	60代	91 100.0	20 22.0	1 1.1	1 1.1	21 23.1	69 75.8	1 1.1
	70歳以上	110 100.0	3 2.7	1 0.9	3 2.7	7 6.4	92 83.6	11 10.0

③ モラル・ハラスメント

「ない」と無回答を除いたモラル・ハラスメントを『受けたことがある』人は、男女共に30代で高くなっている、特に、女性の30代では4人に1人(24.1%)が『受けたことがある』と回答している。

表XI-3 モラル・ハラスメントを受けた経験（性・年齢別）

		全 体	職 場	学 校	そ の 他	【受 け た こと が あ る】	な い	無 回 答
全 体		886	89	4	23	113	751	22
		100.0	10.0	0.5	2.6	12.8	84.8	2.5
男 性	合 計	327	30	-	7	37	281	9
		100.0	9.2	-	2.1	11.3	85.9	2.8
	10・20代	38	4	-	-	4	34	-
		100.0	10.5	-	-	10.5	89.5	-
	30代	44	6	-	2	8	36	-
		100.0	13.6	-	4.5	18.2	81.8	-
	40代	63	9	-	1	10	53	-
		100.0	14.3	-	1.6	15.9	84.1	-
女 性	合 計	547	57	4	15	73	462	12
		100.0	10.4	0.7	2.7	13.3	84.5	2.2
	10・20代	53	4	2	-	5	48	-
		100.0	7.5	3.8	-	9.4	90.6	-
	30代	79	16	1	4	19	60	-
		100.0	20.3	1.3	5.1	24.1	75.9	-
	40代	102	11	-	8	19	82	1
		100.0	10.8	-	7.8	18.6	80.4	1.0
女 性	50代	109	15	1	1	17	91	1
		100.0	13.8	0.9	0.9	15.6	83.5	0.9
	60代	91	9	-	2	11	79	1
		100.0	9.9	-	2.2	12.1	86.8	1.1
70歳以上		110	2	-	-	2	99	9
		100.0	1.8	-	-	1.8	90.0	8.2

【参考】

表XI-4 セクシャル・ハラスメントを受けた経験（その他の性自認）

全 体	職 場	学 校	そ の 他	【受 け た こ と が あ る 】	な い
4 100.0	2 50.0	1 25.0	- -	3 75.0	1 25.0

表XI-5 S O G I (性的指向・性自認) ハラスメントを受けた経験(その他の性自認)

全 体	職 場	学 校	そ の 他	【受 け た こ と が あ る 】	な い
4 100.0	3 75.0	1 25.0	- -	3 75.0	1 25.0

問22-1 ハラスメントを受けた際の相談の有無

【ハラスメントを受けたことがある(問22で「1」~「3」のいずれかに「○」をした)方にお聞きします。】

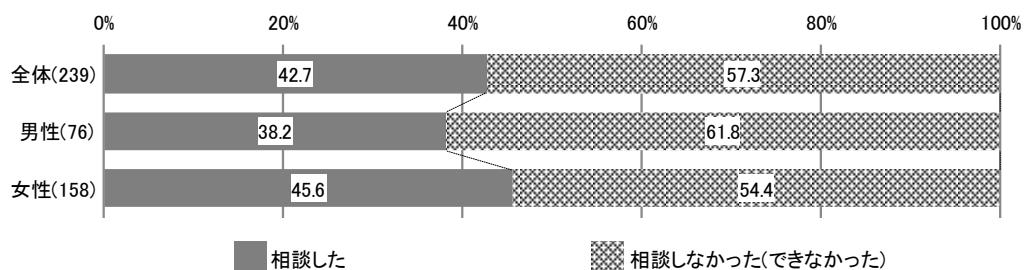
あなたが受けたハラスメントについて、どなたかに相談しましたか。【1つだけ○】

○ 全体・性別の傾向

「相談した」人が42.7%、「相談しなかった(できなかった)」人が57.3%である。

性別で見ると、女性の方が「相談した」人の割合が高くなっている。

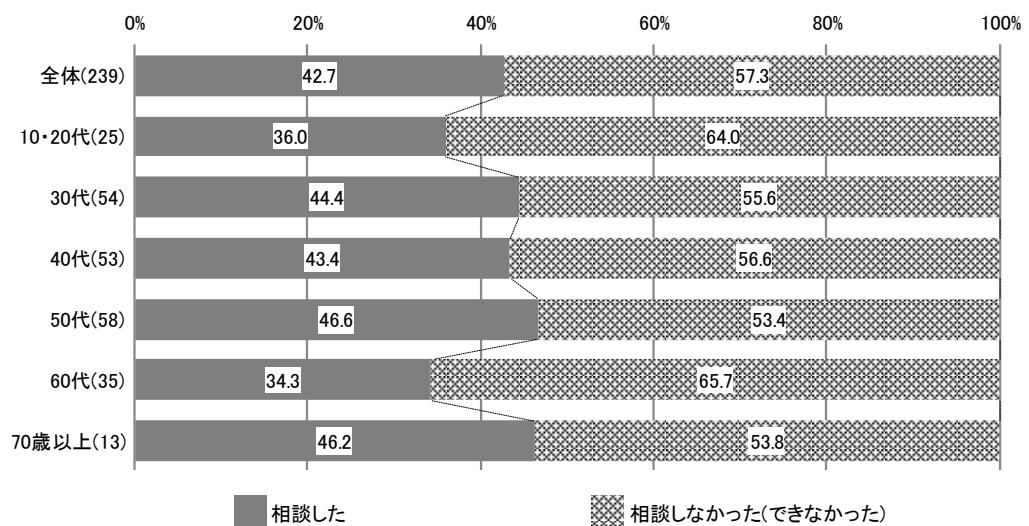
図XI-2 ハラスメントを受けた際の相談の有無(性別)



○ 年齢別の傾向

10・20代と60代では「相談した」が4割を下回り、他の世代に比べて低くなっている。

図XI-3 ハラスメントを受けた際の相談の有無(年齢別)



【参考】

表XI-6 ハラスメントを受けた際の相談の有無(その他の性自認)

全 体	相 談 し た	相 で 談 き な な か つ つ た た)
3 100.0	-	3 100.0

問22-1-1 ハラスメントを受けた際の相談先

【問22-1で「1. 相談した」に「○」をした方にお聞きします。】

そのとき、どこ(だれ)に相談しましたか。【○はいくつでも】

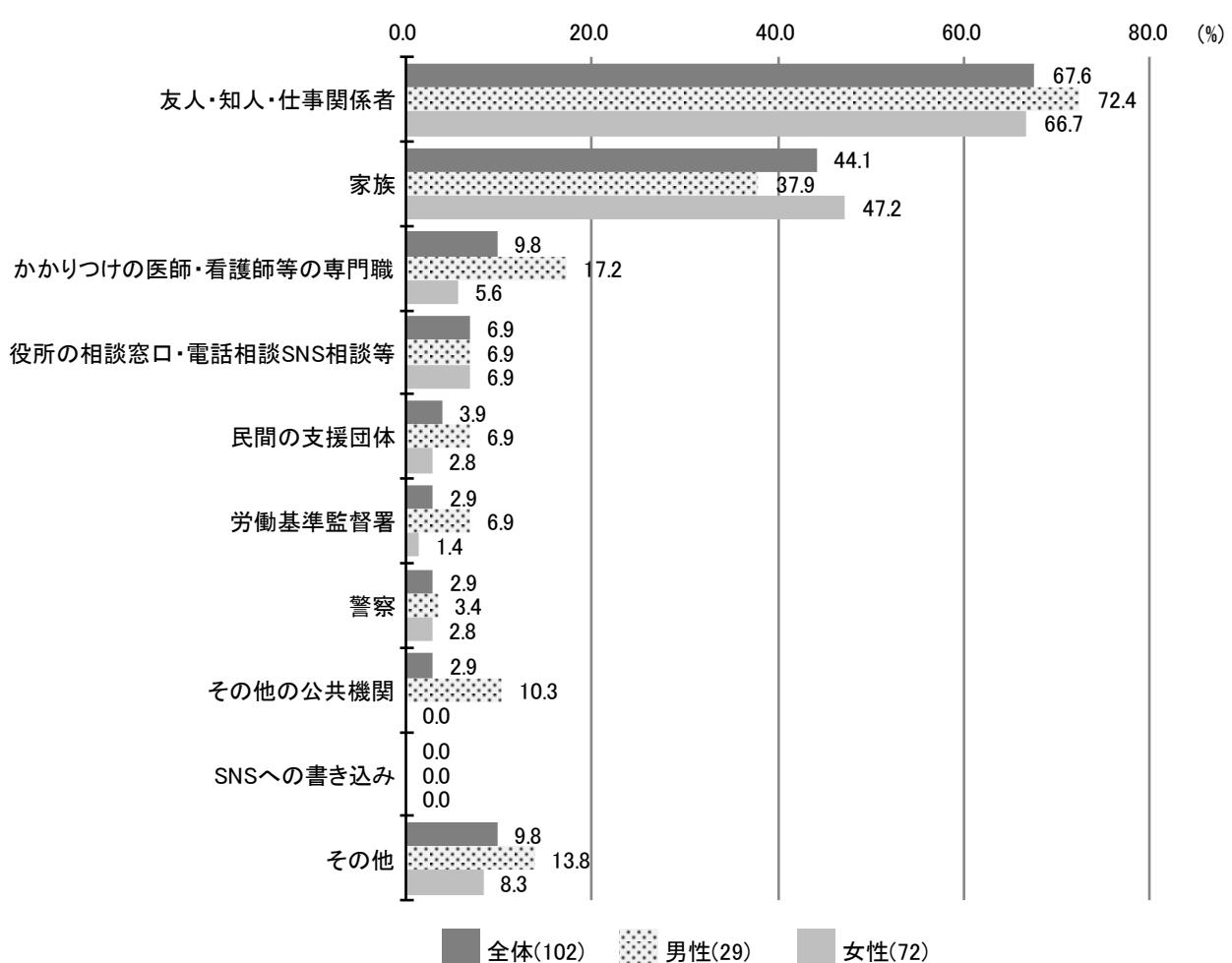
○ 全体・性別の傾向

「友人・知人・仕事関係者」が67.6%で最も多く、次いで、「家族」が44.1%となっている。

性別で見ると、「かかりつけの医師・看護師等の専門職」は、男性では17.2%であり女性(5.6%)を10ポイント以上上回っている。

また、「その他の公共機関」は、男性で10.3%となっているが、女性ではいなかつた。

図XI-4 ハラスメントを受けた際の相談先（性別）



問22-1-2 ハラスメントを相談しなかった（できなかった）理由

【問22-1で「2.相談しなかった（できなかった）」に「○」をした方にお聞きします。】

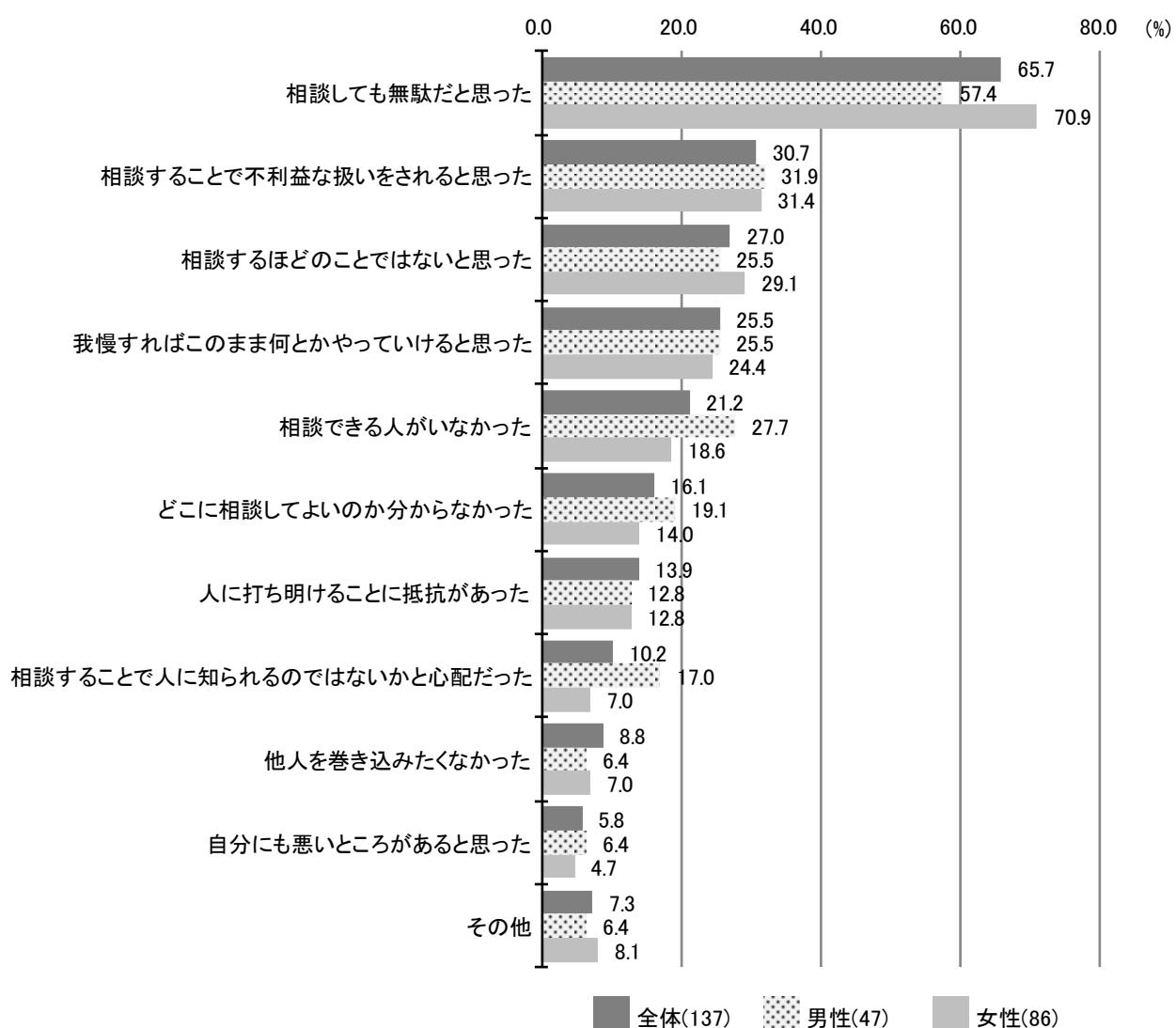
相談しなかった（できなかった）のはなぜですか。【○はいくつでも】

○ 全体・性別の傾向

「相談しても無駄だと思った」が 65.7% で最も多く、次いで、「相談することで不利益な扱いをされたと思った」が 30.7% となっている。

性別で見ると、「相談しても無駄だと思った」は、女性の方が男性よりも 13.5 ポイント高くなっている。

図XI-5 ハラスメントを相談しなかった（できなかった）理由（性別）



○ 年齢別の傾向

「相談することで不利益な扱いをされると思った」は、50代で45.2%と高くなっている。

「相談するほどのことではないと思った」は、40歳以上では3割以上となっている。

「相談できる人がいなかった」は60歳以上で3割と高くなっている。

表XI-7 ハラスメントを相談しなかった（できなかった）理由（年齢別）

		その他																
		相談しても無駄だと思った	相談するところでは無い	相談するほどのことではない	相談するけれど不利益な扱い	相談すると思つた	我慢すればこのまま何とか	やつていけると思つた	相談できる人がいなかつた	どこに相談してよいのか分か	らなかつた	あつた	人に打ち明けることに抵抗が	相談することで人に知られる	のではないかと心配だつた	他人を巻き込みたくなかつた	自分にも悪いところがあると	思つた
全体		137	90	42	37	35	29	22	19	14	12	8	10					
全体	137	90	42	37	35	29	22	19	14	12	8	10						
	100.0	65.7	30.7	27.0	25.5	21.2	16.1	13.9	10.2	8.8	5.8	7.3						
10~30代	46	29	14	8	13	9	9	8	8	5	3	5						
	100.0	63.0	30.4	17.4	28.3	19.6	19.6	17.4	17.4	10.9	6.5	10.9						
40代	30	21	8	10	5	4	6	2	1	3	2	1						
	100.0	70.0	26.7	33.3	16.7	13.3	20.0	6.7	3.3	10.0	6.7	3.3						
50代	31	21	14	10	9	7	1	7	4	3	2	2						
	100.0	67.7	45.2	32.3	29.0	22.6	3.2	22.6	12.9	9.7	6.5	6.5						
60歳以上	30	19	6	9	8	9	6	2	1	1	1	1						
	100.0	63.3	20.0	30.0	26.7	30.0	20.0	6.7	3.3	3.3	3.3	3.3						

【参考】

表XII-8 ハラスメントを相談しなかった（できなかった）理由（その他の性自認）

相談する場所													その他		
全 体		思 考 相 談 し て も 無 駄 だ と	思 考 相 談 す る こ と で 不 利 と さ れ る と	思 考 相 談 す る ほ ど の こ と で 不 利 と さ れ る と											
3	1	-	-	-	2	-	-	-	2	-	2	1	-	-	
100.0	33.3	-	-	-	66.7	-	-	-	66.7	-	66.7	33.3	-	-	

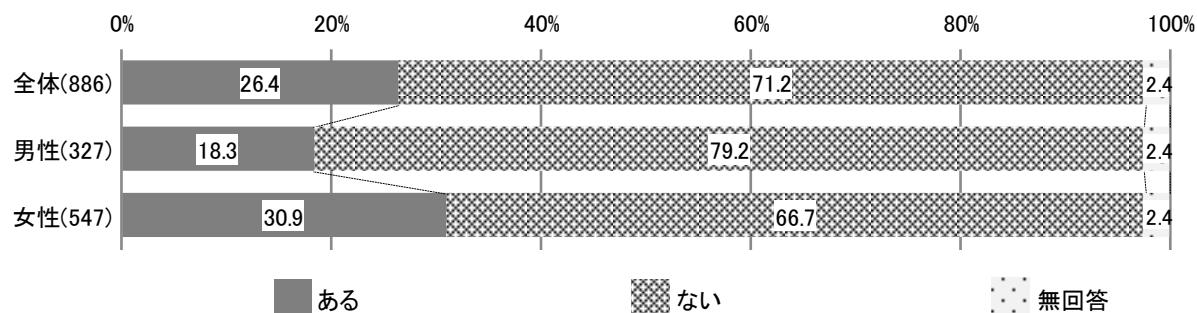
問23 性別による役割分担に悩んだ経験の有無

あなたは、これまでの生活の中で、「女らしくしなさい」、「男はこうすべきだ」等といった性別役割(ジェンダー含む)について悩んだり、疑問を感じたり、嫌な思いをしたことや身近な人が悩んでいる場面にあったことがありますか。【1つだけ○】

○ 全体・性別の傾向

「ある」という人は女性では3割(30.9%)となっており、男性(18.3%)を12.6ポイント上回っている。

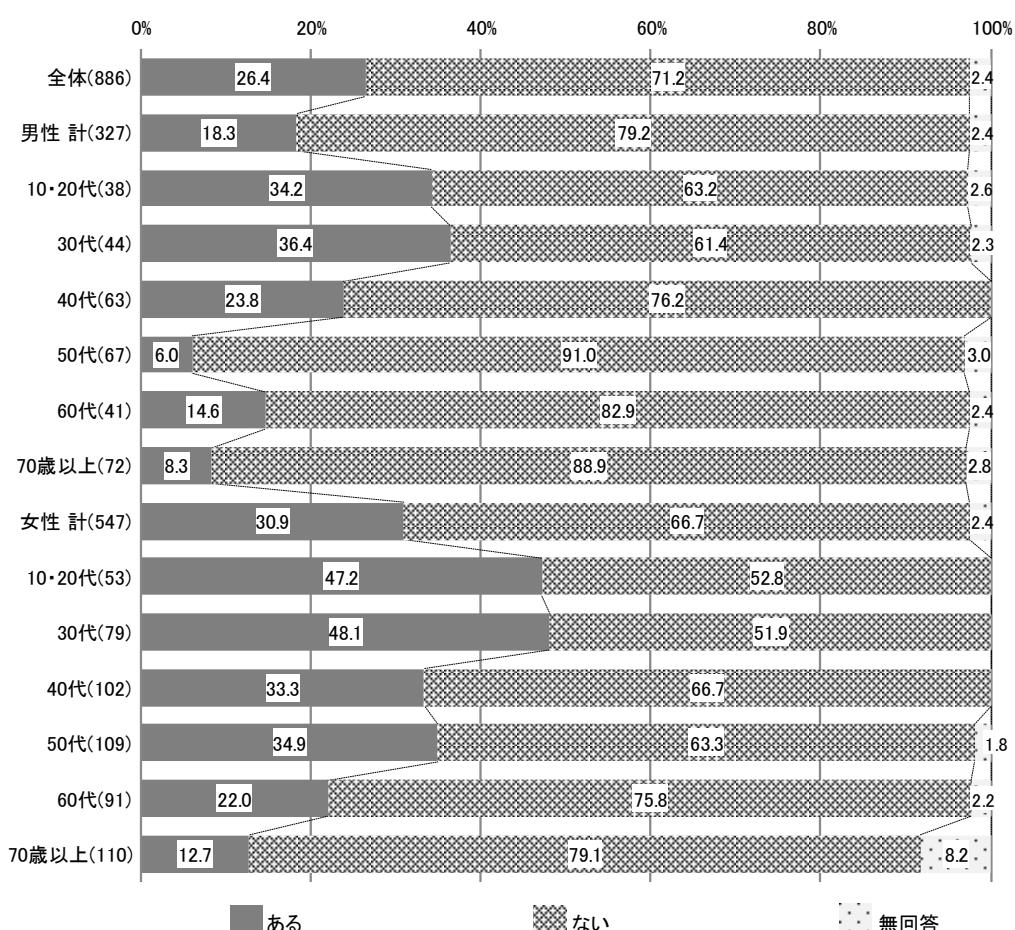
図XI-6 性別による役割分担に悩んだ経験の有無（性別）



○ 性・年齢別の傾向

「ある」という人は男女共に40歳未満で高くなっている。

図XI-7 性別による役割分担に悩んだ経験の有無（性・年齢別）



【参考】

表XI-9 性別による役割分担に悩んだ経験の有無（その他の性自認）

全 体	あ る	な い
4	3	1
100.0	75.0	25.0

問24 男性特有の負担感や生きづらさ

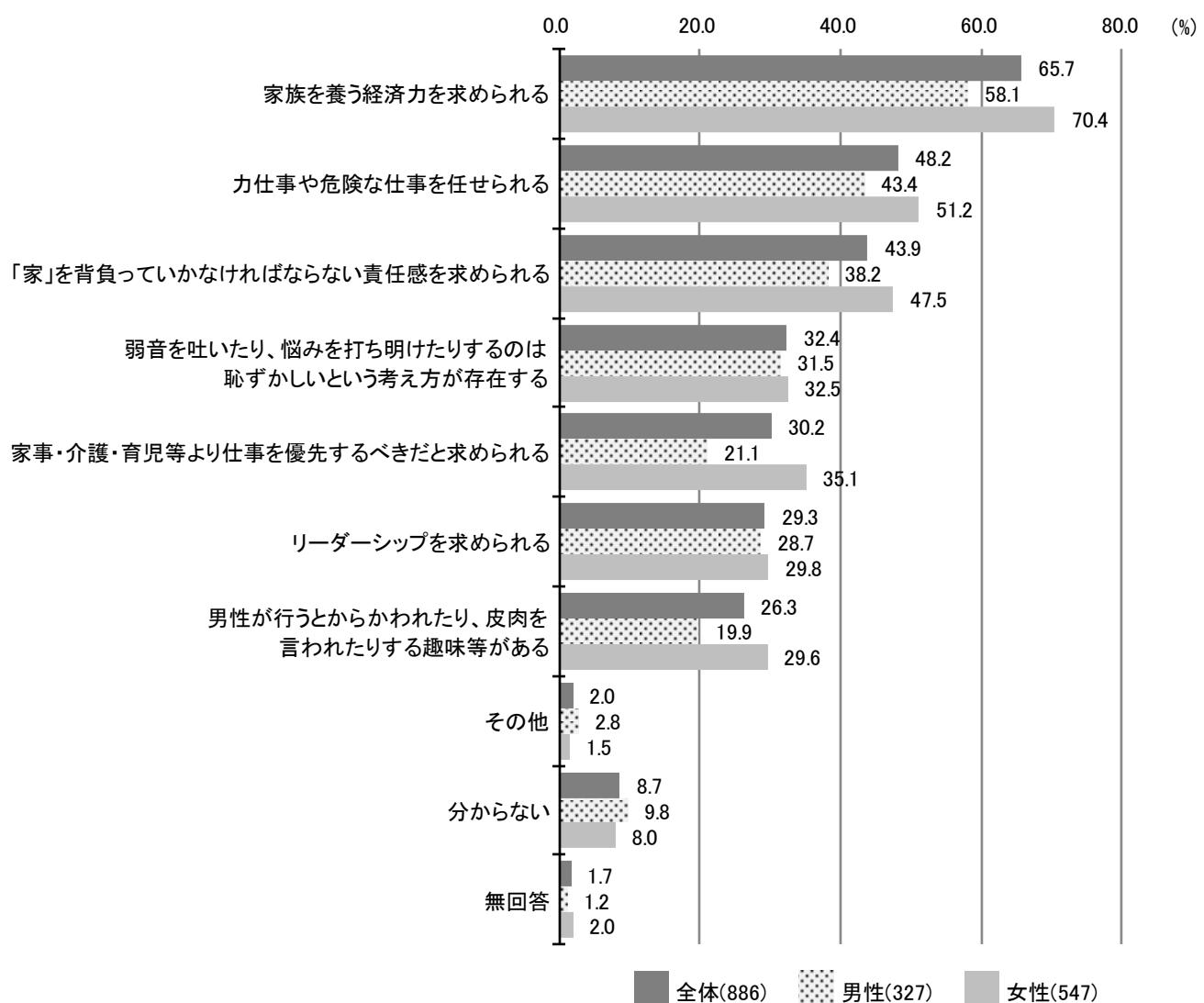
日本社会において「男性である」がゆえに生じる男性特有の負担感や生きづらさとしては、どのようなものがあると思いますか。(どの性別の方もお答えください。)【○はいくつでも】

○ 全体・性別の傾向

「家族を養う経済力を求められる」が 65.7% で最も多く、次いで、「力仕事や危険な仕事を任せられる」(48.2%)、「家」を背負っていかなければならない責任感を求められる」(43.9%) となっている。

性別で見ると、「家事・介護・育児等より仕事を優先するべきだと求められる」は女性の方が男性よりも 14.0 ポイント高くなっている。そのほか、女性の方が「家族を養う経済力を求められる」で 12.3 ポイント、「男性が行うとからかわれたり、皮肉を言われたりする趣味等がある」で 9.7 ポイント、「家」を背負っていかなければならない責任感を求められる」で 9.3 ポイント男性より高くなっている。

図XI-8 男性特有の負担感や生きづらさ (性別)



○ 性・年齢別の傾向

「家族を養う経済力を求められる」は、男性では50歳未満で6割以上となっており、特に30代で70.5%と高くなっている。

「力仕事や危険な仕事を任せられる」は、男性では50歳未満で過半数となっており、特に30代では61.4%と高くなっている。女性では40歳未満と60代で6割以上となっている。

「弱音を吐いたり、悩みを打ち明けたりするのは恥ずかしいという考え方がある」は、男性の10・20代で44.7%となっており他の世代を10ポイント以上上回っている。

「男性が行うとからかわれたり、皮肉を言われたりする趣味等がある」は、男女共に概ね年齢が低いほど高くなる傾向にあり、特に男性の30代では45.5%と他の世代を10ポイント以上上回っている。

表XI-10 男性特有の負担感や生きづらさ（性・年齢別）

問25 メディアにおける性や暴力表現についての考え方

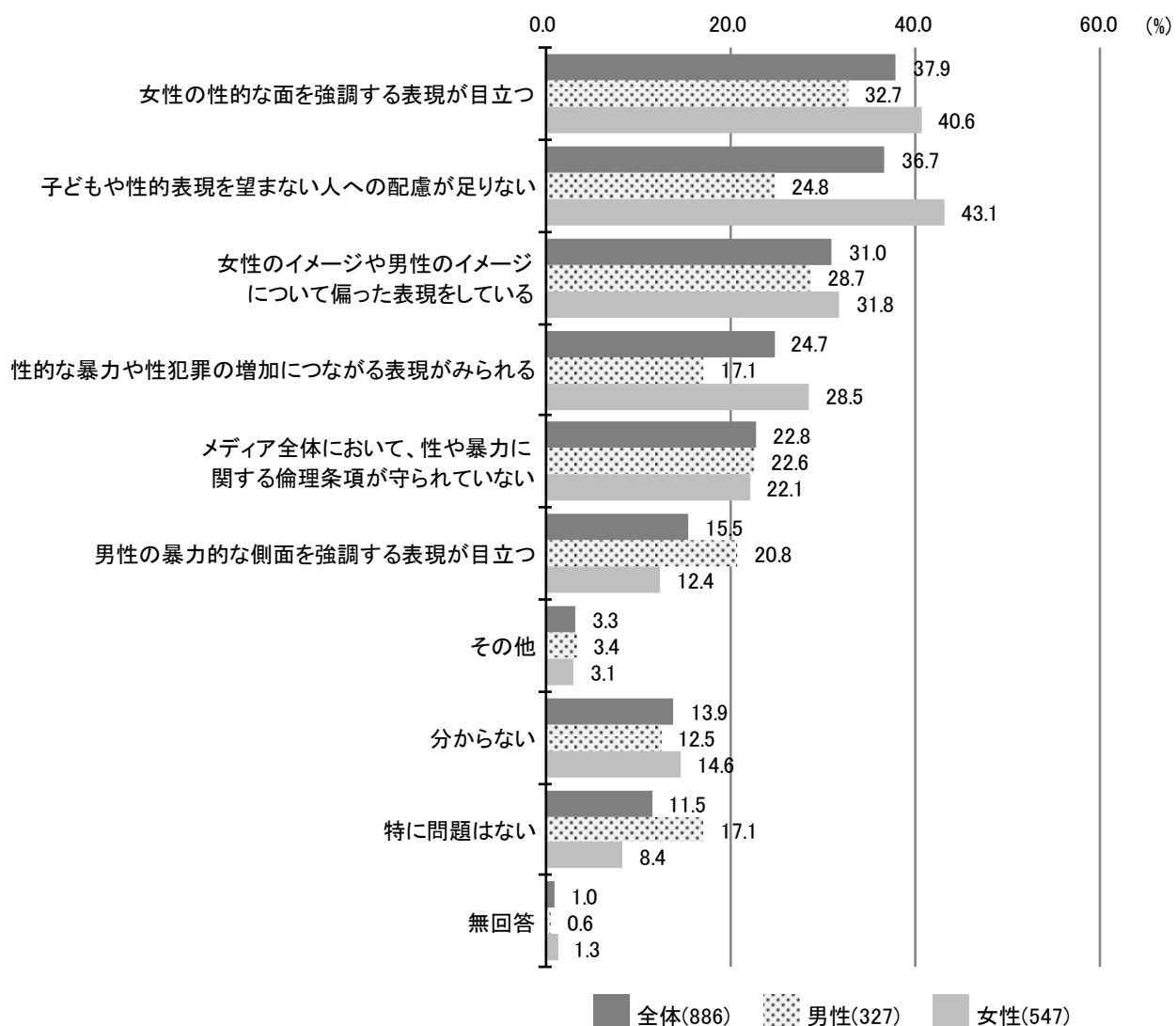
テレビ、ラジオ、インターネット、雑誌、広告などのメディアにおける性や暴力表現について、あなたはどのように感じていますか。【○はいくつでも】

○ 全体・性別の傾向

「女性の性的な面を強調する表現が目立つ」が37.9%、「子どもや性的表現を望まない人への配慮が足りない」が36.7%で多くなっている。そのほか、「女性のイメージや男性のイメージについて偏った表現をしている」が31.0%となっている。

性別で見ると、女性では「子どもや性的表現を望まない人への配慮が足りない」が43.1%で最も多く、男性(24.8%)を18.3ポイント上回る。また、「性的な暴力や性犯罪の増加につながる表現がみられる」も女性は28.5%で、男性(17.1%)を11.4ポイント上回っている。

図XI-9 メディアにおける性や暴力表現についての考え方（性別）



○ 性・年齢別の傾向

「女性の性的な面を強調する表現が目立つ」、「子どもや性的表現を望まない人への配慮が足りない」、「女性のイメージや男性のイメージについて偏った表現をしている」については、女性の場合、年齢が低くなるほど高くなる傾向にある。特に、「女性の性的な面を強調する表現が目立つ」は、女性の10・20代で60.4%となっており、他の世代を大きく上回っている。

また、「女性の性的な面を強調する表現が目立つ」は、男性の場合は、40歳以上で高くなっている。

表XI-11 メディアにおける性や暴力表現についての考え方（性・年齢別）

		全 体	表女性 がの 目性 立的 つな 面を 強調 する	い子 どへ もや 配性 慮的 が表 足現 りを な望 いま な	をし てジ いに るつ いー 偏や つ男 た性 の表 の現 現イ	メ女 一性 いに るメ 表や 現性 が犯 れた られ の現 現イ	に性 的な なが 暴る 表や 現性 が犯 れた られ の現 現イ	守 られ てに 暴力 が暴 る力 が犯 れた られ の現 現イ	やメ デイ アに い関 全體 なが 暴力 が犯 れた られ の現 現イ	メイ アに い関 全體 なが 暴力 が犯 れた られ の現 現イ	する 表の 現暴 が力 目的 立な つ側 面を 強調	その 他	分 か ら な い	特 に 問 題 は な い	無 回 答
		全 体	886	336	325	275	219	202	137	29	123	102	9		
			100.0	37.9	36.7	31.0	24.7	22.8	15.5	3.3	13.9	11.5	1.0		
男 性	合 計	327	107	81	94	56	74	68	11	41	56	2			
		100.0	32.7	24.8	28.7	17.1	22.6	20.8	3.4	12.5	17.1	0.6			
	10・20代	38	10	9	13	5	9	8	1	3	12	—			
		100.0	26.3	23.7	34.2	13.2	23.7	21.1	2.6	7.9	31.6	—			
	30代	44	9	11	13	5	4	11	6	5	7	1			
		100.0	20.5	25.0	29.5	11.4	9.1	25.0	13.6	11.4	15.9	2.3			
	40代	63	22	18	20	8	16	15	3	5	13	—			
		100.0	34.9	28.6	31.7	12.7	25.4	23.8	4.8	7.9	20.6	—			
	50代	67	24	15	22	14	15	9	—	14	10	—			
		100.0	35.8	22.4	32.8	20.9	22.4	13.4	—	20.9	14.9	—			
女 性	60代	41	17	9	13	10	11	7	1	5	4	—			
		100.0	41.5	22.0	31.7	24.4	26.8	17.1	2.4	12.2	9.8	—			
	70歳以上	72	24	18	13	14	19	17	—	9	10	1			
		100.0	33.3	25.0	18.1	19.4	26.4	23.6	—	12.5	13.9	1.4			
	合 計	547	222	236	174	156	121	68	17	80	46	7			
		100.0	40.6	43.1	31.8	28.5	22.1	12.4	3.1	14.6	8.4	1.3			
	10・20代	53	32	23	23	13	10	8	4	3	7	—			
		100.0	60.4	43.4	43.4	24.5	18.9	15.1	7.5	5.7	13.2	—			
	30代	79	36	40	32	18	19	6	4	6	9	—			
		100.0	45.6	50.6	40.5	22.8	24.1	7.6	5.1	7.6	11.4	—			
	40代	102	38	49	39	37	25	8	4	11	11	—			
		100.0	37.3	48.0	38.2	36.3	24.5	7.8	3.9	10.8	10.8	—			
	50代	109	46	50	31	37	20	13	1	16	10	1			
		100.0	42.2	45.9	28.4	33.9	18.3	11.9	0.9	14.7	9.2	0.9			
	60代	91	35	35	24	26	19	14	3	16	6	1			
		100.0	38.5	38.5	26.4	28.6	20.9	15.4	3.3	17.6	6.6	1.1			
	70歳以上	110	33	37	25	24	28	19	1	27	3	5			
		100.0	30.0	33.6	22.7	21.8	25.5	17.3	0.9	24.5	2.7	4.5			

問26 社会における人権問題の対応状況についての考え方

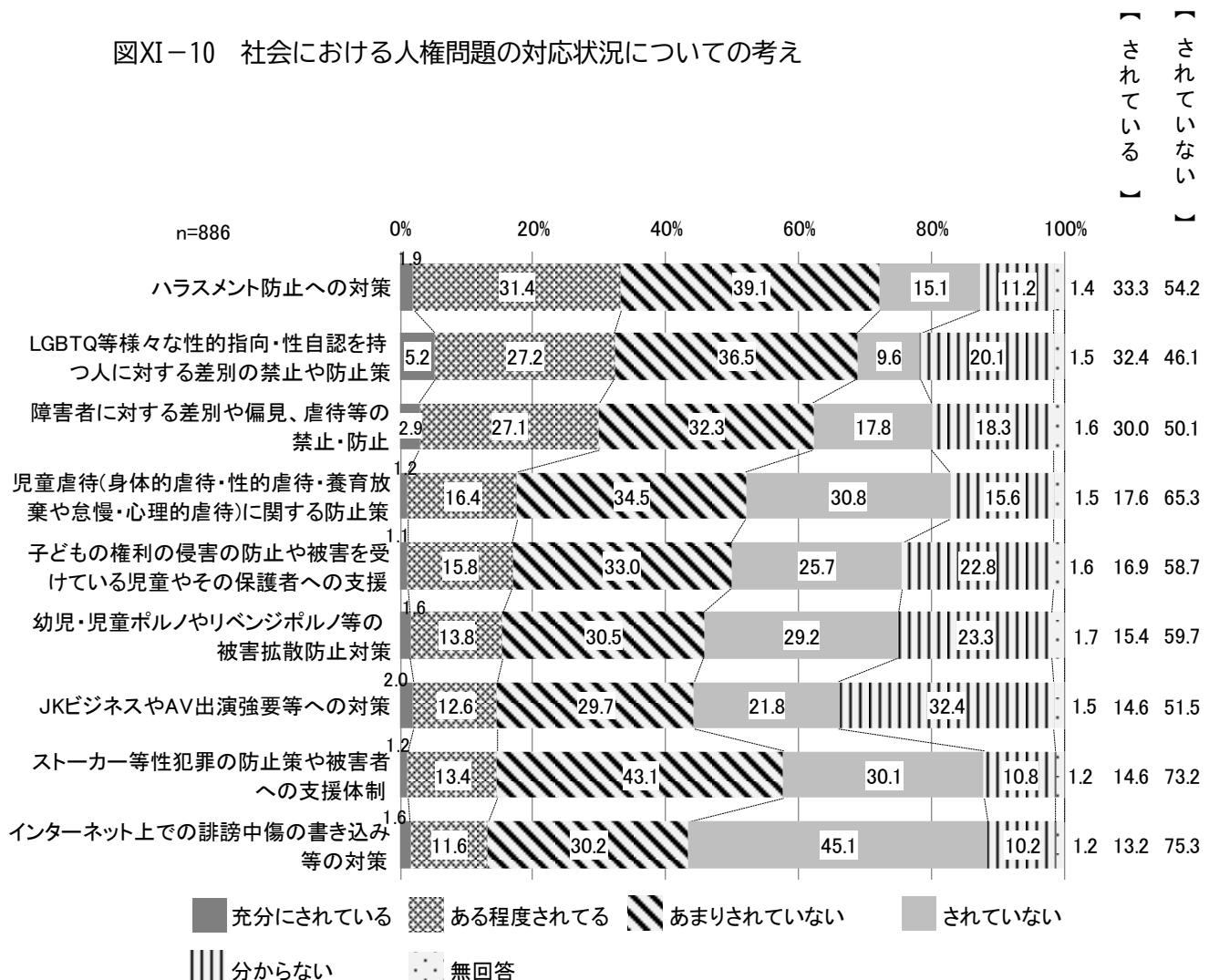
あなたは、日本の社会における人権及び人権に関わる問題について、どの程度人権が尊重され、支援や防止対策がされていると思いますか。ア～ケのそれぞれにつき一つずつ「○」をしてください。

○ 全体の傾向

「ハラスメント防止への対策」(33.3%)、「LGBTQ等様々な性的指向・性自認を持つ人に対する差別の禁止や防止策」(32.4%)、「障害者に対する差別や偏見、虐待等の禁止・防止」(30.0%)については「充分にされている」と「ある程度されている」の合計(以下、『されている』)が3割以上となっているが、それ以外については『されている』は2割未満となっている。

特に、「インターネット上での誹謗中傷の書き込み等の対策」(75.3%)、「ストーカー等性犯罪の防止策や被害者への支援体制」(73.2%)は「あまりされていない」と「されていない」の合計が7割以上を占めている。

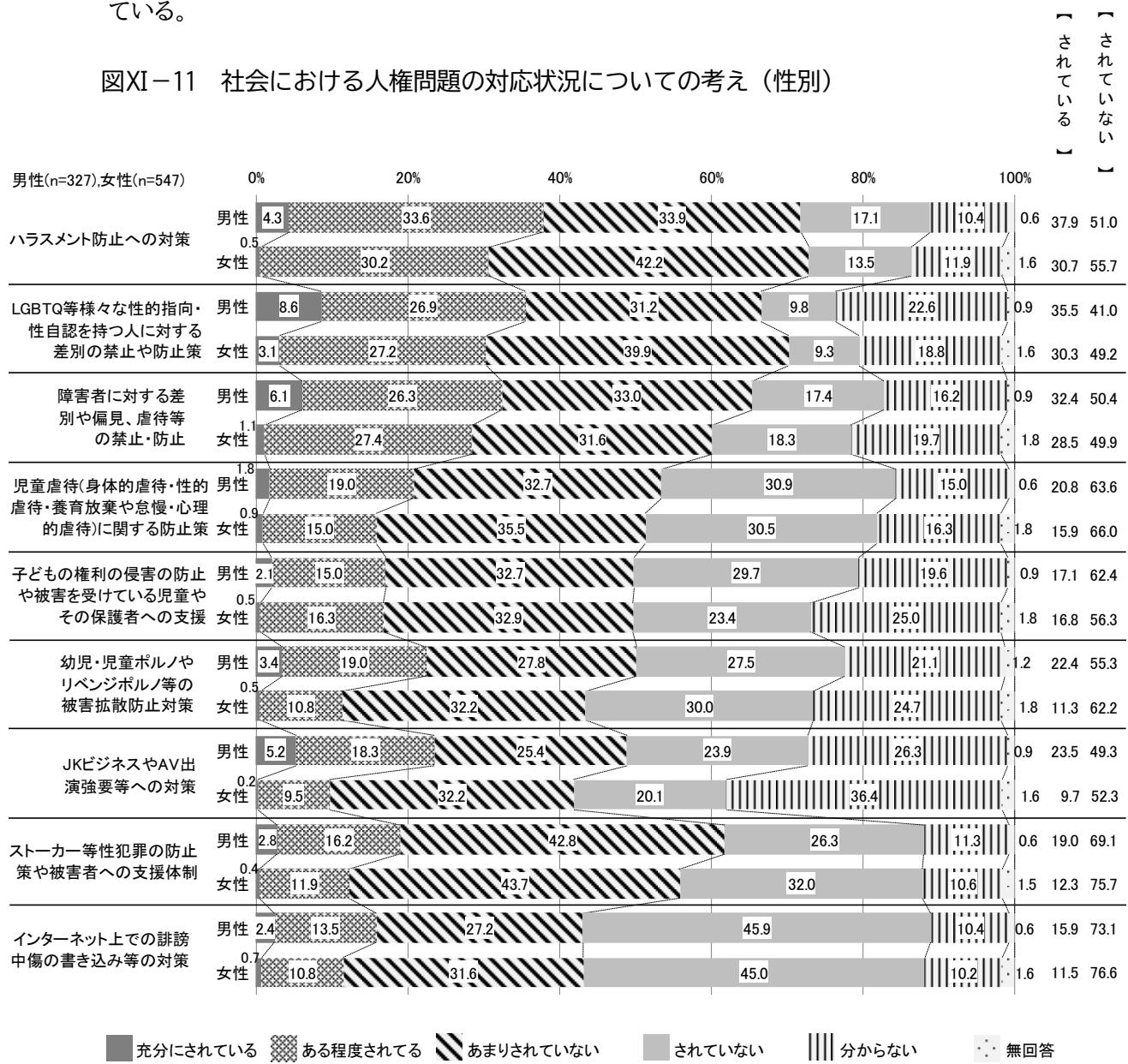
図XI-10 社会における人権問題の対応状況についての考え方



○ 性別の傾向

「幼児・児童ポルノやリベンジポルノ等の被害拡散防止対策」や「JK ビジネスや AV 出演強要等への対策」について、女性で『されている』と回答した人の割合は、男性を 10 ポイント以上下回っている。

図XI-11 社会における人権問題の対応状況についての考え方（性別）



【参考】

表XI-12 社会における人権問題の対応状況についての考え方『LGBTQ等様々な性的指向・性自認を持つ人に対する差別の禁止や防止策』（その他の性自認）

全 体	充 分 に さ れ て い る	あ る 程 度 さ れ て い る	あ ま り さ れ て い な い	さ れ て い な い	分 か ら な い
4 100.0	-	1 25.0	2 50.0	1 25.0	-

XII. 性の多様性について

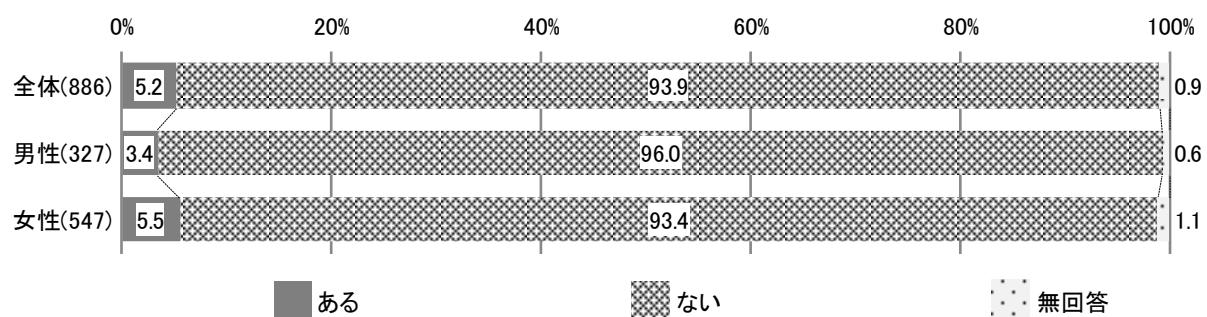
問27 性自認や性的指向について悩んだ経験の有無

あなたは、今までに自分の性別(性自認)や恋愛対象の性(性的指向)について悩んだことはありますか。【1つだけ○】

○ 全体の傾向

「ある」と回答した人は、5.2%である。

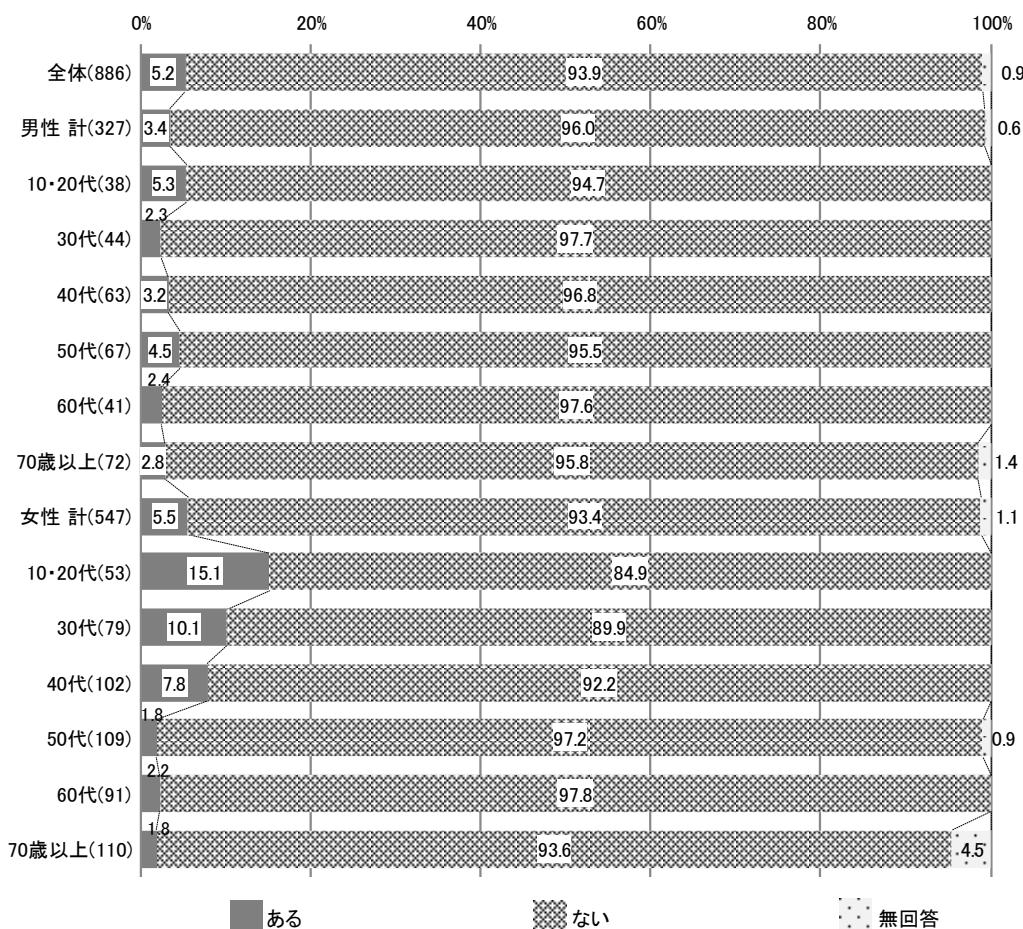
図XII-1 性自認や性的指向について悩んだ経験の有無（性別）



○ 性・年齢別の傾向

女性の10・20代(15.1%)、30代(10.1%)では「ある」と回答した人が1割以上となっている。

図XII-2 性自認や性的指向について悩んだ経験の有無（性・年齢別）



【参考】

表XII-1 性自認や性的指向について悩んだ経験の有無（その他の性自認）

全 体	あ る	な い
4	3	1
100.0	75.0	25.0

問28 身近にLGBTQ等の人はいるか

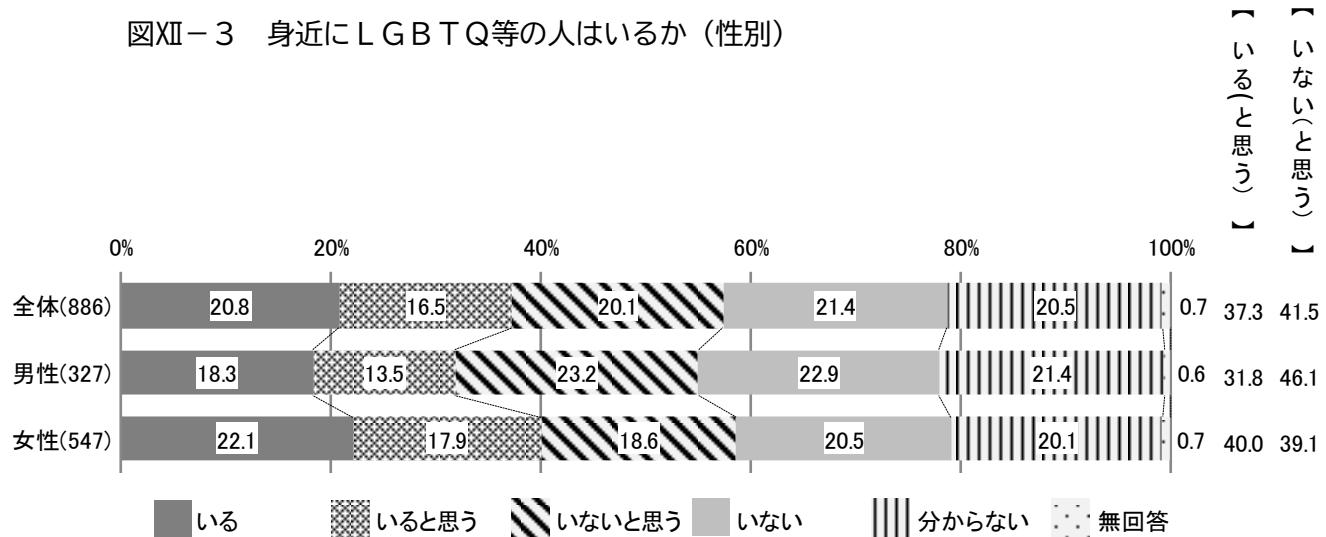
あなたの身近な人(職場の同僚、友人、親戚や家族、近所の知人)に LGBTQ 等の人はいますか。【1つだけ○】

○ 全体・性別の傾向

「いる」が 20.8%、「いると思う」が 16.5% となっている。

性別で見ると、「いる」と「いると思う」の合計は、女性で 40.0% であり、男性(31.8%)より高くなっている。

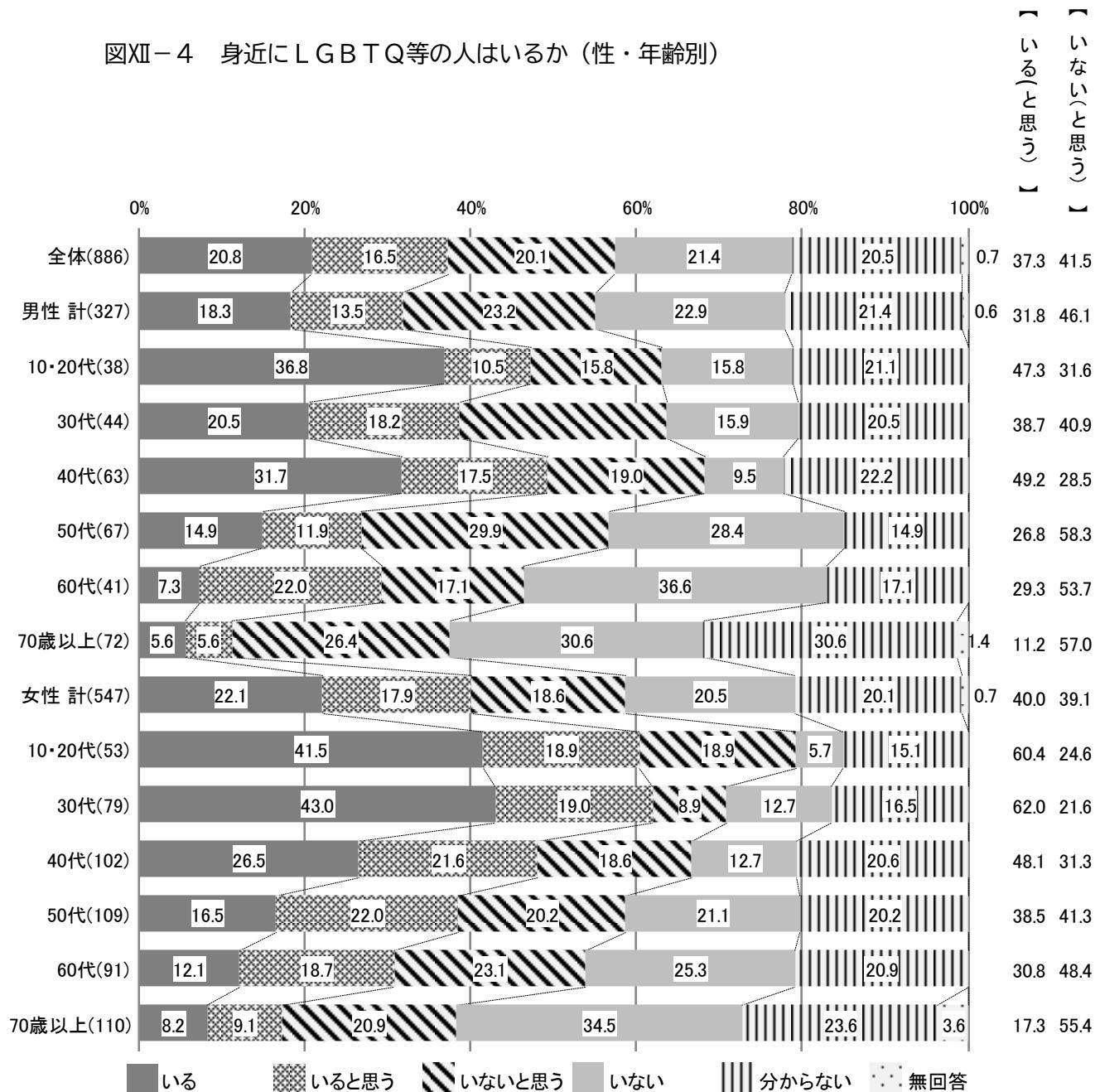
図XII-3 身近にLGBTQ等の人はいるか (性別)



○ 性・年齢別の傾向

「いる」は、男性の10・20代と40代で3割以上、女性の10～30代では4割以上と高くなっている。

図XII-4 身近にLGBTQ等の人はいるか（性・年齢別）



【参考】

表XII-2 身近にLGBTQ等の人はいるか（その他の性自認）

全 体	い る	い る と 思 う	い ない と 思 う	い ない	分 か ら ぬ
4 100.0	2 50.0	2 50.0	-	-	-

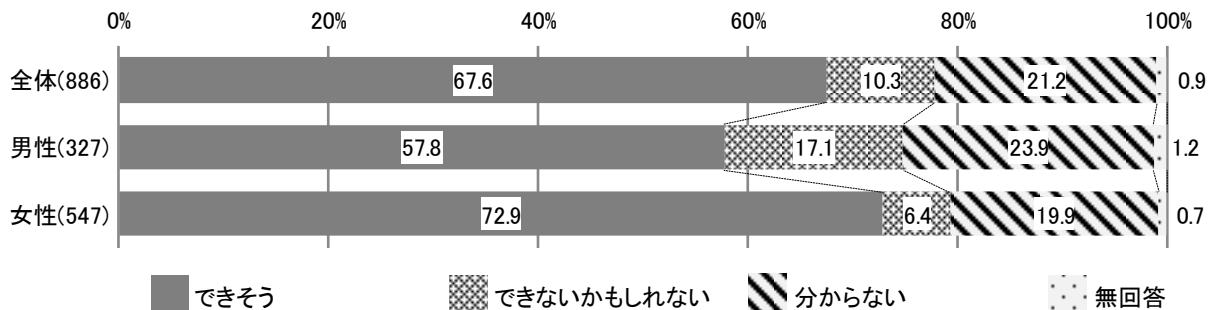
問29 身近な人からLGBTQ等であることを打ち明けられたときの対応

あなたは、身近な人からLGBTQ等であることを打ち明けられた場合、これまでと変わりなく接することができそうですか。【1つだけ○】

○ 全体・性別の傾向

「できそう」と回答した人は、女性は72.9%、男性は57.8%であり、男性が女性より15.1ポイント低い。

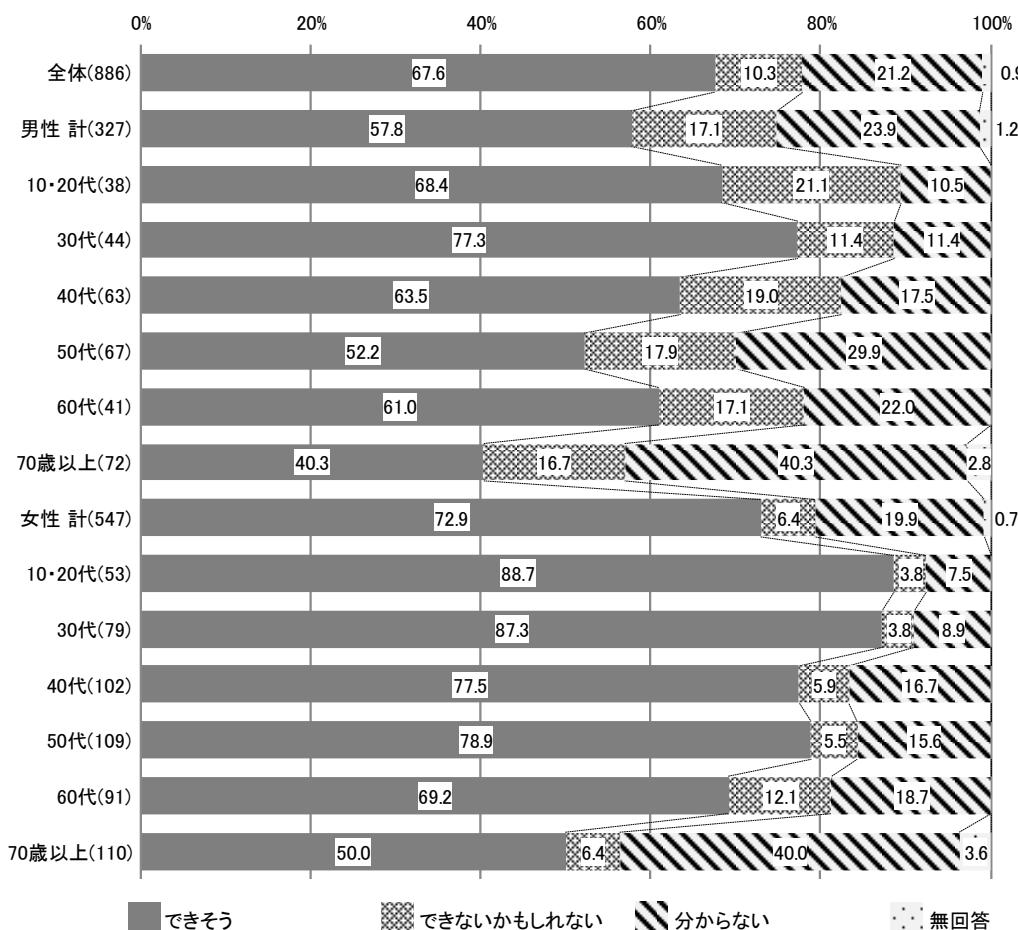
図XII-5 身近な人からLGBTQ等であることを打ち明けられたときの対応（性別）



○ 性・年齢別の傾向

「できそう」と回答した人は、概ね年齢が低くなるほど高くなる傾向にあり、男性は30代で8割弱、女性は10～30代で9割弱と高くなっている。

図XII-6 身近な人からLGBTQ等であることを打ち明けられたときの対応（性・年齢別）



【参考】

表XII-3 身近な人からLGBTQ等であることを打ち明けられたときの対応
(その他の性自認)

全体	できそう	できなかもしれない	分からぬ
4 100.0	4 100.0	- -	- -

問29-1 打ち明けられた場合にこれまでと同様の接し方ができる理由

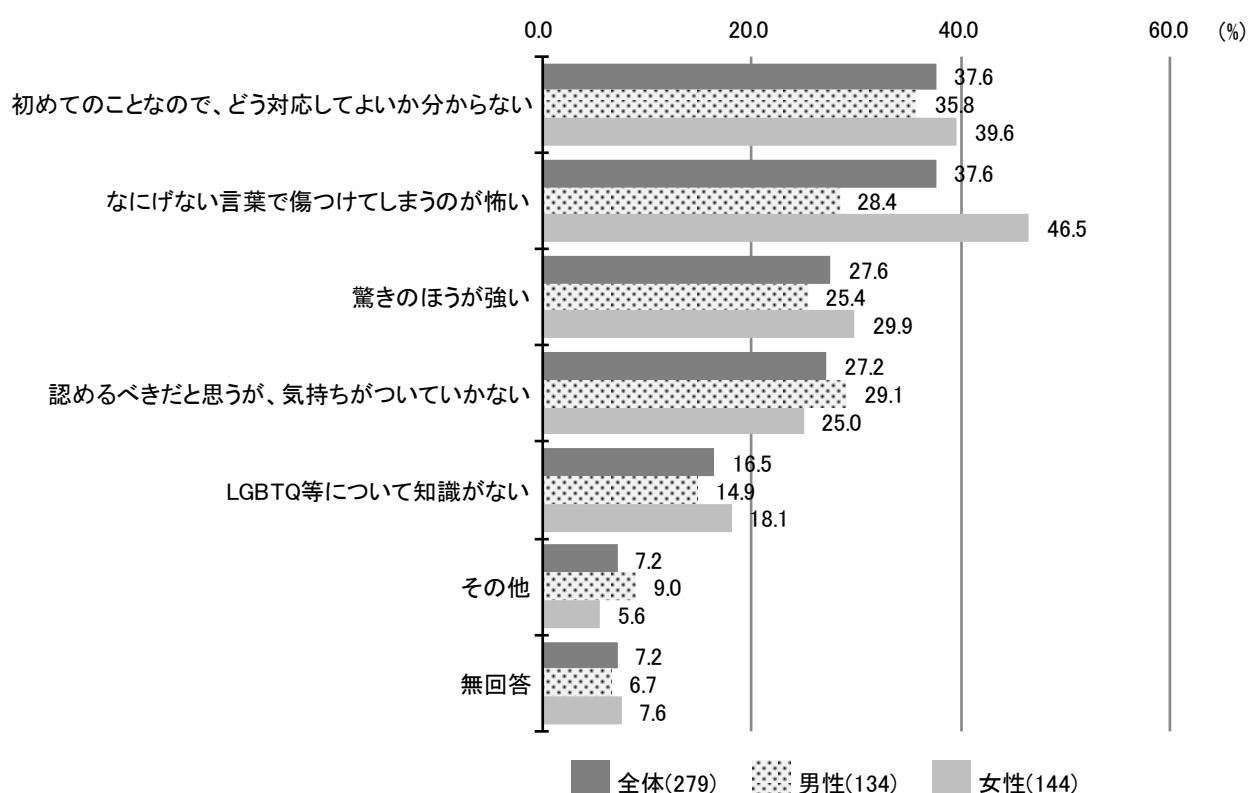
【問29で「2. できないかもしれない」、「3. 分からない」に「○」をした方にお聞きします。】
それはどうしてですか。【○はいくつでも】

○ 全体・性別の傾向

「初めてのことなので、どう対応してよいか分からない」(37.6%)、「なにげない言葉で傷つけてしまうのが怖い」(37.6%)が多くなっている。

性別で見ると、女性では「なにげない言葉で傷つけてしまうのが怖い」が46.5%で最も多くなっており、男性(28.4%)を18.1ポイントと大幅に上回っている。

図XII-7 打ち明けられた場合にこれまでと同様の接し方ができる理由（性別）



○ 年齢別の傾向

「驚きのほうが強い」は、40代で39.1%、10~30代で31.6%と高くなっている。

「認めるべきだと思うが、気持ちがついていかない」は、60代で38.6%と高くなっている。

表XII-4 打ち明けられた場合にこれまでと同様の接し方ができる理由（年齢別）

全 体	対初応めしててのよことかな分のかで、などいう	しなまにうげのながいと怖い葉で傷つけて	驚きのほう	持認めがつべきだと思なういが	が L G B T Q 等について知識	そ の 他	無回答
全 体	279 100.0	105 37.6	105 37.6	77 27.6	76 27.2	46 16.5	20 7.2
10~30代	38 100.0	15 39.5	17 44.7	12 31.6	6 15.8	2 5.3	7 18.4
40代	46 100.0	17 37.0	20 43.5	18 39.1	13 28.3	6 13.0	5 10.9
50代	55 100.0	24 43.6	24 43.6	11 20.0	16 29.1	10 18.2	4 7.3
60代	44 100.0	13 29.5	19 43.2	12 27.3	17 38.6	6 13.6	2 4.5
70歳以上	93 100.0	36 38.7	25 26.9	23 24.7	24 25.8	22 23.7	2 2.2
							11.8

問30 L G B T Q等の人たちが暮らしやすい社会になるために必要なこと

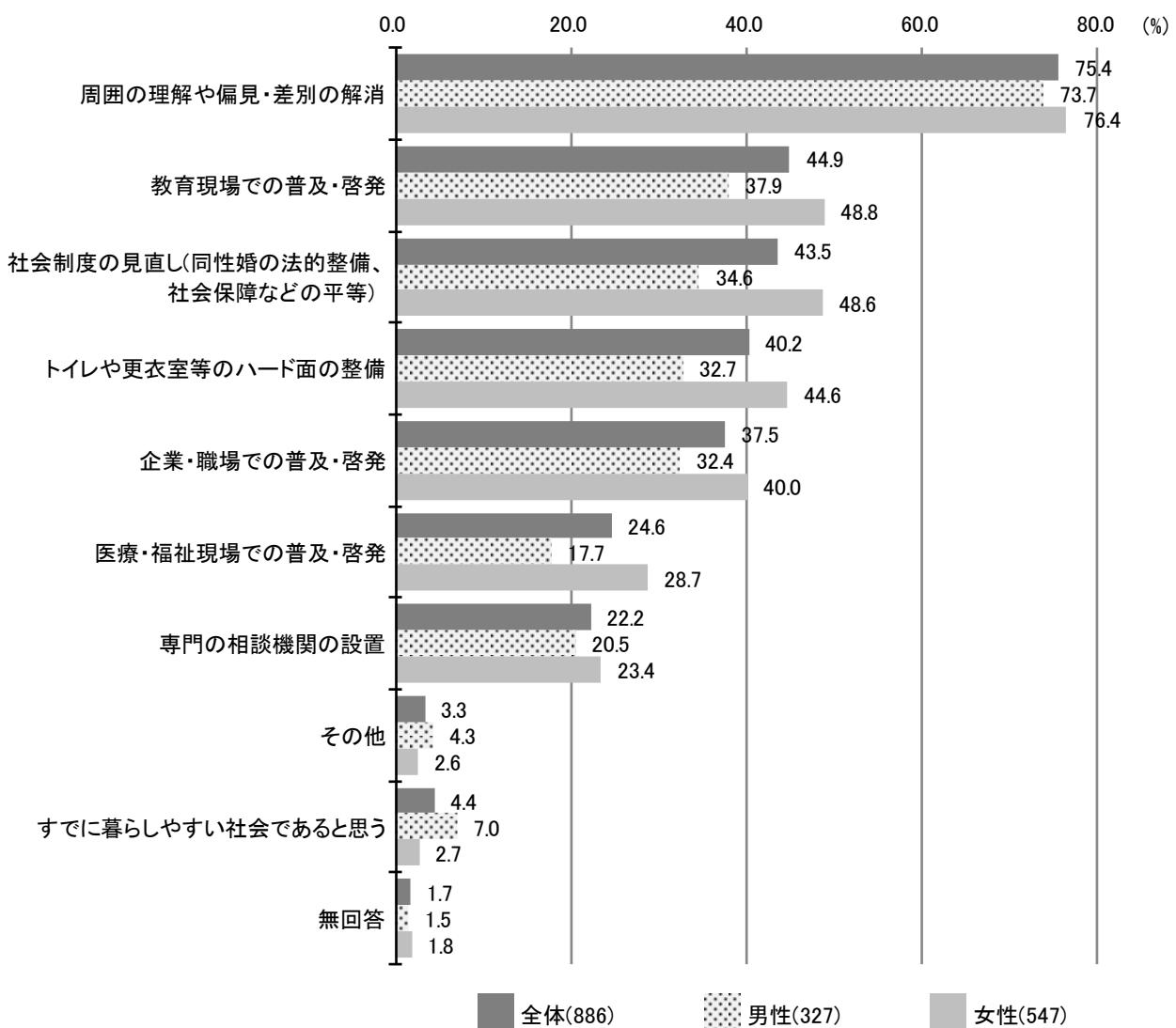
あなたは、LGBTQ等の方々が暮らしやすい社会になるために何が必要だと思いますか。
【○はいくつでも】

○ 全体・性別の傾向

「周囲の理解や偏見・差別の解消」が 75.4%で最も多く、次いで、「教育現場での普及・啓発」(44.9%)、「社会制度の見直し(同性婚の法的整備、社会保障などの平等)」(43.5%)、「トイレや更衣室等のハード面の整備」(40.2%)となっている。

性別で見ると、「教育現場での普及・啓発」、「社会制度の見直し(同性婚の法的整備、社会保障などの平等)」、「トイレや更衣室等のハード面の整備」、「医療・福祉現場での普及・啓発」と回答した人は女性が男性を 10 ポイント以上上回っている。

図XII-8 L G B T Q等の人たちが暮らしやすい社会になるために必要なこと（性別）



○ 性・年齢別の傾向

「教育現場での普及・啓発」は、男性では40～50代で4割以上と高くなっている。女性では50歳未満で5割以上と高くなっている。特に10・20代では58.5%となっている。

「社会制度の見直し(同性婚の法的整備、社会保障などの平等)」は、女性の10・20代の3人に2人(64.2%)がこの点を挙げており、他の世代を10ポイント以上上回っている。

「トイレや更衣室等のハード面の整備」は女性の60代で過半数の54.9%と高くなっている。

表XII-5 LGBTQ等の人たちが暮らしやすい社会になるために必要なこと(性・年齢別)

		全体	別周の囲解の消理解や偏見・差	発教育現場でのの普及・啓	保性障婚会などの制度の的の平整見普等備直・し社へ会同	ハトイド面や更衣室等の整備直・し社へ会同	啓発企業・職場での普及・啓	及医療・啓・発福祉現場での普及・啓	専門の相談機関の設置	その他	会すでにあると思うやうすい社	無回答
	全体	886	668	398	385	356	332	218	197	29	39	15
		100.0	75.4	44.9	43.5	40.2	37.5	24.6	22.2	3.3	4.4	1.7
男性	合計	327	241	124	113	107	106	58	67	14	23	5
		100.0	73.7	37.9	34.6	32.7	32.4	17.7	20.5	4.3	7.0	1.5
	10・20代	38	25	11	11	14	8	8	10	3	6	-
		100.0	65.8	28.9	28.9	36.8	21.1	21.1	26.3	7.9	15.8	-
	30代	44	32	15	12	5	11	5	7	5	3	-
		100.0	72.7	34.1	27.3	11.4	25.0	11.4	15.9	11.4	6.8	-
	40代	63	48	29	28	22	21	16	16	4	3	1
		100.0	76.2	46.0	44.4	34.9	33.3	25.4	25.4	6.3	4.8	1.6
	50代	67	51	28	23	22	26	12	12	2	6	-
		100.0	76.1	41.8	34.3	32.8	38.8	17.9	17.9	3.0	9.0	-
女性	60代	41	33	13	10	17	16	6	7	-	2	-
		100.0	80.5	31.7	24.4	41.5	39.0	14.6	17.1	-	4.9	-
	70歳以上	72	51	28	29	27	24	11	15	-	3	3
		100.0	70.8	38.9	40.3	37.5	33.3	15.3	20.8	-	4.2	4.2
	合計	547	418	267	266	244	219	157	128	14	15	10
		100.0	76.4	48.8	48.6	44.6	40.0	28.7	23.4	2.6	2.7	1.8
	10・20代	53	37	31	34	26	23	17	15	2	2	1
		100.0	69.8	58.5	64.2	49.1	43.4	32.1	28.3	3.8	3.8	1.9
	30代	79	63	43	41	36	28	23	13	2	4	-
		100.0	79.7	54.4	51.9	45.6	35.4	29.1	16.5	2.5	5.1	-
	40代	102	76	54	49	41	44	36	20	4	4	1
		100.0	74.5	52.9	48.0	40.2	43.1	35.3	19.6	3.9	3.9	1.0
	50代	109	90	47	54	43	46	26	28	2	3	1
		100.0	82.6	43.1	49.5	39.4	42.2	23.9	25.7	1.8	2.8	0.9
	60代	91	73	39	43	50	32	23	20	3	2	1
		100.0	80.2	42.9	47.3	54.9	35.2	25.3	22.0	3.3	2.2	1.1
	70歳以上	110	78	51	44	46	44	31	32	1	-	6
		100.0	70.9	46.4	40.0	41.8	40.0	28.2	29.1	0.9	-	5.5

【参考】

表XII-6 L G B T Q等の人たちが暮らしやすい社会になるために必要なこと
(その他の性自認)

全 体	解 消 周 囲 の 理 解 や 偏 見 ・ 差 別 の 教 育 現 場 で の 普 及 ・ 啓 発	の 社 会 平 法 的 制 度 等 の 整 備 ・ 見 社 会 直 し 保 障 同 性 な ど 婚	面 の 整 備 ・ 更 衣 室 等 の ハ ー ド	企 業 ・ 職 場 で の 普 及 ・ 啓 発	啓 發 ・ 医 療 ・ 福 祉	医 療 ・ 福 祉 現 場 で の 普 及 ・ 啓 發	專 門 の 相 談 機 関 の 設 置	そ の 他	す で に 暮 ら し や す い 社 会 で ある と 思 う	
4	4	3	3	1	3	3	1	1	-	-
100.0	100.0	75.0	75.0	25.0	75.0	75.0	25.0	25.0	-	-

XIII. 暝の防止について

問31 認知している公的なDV相談機関

配偶者・パートナー又は交際相手などからの暴力(ドメスティック・バイオレンス(DV))についての公的な相談機関として、知っているものありますか。【○はいくつでも】

○ 全体・性別の傾向

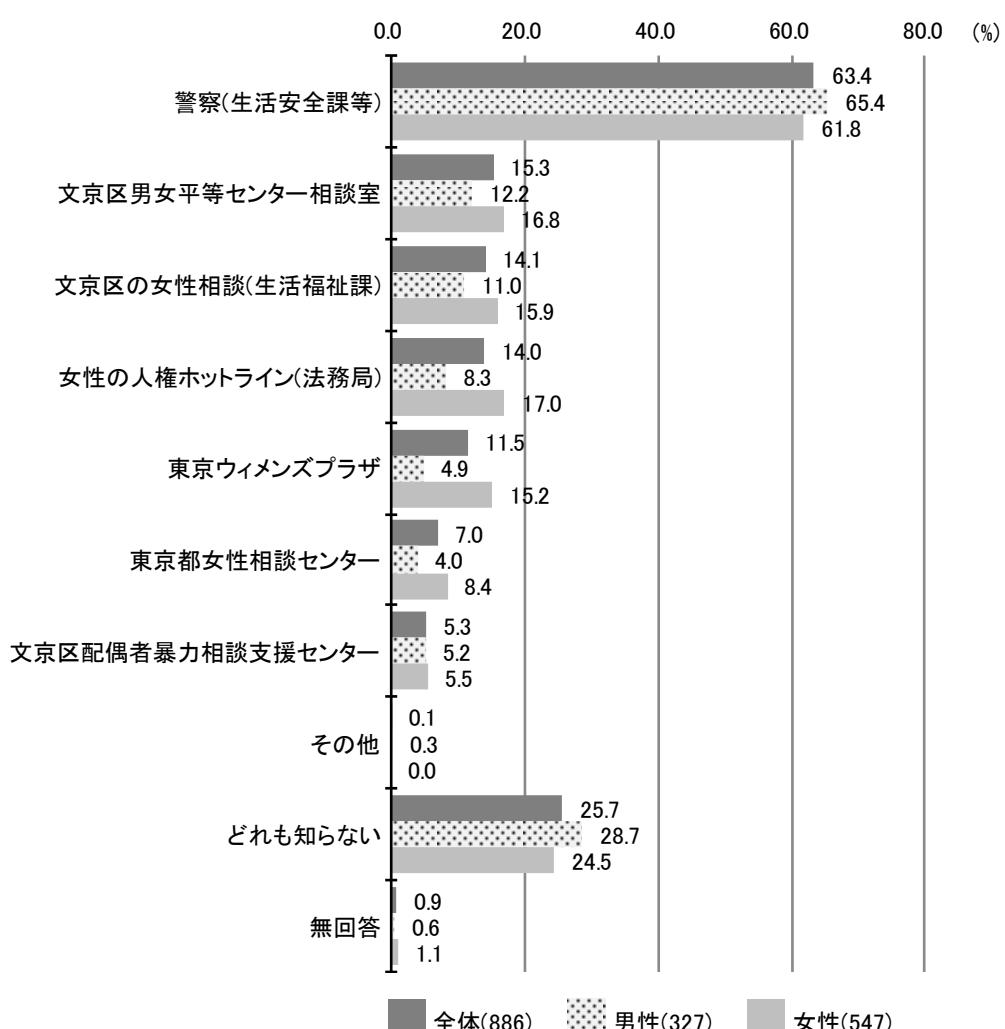
「警察(生活安全課等)」が63.4%を占め最もも多い。それ以外の相談機関を挙げた人はいずれも2割未満となっている。

また、「どれも知らない」が25.7%となっている。

性別で見ると、「女性の人権ホットライン(法務局)」は、女性で知っている人は17.0%であり、男性(8.3%)を8.7ポイント上回っている。

また、「東京ウィメンズプラザ」も女性で知っている人は15.2%となっており、男性(4.9%)を10.3ポイント上回っている。

図XIII-1 認知している公的なDV相談機関(性別)



○ 性・年齢別の傾向

「どれも知らない」は、男性の10・20代で47.4%、50代で35.8%と高くなっている。

「女性の人権ホットライン(法務局)」は、女性の10・20代では3割(28.3%)が知っている。

「東京ウィメンズプラザ」の認知度は、女性の10・20代では0%であり、50～60代で2～3割となっている。

表XIII-1 認知している公的なDV相談機関(性・年齢別)

		全 体	警 察 (生 活 安 全 課 等)	タ イ 京 相 談 男 室 平 等 セ ン	文 福 祉 課 の 女 性 相 談	活 文 京 区 の 女 性 相 談	ン 女 性 の 人 權 局 (法 務 部)	東 京 ウ イ メ ン ズ ホ ト ト ラ イ ラ ザ	タ 東 京 都 女 性 相 談 セ ン	支 援 セ ン タ ー	文 京 区 配 偶 者 暴 力 相 談	そ の 他	ど れ も 知 ら な い	無 回 答
	全 体	886	562	136	125	124	102	62	47	1	228	8		
		100.0	63.4	15.3	14.1	14.0	11.5	7.0	5.3	0.1	25.7	0.9		
男性	合 計	327	214	40	36	27	16	13	17	1	94	2		
		100.0	65.4	12.2	11.0	8.3	4.9	4.0	5.2	0.3	28.7	0.6		
	10・20代	38	20	3	3	3	—	—	2	1	18	—		
		100.0	52.6	7.9	7.9	7.9	—	—	5.3	2.6	47.4	—		
	30代	44	33	6	5	3	—	—	3	—	11	—		
		100.0	75.0	13.6	11.4	6.8	—	—	6.8	—	25.0	—		
	40代	63	43	9	11	5	4	5	3	—	14	—		
		100.0	68.3	14.3	17.5	7.9	6.3	7.9	4.8	—	22.2	—		
	50代	67	40	4	3	7	6	3	5	—	24	—		
		100.0	59.7	6.0	4.5	10.4	9.0	4.5	7.5	—	35.8	—		
女性	60代	41	29	7	6	3	1	3	—	—	9	—		
		100.0	70.7	17.1	14.6	7.3	2.4	7.3	—	—	22.0	—		
	70歳以上	72	48	11	8	6	5	2	4	—	18	1		
		100.0	66.7	15.3	11.1	8.3	6.9	2.8	5.6	—	25.0	1.4		
	合 計	547	338	92	87	93	83	46	30	—	134	6		
		100.0	61.8	16.8	15.9	17.0	15.2	8.4	5.5	—	24.5	1.1		
	10・20代	53	39	6	7	15	—	2	2	—	10	—		
		100.0	73.6	11.3	13.2	28.3	—	3.8	3.8	—	18.9	—		
	30代	79	49	12	9	11	9	5	6	—	22	—		
		100.0	62.0	15.2	11.4	13.9	11.4	6.3	7.6	—	27.8	—		
	40代	102	67	16	20	19	9	7	7	—	23	—		
		100.0	65.7	15.7	19.6	18.6	8.8	6.9	6.9	—	22.5	—		
	50代	109	66	22	13	13	22	11	6	—	27	1		
		100.0	60.6	20.2	11.9	11.9	20.2	10.1	5.5	—	24.8	0.9		
	60代	91	61	11	14	18	25	8	5	—	21	—		
		100.0	67.0	12.1	15.4	19.8	27.5	8.8	5.5	—	23.1	—		
	70歳以上	110	55	25	24	17	18	13	4	—	29	5		
		100.0	50.0	22.7	21.8	15.5	16.4	11.8	3.6	—	26.4	4.5		

問32 配偶者・パートナー、交際相手などから暴力等の行為を受けた経験又は加害経験

あなたは、配偶者・パートナー又は交際相手などとの間で、次のような行為を受けたり、行為をしたことがありますか。【1つだけ○】

① 行為を受けた経験

○ 全体・性別の傾向

「何度もある(あった)」と「一、二度ある(あった)」を合計した行為を受けたことがある人は、女性では、心理的攻撃が 18.6%、身体的暴行が 14.3%、経済的圧迫が 10.3%、性的強要が 8.3%となっており、いずれも男性で行為を受けたことがある人よりも 6~9 ポイント高くなっている。

図 XIII-2 配偶者・パートナー、交際相手などから暴力等の行為を受けた経験

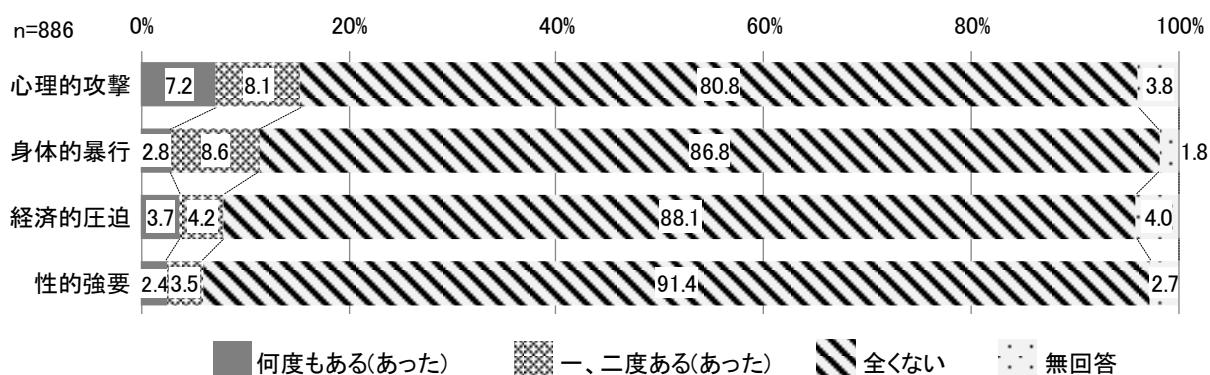
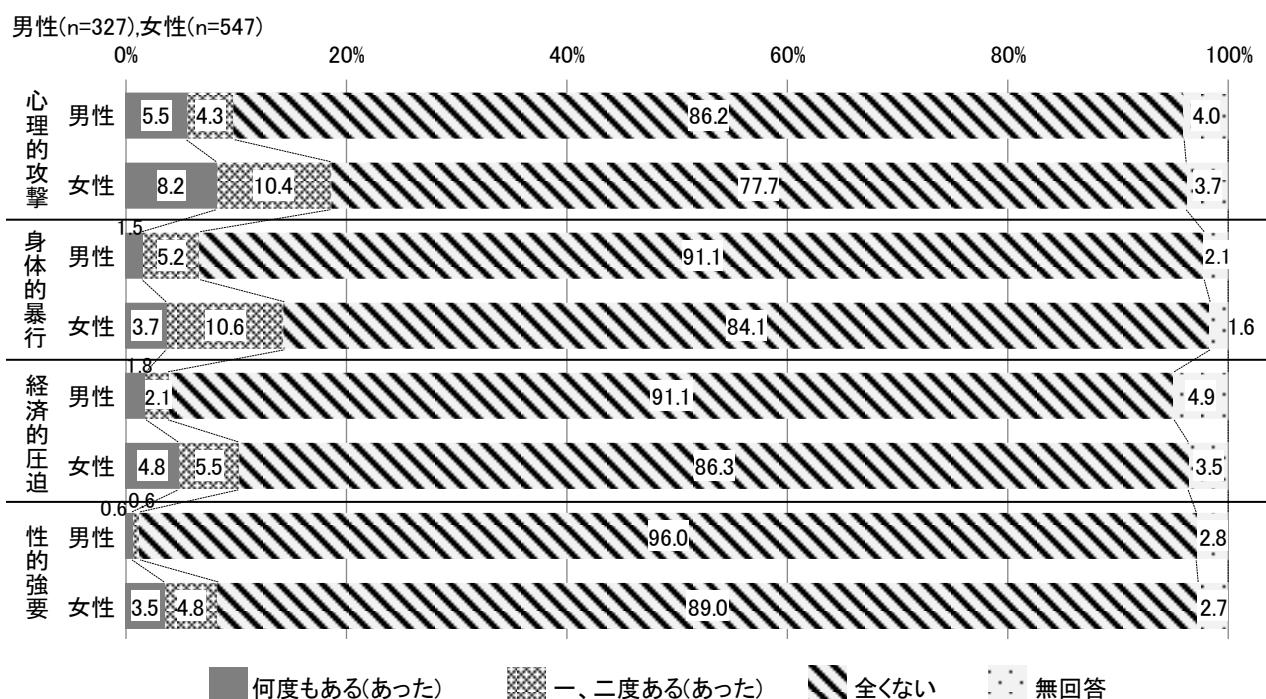


図 XIII-3 配偶者・パートナー、交際相手などから暴力等の行為を受けた経験（性別）



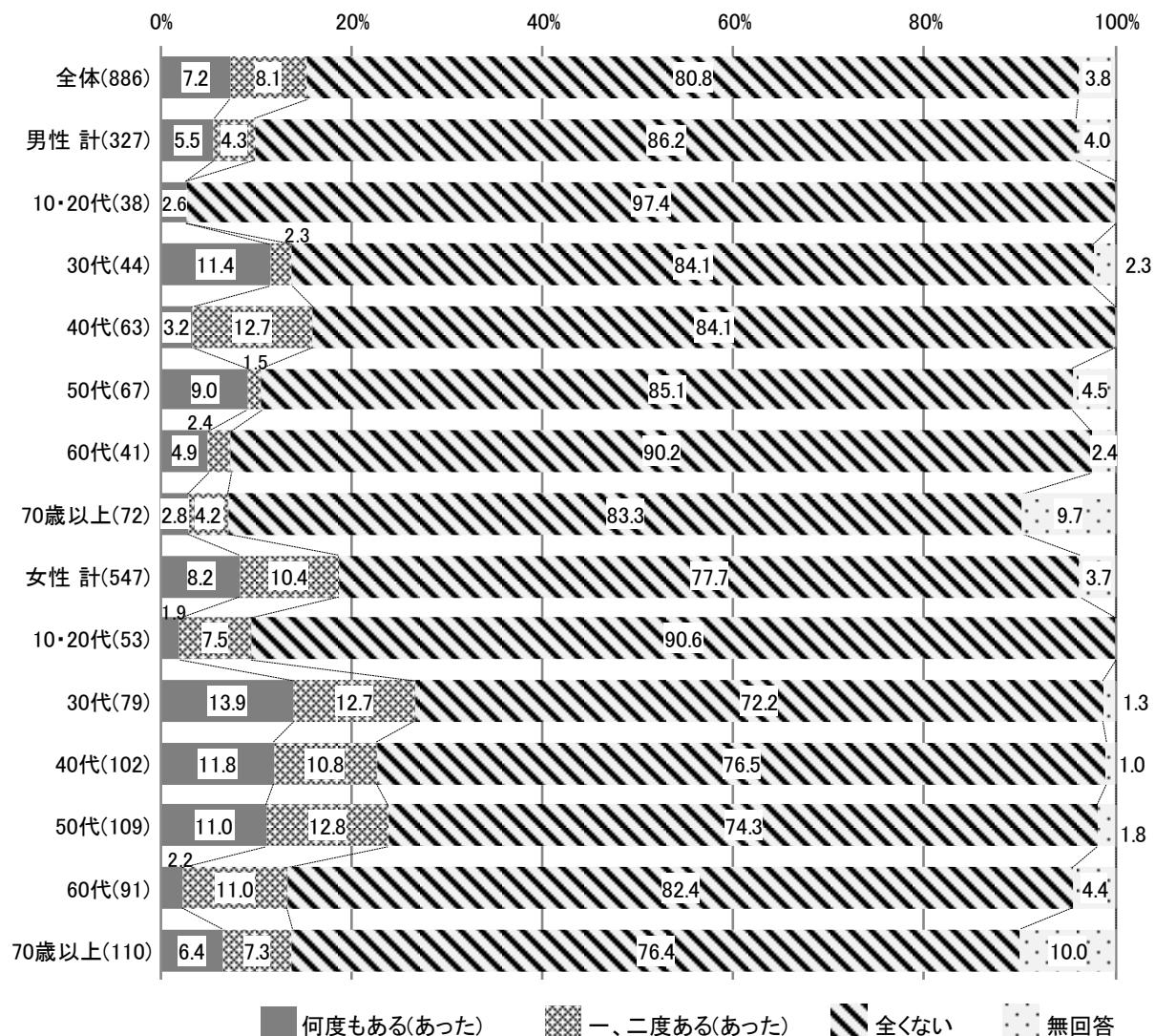
○ 性・年齢別の傾向

【心理的攻撃】

「何度もある(あった)」と「一、二度ある(あった)」を合計した心理的攻撃を受けたことがある人は、女性では、30代～50代で2割以上となっており、特に30代では4人に1人(26.6%)が受けたことがあると回答している。

男性では、30代～50代で1割以上となっており、40代では15.9%と高くなっている。

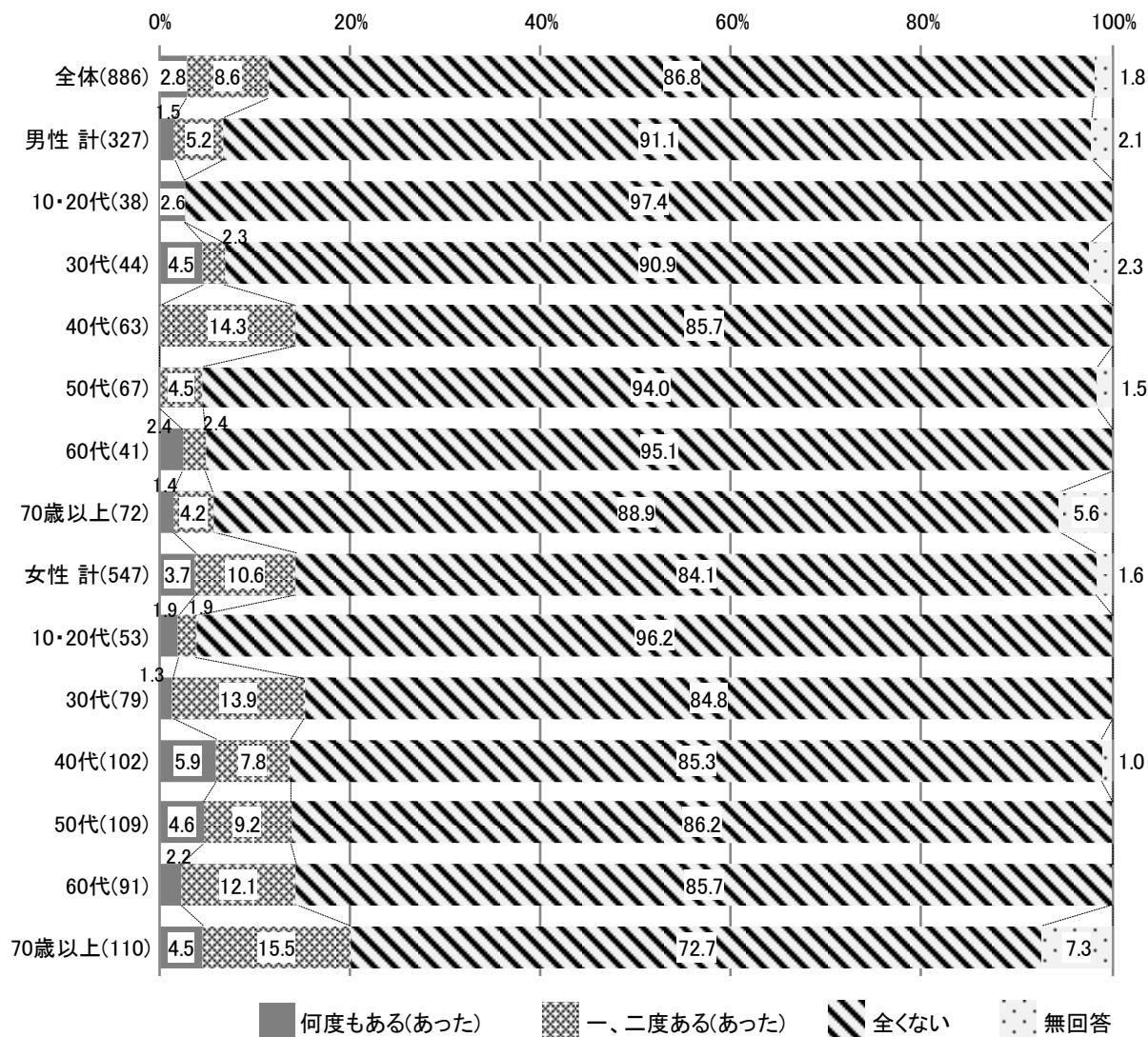
図 XIII-4 心理的攻撃を受けた経験（性・年齢別）



【身体的暴行】

「何度もある(あった)」と「一、二度ある(あった)」を合計した身体的暴行を受けたことがある人は、女性では 70 歳以上で 2 割と高くなっている。また、男性では 40 代で 14.3 % と高くなっている。

図 XIII-5 身体的暴行を受けた経験（性・年齢別）

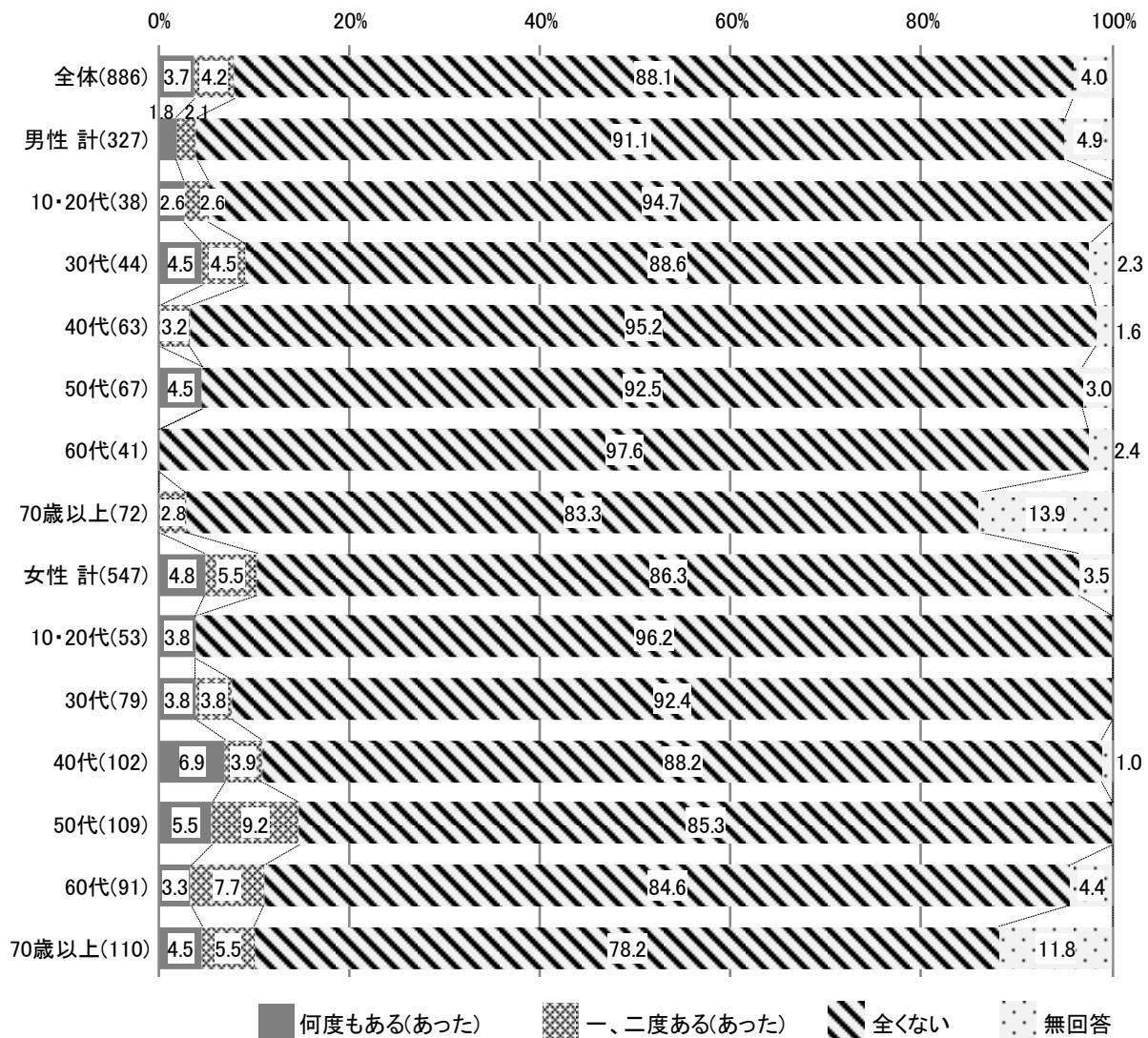


【経済的圧迫】

「何度もある(あった)」と「一、二度ある(あった)」を合計した経済的圧迫を受けたことがある人は、女性では、40歳以上で1割以上となっており、特に50代で14.7%と高くなっている。

男性では、30代で9.0%となっている。

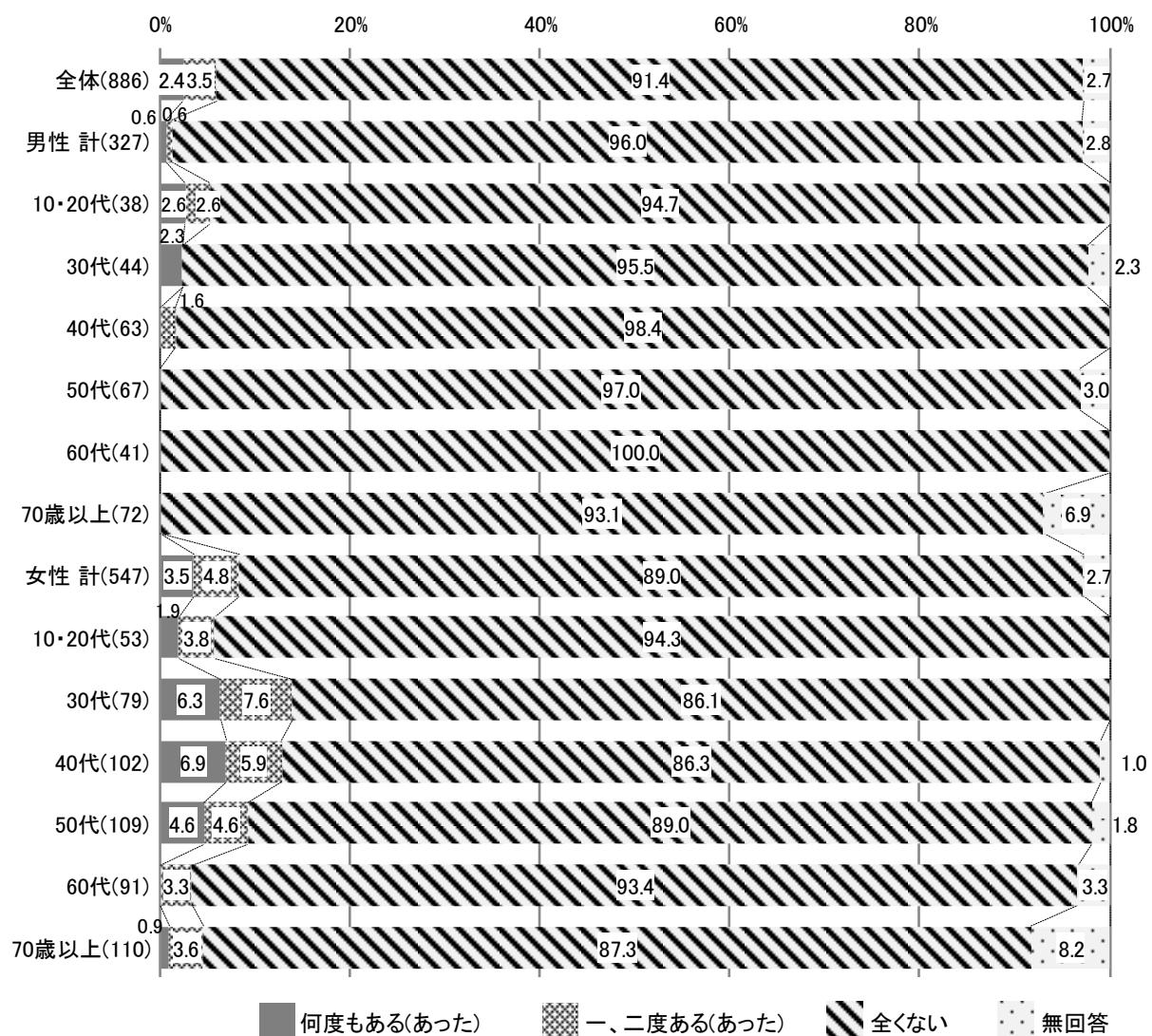
図 XIII-6 経済的圧迫を受けた経験（性・年齢別）



【性的強要】

「何度もある(あった)」と「一、二度ある(あった)」を合計した性的強要を受けたことがある人は、女性の30～40代で1割以上となっており、また、50代で9.2%となっている。

図 XIII-7 性的強要を受けた経験（性・年齢別）



② 行為をした（加害）経験

○ 全体・性別の傾向

行為をしたことがあると回答した人は、心理的攻撃で 9.7%、身体的暴行で 7.3%、経済的圧迫で 2.0%、性的強要で 1.7%であり、性別による差は見られなかった。

図 XIII-8 配偶者・パートナー、交際相手などに暴力等の行為をした（加害）経験

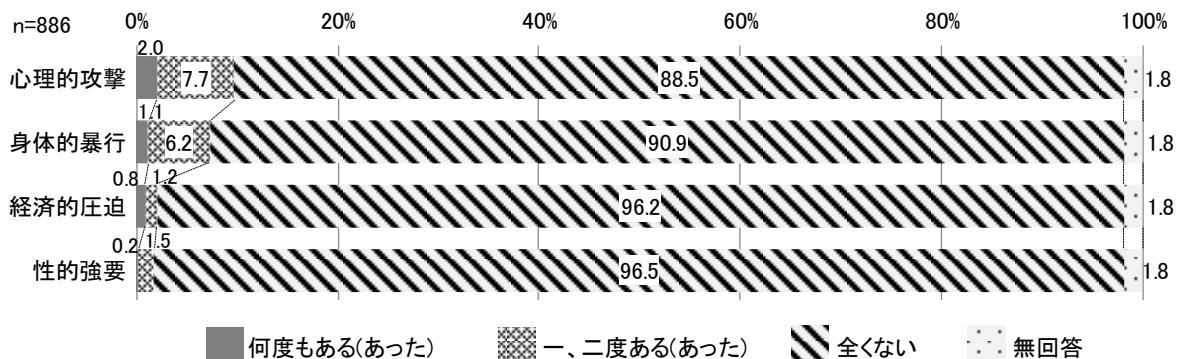
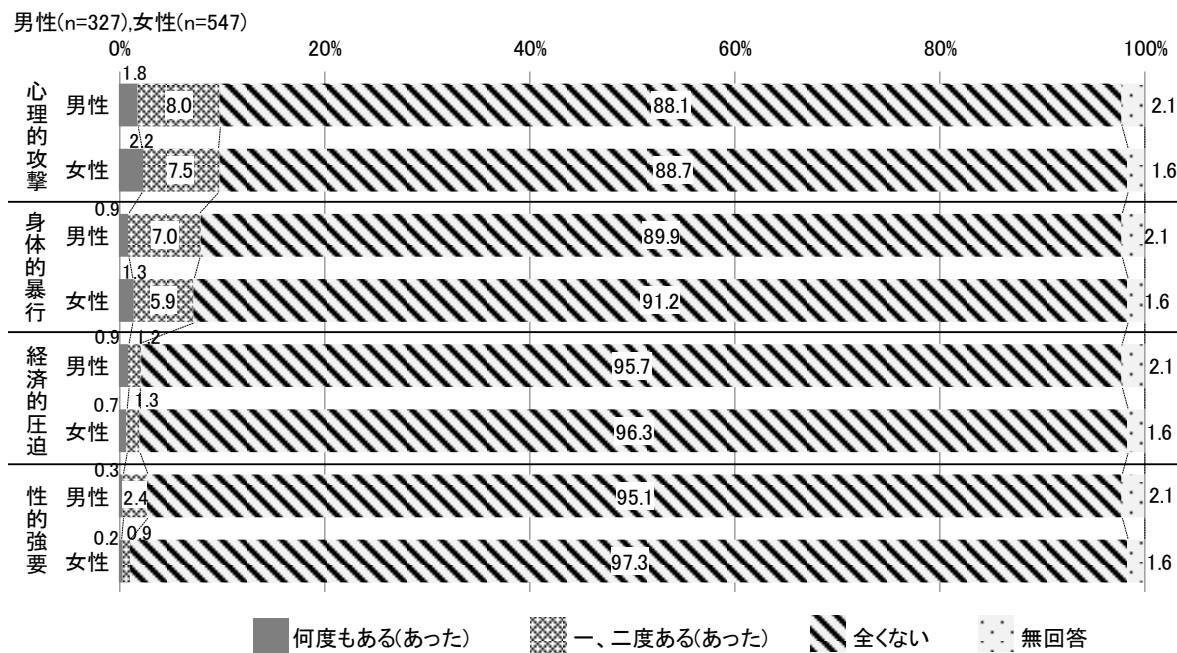


図 XIII-9 配偶者・パートナー、交際相手などに暴力等の行為をした（加害）経験（性別）

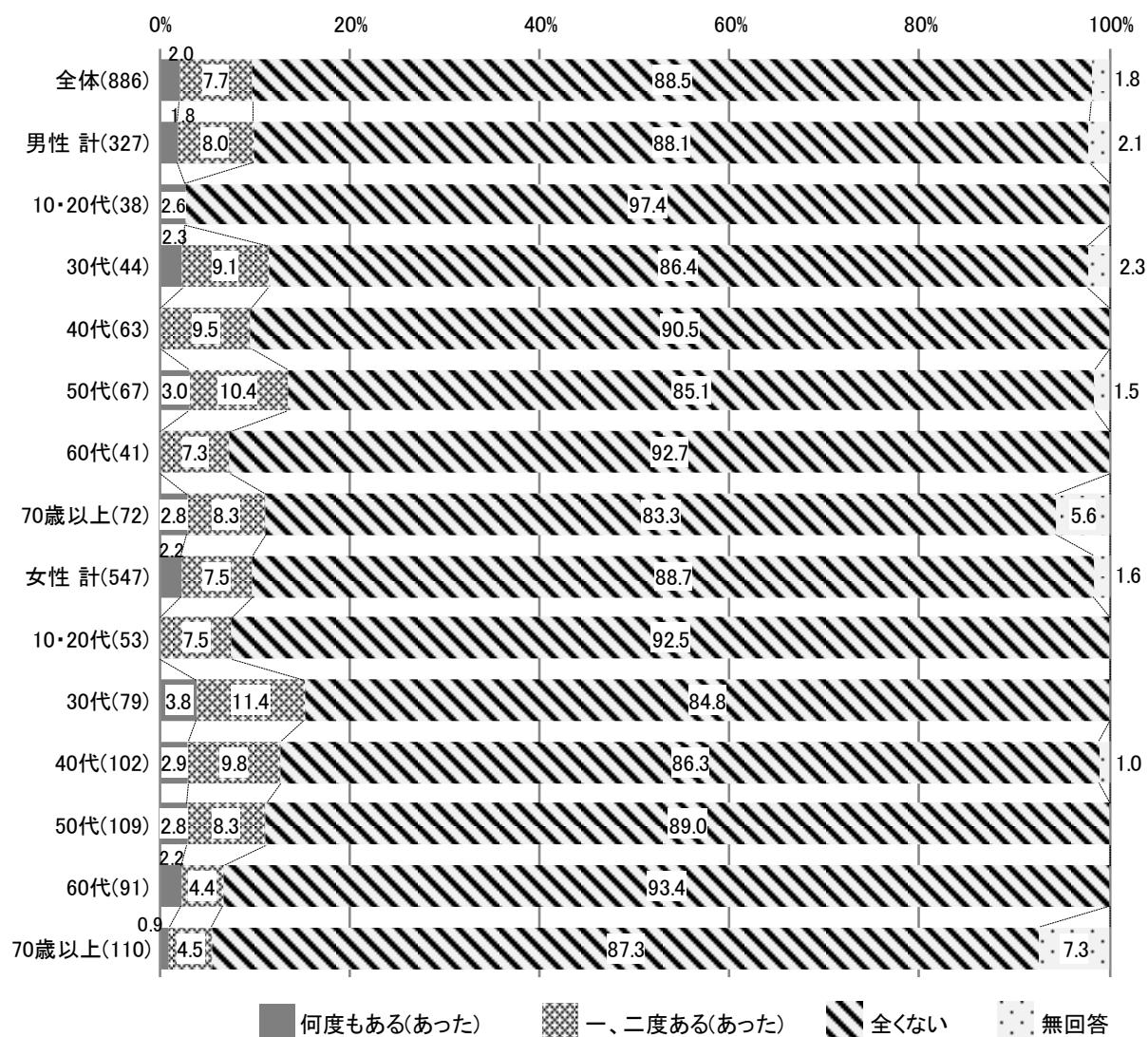


○ 性・年齢別の傾向

【心理的攻撃】

「何度もある(あった)」と「一、二度ある(あった)」を合計した心理的攻撃をしたことがある人は、男性の50代(13.4%)と女性の30代(15.2%)で高くなっている。

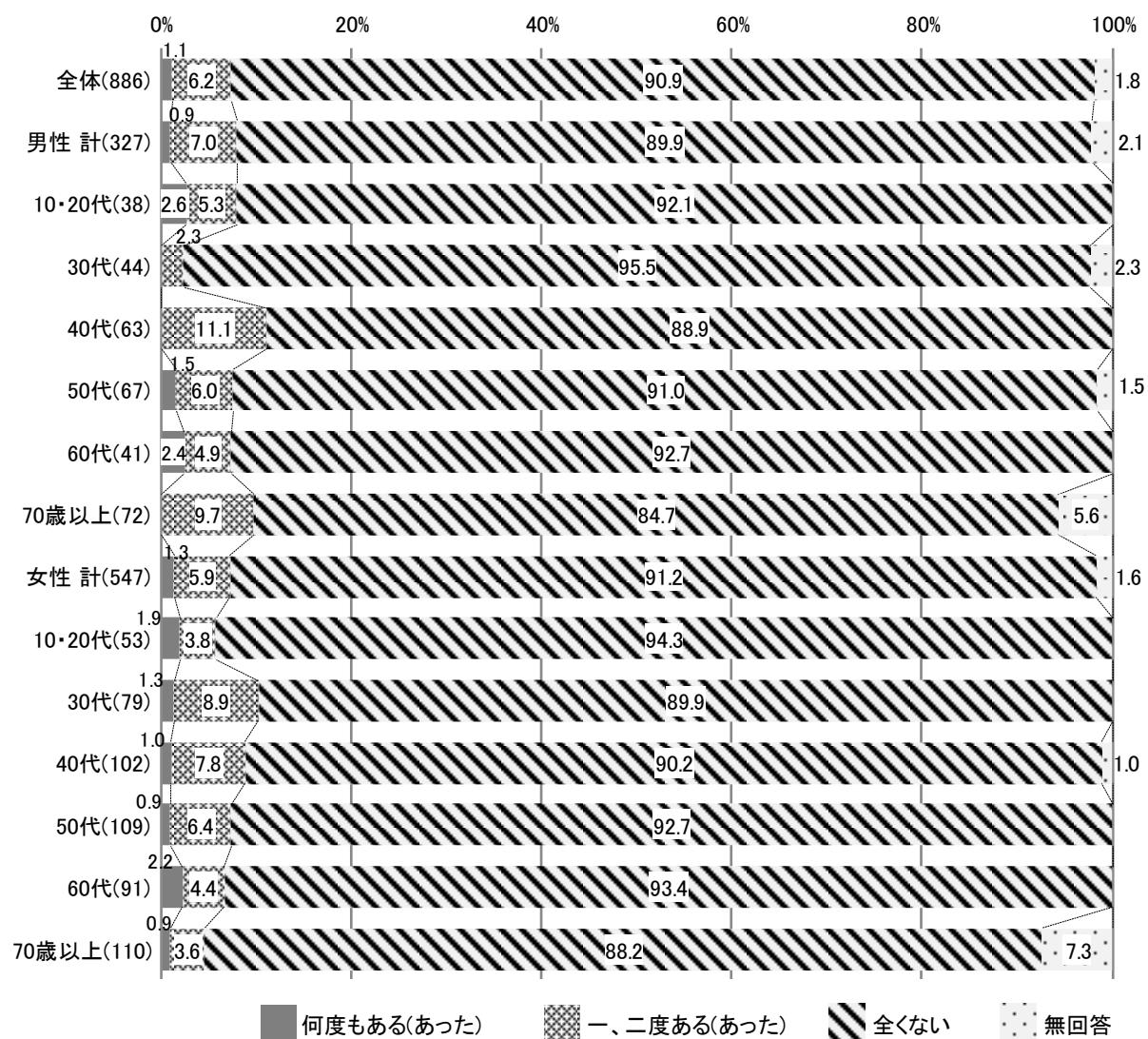
図XIII-10 心理的攻撃をした経験(性・年齢別)



【身体的暴行】

「何度もある(あった)」と「一、二度ある(あった)」を合計した身体的暴行をしたことがある人は、男性の40代(11.1%)と女性の30代(10.2%)で高くなっている。

図 XIII-11 身体的暴行をした経験（性・年齢別）



問 32-1 暴力等を受けた際の相談先

【問 32①で「1. 何度もある(あった)」又は「2. 1、2度ある(あった)」に「○」をした方にお聞きします。】

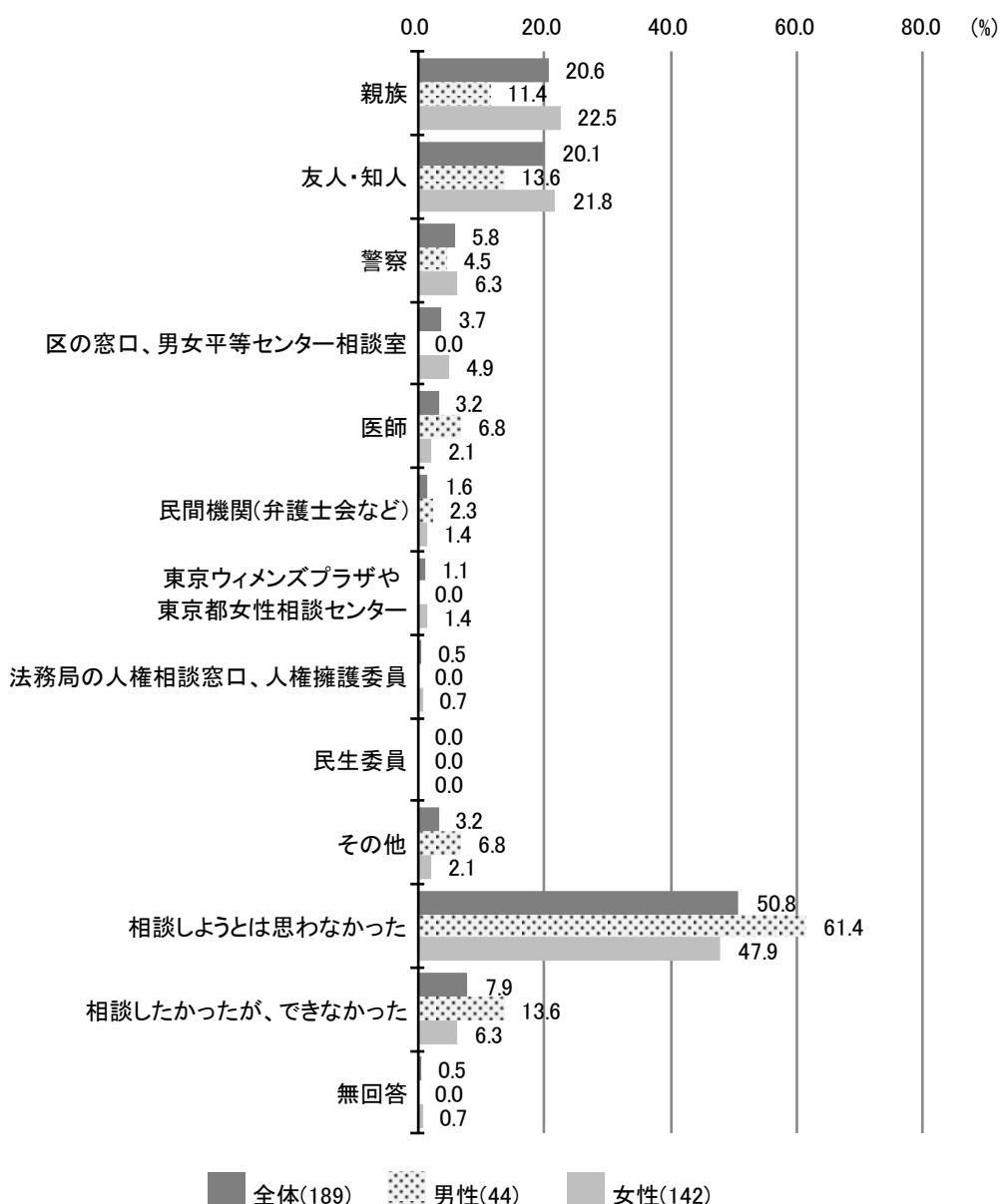
あなたが受けた暴力について、どなたかに相談しましたか。【○はいくつでも】

○ 全体・性別の傾向

「相談しようとは思わなかった」が 50.8%となっており、特に、男性では 61.4%を占め、女性(47.9%)を大きく上回る。また、「相談したかったが、できなかった」という人は 7.9%である。

相談をした場合は、「親族」(20.6%)、「友人・知人」(20.1%)に相談をした人がそれぞれ2割となっている。

図 XIII-12 暴力等を受けた際の相談先（性別）



○ 年齢別の傾向

「親族」に相談した人は、10～30代と60歳以上で2～3割となっており、40～50代では約15%とやや低くなっている。

表XIII-2 暴力等を受けた際の相談先（年齢別）

	全 体	親 族	友 人 ・ 知 人	警 察	タ ク 区 の 相 談 窓 口 、 男 女 平 等 セ ン	医 師	ど こ 民 間 機 関 へ 弁 護 士 会 な	東 京 都 女 性 相 談 セ ン ズ セ ン タ ー	東 京 都 ウ イ メ ン ズ ラ ザ や	人 法 務 擁 護 委 員 の 人 權 相 談 窓 口 、	民 生 委 員	そ の 他	な か 相 談 し た か つ た か つ た が 、 で き	か つ た か つ た か つ た が 、 で き	相 談 し よ う と は 思 わ な	無 回 答
全 体	189 100.0	39 20.6	38 20.1	11 5.8	7 3.7	6 3.2	3 1.6	2 1.1	1 0.5	- -	6 3.2	15 7.9	96 50.8	1 0.5		
10～30代	45 100.0	10 22.2	9 20.0	4 8.9	2 4.4	2 4.4	- 0.0	- 0.0	1 2.2	- 0.0	1 2.2	4 8.9	24 53.3	- 0.0		
40代	42 100.0	6 14.3	10 23.8	2 4.8	2 4.8	1 2.4	- -	1 2.4	- -	- -	- -	3 7.1	22 52.4	- -		
50代	40 100.0	6 15.0	8 20.0	- -	- -	1 2.5	1 2.5	1 2.5	- -	- -	2 5.0	3 7.5	20 50.0	- -		
60代	25 100.0	7 28.0	6 24.0	3 12.0	1 4.0	1 4.0	2 8.0	- -	- -	- -	1 4.0	1 4.0	13 52.0	- -		
70歳以上	36 100.0	9 25.0	5 13.9	2 5.6	2 5.6	1 2.8	- -	- -	- -	- -	2 5.6	4 11.1	17 47.2	1 2.8		

問 32-1-1 相談しなかった理由

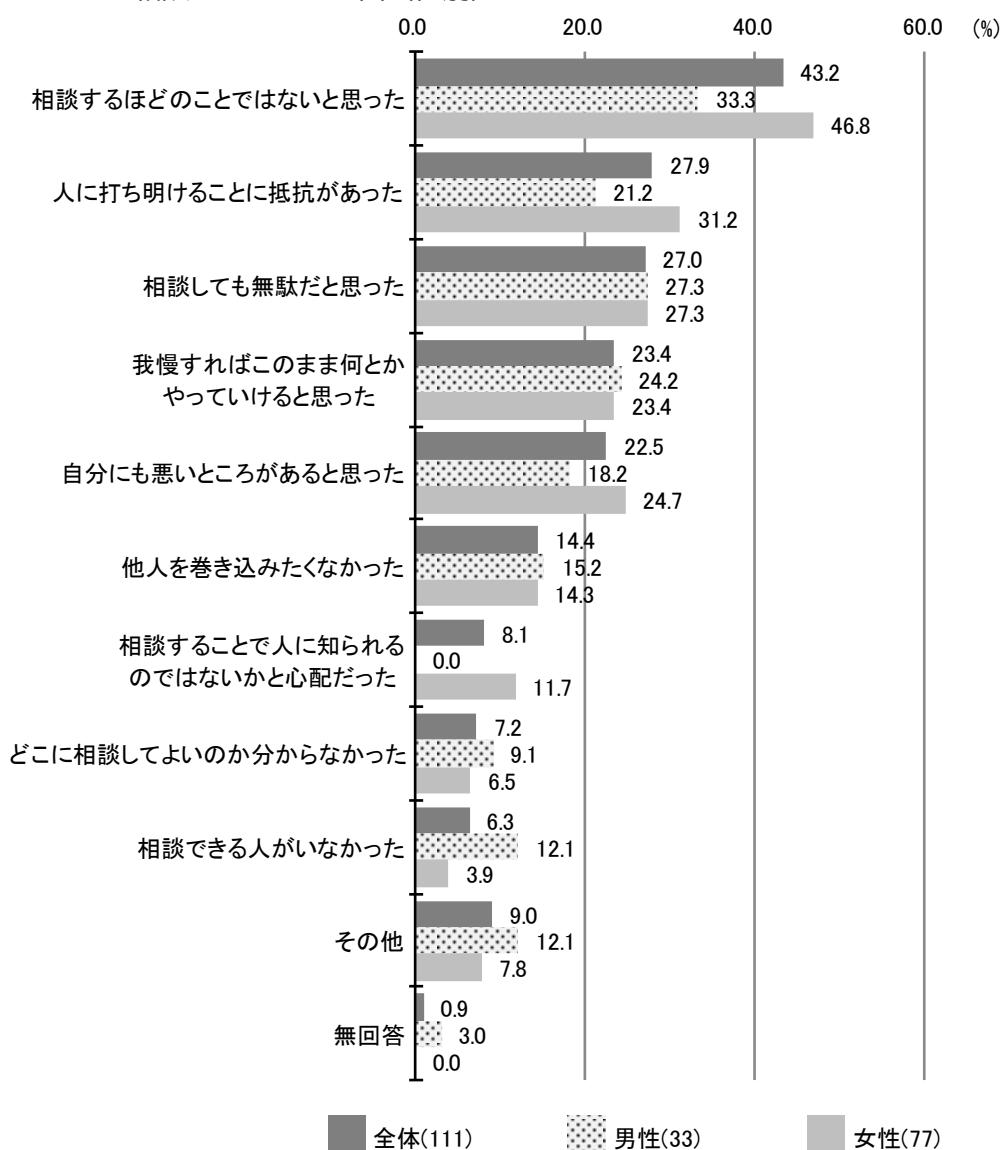
【問 32-1で「11. 相談したかったが、できなかった」又は「12. 相談しようとは思わなかった」に「○」をした方にお聞きします。】
相談できなかった又は相談しなかったのはなぜですか。【○はいくつでも】

○ 全体・性別の傾向

「相談するほどのことではないと思った」が43.2%で最も多くなっている。次いで、「人に打ち明けることに抵抗があった」(27.9%)、「相談しても無駄だと思った」(27.0%)となっている。

性別で見ると、「相談するほどのことではないと思った」、「人に打ち明けることに抵抗があった」は、女性の方が男性より10ポイント以上高くなっている。

図 XIII-13 相談しなかった理由（性別）



○ 年齢別の傾向

「自分にも悪いところがあると思った」は、40代で44.0%となっており、他の世代を20ポイント以上上回っている。

表XIII-3 相談しなかった理由（年齢別）

		全 体	と相 思談 つす たる ほ ど の こ と で は な い	あ 人 に 打 ち 明 け る こ と に 抵 抗 が	相 談 し て も 無 駄 だ と 思 つ た	や つ 慢 す い れ ば こ の 思 つ た 何 と か	我 思 つ た に も 悪 い と こ ろ が あ る と	自 分 に も 悪 い と こ ろ が あ る と	他 人 を 巻 き 込 み た く な か つ た	の で は な い か と 心 配 に だ か れ る	相 談 す る こ と で 人 に 配 に だ か れ る	ど こ に 相 談 す る こ と で 人 に 配 に だ か れ る	相 談 で き る 人 が い な か つ た	そ の 他	無 回 答
全 体		111	48	31	30	26	25	16	9	8	7	10	1		
		100.0	43.2	27.9	27.0	23.4	22.5	14.4	8.1	7.2	6.3	9.0	0.9		
10~30代		28	13	11	6	8	6	4	1	2	—	5	—		
		100.0	46.4	39.3	21.4	28.6	21.4	14.3	3.6	7.1	—	17.9	—		
40代		25	13	5	7	8	11	4	2	2	—	2	1		
		100.0	52.0	20.0	28.0	32.0	44.0	16.0	8.0	8.0	—	8.0	4.0		
50代		23	9	8	8	4	1	3	4	2	3	2	—		
		100.0	39.1	34.8	34.8	17.4	4.3	13.0	17.4	8.7	13.0	8.7	—		
60歳以上		35	13	7	9	6	7	5	2	2	4	1	—		
		100.0	37.1	20.0	25.7	17.1	20.0	14.3	5.7	5.7	11.4	2.9	—		

問33 DV相談の窓口などで配慮してほしいこと

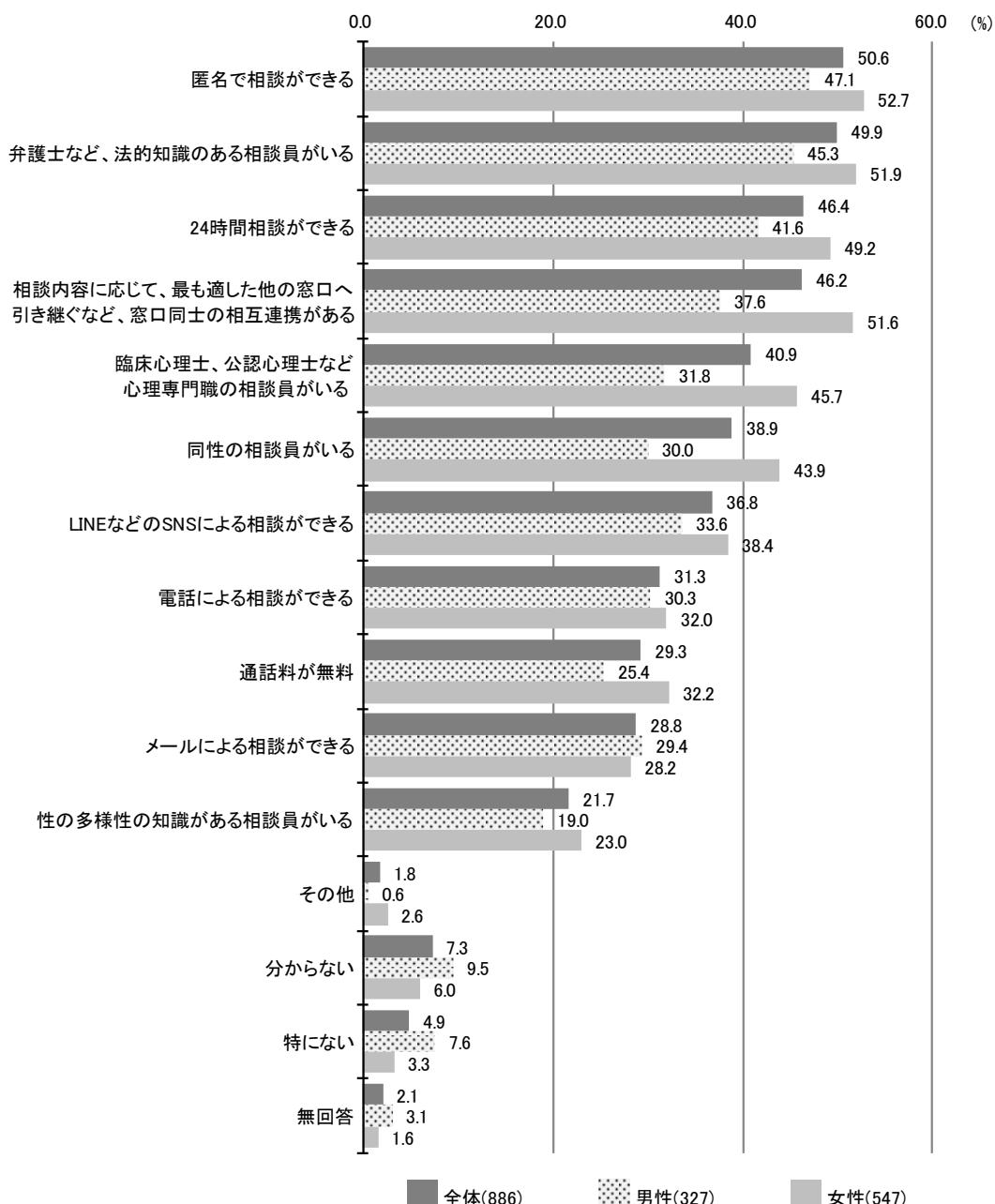
配偶者・パートナー又は交際相手からの暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などで配慮してほしいと思うことは何ですか。【○はいくつでも】

○ 全体・性別の傾向

「匿名で相談ができる」(50.6%)と「弁護士など、法的知識のある相談員がいる」(49.9%)を挙げた人が半数と多くなっており、次いで、「24時間相談ができる」(46.4%)、「相談内容に応じて、最も適した他の窓口へ引き継ぐなど、窓口同士の相互連携がある」(46.2%)となっている。

性別で見ると、「相談内容に応じて、最も適した他の窓口へ引き継ぐなど、窓口同士の相互連携がある」、「臨床心理士、公認心理士など心理専門職の相談員がいる」、「同性の相談員がいる」は女性の方が男性よりも約14ポイント高くなっている。

図XIII-14 DV相談の窓口などで配慮してほしいこと（性別）



○ 性・年齢別の傾向

女性の10・20代では、「同性の相談員がいる」が77.4%と最も多くなっており、他の世代より30ポイント以上高くなっている。また、「24時間相談ができる」も71.7%と多く、他の世代を大きく上回っている。

「LINEなどのSNSによる相談ができる」は、概ね年齢が低くなるにつれ高くなる傾向にあり、男性の10・20代と女性の10~30代では約6割となっている。

表XIII-4 DV相談の窓口などで配慮してほしいこと（性・年齢別）

		全 体	匿名 で相談 が でき る	弁護士 いなど 、法 的 知 識 の あ る 相	2 4 時 間 相 談 が でき る	同 他 相 談 の 窓 内 容 の 相 互 へ に 連 携 き が 継 て あ ぐ る な ど 、 適 窓 口 た	臨 床 心 理 士 、 公 認 心 理 士 な ど 、 適 窓 口 た	同 性 の 相 談 員 が い る	談 が で き る L I N E な ど の S N S に よ る 相	電 話 に よ る 相 談 が で き る	通 話 料 が 無 料	メ ー ル に よ る 相 談 が で き る	が 性 の 多 様 性 の 知 識 が あ る 相 談 員	そ の 他	分 か ら な い	特 に な い	無 回 答
全 体		886	448	442	411	409	362	345	326	277	260	255	192	16	65	43	19
		100.0	50.6	49.9	46.4	46.2	40.9	38.9	36.8	31.3	29.3	28.8	21.7	1.8	7.3	4.9	2.1
男 性	合 計	327	154	148	136	123	104	98	110	99	83	96	62	2	31	25	10
		100.0	47.1	45.3	41.6	37.6	31.8	30.0	33.6	30.3	25.4	29.4	19.0	0.6	9.5	7.6	3.1
	10・20代	38	18	14	16	11	11	13	23	12	13	11	8	—	5	2	—
		100.0	47.4	36.8	42.1	28.9	28.9	34.2	60.5	31.6	34.2	28.9	21.1	—	13.2	5.3	—
	30代	44	21	25	20	19	12	12	14	9	10	10	8	1	3	4	1
		100.0	47.7	56.8	45.5	43.2	27.3	27.3	31.8	20.5	22.7	22.7	18.2	2.3	6.8	9.1	2.3
	40代	63	37	32	30	29	20	28	27	24	23	23	13	—	5	2	2
		100.0	58.7	50.8	47.6	46.0	31.7	44.4	42.9	38.1	36.5	36.5	20.6	—	7.9	3.2	3.2
	50代	67	35	37	30	30	27	25	28	24	20	29	20	1	5	5	1
		100.0	52.2	55.2	44.8	44.8	40.3	37.3	41.8	35.8	29.9	43.3	29.9	1.5	7.5	7.5	1.5
女 性	60代	41	13	18	17	12	11	11	10	10	6	11	7	—	5	1	—
		100.0	31.7	43.9	41.5	29.3	26.8	26.8	24.4	24.4	14.6	26.8	17.1	—	12.2	2.4	—
	70歳以上	72	29	22	23	22	23	9	8	20	11	12	6	—	8	10	6
		100.0	40.3	30.6	31.9	30.6	31.9	12.5	11.1	27.8	15.3	16.7	8.3	—	11.1	13.9	8.3
	合 計	547	288	284	269	282	250	240	210	175	176	154	126	14	33	18	9
		100.0	52.7	51.9	49.2	51.6	45.7	43.9	38.4	32.0	32.2	28.2	23.0	2.6	6.0	3.3	1.6
	10・20代	53	35	35	38	29	28	41	32	19	23	13	21	1	1	1	—
		100.0	66.0	66.0	71.7	54.7	52.8	77.4	60.4	35.8	43.4	24.5	39.6	1.9	1.9	1.9	—
女 性	30代	79	50	44	45	43	35	37	45	24	33	31	14	2	3	—	—
		100.0	63.3	55.7	57.0	54.4	44.3	46.8	57.0	30.4	41.8	39.2	17.7	2.5	3.8	—	—
	40代	102	65	60	57	56	47	46	45	29	36	31	26	9	1	4	—
		100.0	63.7	58.8	55.9	54.9	46.1	45.1	44.1	28.4	35.3	30.4	25.5	8.8	1.0	3.9	—
	50代	109	63	59	55	58	51	49	42	40	40	37	25	1	9	2	1
		100.0	57.8	54.1	50.5	53.2	46.8	45.0	38.5	36.7	36.7	33.9	22.9	0.9	8.3	1.8	0.9
	60代	91	46	44	40	50	48	38	34	33	29	27	21	—	4	3	—
女 性		100.0	50.5	48.4	44.0	54.9	52.7	41.8	37.4	36.3	31.9	29.7	23.1	—	4.4	3.3	—
	70歳以上	110	28	41	34	45	40	29	12	29	14	15	19	1	15	7	7
		100.0	25.5	37.3	30.9	40.9	36.4	26.4	10.9	26.4	12.7	13.6	17.3	0.9	13.6	6.4	6.4

問34 DVに対する対策や援助として特に充実すべきもの

あなたは、配偶者・パートナー又は交際相手からの暴力防止及び被害者支援のためにどのようなことを充実すべきだと思いますか。【3つまで○】

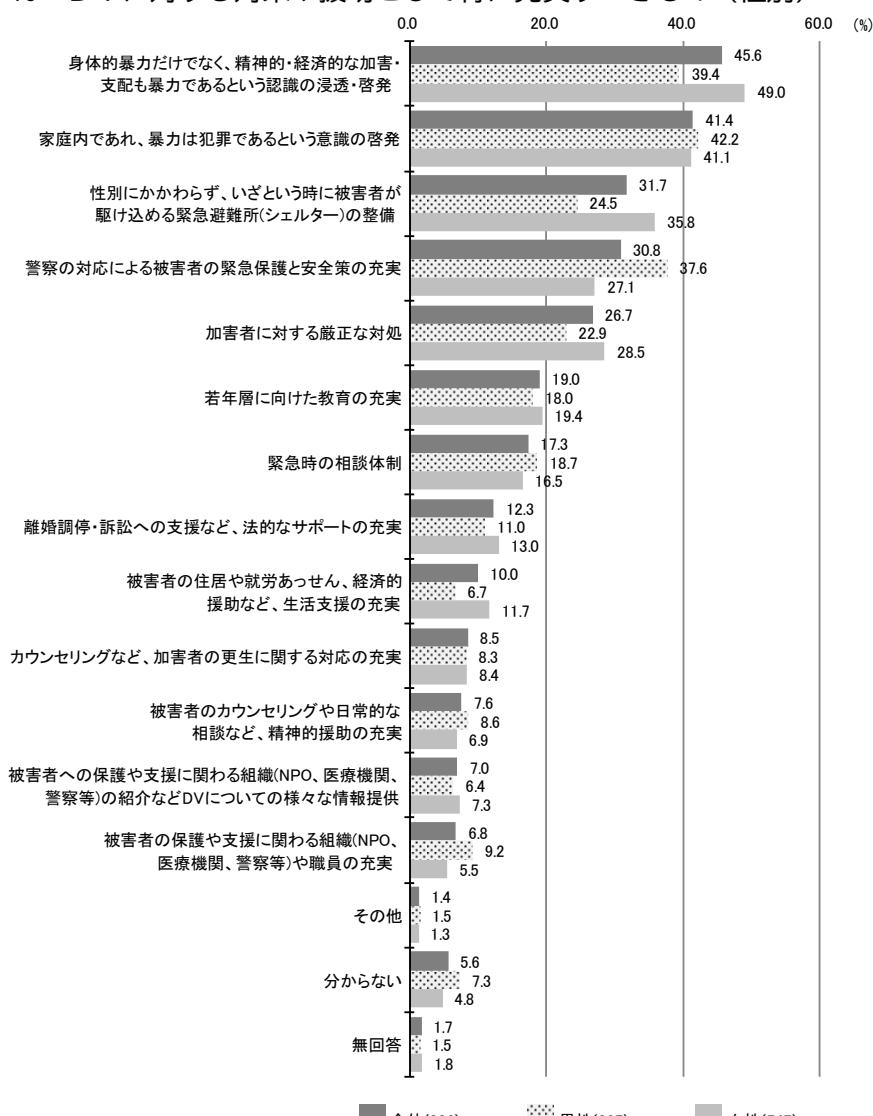
○ 全体・性別の傾向

「身体的暴力だけでなく、精神的・経済的な加害・支配も暴力であるという認識の浸透・啓発」が45.6%で最も多い。次いで、「家庭内であれ、暴力は犯罪であるという意識の啓発」(41.4%)、「性別にかかわらず、いざという時に被害者が駆け込める緊急避難所(シェルター)の整備」(31.7%)、「警察の対応による被害者の緊急保護と安全策の充実」(30.8%)、「加害者に対する厳正な対処」(26.7%)となっている。

性別で見ると、「身体的暴力だけでなく、精神的・経済的な加害・支配も暴力であるという認識の浸透・啓発」は女性では49.0%であり、男性(39.4%)を9.6ポイント上回っている。また、「性別にかかわらず、いざという時に被害者が駆け込める緊急避難所(シェルター)の整備」も女性では35.8%で男性(24.5%)を11.3ポイント上回る。

「警察の対応による被害者の緊急保護と安全策の充実」は男性で37.6%であり、女性(27.1%)を10.5ポイント上回っている。

図XIII-15 DVに対する対策や援助として特に充実すべきもの（性別）



○ 性・年齢別の傾向

「身体的暴力だけでなく、精神的・経済的な加害・支配も暴力であるという認識の浸透・啓発」は、女性の60代で60.4%と高くなっている。

「家庭内であれ、暴力は犯罪であるという意識の啓発」は男性の10・20代で52.6%と高くなっている。

「警察の対応による被害者の緊急保護と安全策の充実」は、男性の40代で49.2%と高くなっている。

「加害者に対する厳正な対処」は女性の10・20代で47.2%と高くなっている。

表 XIII-5 DVに対する対策や援助として特に充実すべきもの（性・年齢別）

XIV. 生活の悩みや困りごとの相談窓口やサービスについて

問35 生活の悩みや困りごと

現在、生活での悩みや困りごとなどはありますか。当てはまるもの全てに「○」をしてください。

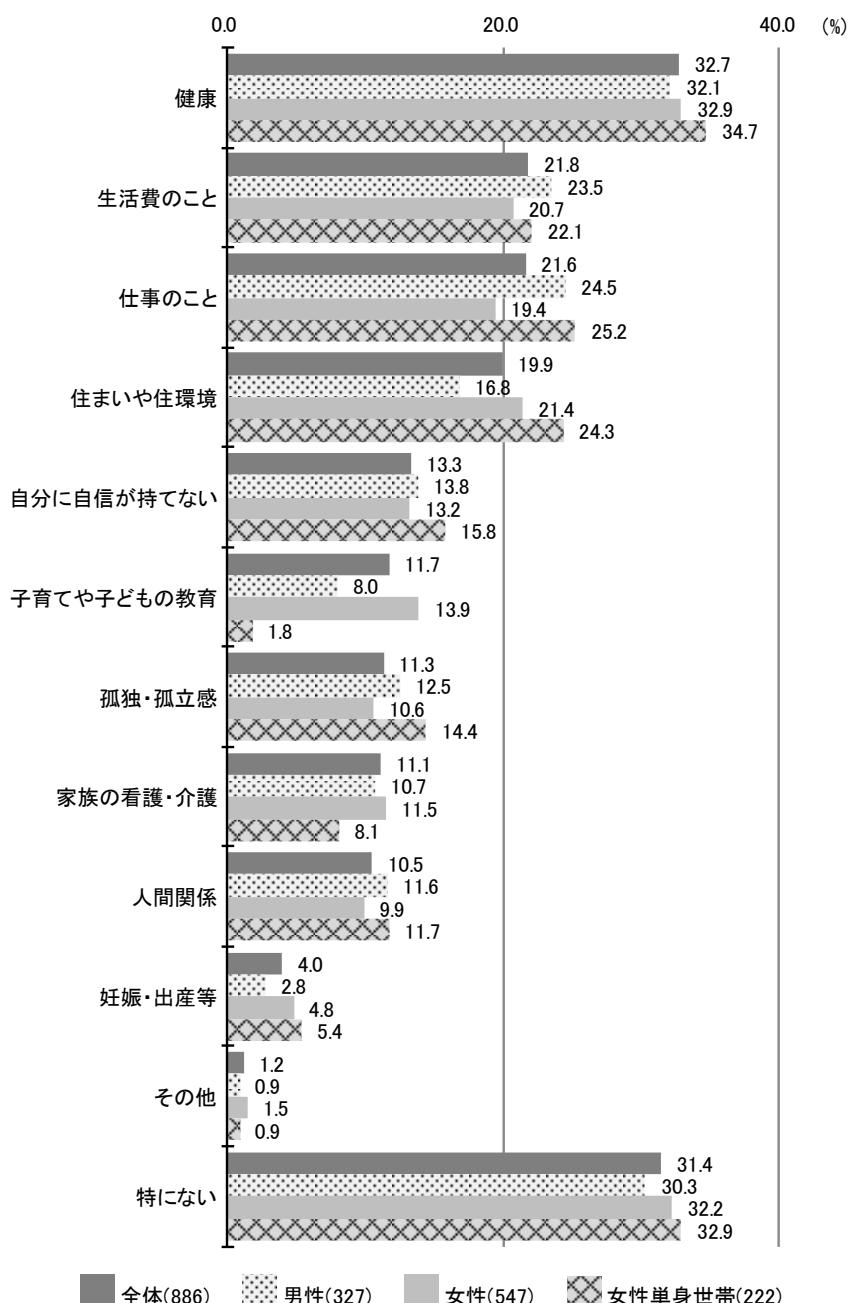
○ 全体・性別の傾向

「健康」が32.7%で最も多く、そのほか、「生活費のこと」(21.8%)、「仕事のこと」(21.6%)、「住まいや住環境」(19.9%)となっている。男性・女性での差は、ほとんどない。

また、「特がない」(31.4%)となっている。

なお、女性単身世帯では、「健康」(34.7%)、「仕事のこと」(25.2%)、「住まいや住環境」(24.3%)を挙げている。

図 XIV-1 生活の悩みや困りごと（性別）



○ 性・年齢別の傾向

「生活費のこと」は、男性の40代未満と女性の10・20代で30%以上と高くなっている。

「仕事のこと」は、男性の30~50代と女性の30代、50代で30%以上と高くなっている。

「住まいや住環境」は、男性の30代で34.1%と高くなっている。

「自分に自信が持てない」は、年齢が低いほど高くなっている。男性の50歳未満で20%以上あり、10・20代では26.3%となっている。また、女性の10・20代では22.6%となっている。

「子育てや子どもの教育」は女性の30~40代で30%以上となっている。

「孤立・孤独感」は、男性12.5%、女性10.6%で女性単身世帯で14.4%となっている。

「家族の看護・介護」は男性の60代で29.3%と高くなっている。

「人間関係」は、男性の30代(22.7%)と女性の10・20代(22.6%)で高くなっている。

表 XIV-1 生活の悩みや困りごと (性・年齢別)

		健 康	生 活 費 の こ と	仕 事 の こ と	住 ま い や 住 環 境	自 分 に 自 信 が 持 て な い	子 育 て や 子 ど も の 教 育	孤 独 ・ 孤 立 感	家 族 の 看 護 ・ 介 護	人 間 関 係	妊 娠 ・ 出 産 等	そ の 他	特 に な い	無 回 答	
全 体		886	290	193	191	176	118	104	100	98	93	35	11	278	10
		100.0	32.7	21.8	21.6	19.9	13.3	11.7	11.3	11.1	10.5	4.0	1.2	31.4	1.1
合 計		327	105	77	80	55	45	26	41	35	38	9	3	99	4
		100.0	32.1	23.5	24.5	16.8	13.8	8.0	12.5	10.7	11.6	2.8	0.9	30.3	1.2
男 性	10・20代	38	3	15	8	6	10	2	8	1	4	3	—	9	—
		100.0	7.9	39.5	21.1	15.8	26.3	5.3	21.1	2.6	10.5	7.9	—	23.7	—
	30代	44	16	14	16	15	11	6	7	4	10	4	—	10	—
		100.0	36.4	31.8	36.4	34.1	25.0	13.6	15.9	9.1	22.7	9.1	—	22.7	—
	40代	63	17	13	21	13	13	12	7	4	6	2	1	16	—
		100.0	27.0	20.6	33.3	20.6	20.6	19.0	11.1	6.3	9.5	3.2	1.6	25.4	—
	50代	67	28	15	24	6	8	4	12	11	10	—	2	19	—
女 性		100.0	41.8	22.4	35.8	9.0	11.9	6.0	17.9	16.4	14.9	—	3.0	28.4	—
	60代	41	15	8	6	6	1	1	3	12	4	—	—	11	—
		100.0	36.6	19.5	14.6	14.6	2.4	2.4	7.3	29.3	9.8	—	—	26.8	—
	70歳以上	72	25	12	5	9	2	1	4	2	4	—	—	34	3
		100.0	34.7	16.7	6.9	12.5	2.8	1.4	5.6	2.8	5.6	—	—	47.2	4.2
	合 計	547	180	113	106	117	72	76	58	63	54	26	8	176	6
		100.0	32.9	20.7	19.4	21.4	13.2	13.9	10.6	11.5	9.9	4.8	1.5	32.2	1.1
女 性	10・20代	53	11	17	14	5	12	4	6	3	12	8	1	16	—
		100.0	20.8	32.1	26.4	9.4	22.6	7.5	11.3	5.7	22.6	15.1	1.9	30.2	—
	30代	79	17	19	26	19	15	24	11	7	6	15	—	13	1
		100.0	21.5	24.1	32.9	24.1	19.0	30.4	13.9	8.9	7.6	19.0	—	16.5	1.3
	40代	102	35	26	19	24	15	34	13	9	10	3	5	26	—
		100.0	34.3	25.5	18.6	23.5	14.7	33.3	12.7	8.8	9.8	2.9	4.9	25.5	—
	50代	109	40	29	34	30	13	10	12	19	13	—	—	36	—
70歳以上		100.0	36.7	26.6	31.2	27.5	11.9	9.2	11.0	17.4	11.9	—	—	33.0	—
	60代	91	32	11	9	21	8	2	8	14	10	—	2	36	1
		100.0	35.2	12.1	9.9	23.1	8.8	2.2	8.8	15.4	11.0	—	2.2	39.6	1.1
70歳以上		110	43	10	3	17	8	2	7	10	2	—	—	48	4
		100.0	39.1	9.1	2.7	15.5	7.3	1.8	6.4	9.1	1.8	—	—	43.6	3.6

表 XIV-2 生活の悩みや困りごと（女性単身世帯、年齢別）

	全 体	健 康	生 活 費 の こ と	仕 事 の こ と	住 ま い や 住 環 境	自 分 に 自 信 が 持 て な い	子 育 て や 子 ど も の 教 育	孤 独 ・ 孤 立 感	家 族 の 看 護 ・ 介 護	人 間 関 係	妊 娠 ・ 出 産 等	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全 体	886 100.0	290 32.7	193 21.8	191 21.6	176 19.9	118 13.3	104 11.7	100 11.3	98 11.1	93 10.5	35 4.0	11 1.2	278 31.4	10 1.1
女性単身 世帯合計	222 100.0	77 34.7	49 22.1	56 25.2	54 24.3	35 15.8	4 1.8	32 14.4	18 8.1	26 11.7	12 5.4	2 0.9	73 32.9	2 0.9
10・20代	32 100.0	8 25.0	10 31.3	7 21.9	3 9.4	8 25.0	2 6.3	6 18.8	1 3.1	8 25.0	5 15.6	- -	9 28.1	- -
30代	25 100.0	6 24.0	7 28.0	12 48.0	6 24.0	4 16.0	1 4.0	5 20.0	4 16.0	2 8.0	7 28.0	- -	5 20.0	- -
40代	34 100.0	13 38.2	8 23.5	8 23.5	7 20.6	6 17.6	- -	5 14.7	4 11.8	3 8.8	- -	1 2.9	10 29.4	- -
50代	45 100.0	18 40.0	15 33.3	21 46.7	17 37.8	9 20.0	- -	8 17.8	6 13.3	7 15.6	- -	- -	11 24.4	- -
60代	34 100.0	14 41.2	7 20.6	6 17.6	10 29.4	4 11.8	- -	3 8.8	2 5.9	5 14.7	- -	1 2.9	14 41.2	- -
70歳以上	50 100.0	17 34.0	2 4.0	2 4.0	10 20.0	4 8.0	1 2.0	5 10.0	1 2.0	1 2.0	- -	- -	23 46.0	2 4.0

【参考】

表 XIV-3 生活の悩みや困りごと（母子世帯）

	健 康	生 活 費 の こ と	仕 事 の こ と	住 ま い や 住 環 境	自 分 に 自 信 が 持 て な い	子 育 て や 子 ど も の 教 育	孤 独 ・ 孤 立 感	家 族 の 看 護 ・ 介 護	人 間 関 係	妊 娠 ・ 出 産 等	そ の 他	特 に な い	
全 体	12 100.0	2 16.7	4 33.3	4 33.3	4 33.3	1 8.3	3 25.0	- -	- -	1 8.3	- -	1 8.3	5 41.7

問36 悩みや困りごとの相談先

過去1年間に誰(どこ)かに悩みや困りごとを相談したことがありますか。【○はいくつでも】

○ 全体・性別の傾向

悩みや困りごとがあった場合は、「友人・知人」に相談したという人が29.8%で最も多く、次いで、「配偶者・パートナー等」が25.7%、「親」が18.3%、「きょうだい・親族」が16.7%と続いている。

また、行政機関窓口その他の専門機関等は3%未満にとどまる。

一方、「相談しなかった(できなかった)」という人は12.6%となっている。

性別で見ると、女性は「友人・知人」に相談した人が35.3%と最も多く、男性(20.2%)より15.1ポイント高い。また、「親」や「きょうだい・親族」に相談した人も2割と男性よりも高くなっている。

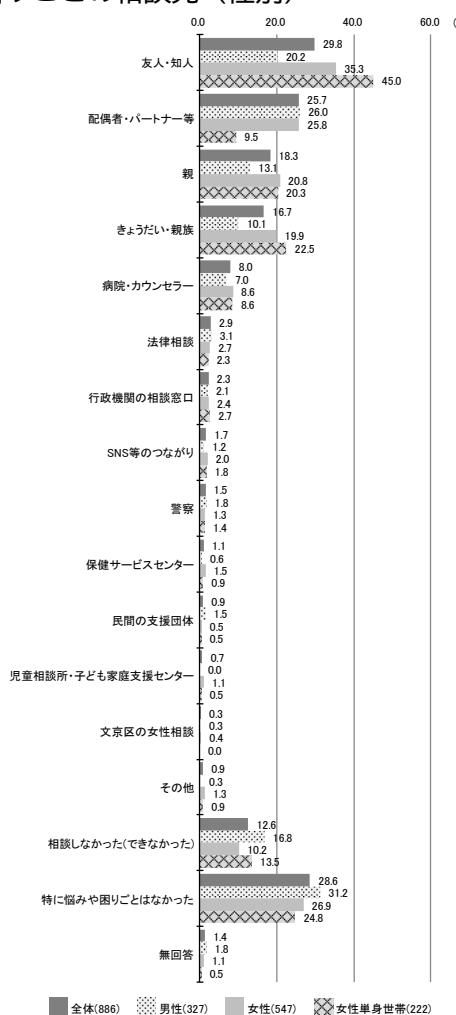
男性は、「配偶者・パートナー等」に相談した人が26.0%で最も多い。

また、「相談しなかった(できなかった)」という人は、男性で16.8%、女性(10.2%)、女性単身世帯13.5%となっている。

「特に悩みや困りごとはなかった」という人が28.6%となっている。

なお、女性単身世帯では、「友人・知人」に相談したという人が半数近い45.0%で、女性全体より10ポイント程度高くなっている。

図 XIV-2 悩みや困りごとの相談先（性別）



○ 性・年齢別の傾向

「友人・知人」は、男性の40歳未満、女性の60代未満で高くなっている、特に女性の10・20代では60.4%と他の世代を大きく上回っている。

「配偶者・パートナー等」は、男女共に30~40代で40%前後と高くなっている。

「親」は男女共に10・20代(男性39.5%、女性49.1%)で高くなっている

「特に悩みや困りごとはなかった」という人は、男性では70歳以上(52.8%)、50代(38.8%)で高く、女性・女性単身世帯とも60歳以上で40%と高くなっている。

表 XIV-4 悩みや困りごとの相談先 (性・年齢別)

		全 体	友 人 ・ 知 人	配 偶 者 ・ パ ー ト ナ ー 等	親	き よ う だ い ・ 親 族	病 院 ・ カ ウ ン セ ラ ー	法 律 相 談	行 政 機 関 の 相 談 窓 口	S N S 等 の つ な が り	警 察	保 健 サ ー ビ ス セ ン タ ー	民 間 の 支 援 団 体	庭 支 援 セ ン タ ー ・ 子 ど も 家	児 童 相 談 セ ン タ ー ・ 子 ど も 家	文 京 区 の 女 性 相 談	其 他	な か つ し な か つ た こ と の 相 談 し な か つ た こ と は	特 に な か つ し な か つ た こ と は	無 回 答
		全 体	886	264	228	162	148	71	26	20	15	13	10	8	6	3	8	112	253	12
			100.0	29.8	25.7	18.3	16.7	8.0	2.9	2.3	1.7	1.5	1.1	0.9	0.7	0.3	0.9	12.6	28.6	1.4
男 性	合 計	327	66	85	43	33	23	10	7	4	6	2	5	—	1	1	55	102	6	
		100.0	20.2	26.0	13.1	10.1	7.0	3.1	2.1	1.2	1.8	0.6	1.5	—	0.3	0.3	16.8	31.2	1.8	
	10・20代	38	13	11	15	6	3	—	—	1	—	—	1	—	—	—	8	6	—	
		100.0	34.2	28.9	39.5	15.8	7.9	—	—	2.6	—	—	2.6	—	—	—	21.1	15.8	—	
	30代	44	16	19	9	5	2	—	—	1	—	—	2	—	—	—	8	6	—	
		100.0	36.4	43.2	20.5	11.4	4.5	—	—	2.3	—	—	4.5	—	—	—	18.2	13.6	—	
	40代	63	13	23	8	5	2	4	1	2	1	—	1	—	1	—	10	14	—	
		100.0	20.6	36.5	12.7	7.9	3.2	6.3	1.6	3.2	1.6	—	1.6	—	1.6	—	15.9	22.2	—	
	50代	67	8	14	8	5	7	2	3	—	1	—	—	—	—	1	14	26	1	
		100.0	11.9	20.9	11.9	7.5	10.4	3.0	4.5	—	1.5	—	—	—	—	1.5	20.9	38.8	1.5	
女 性	60代	41	6	9	2	7	4	1	—	—	2	1	1	—	—	—	9	12	1	
		100.0	14.6	22.0	4.9	17.1	9.8	2.4	—	—	4.9	2.4	2.4	—	—	—	22.0	29.3	2.4	
	70歳以上	72	9	8	1	4	4	3	3	—	1	1	—	—	—	—	6	38	4	
		100.0	12.5	11.1	1.4	5.6	5.6	4.2	4.2	—	1.4	1.4	—	—	—	—	8.3	52.8	5.6	
	合 計	547	193	141	114	109	47	15	13	11	7	8	3	6	2	7	56	147	6	
		100.0	35.3	25.8	20.8	19.9	8.6	2.7	2.4	2.0	1.3	1.5	0.5	1.1	0.4	1.3	10.2	26.9	1.1	
	10・20代	53	32	13	26	14	1	—	—	3	—	1	—	—	1	1	4	9	—	
		100.0	60.4	24.5	49.1	26.4	1.9	—	—	5.7	—	1.9	—	—	1.9	1.9	7.5	17.0	—	
	30代	79	30	36	27	13	6	1	1	3	2	4	—	2	1	—	10	12	—	
		100.0	38.0	45.6	34.2	16.5	7.6	1.3	1.3	3.8	2.5	5.1	—	2.5	1.3	—	12.7	15.2	—	
	40代	102	37	42	33	23	14	2	1	3	1	2	2	3	—	3	13	14	—	
		100.0	36.3	41.2	32.4	22.5	13.7	2.0	1.0	2.9	1.0	2.0	2.0	2.9	—	2.9	12.7	13.7	—	
	50代	109	46	28	24	21	8	4	4	2	1	—	—	—	—	1	14	26	—	
		100.0	42.2	25.7	22.0	19.3	7.3	3.7	3.7	1.8	0.9	—	—	—	—	0.9	12.8	23.9	—	
	60代	91	26	15	3	14	9	4	2	—	—	—	—	1	—	2	7	38	1	
		100.0	28.6	16.5	3.3	15.4	9.9	4.4	2.2	—	—	—	—	1.1	—	2.2	7.7	41.8	1.1	
	70歳以上	110	21	6	—	23	9	4	5	—	3	1	1	—	—	—	8	47	5	
		100.0	19.1	5.5	—	20.9	8.2	3.6	4.5	—	2.7	0.9	0.9	—	—	—	7.3	42.7	4.5	

表 XIV-5 悩みや困りごとの相談先（女性単身世帯、年齢別）

	全 体	友 人 ・ 知 人	配 偶 者 ・ パートナ ー等	親	き よ う だ い ・ 親 族	病 院 ・ カ ウ ン セ ラ ー	法 律 相 談	行政 機 関 の 相 談 窓 口	S N S 等 の つ な が り	警 察	保 健 サ ー ビ ス セ ン タ ー	民 間 の 支 援 団 体	庭 支 援 セ ン タ ー	児 童 相 談 所 ・ 子 ど も 家	文 京 区 の 女 性 相 談	そ の 他	な か つ た （ こ と は な か つ た ）	相 談 し な か つ た （ こ と は な か つ た ）	特 に 悩 み や 困 り ご と は な か つ た ）	無 回 答
		886	264	228	162	148	71	26	20	15	13	10	8	6	3	8	112	253	12	
		100.0	29.8	25.7	18.3	16.7	8.0	2.9	2.3	1.7	1.5	1.1	0.9	0.7	0.3	0.9	12.6	28.6	1.4	
女性単身	222	100	21	45	50	19	5	6	4	3	2	1	1	—	—	2	30	55	1	
世帯合計	100.0	45.0	9.5	20.3	22.5	8.6	2.3	2.7	1.8	1.4	0.9	0.5	0.5	—	0.9	13.5	24.8	0.5		
10・20代	32	24	5	19	9	1	—	—	2	—	1	—	—	—	—	—	2	5	—	
	100.0	75.0	15.6	59.4	28.1	3.1	—	—	6.3	—	3.1	—	—	—	—	—	6.3	15.6	—	
30代	25	13	5	7	5	1	—	—	1	1	—	—	—	—	—	—	5	6	—	
	100.0	52.0	20.0	28.0	20.0	4.0	—	—	4.0	4.0	—	—	—	—	—	—	20.0	24.0	—	
40代	34	17	5	10	6	5	—	1	—	—	—	1	—	—	—	—	6	3	—	
	100.0	50.0	14.7	29.4	17.6	14.7	—	2.9	—	—	—	2.9	—	—	—	—	17.6	8.8	—	
50代	45	23	4	9	11	5	1	1	1	1	—	—	—	—	—	1	8	7	—	
	100.0	51.1	8.9	20.0	24.4	11.1	2.2	2.2	2.2	2.2	—	—	—	—	—	2.2	17.8	15.6	—	
60代	34	12	1	—	5	3	2	1	—	—	—	—	1	—	—	1	3	13	—	
	100.0	35.3	2.9	—	14.7	8.8	5.9	2.9	—	—	—	—	2.9	—	—	2.9	8.8	38.2	—	
70歳以上	50	10	1	—	14	4	2	3	—	1	1	—	—	—	—	—	6	20	1	
	100.0	20.0	2.0	—	28.0	8.0	4.0	6.0	—	2.0	2.0	—	—	—	—	—	12.0	40.0	2.0	

【参考】

表 XIV-6 悩みや困りごとの相談先（母子世帯）

全 体	友人・知人	配偶者・パートナー等	親	きょうだい・親族	病院・カウンセラー	法律相談	行政機関の相談窓口	SNS等のつながり	警察	保健サービスセンター	民間の支援団体	文京区の女性相談	児童相談所・子ども家	庭支援センター	相談しなかつた（できなかつた）	その他	特に悩みや困りごとはなかつた
12	5	-	4	2	-	1	-	-	-	1	-	1	-	1	-	2	1
100.0	41.7	-	33.3	16.7	-	8.3	-	-	-	8.3	-	8.3	-	8.3	-	16.7	8.3

問36-1 相談しなかった理由

【問36で「15.相談しなかった(できなかった)」に「○」をした方にお聞きします。】

相談しなかった(できなかった)のはなぜですか。【○はいくつでも】

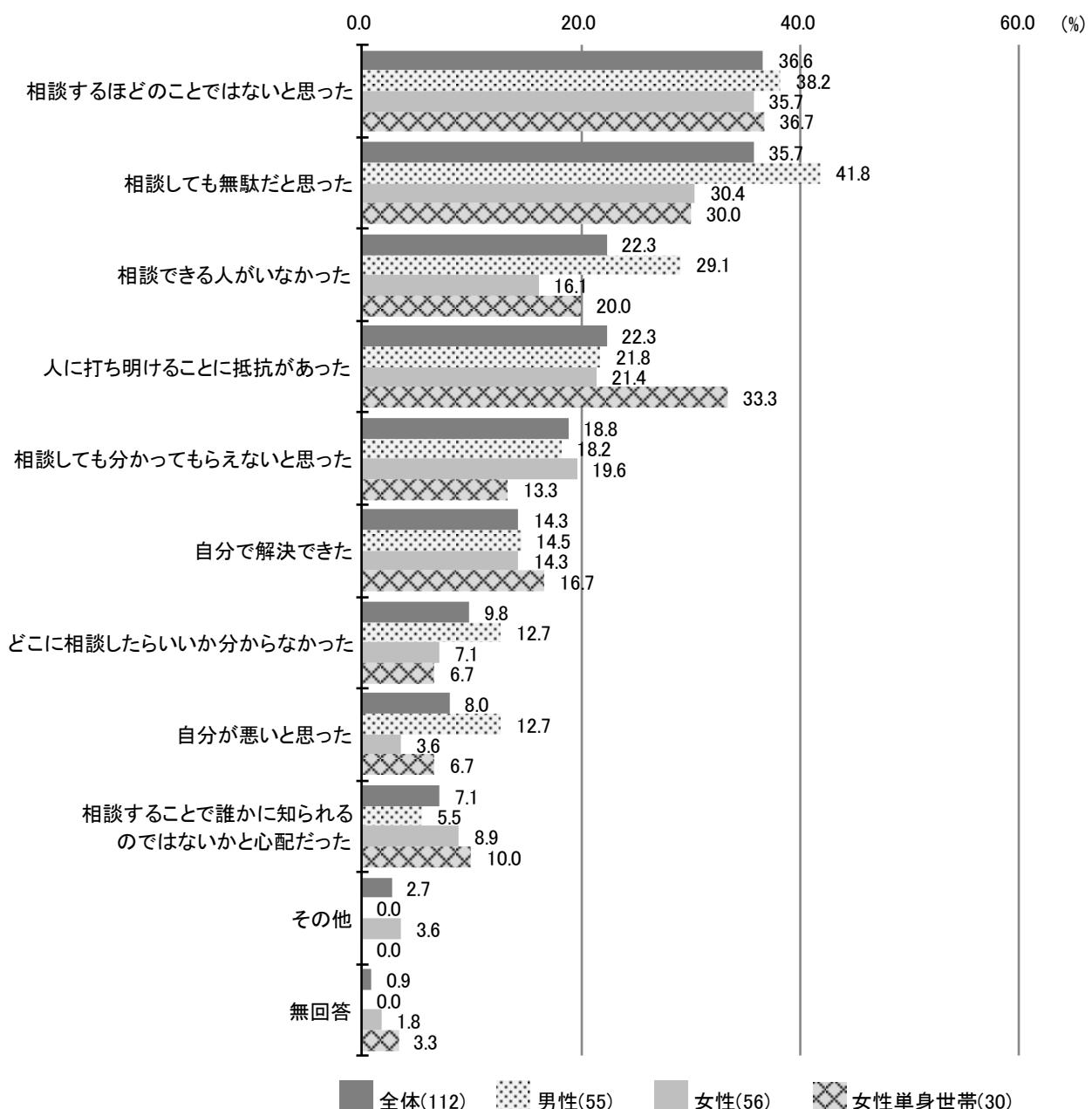
○ 全体・性別の傾向

「相談するほどのことではないと思った」(36.6%)又は「相談しても無駄だと思った」(35.7%)が多くなっている。その他、「相談できる人がいなかった」(22.3%)、「人に打ち明けることに抵抗があった」(22.3%)、「相談しても分かってもらえないと思った」(18.8%)が2割となっている。

性別で見ると、「相談しても無駄だと思った」と「相談できる人がいなかった」は男性の方が女性より10ポイント以上高くなっている。

なお、女性単身世帯では、「人に打ち明けることに抵抗があった」が33.3%と多くなっており、女性全体より10ポイント以上高い。

図XIV-3 相談しなかった(できなかった)理由(性別)



○ 年齢別の傾向

どの年齢でも、「相談するほどのことではない」「相談しても無駄だと思った」「相談できる人がいなかった」「人に打ち明けることに抵抗があった」がそれぞれ20%～40%程度となっている。

10代、50代では、「相談してもわかつてもらえないと思った」が20%程度となっている。

表 XIV-7 相談しなかった（できなかった）理由（年齢別）

	全体	相談しないといふほどのこと	思つた相談してても無駄だと	かつた相談できる人がいな	人に抵抗があつたが明けること	相談してないも分かつた	自分で解決できた	どこに相談したらい	自分が悪いと思つた	いかに相談することと心配だつたは誰なか	その他	無回答
全体	112 100.0	41 36.6	40 35.7	25 22.3	25 22.3	21 18.8	16 14.3	11 9.8	9 8.0	8 7.1	3 2.7	1 0.9
10~30代	31 100.0	13 41.9	12 38.7	8 25.8	6 19.4	7 22.6	5 16.1	5 16.1	5 16.1	2 6.5	1 3.2	— —
40代	23 100.0	8 34.8	7 30.4	6 26.1	7 30.4	2 8.7	— —	2 8.7	1 4.3	2 8.7	1 4.3	— —
50代	28 100.0	11 39.3	13 46.4	7 25.0	6 21.4	7 25.0	4 14.3	3 10.7	2 7.1	4 14.3	1 3.6	— —
60歳以上	30 100.0	9 30.0	8 26.7	4 13.3	6 20.0	5 16.7	7 23.3	1 3.3	1 3.3	— —	— —	1 3.3

【参考】

表 XIV-8 相談しなかった（できなかった）理由（母子世帯）

全 体	相談するほどのこと	思つた	相談しても無駄だと	かつた	相談できる人がいな	に抵抗があつたこと	人に打ち明けること	相談しても分かつて	もらえないと思つた	自分で解決できた	どこに相談したらい	いか分からなかつた	自分が悪いと思つた	に知られるのでは誰なか	相談することだけで誰なかつた	いかと心配だつた	その他
	ではな	いと	思つた	相談して	ても無駄だと	かつた	相談できる人	がいな	に抵抗があつた	こと	に打ち明ける	こと	相談しても分かつて	もらえないと思つた	自分で解決でき	た	た
1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-
100.0	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	100.0	-	-	-

問37 生活の悩みや困りごとなどがあった時に利用したいサービス

今後、生活の悩みや困りごとなどがあった時に、利用したいサービスはありますか。
【3つまで○】

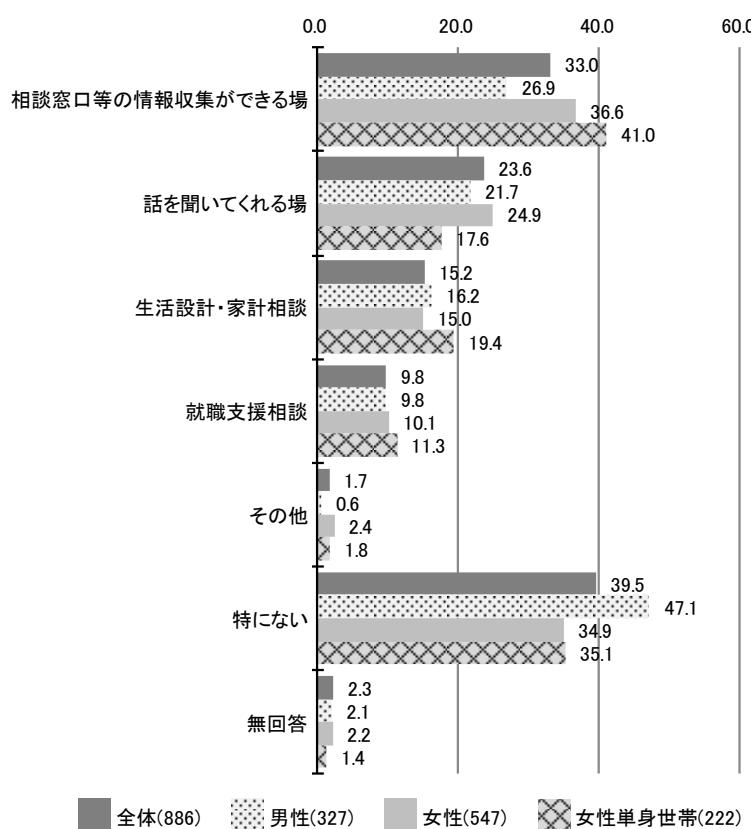
○ 全体・性別の傾向

利用したいサービスは、「相談窓口等の情報収集ができる場」33.0%、「話を聞いてくれる場」23.6%となっている。

また、「相談窓口等の情報収集ができる場」は女性で36.6%と男性(26.9%)より約10ポイント高い。

「特にない」は全体で39.5%、性別で見ると、男性では47.1%となっており、女性(34.9%)より10ポイント以上高くなっている。

図 XIV-4 生活の悩みや困りごとなどがあった時に利用したいサービス（性別）



○ 性・年齢別の傾向

「相談窓口等の情報収集ができる場」「話を聞いてくれる場」は男女共にどの年齢でも20%程度となっている。

「特にない」は、どの年齢でも割合が多くなっている。

表 XIV-9 生活の悩みや困りごとなどがあった時に利用したいサービス（性・年齢別）

		全 体	が相 で談 きき る窓 口等 の 情 報 収 集	話 を 聞 い て くれ る 場	生 活 設 計 ・ 家 計 相 談	就 職 支 援 相 談	そ の 他	特 に な い	無 回 答
	全 体	886	292	209	135	87	15	350	20
		100.0	33.0	23.6	15.2	9.8	1.7	39.5	2.3
男 性	合 計	327	88	71	53	32	2	154	7
		100.0	26.9	21.7	16.2	9.8	0.6	47.1	2.1
	10・20代	38	2	5	5	4	—	25	—
		100.0	5.3	13.2	13.2	10.5	—	65.8	—
	30代	44	10	10	6	4	—	24	—
		100.0	22.7	22.7	13.6	9.1	—	54.5	—
	40代	63	14	16	8	6	—	33	—
		100.0	22.2	25.4	12.7	9.5	—	52.4	—
	50代	67	23	14	13	12	1	29	1
		100.0	34.3	20.9	19.4	17.9	1.5	43.3	1.5
女 性	60代	41	15	8	10	3	1	11	1
		100.0	36.6	19.5	24.4	7.3	2.4	26.8	2.4
	70歳以上	72	23	17	11	3	—	32	4
		100.0	31.9	23.6	15.3	4.2	—	44.4	5.6
	合 計	547	200	136	82	55	13	191	12
		100.0	36.6	24.9	15.0	10.1	2.4	34.9	2.2
	10・20代	53	10	8	9	3	1	29	2
		100.0	18.9	15.1	17.0	5.7	1.9	54.7	3.8
	30代	79	24	24	13	7	—	35	1
		100.0	30.4	30.4	16.5	8.9	—	44.3	1.3
女 性	40代	102	32	26	14	11	3	38	1
		100.0	31.4	25.5	13.7	10.8	2.9	37.3	1.0
	50代	109	47	23	20	16	3	29	1
		100.0	43.1	21.1	18.3	14.7	2.8	26.6	0.9
	60代	91	43	28	14	15	5	20	1
		100.0	47.3	30.8	15.4	16.5	5.5	22.0	1.1
	70歳以上	110	43	25	11	2	1	39	6
		100.0	39.1	22.7	10.0	1.8	0.9	35.5	5.5

表 XIV-10 生活の悩みや困りごとなどがあった時に利用したいサービス
(女性単身世帯、年齢別)

	全 体	集 相 が 談 窓 き る 等 の 情 報 収	話 を 聞 い て く れ る 場	生 活 設 計 ・ 家 計 相 談	就 職 支 援 相 談	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全 体	886 100.0	292 33.0	209 23.6	135 15.2	87 9.8	15 1.7	350 39.5	20 2.3
女性単身 世帯合計	222 100.0	91 41.0	39 17.6	43 19.4	25 11.3	4 1.8	78 35.1	3 1.4
10・20代	32 100.0	7 21.9	6 18.8	6 18.8	2 6.3	— —	15 46.9	1 3.1
30代	25 100.0	9 36.0	7 28.0	3 12.0	1 4.0	— —	11 44.0	— —
40代	34 100.0	13 38.2	6 17.6	8 23.5	3 8.8	— —	14 41.2	— —
50代	45 100.0	24 53.3	3 6.7	14 31.1	9 20.0	1 2.2	10 22.2	— —
60代	34 100.0	17 50.0	9 26.5	7 20.6	9 26.5	3 8.8	8 23.5	— —
70歳以上	50 100.0	21 42.0	7 14.0	5 10.0	1 2.0	— —	19 38.0	2 4.0

【参考】

表 XIV-11 生活の悩みや困りごとなどがあった時に利用したいサービス (母子世帯)

全 体	集 相 が 談 窓 き る 等 の 情 報 収	話 を 聞 い て く れ る 場	生 活 設 計 ・ 家 計 相 談	就 職 支 援 相 談	そ の 他	特 に な い
12 100.0	4 33.3	2 16.7	2 16.7	2 16.7	1 8.3	4 33.3

XV. 男女平等参画の推進施策・男女平等センターについて

問38 男女平等センターの利用状況

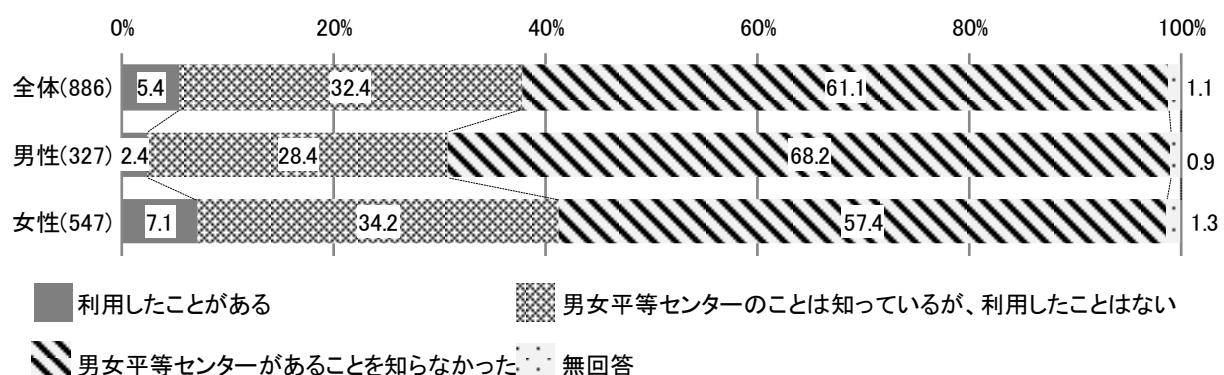
文京区には、男女平等参画推進のための拠点施設として「文京区男女平等センター（施設愛称:エガリテ）」（所在地:文京区本郷四丁目、現在休館中、2026（令和8）年6月リニューアルオープン予定）があります。あなたは、文京区男女平等センターを利用したことがありますか。
【1つだけ○】

○ 全体・性別の傾向

男女平等センターを「利用したことがある」と「知っているが、利用したことはない」人の合計は女性では4割（41.3%）、男性では3割（30.8%）となっている。

「利用したことがある」人は女性では7.1%であり、男性では2.4%となっている。

図XV-1 男女平等センターの利用状況（性別）



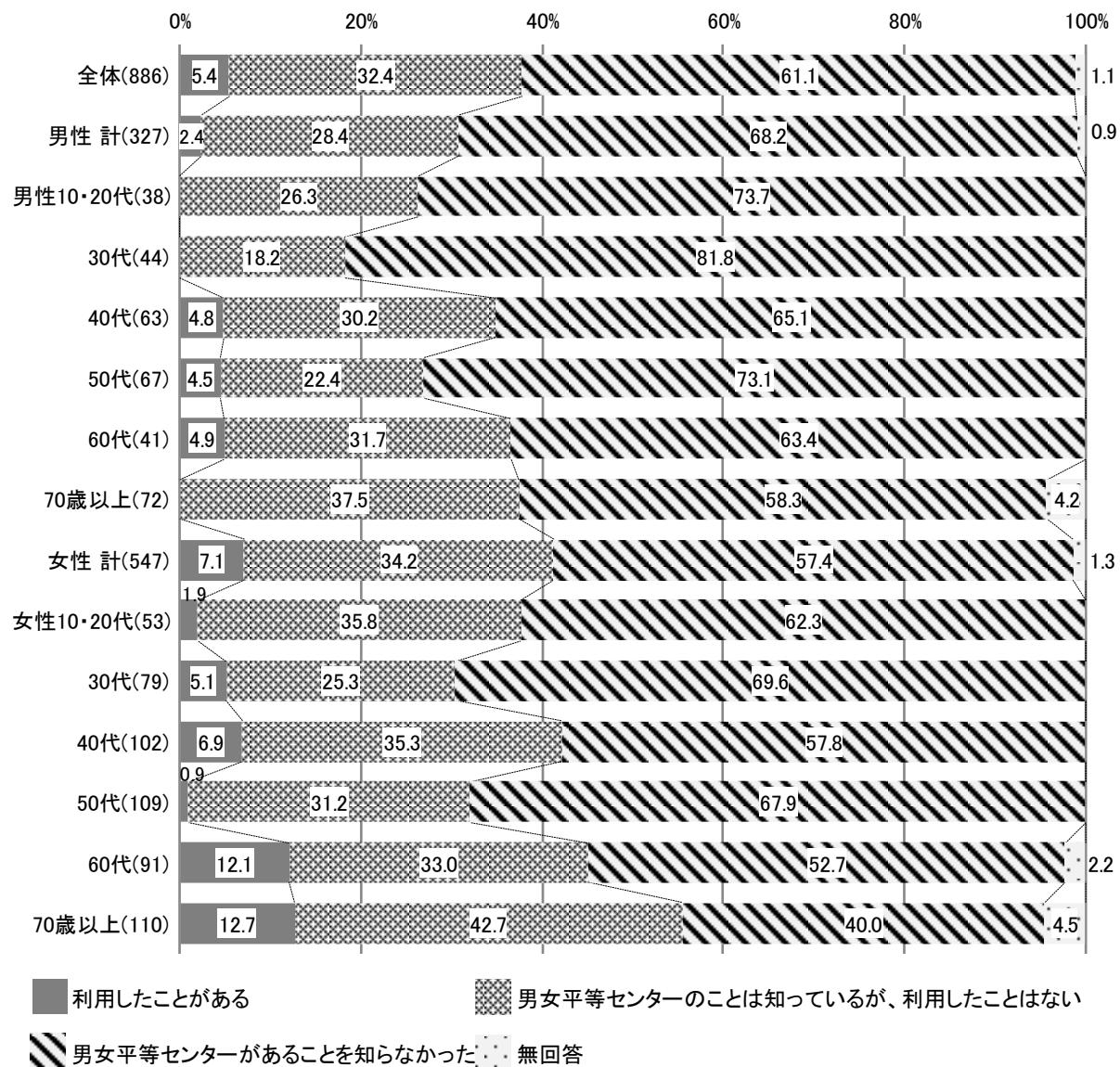
○ 性・年齢別の傾向

男女平等センターを「利用したことがある」と「知っているが、利用したことはない」人の合計は

女性の60歳以上では5割前後と高く、また、「利用したことがある」人も約1割と高くなっている。

一方、男性の40歳未満と70歳以上では利用者がいなかった。

図 XV-2 男女平等センターの利用状況（性・年齢別）



問39 男女平等参画社会の実現のために区が力を入れるべきこと

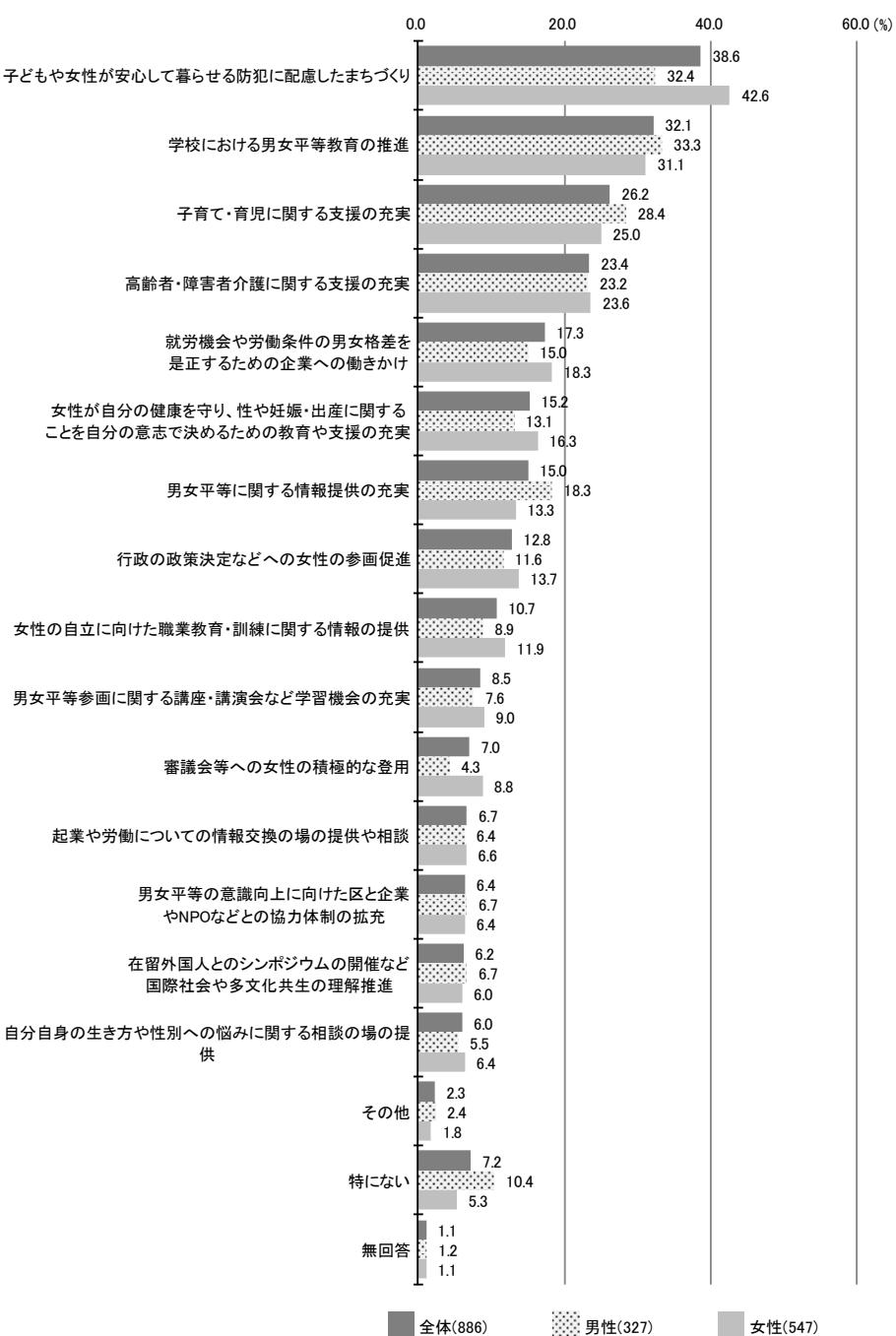
あなたは、男女平等参画社会を実現していくために、今後、文京区はどのようなことに力を入れるとよいと思いますか。【3つまで○】

○ 全体・性別の傾向

「子どもや女性が安心して暮らせる防犯に配慮したまちづくり」が38.6%で最も多く、次いで、「学校における男女平等教育の推進」(32.1%)、「子育て・育児に関する支援の充実」(26.2%)、「高齢者・障害者介護に関する支援の充実」(23.4%)となっている。

性別で見ると、「子どもや女性が安心して暮らせる防犯に配慮したまちづくり」は女性では42.6%であり、男性(32.4%)を10.2ポイント上回っている。

図XV-3 男女平等参画社会の実現のために区が力を入れるべきこと（性別）



○ 性・年齢別の傾向

「子育て・育児に関する支援の充実」は、男性の30～40代と女性の50歳未満で高く、女性の10・20代では45.3%となっている。

「高齢者・障害者介護に関する支援の充実」は、男女共に60歳以上で3割以上と高くなっている。

「女性が自分の健康を守り、性や妊娠・出産に関することを自分の意志で決めるための教育や支援の充実」は、女性の30代で29.1%と高くなっている。

「特にない」は、男性の30代では20.5%となっており、他の世代より10ポイント以上高くなっている。

表 XV-1 男女平等参画社会の実現のために区が力を入れるべきこと（性・年齢別）

		全 体	犯 子 ど 配 も 虑 し た 女 性 が 安 心 し く し て 蓦 ら せ る 防	学 校 に お け る 男 女 平 等 教 育 の 推 進	子 育 て ・ 育 児 に 關 す る 支 援 の 充 実	充 高 齢 者	正 就 労 機 会 や 企 働 条 件 の 男 女 差 を 是 か け	で 娠 女 性 が 自 分 の 健 康 を 守 り 、 支 援 を 自 分 の 分 け 差 を 充 実 意 志 是	女 性 が 自 分 の 健 康 を 守 り 、 支 援 を 自 分 の 分 け 差 を 充 実 意 志	男 女 平 等 に 關 す る 情 報 提 供 の 充 実	促 行 政 の 政 策 決 定	に 女 性 の 自 立 情 報 の 提 供	男 女 平 等 参 画 の 充 実	审 議 会 等 へ の 女 性 の 積 極 的 な 参 画	の 提 供 や 劳 働 に つ い て の 情 報 交 換 の 場	業 起 業 や 劳 働 に つ い て の 情 報 交 換 の 場	男 女 平 等 の 意 識 向 上 と い う に 向 け た 协 力 体 制 の 拡 張	推 進 在 留 外 国 人 と の 国 际 社 会 の シ ャ ル フ オ リ ナ ル ポ ポ ル イ ッ フ シ ャ ル ポ ポ ル イ ッ フ	自 分 の 生 き 方 や 性 別 へ の 悩 み に 關 す る 相 談 の 提 供	そ の 他	特 に な い	無 回 答
		全 体	886	342	284	232	207	153	135	133	113	95	75	62	59	57	55	53	20	64	10	
			100.0	38.6	32.1	26.2	23.4	17.3	15.2	15.0	12.8	10.7	8.5	7.0	6.7	6.4	6.2	6.0	2.3	7.2	1.1	
男 性	合 計	327	106	109	93	76	49	43	60	38	29	25	14	21	22	22	18	8	34	4		
		100.0	32.4	33.3	28.4	23.2	15.0	13.1	18.3	11.6	8.9	7.6	4.3	6.4	6.7	6.7	5.5	2.4	10.4	1.2		
	10・20代	38	17	10	9	1	7	8	6	3	3	4	2	1	2	6	3	1	2	—		
		100.0	44.7	26.3	23.7	2.6	18.4	21.1	15.8	7.9	7.9	10.5	5.3	2.6	5.3	15.8	7.9	2.6	5.3	—		
	30代	44	15	9	19	3	4	7	8	—	3	4	—	6	1	—	6	2	9	—		
		100.0	34.1	20.5	43.2	6.8	9.1	15.9	18.2	—	6.8	9.1	—	13.6	2.3	—	13.6	4.5	20.5	—		
	40代	63	26	20	25	10	10	7	5	11	5	2	3	5	4	2	2	1	6	—		
		100.0	41.3	31.7	39.7	15.9	15.9	11.1	7.9	17.5	7.9	3.2	4.8	7.9	6.3	3.2	3.2	1.6	9.5	—		
	50代	67	21	23	18	16	12	11	12	6	11	5	4	6	6	4	4	1	6	—		
		100.0	31.3	34.3	26.9	23.9	17.9	16.4	17.9	9.0	16.4	7.5	6.0	9.0	9.0	6.0	6.0	1.5	9.0	—		
女 性	60代	41	3	13	8	19	9	2	8	7	4	2	1	2	6	3	1	3	4	—		
		100.0	7.3	31.7	19.5	46.3	22.0	4.9	19.5	17.1	9.8	4.9	2.4	4.9	14.6	7.3	2.4	7.3	9.8	—		
	70歳以上	72	22	34	13	27	7	8	20	11	3	8	4	1	3	7	2	—	7	4		
		100.0	30.6	47.2	18.1	37.5	9.7	11.1	27.8	15.3	4.2	11.1	5.6	1.4	4.2	9.7	2.8	—	9.7	5.6		
	合 計	547	233	170	137	129	100	89	73	65	49	48	36	35	33	35	10	29	6			
		100.0	42.6	31.1	25.0	23.6	18.3	16.3	13.3	13.7	11.9	9.0	8.8	6.6	6.4	6.0	6.4	1.8	5.3	1.1		
	10・20代	53	25	17	24	3	12	11	5	11	6	2	11	1	3	3	3	4	2	—		
		100.0	47.2	32.1	45.3	5.7	22.6	20.8	9.4	20.8	11.3	3.8	20.8	1.9	5.7	5.7	5.7	7.5	3.8	—		
	30代	79	37	28	33	6	9	23	9	11	13	3	5	10	1	5	7	2	3	—		
		100.0	46.8	35.4	41.8	7.6	11.4	29.1	11.4	13.9	16.5	3.8	6.3	12.7	1.3	6.3	8.9	2.5	3.8	—		
	40代	102	48	36	39	10	16	17	11	6	12	7	9	8	1	7	5	1	6	—		
		100.0	47.1	35.3	38.2	9.8	15.7	16.7	10.8	5.9	11.8	6.9	8.8	7.8	1.0	6.9	4.9	1.0	5.9	—		
	50代	109	39	31	17	28	21	15	15	16	14	14	7	11	11	6	10.1	5.5	9.2	1.8	8.3	—
		100.0	35.8	28.4	15.6	25.7	19.3	13.8	13.8	14.7	12.8	12.8	6.4	10.1	10.1	5.5	9.2	1.8	4.4	1.1	—	
	60代	91	35	30	12	32	22	7	18	14	11	7	9	6	10	6	8	1	4	1		
		100.0	38.5	33.0	13.2	35.2	24.2	7.7	19.8	15.4	12.1	7.7	9.9	6.6	11.0	6.6	8.8	1.1	4.4	1.1	—	
	70歳以上	110	48	28	12	47	20	16	15	17	8	14	7	—	9	6	2	—	5	5	4.5	
		100.0	43.6	25.5	10.9	42.7	18.2	14.5	13.6	15.5	7.3	12.7	6.4	—	8.2	5.5	1.8	—	4.5	4.5		